

青森県埋蔵文化財調査報告書 第288集

三内丸山遺跡 XVI

平成 12 年度

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第288集

三内丸山遺跡 XVI

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書 4—

平成 12 年 度

青森県教育委員会

序

青森市に所在する三内丸山遺跡は、青森県総合運動公園拡張整備事業に係る新県営野球場建設に先立ち、平成4年度から県教育委員会が発掘調査を行ってまいりました。

調査の結果、本遺跡は縄文時代・平安時代・中世の複合遺跡であることが明らかになりました。特に大規模な遺構、多種多量の出土遺物から縄文時代前期中葉から中期にかけて約1,500年以上継続して営まれた拠点的な集落であり、円筒土器文化を代表する大規模な集落跡であることが判明しました。

本書はその成果の一部をまとめたものですが、今後三内丸山遺跡の解明、及び埋蔵文化財の保護と研究に役立てば幸いです。

最後に調査及び本書作成にご尽力いただいた関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成12年7月

青森県教育委員会

教育長 佐藤正昭

例 言

1. 本報告書は、平成4～6年度に実施した県営運動公園拡張事業に係る三内丸山遺跡の発掘調査のうち、縄文時代の竪穴住居跡に関する報告書である。本地区の縄文時代の竪穴住居跡については平成5年度刊行の『三内丸山遺跡Ⅱ』、平成9年度刊行の『三内丸山遺跡X』、及び平成11年度刊行の『三内丸山遺跡XV』に一部報告済みである。
2. 本遺跡の遺跡番号は01021番である。
3. 本報告書の執筆者名は文末に付した。
4. 本遺跡の遺構番号については種類ごとに通し番号を付してある。
5. 挿図の縮尺は、各図毎に示している。
6. 記載にあたっては、土器—P-1、P-2、石器—S-1、S-2、柱穴—P₁、P₂の略号を用いた。
7. 竪穴住居跡の規模については原則として、4壁の中間点を計測箇所とし、対峙する2壁の各中間点を結ぶ長さを平均壁長とした。長軸方向は短辺の中間点を結ぶ軸線とした。床面積は壁の下端で囲まれた範囲（掘り方面積）をプランメーターを使用して計測し、3回の計測による平均値を用いた。
8. 資料の鑑定及び同定については、次の方に依頼した。

石器・石製品の石材の種類鑑定……青森県環境生活部県史編さん室 総括主幹 山口 義伸
9. 遺構・遺物の文・図中での表現は原則として次の様式・基準に従った。

遺構番号は一部を除いて発掘調査時のものを用いている。

遺構内外の堆積土の注記は、「新版標準土色帖」（小山・竹原 1987）を用いた。

原則として遺物には観察表・計測表を付し、出土地点、法量及び諸特徴を一覧できるようにした。

縄文原体の観察は、山内清男「日本先史土器の縄紋」（1979 先史考古学会）を参考にし、記述はそれに従った。観察表中での表記は以下のように省略した。

結節回転文—結回、単軸絡条体○類—単絡○、多軸絡条体—多軸絡

また、原体の回転文の場合、その種類だけを記し、押圧の場合は原体の種類の上に「押」を記した。貼付隆帯の上面に文様が施文されたものは、括弧書きした。

石質の略称は以下とする。

玉—玉髓、頁—頁岩、珪頁—珪質頁岩、玉珪—玉髓質珪質頁岩、黒—黒曜石、鉄—鉄石英、凝—凝灰岩、安—安山岩、流—流紋岩、細凝—細粒凝灰岩、緑細凝—緑色細粒凝灰岩、閃—閃緑岩、軽—軽石

図中で使用したスクリーントーン及び土器・石器の分類基準は『三内丸山遺跡X』に示したとおりである。

10. 発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は、現在、県教育庁文化課三内丸山遺跡対策室で保管している。
11. 本報告書は、これ以前の本遺跡に関する全ての資料、報文等に優先するものである。

目 次

序

例 言

目 次

第IV章 縄文時代の検出遺構と出土遺物..... 1

第1節 竪穴住居跡..... 1

第423号住居跡（1図～29図）

〔位置と確認〕 VQ～S-114・115に位置する。第Ⅲ層中で、遺物包含層の落ち込みを確認した。保存のため、南壁と西壁にかけては精査を行わなかった。

〔重複〕 第183・426号住居跡、第130・133号溝跡と重複し、第130・133号溝跡より古く、第426号住居跡より新しい。第183号住居跡との新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は俵形に近い楕円形と思われる。規模は長軸9m、短軸6m40cmと推定される。長軸方向は北西—南東である。

〔壁・床面〕 西壁のみ確認した。テラス状施設からの高さは約14cmである。床面は平坦で硬く締まっている。南側と北側では第Ⅵ層を用いた貼り床が確認された。

〔壁溝〕 テラス状施設と床面との境で周溝が確認された。支柱穴と思われる柱穴間をつなぐような配置で、幅8～18cm、深さ約5cmである。

〔柱穴〕 17個検出した。それぞれの深さはP₁…55cm、P₂…50cm、P₃…36cm、P₄…74cm、P₅…23cm、P₆…16cm、P₇…55cm、P₈…78cm、P₉…15cm、P₁₀…7cm、P₁₁…13cm、P₁₂…25cm、P₁₃…22cm、P₁₄…24cm、P₁₅…46cm、P₁₆…27cm、P₁₇…15cmである。北側の配列が不明であるが、P₂～P₅・P₇・P₁₅の6個が支柱穴と思われる。

〔炉〕 南側で2基の地床炉を検出した。長径約50cmと80cmの不整形で、焼土が顕著に形成されていた。周囲の床面直上に、厚さ約3mmの黒色土が堆積していた。

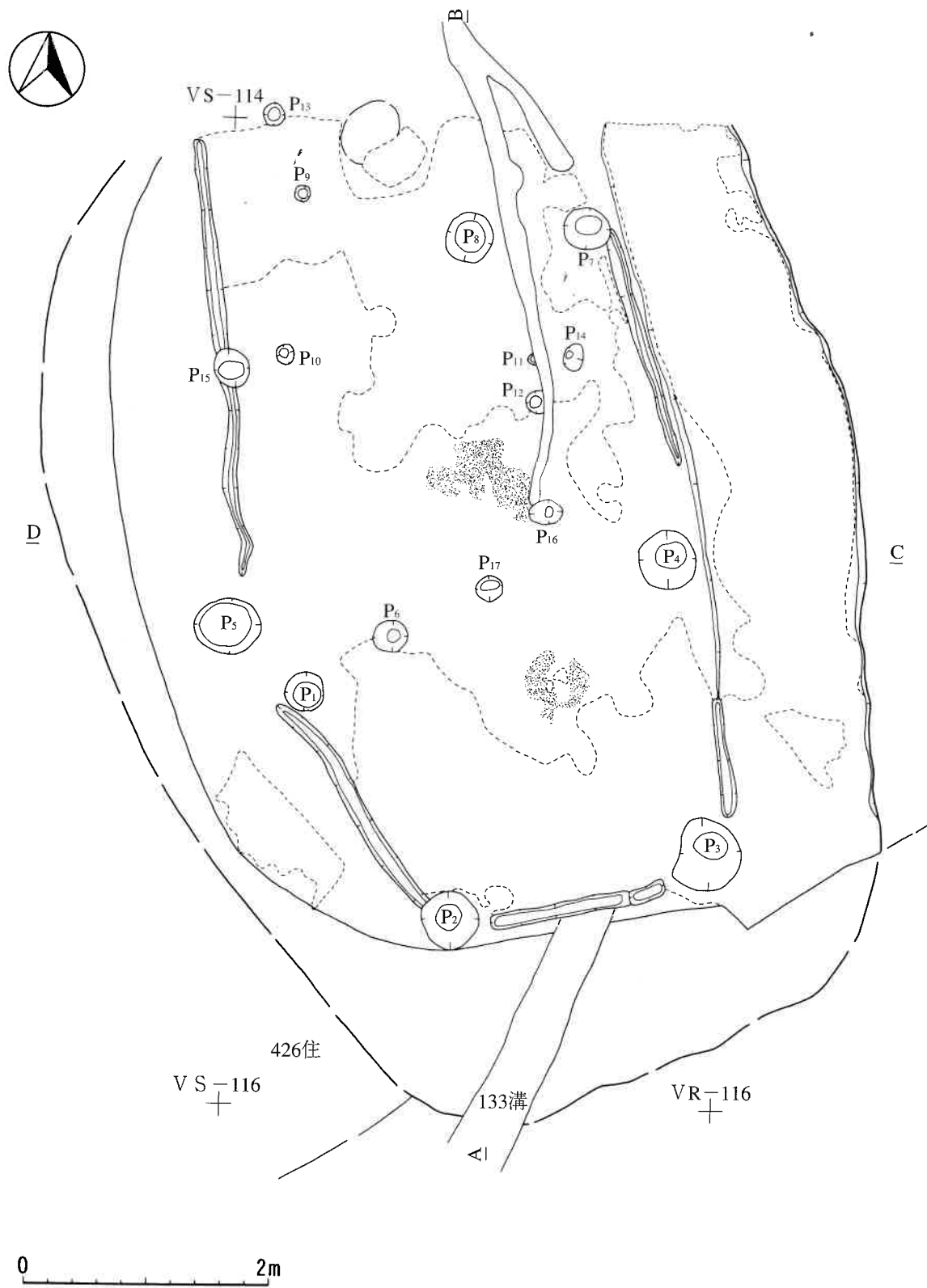
〔その他の施設〕 東側でテラス状施設を検出した。周溝から壁にかけてつくられ、周囲に巡らされていたものと思われる。床面から最大で20cmの段差があり、第426号住居跡の堆積土を掘り残してつくられている。上面には床面同様、第Ⅵ層が貼りつけられるが、硬化は全く見られなかった。

〔堆積土〕 暗褐色土主体の堆積で、上位には縄文時代中期中葉から後葉の遺物包含層が形成されていた。

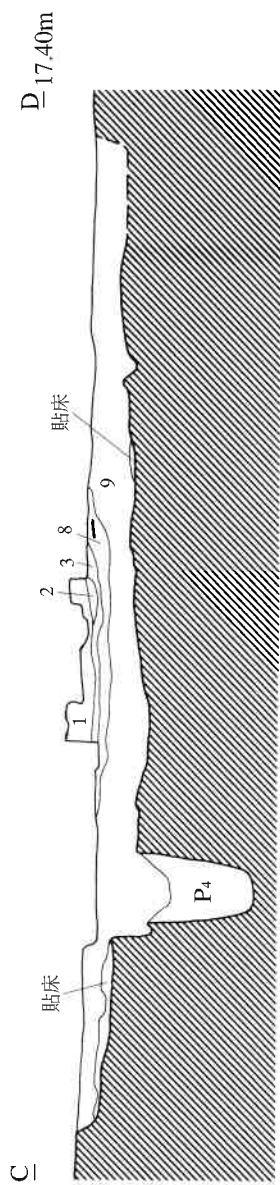
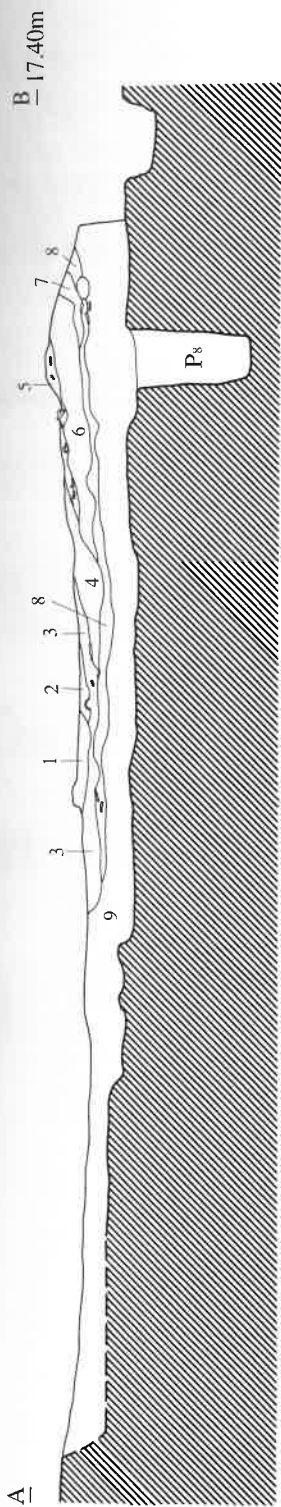
〔出土遺物〕 床面・床面直上から第Ⅱ群5類土器が出土した。また、第9層からは第Ⅲ群3・4類を主体とする土器、第7・8層からは第Ⅲ群4・5類土器が出土した。いずれも復元可能な土器が含まれる。第5層以上では、第Ⅲ群8類が主体となる。石器は床面直上から敲磨器類などが、第9b層からスクレイパー類、敲磨器類、石皿・台石類などが、第9層から石鏃、石槍、石錐、石鏃、スクレイパー類、敲磨器類、石皿・台石類などが、第8層から石鏃、スクレイパー類、R.フレイク、U.フレイク、石皿・台石類、軽石製品などが、第7層から石鏃などが、第5層から石錐などが、第3層から石鏃、磨製石斧などが、第1層から石核、半円状扁平打製石器などが、その他の堆積土から石鏃、石匙、スクレイパー類、R.フレイク、石核、敲磨器類などが出土した。なお216は挟入扁平磨製石器を半円状扁平打製石器に再加工した可能性がある。231は安山岩の扁平礫を素材に剥離加工のみられるものであり、235は端部に打ち欠きがあり器表面にすれが観察され、研磨が施されている可能性がある。

〔時期〕 床面出土遺物から、縄文時代前期末葉（円筒下層d₁式期）と考えられる。

（秦 光次郎）



1 図 第423号住居跡 (1)

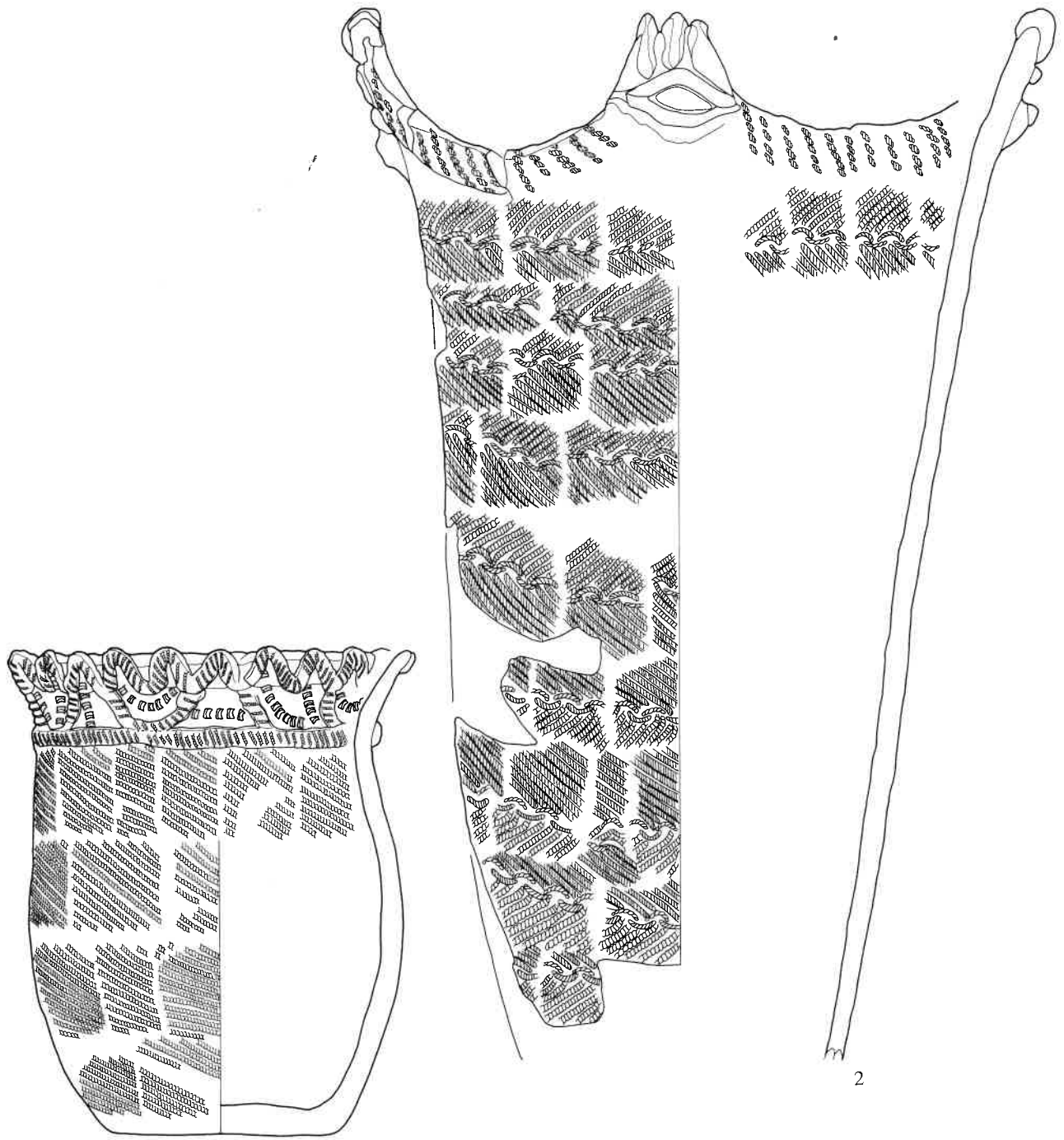


第423号住居跡

- | | | | |
|-----|------|---------|------------------------|
| 第1層 | 黑褐色土 | 10YR3/2 | 炭化物・焼土少量。 |
| 第2層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 焼土・炭化物極微量。 |
| 第3層 | 黑褐色土 | 10YR2/3 | 炭化物多量、焼土微量、骨片微量。 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 焼土、炭化物微量。 |
| 第5層 | 黑褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物多量、骨片少量。 |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 焼土微量、炭化物少量、骨片微量。 |
| 第7層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 焼土微量、炭化物少量、骨片微量。 |
| 第8層 | 黑褐色土 | 10YR3/2 | 焼土微量、炭化物少量、骨片微量、土器片含む。 |
| 第9層 | 黑褐色土 | 10YR3/2 | 焼土微量、炭化物少量。 |

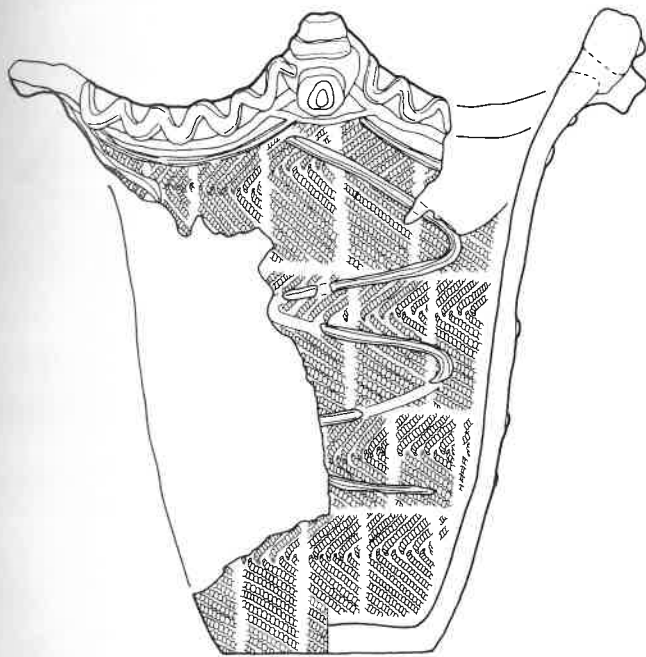
0 2m

2 図 第423号住居跡 (2)

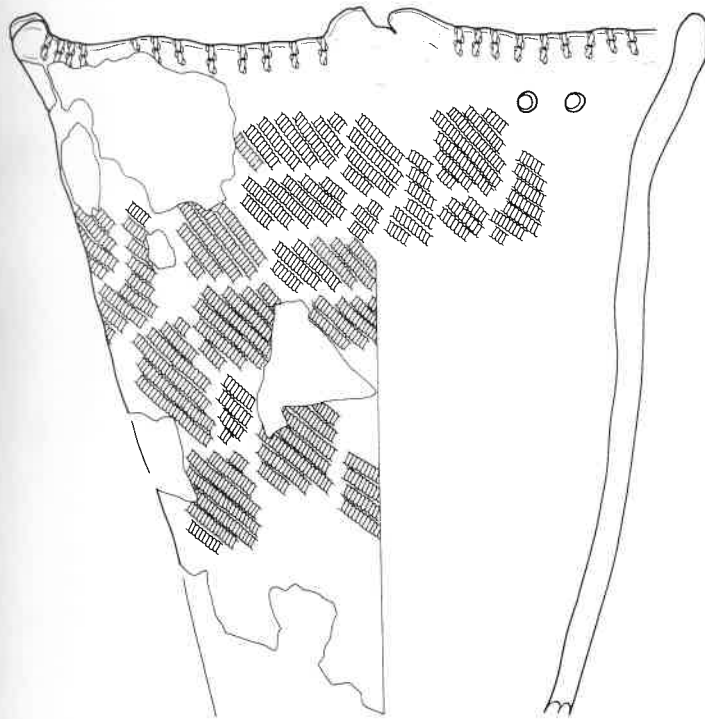


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	423住	9	貼付(L押)、刺突	RL	RL	ミガキ	無文	Ⅲ-3	
2	〃	〃	貼付、RL押	結束第二種	結束第二種	〃		Ⅲ-4・5	

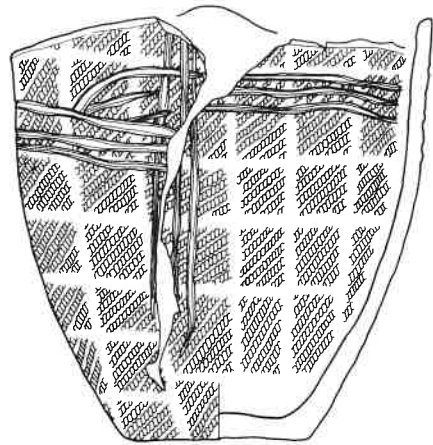
3 図 第423号住居跡出土遺物 (1)



3



4



5

0 5 10cm

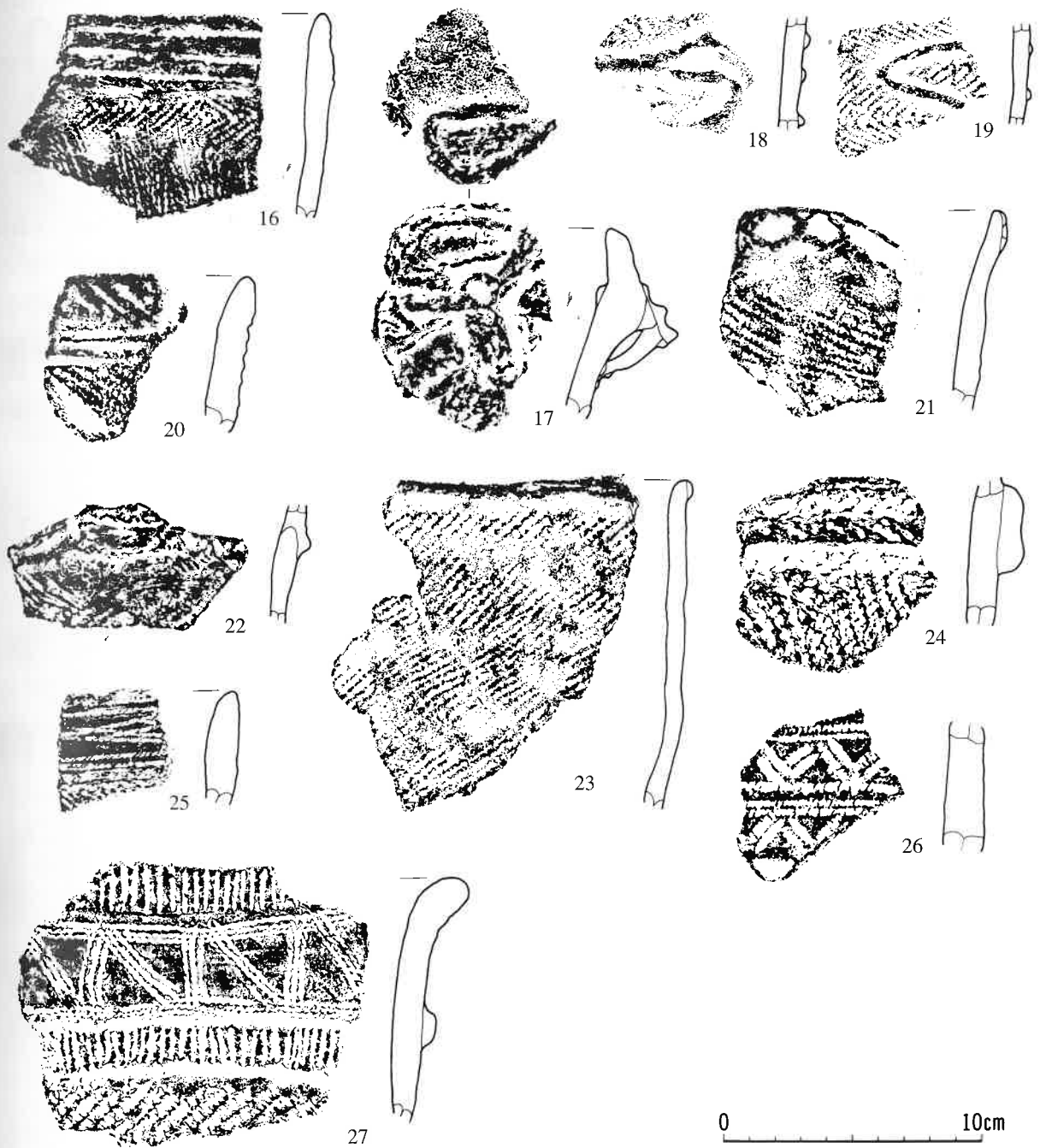
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
3	423住	9	貼付	結束第一種、貼付	結束第一種	ミガキ	無文	Ⅲ-4	
4	〃	8	RL押	RL		〃		Ⅲ-4・5	
5	〃	11	LR、沈線	LR、沈線	LR	〃	無文	Ⅲ-5	

4 図 第423号住居跡出土遺物 (2)



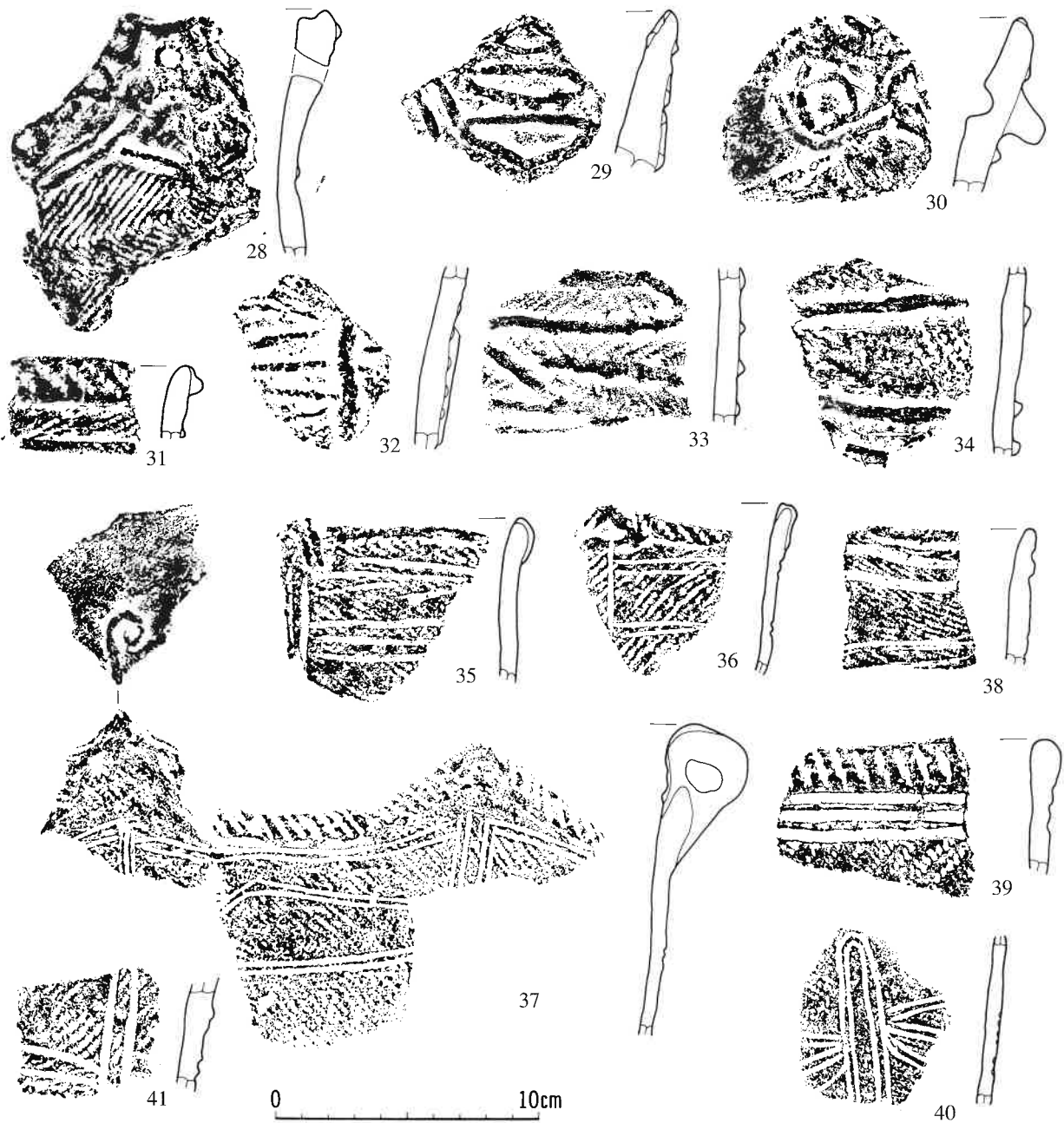
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
6	423住	床面	LR押	RLR		ミガキ	Ⅱ-5-1	6~8同一個体	
7	〃	床直	〃	〃		〃	〃		
8	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
9	423テラス状施設	堆積土	LR、LR押	LR		〃	Ⅱ-2		
10	〃	〃	R結回	〃		〃	〃		
11	〃	〃	R単絡6A			〃	Ⅱ-3		
12	〃	〃		RL、沈線	RL	〃	Ⅲ-5		
13	〃	〃	凹状沈線			〃	Ⅲ-8		
14	423住	9	RLR、LR押			〃	Ⅱ-2		
15	〃	〃	LR、R結回			〃	〃		

5 図 第423号住居跡出土遺物 (3)



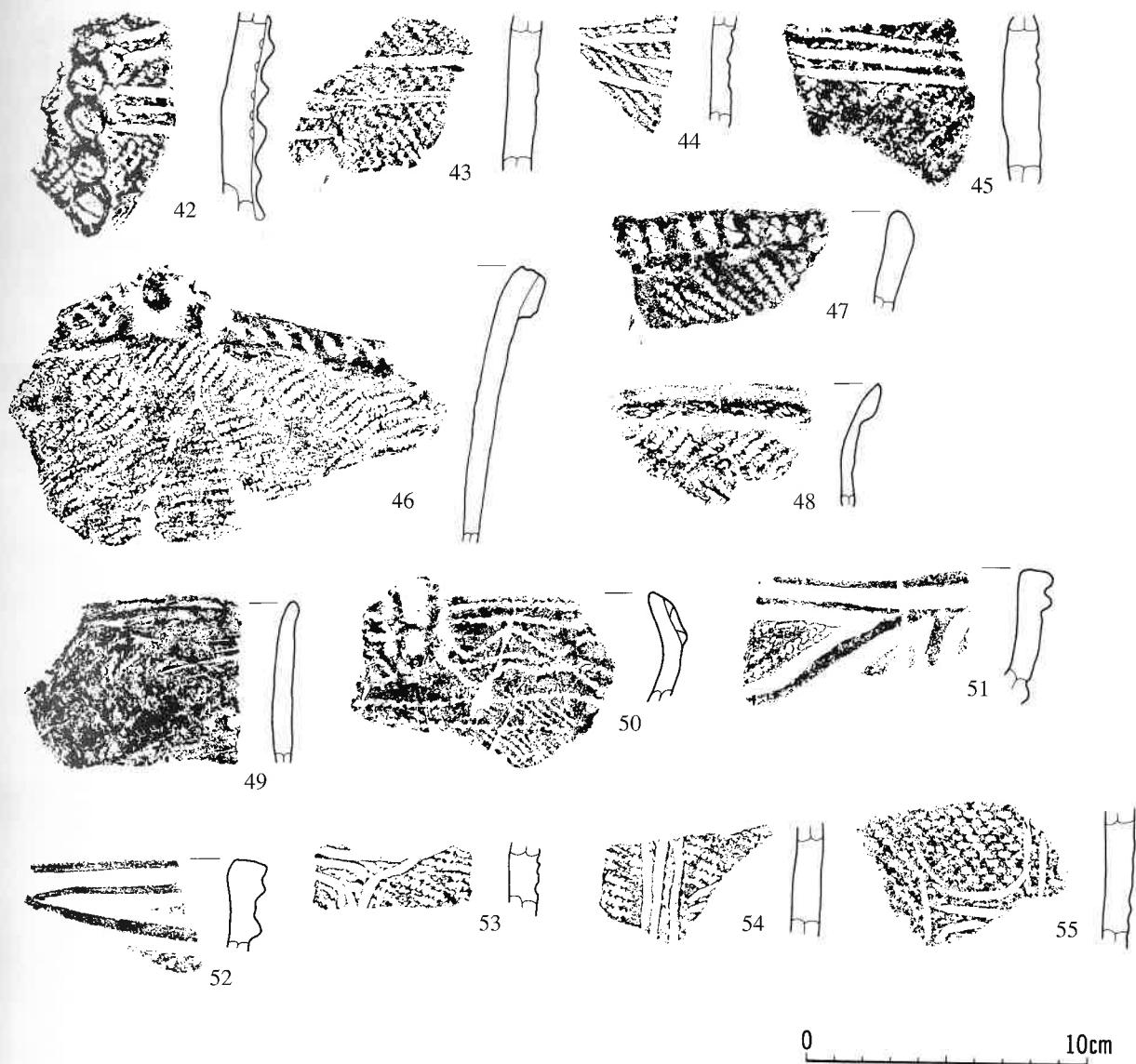
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
16	423住	9	L押	結束第一種、R単絡1		ミガキ		Ⅱ-5-1	
17	〃	〃	貼付			〃		Ⅲ-4	内面にも貼付
18	〃	〃		結束第一種、貼付		〃		〃	
19	〃	〃		〃		〃		〃	
20	〃	〃	L押、RL、沈線			〃		Ⅲ-5	
21	〃	〃	貼付	RL		〃		Ⅲ-4・5	
22	〃	〃	LR押、貼付	LR?		〃		〃	
23	〃	〃	貼付	LR		〃		〃	
24	〃	8		隆帯(RLR、上下RLR押)		〃		Ⅱ-3	
25	〃	〃	R押			〃		Ⅱ-5-1	
26	〃	〃	R単絡1押			〃		Ⅱ-5-2	
27	〃	〃	L・R押、貼付(L押)	LR?		〃		Ⅲ-1	

6 図 第423号住居跡出土遺物 (4)



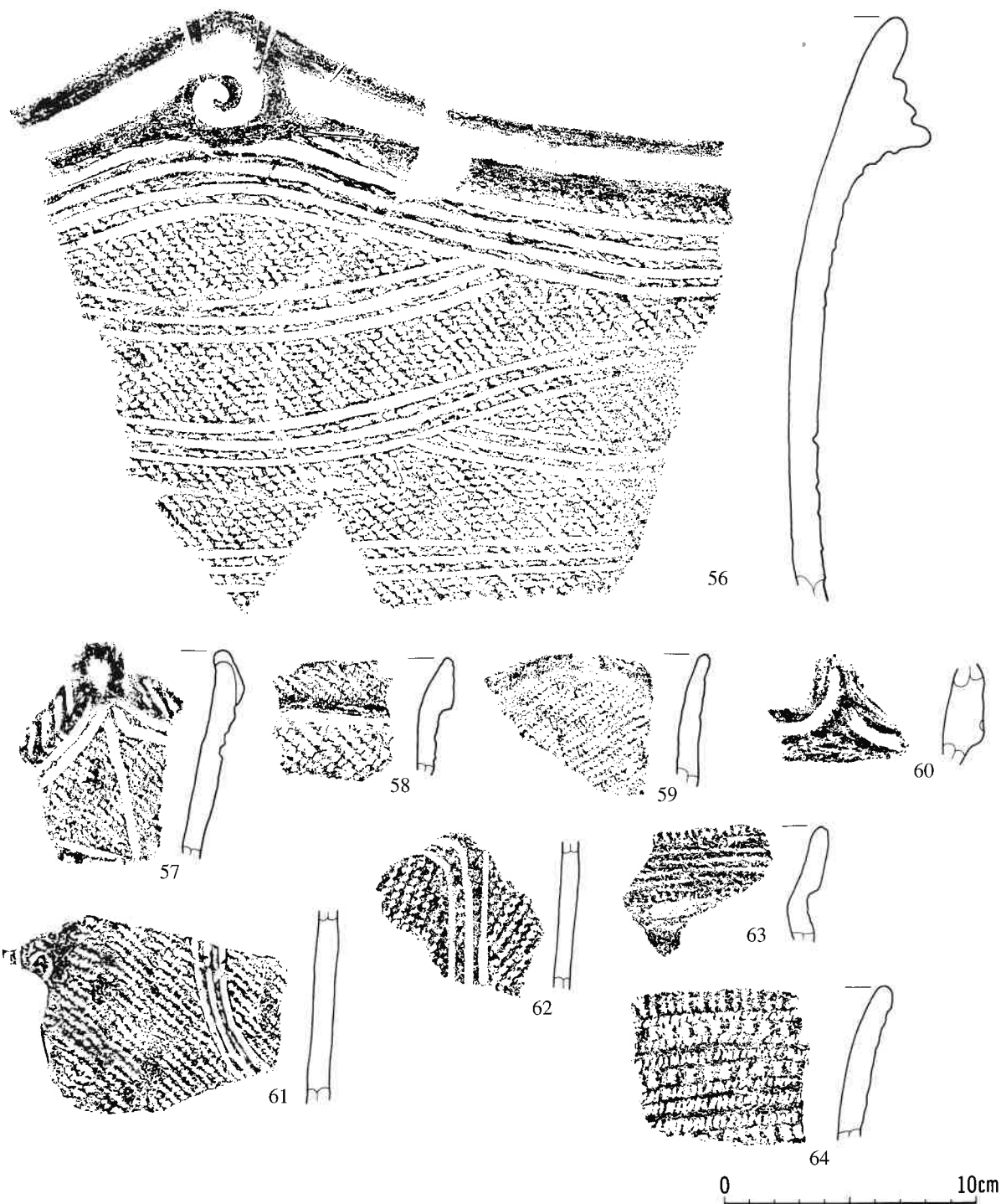
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
28	423住	8	貼付、貫通孔	結束第一種、貼付		ミガキ		Ⅲ-4 波頂部円孔	
29	〃	〃	貼付			〃		〃 内面にも貼付	
30	〃	〃	〃			〃		〃 内面に盲孔	
31	〃	〃	LR押、LR? 貼付			〃		〃	
32	〃	〃		貼付		〃		〃	
33	〃	〃		結束第一種、貼付		〃		〃	
34	〃	〃		RLR? 貼付		〃		〃	
35	〃	〃	貼付、RL押	RL、沈線		〃		Ⅲ-5	
36	〃	〃	〃、LR押	LR、〃		〃		〃 内面にも貼付	
37	〃	〃	RL押、RL、沈線	RL、〃		〃		〃	
38	〃	〃	LR押、LR、〃			〃		〃	
39	〃	〃				〃		〃	
40	〃	〃		LR、沈線		〃		〃	
41	〃	〃		RL、〃		〃		〃	

7 図 第423号住居跡出土遺物 (5)



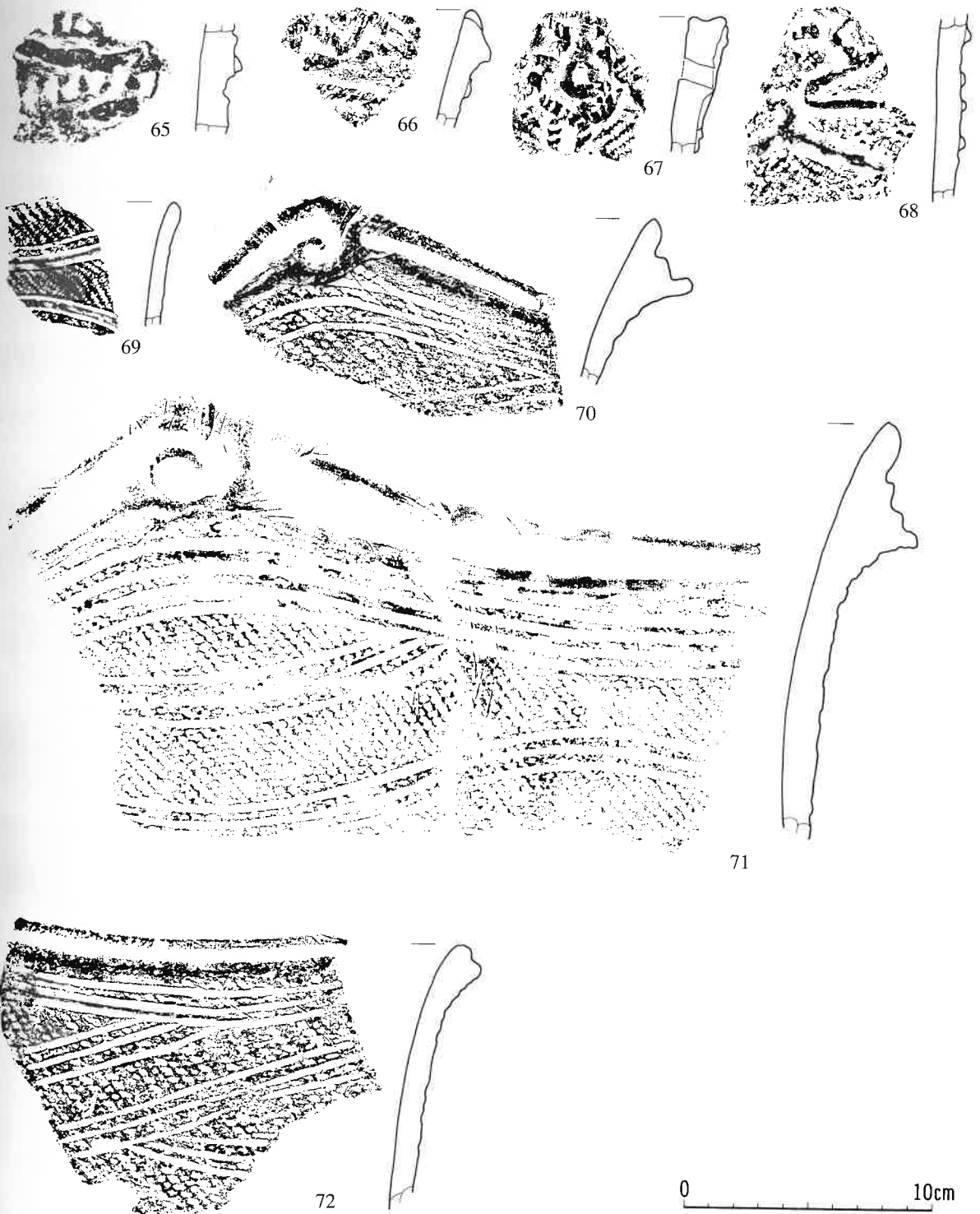
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
42	423住	8		貼付(指頭押), LR, 沈線		ミガキ	Ⅲ-5		
43	〃	〃		RL, 沈線		〃	〃		
44	〃	〃		〃、〃		〃	〃		
45	〃	〃		LR、〃		〃	〃		
46	〃	〃	貼付、LR押	LR		〃	Ⅲ-4・5		
47	〃	〃	RL押、RL			〃	〃		
48	〃	〃	結束第一種			〃	〃		
49	〃	〃	無文			〃	〃		
50	〃	〃	貼付、RL押	RL		〃	Ⅲ-7		
51	〃	〃	隆沈線、LR			〃	Ⅲ-8	52と同一個体	
52	〃	〃	〃、〃			〃	〃		
53	〃	〃		RL、沈線		〃	〃	54と同一個体	
54	〃	〃		〃、〃		〃	〃		
55	〃	〃		RLR、沈線		〃	〃		

8 図 第423号住居跡出土遺物 (6)



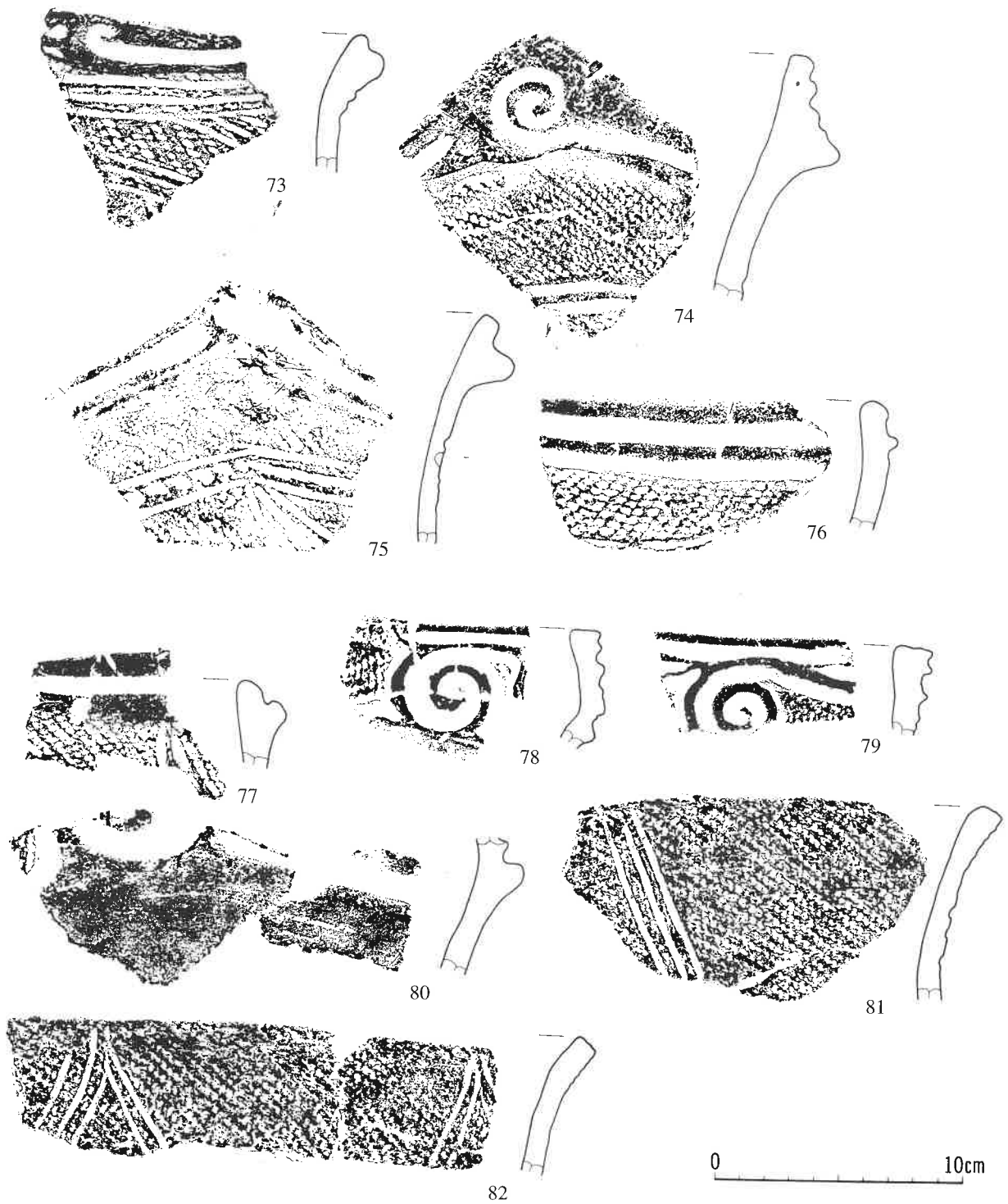
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
56	423住	8	凹状沈線、LR、沈線	LR、沈線		ミガキ		Ⅲ-8	
57	〃	7	貼付、RL、沈線			〃		Ⅲ-5	
58	〃	〃	RL			〃		Ⅲ-4・5	
59	〃	〃	LR			〃		〃	
60	〃	6	凹状沈線			〃		Ⅲ-8	
61	〃	〃		LR、沈線		〃		〃	
62	〃	〃		RLR、〃		〃		Ⅲ-9	
63	〃	5	L押、刻み			〃		Ⅱ-5-1	頸部屈曲
64	〃	〃	R単絡1押、刺突			〃		Ⅱ-5-2	

9 図 第423号住居跡出土遺物 (7)



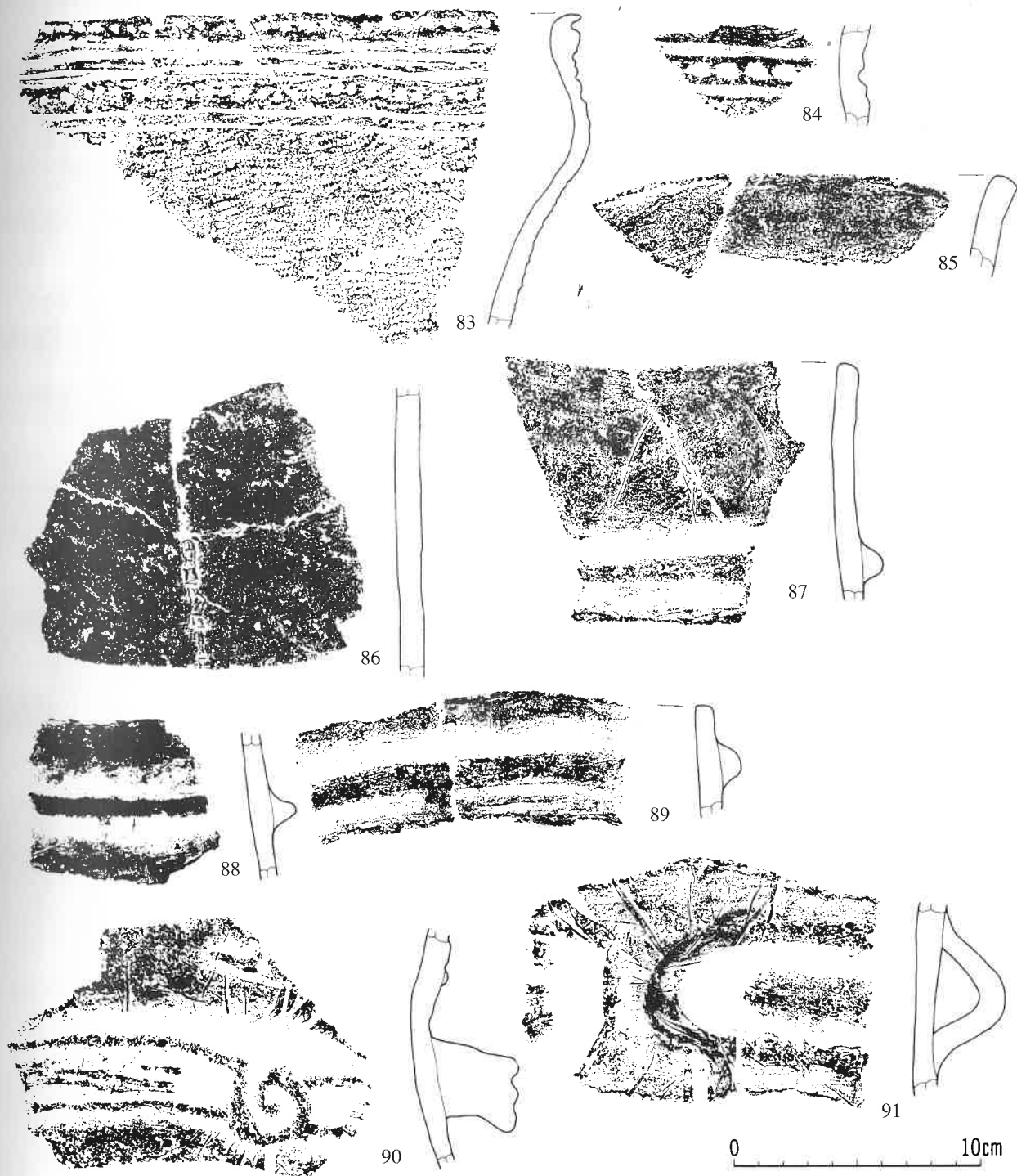
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
65	423住	5		貼付、刺突		ミガキ	Ⅲ-3		
66	〃	〃	貼付 (L押)			〃	Ⅲ-4		
67	〃	〃	貼付 (刻み)、貫通孔	結束第一種、貼付		〃	〃		
68	〃	〃	〃			〃	〃		
69	〃	〃	RL押、RL、沈線			〃	Ⅲ-5		
70	〃	〃	凹状沈線、LR、沈線			〃	Ⅲ-8		
71	〃	〃	〃			〃	〃		
72	〃	〃	〃			〃	〃		

10図 第423号住居跡出土遺物 (8)



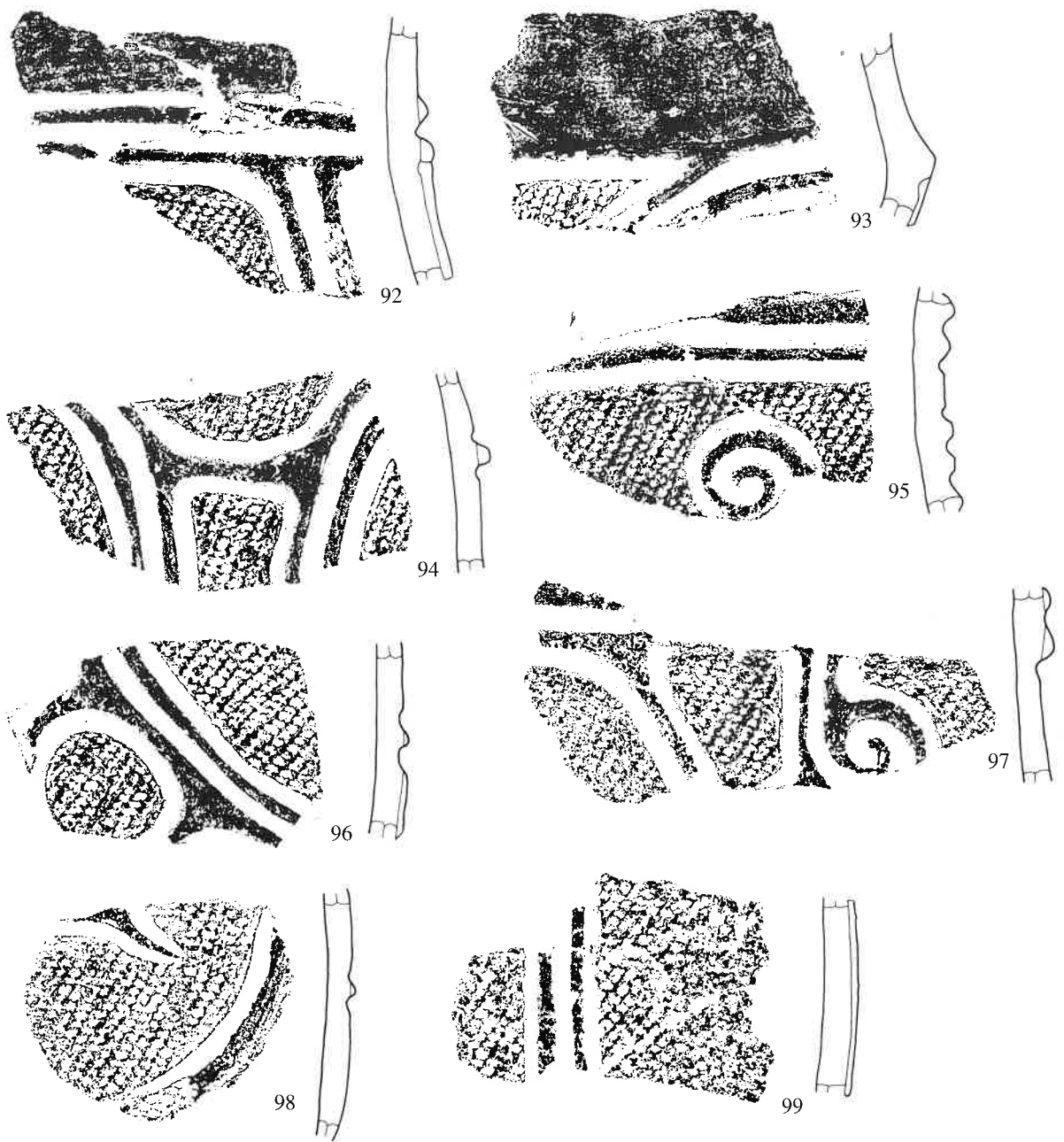
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
73	423住	5	凹状沈線、LR、沈線			ミガキ		Ⅲ-8	
74	〃	〃	凹状沈線	RL、沈線		〃		〃	
75	〃	〃	〃	〃、〃、刺突		〃		〃	
76	〃	〃	〃	RL		〃		〃	
77	〃	〃	〃	RLR、沈線		〃		〃	
78	〃	〃	隆沈線、LR			〃		79と同一個体	
79	〃	〃	〃			〃		〃	
80	〃	〃	凹状沈線			〃		〃	
81	〃	〃	RLR、沈線			〃		82と同一個体	
82	〃	〃	〃			〃		〃	

11図 第423号住居跡出土遺物 (9)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
83	423住	5	LR、沈線、刺突	LR、沈線		ミガキ	Ⅲ-8		
84	〃	〃	沈線、刺突	RL?		〃	〃		
85	〃	〃	無文			〃	〃		
86	〃	〃	〃			〃	〃		
87	〃	〃	無文、貼付			〃	〃		
88	〃	〃	〃			〃	〃		
89	〃	〃	〃			〃	〃		
90	〃	〃	無文、貼付、橋状把手			〃	〃		
91	〃	〃	〃、〃、〃			〃	〃		

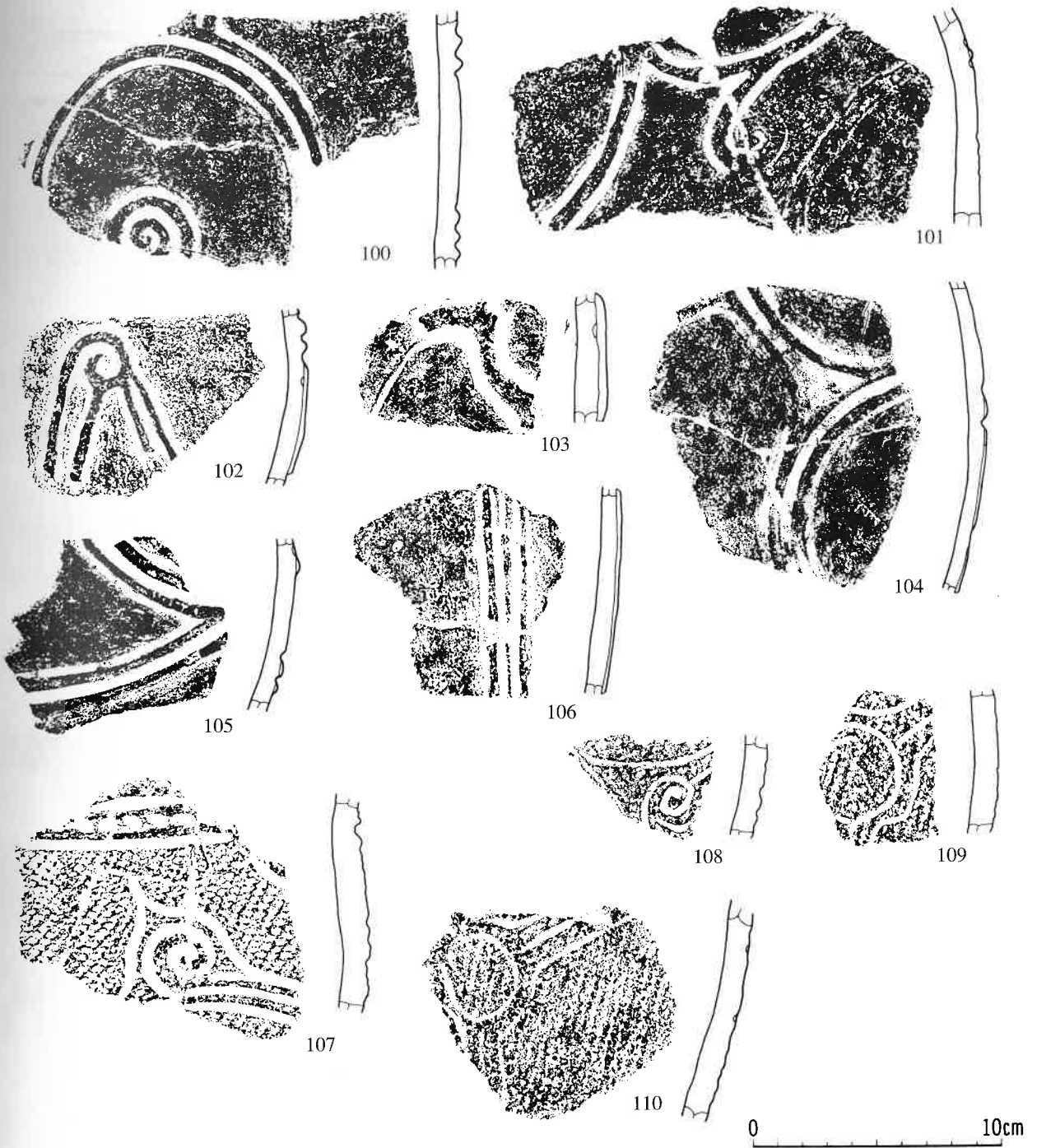
12図 第423号住居跡出土遺物 (10)



0 10cm

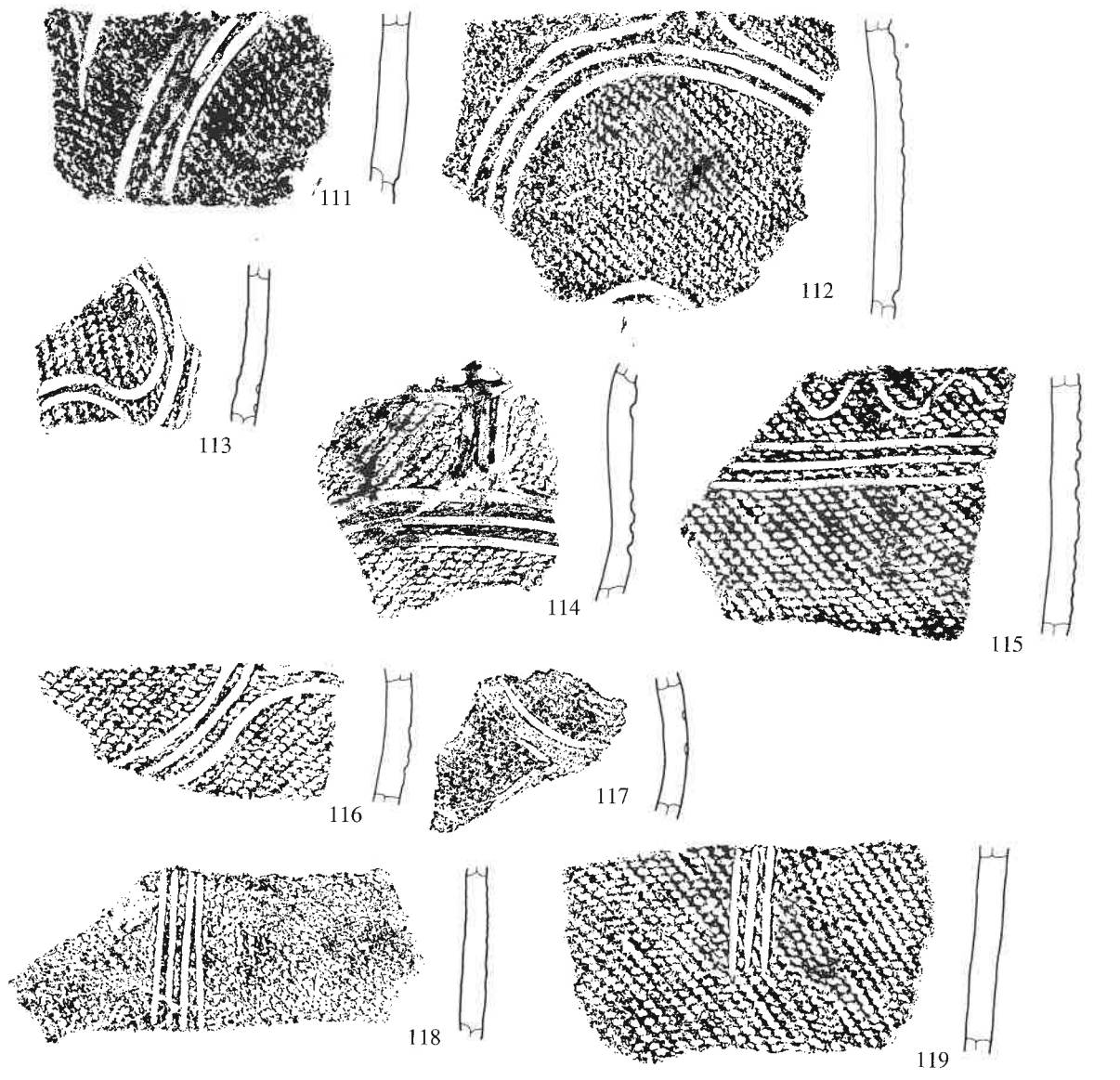
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
92	423住	5	無文、隆沈線	隆沈線、RL		ミガキ		Ⅲ-8	
93	〃	〃	〃	〃		〃		〃	
94	〃	〃		〃		〃		〃	
95	〃	〃		〃		〃		〃	
96	〃	〃		〃		〃		〃	
97	〃	〃		〃		〃		〃	
98	〃	〃		〃		〃		〃	
99	〃	〃		〃		〃		〃	

13図 第423号住居跡出土遺物 (11)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
100	423住	5		隆沈線		ミガキ	Ⅲ-8	100~106同一個体	
101	〃	〃		〃		〃	〃		
102	〃	〃		〃		〃	〃		
103	〃	〃		〃		〃	〃		
104	〃	〃		〃		〃	〃		
105	〃	〃		〃		〃	〃		
106	〃	〃		〃		〃	〃		
107	〃	〃	沈線、刺突	RL、沈線		〃	〃		
108	〃	〃		LR、〃		〃	〃		
109	〃	〃		RL、〃		〃	〃		
110	〃	〃		〃、〃		〃	〃		

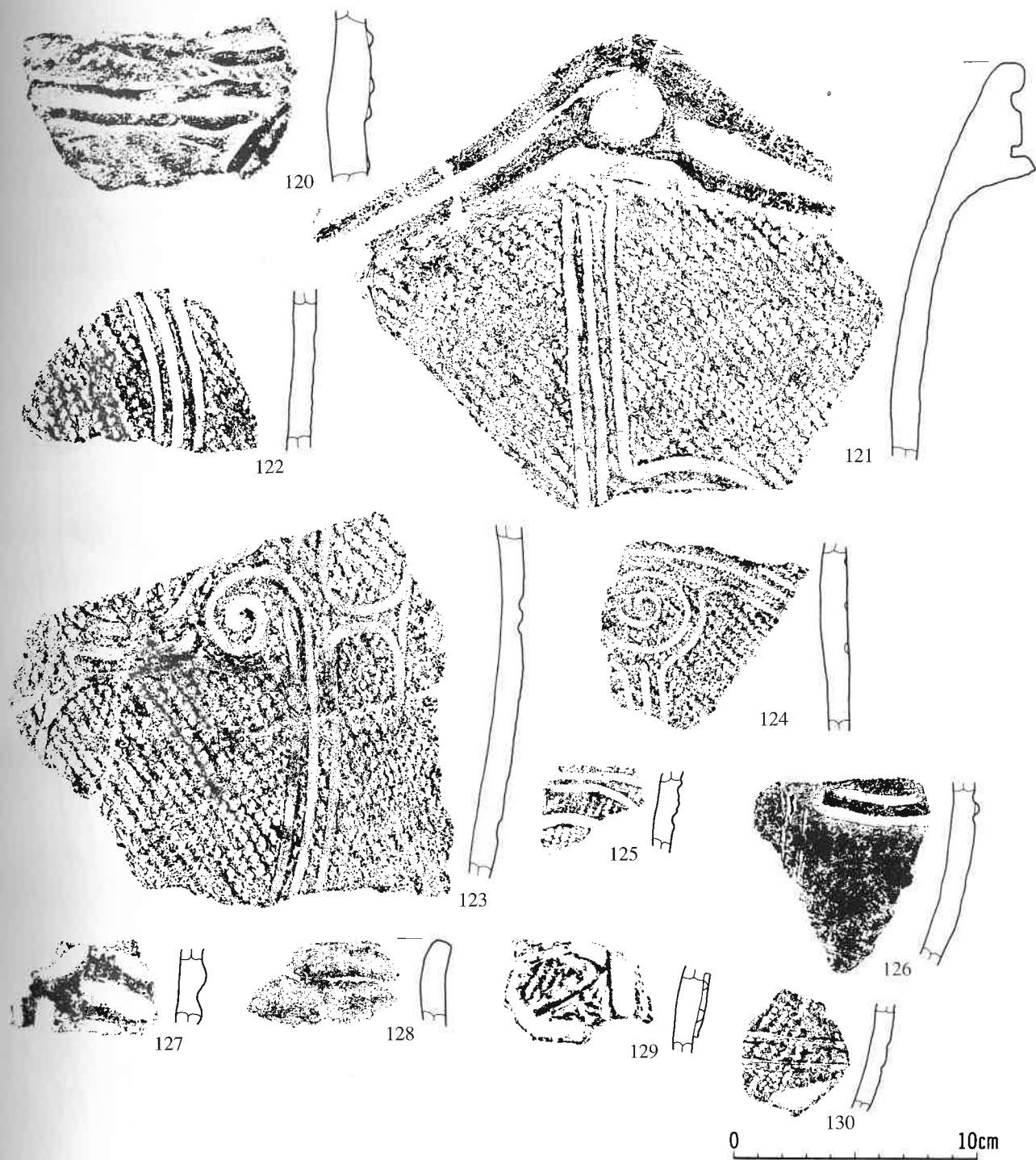
14図 第423号住居跡出土遺物 (12)



0 10cm

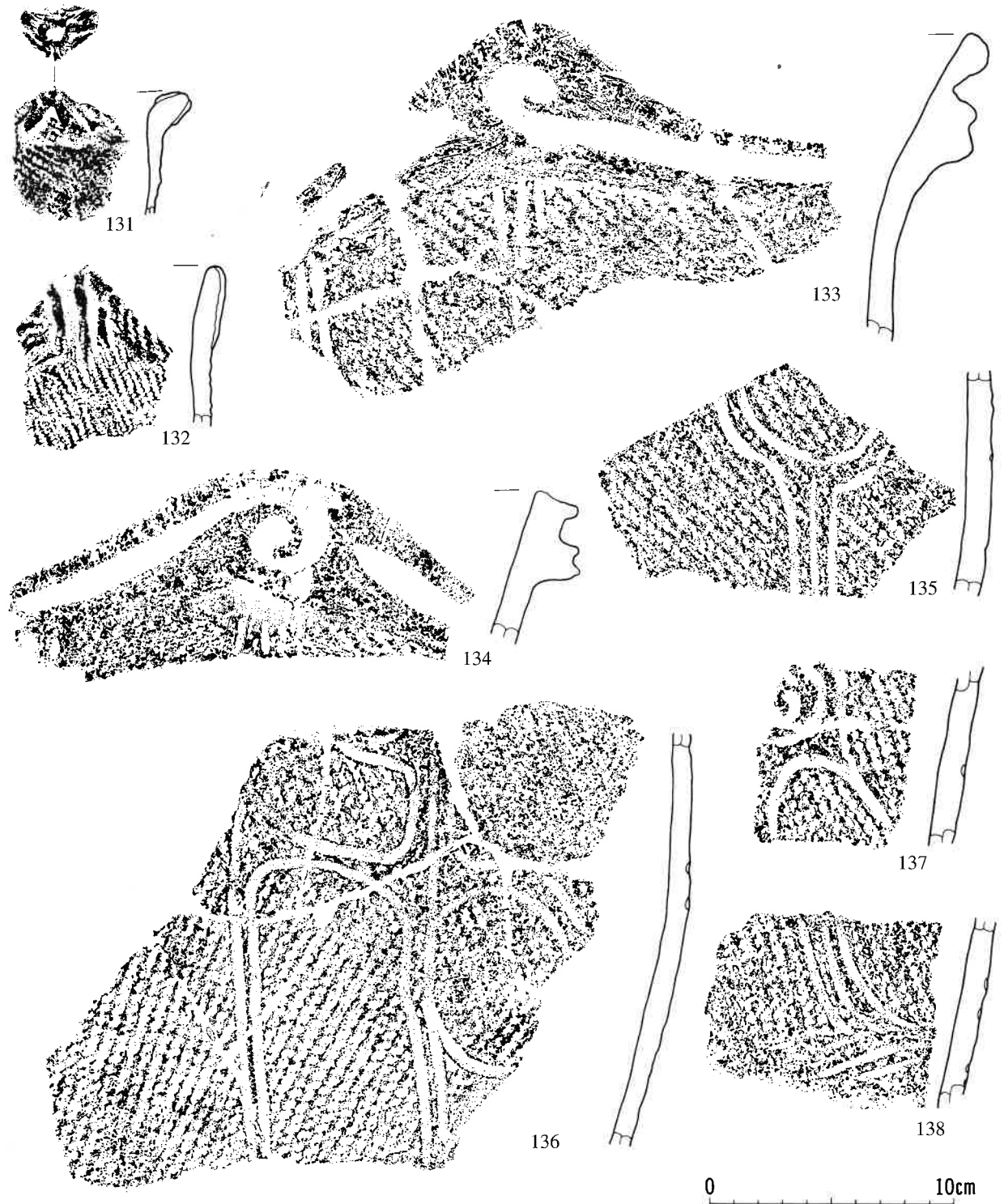
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
111	423住	5		RL、沈線		ミガキ		Ⅲ-8	
112	〃	〃		〃		〃		〃	
113	〃	〃		〃		〃		〃	
114	〃	〃	刺突	〃		〃		〃	
115	〃	〃		LR、沈線		〃		〃	
116	〃	〃		RLR、〃		〃		〃	
117	〃	〃		沈線		〃		〃	
118	〃	〃		RLR、沈線		〃		〃	
119	〃	〃		LR、〃		〃		〃	

15図 第423号住居跡出土遺物 (13)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
120	423住	4		RL、貼付		ミガキ	Ⅲ-4		
121	〃	〃	凹状沈線	RLR、沈線		〃	Ⅲ-8	121~123同一個体	
122	〃	〃		〃		〃	〃		
123	〃	〃		〃		〃	〃		
124	〃	〃		RL、沈線		〃	〃		
125	〃	〃		RLR、〃		〃	〃		
126	〃	〃		隆沈線		〃	〃		
127	〃	〃		〃		〃	〃		
128	〃	〃	無文			〃	Ⅲ-11		
129	〃	3		結束第一種、貼付		〃	Ⅲ-4		
130	〃	〃		LR、沈線		〃	Ⅲ-5		

16図 第423号住居跡出土遺物 (14)



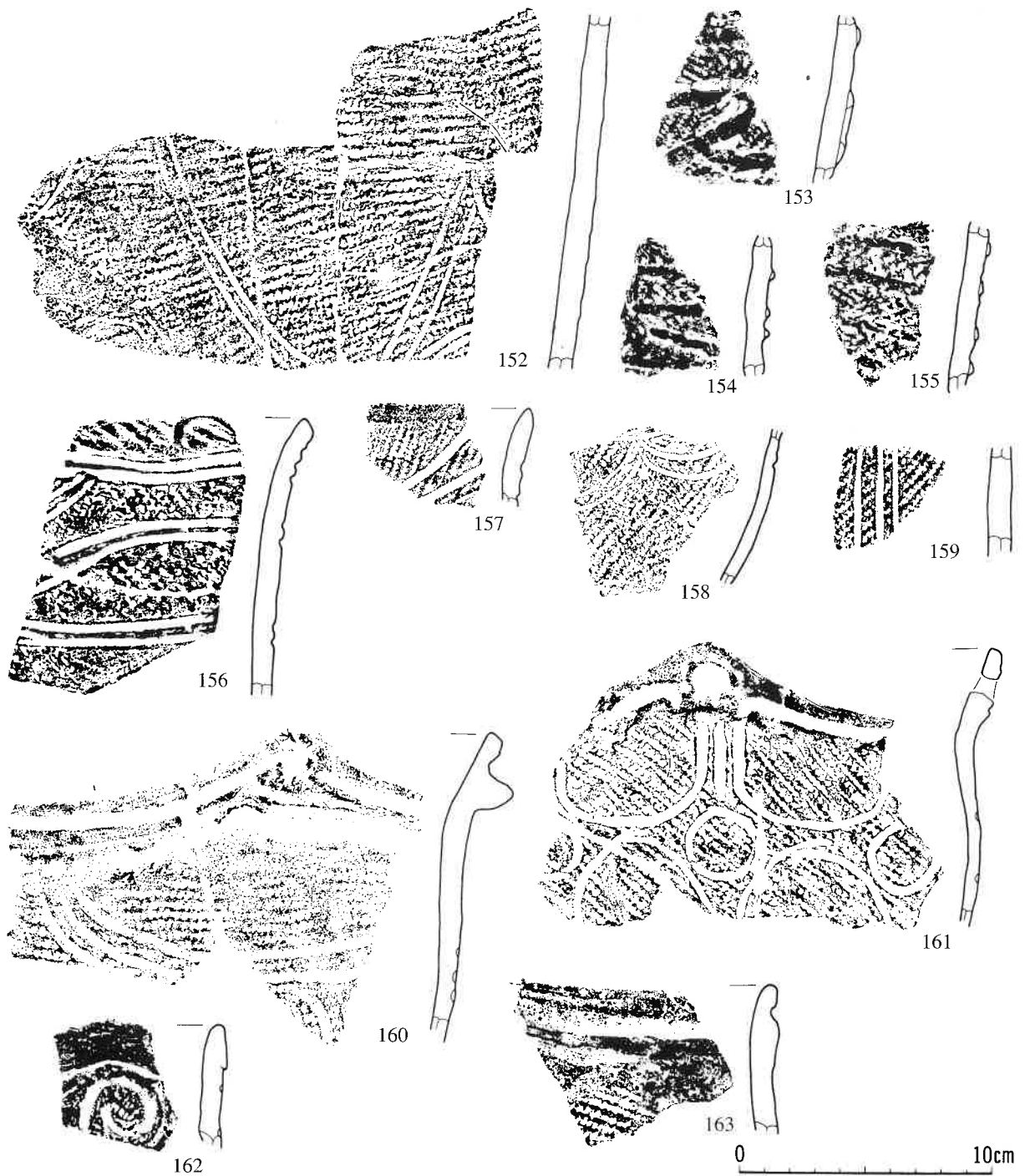
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
131	423住	3	貼付、RL			ミガキ	Ⅲ-6		
132	〃	〃	〃、〃、RL押	RL		〃	〃		
133	〃	〃	凹状沈線	RLR、沈線		〃	Ⅲ-8	134と同一個体	
134	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
135	〃	〃		〃		〃	〃	135~138同一個体	
136	〃	〃		〃		〃	〃		
137	〃	〃		〃		〃	〃		
138	〃	〃		〃		〃	〃		

17図 第423号住居跡出土遺物 (15)



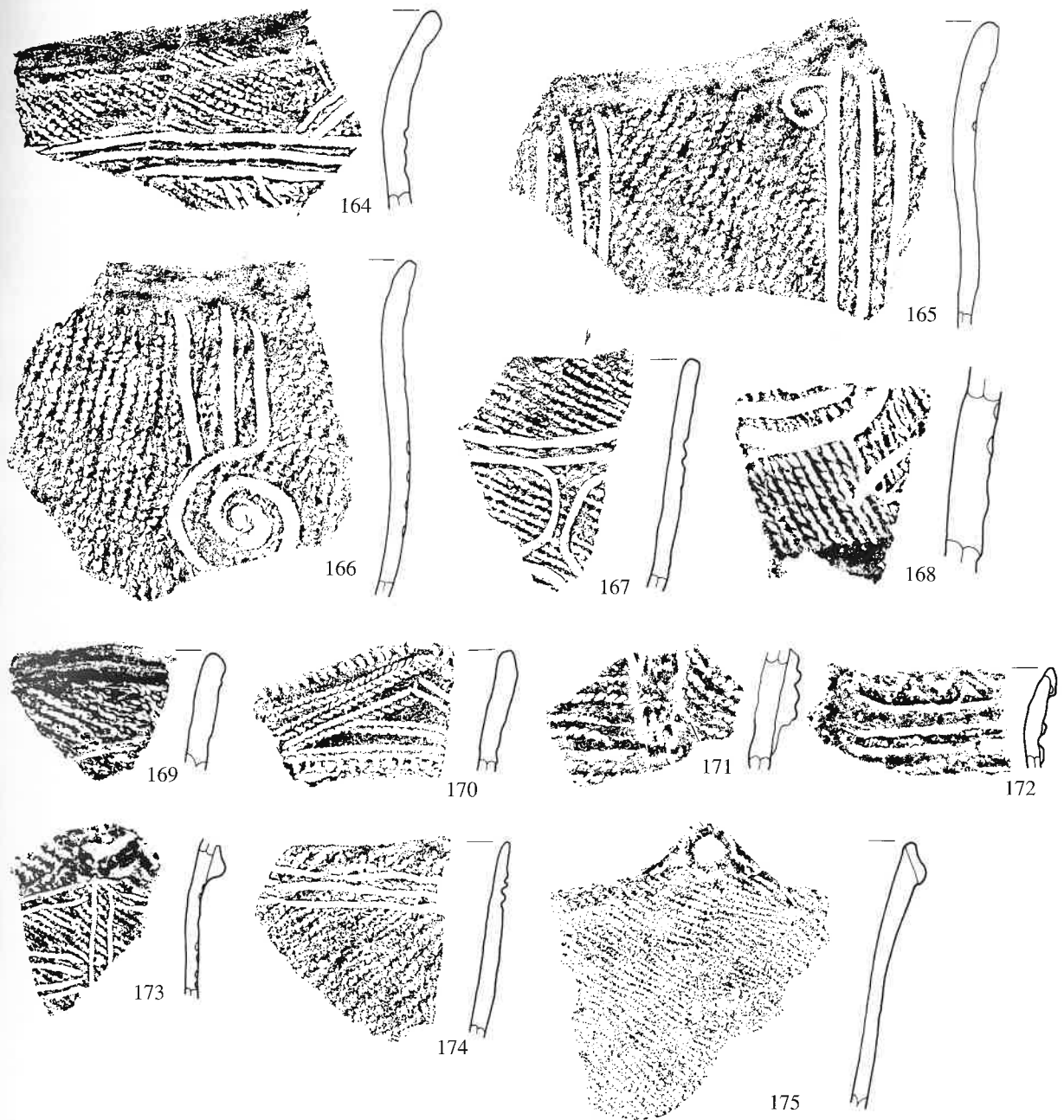
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
139	423住	3	凹状沈線	LR?		ミガキ	Ⅲ-8	140と同一個体	
140	〃	〃	〃	〃		〃	〃	波頂部円孔	
141	〃	〃	〃	LR		〃	〃		
142	〃	〃	〃	RLR、沈線		〃	〃		
143	〃	〃	LR、沈線			〃	〃		
144	〃	〃		RLR、沈線		〃	〃		
145	〃	〃		縄文、〃		〃	〃		
146	〃	〃		〃、〃		〃	〃		
147	〃	〃		LR、〃		〃	〃		
148	〃	〃		〃、〃		〃	〃		
149	〃	〃		RLR、〃		〃	〃		
150	〃	〃		LR、〃		〃	〃		
151	〃	〃		RLR、〃		〃	〃		

18図 第423号住居跡出土遺物 (16)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
152	423住	3		LR、沈線		ミガキ		Ⅲ-8	
153	〃	2		結束第一種、貼付		〃		Ⅲ-4	
154	〃	〃		〃		〃		〃	
155	〃	〃		〃		〃		〃	
156	〃	〃	貼付、RL押	RL、沈線		〃		Ⅲ-5	
157	〃	〃	RLR、沈線			〃		Ⅲ-8	
158	〃	〃		LR、沈線		〃		〃	
159	〃	〃		RL、〃		〃		Ⅲ-8・9	
160	〃	1	凹状沈線	LR、〃		〃		Ⅲ-8	
161	〃	〃	貫通孔、刺突、凹状沈線	〃、〃		〃		〃	
162	〃	〃	無文帯	LR? 〃		〃		〃	
163	〃	〃	凹状沈線	LR		〃		〃	

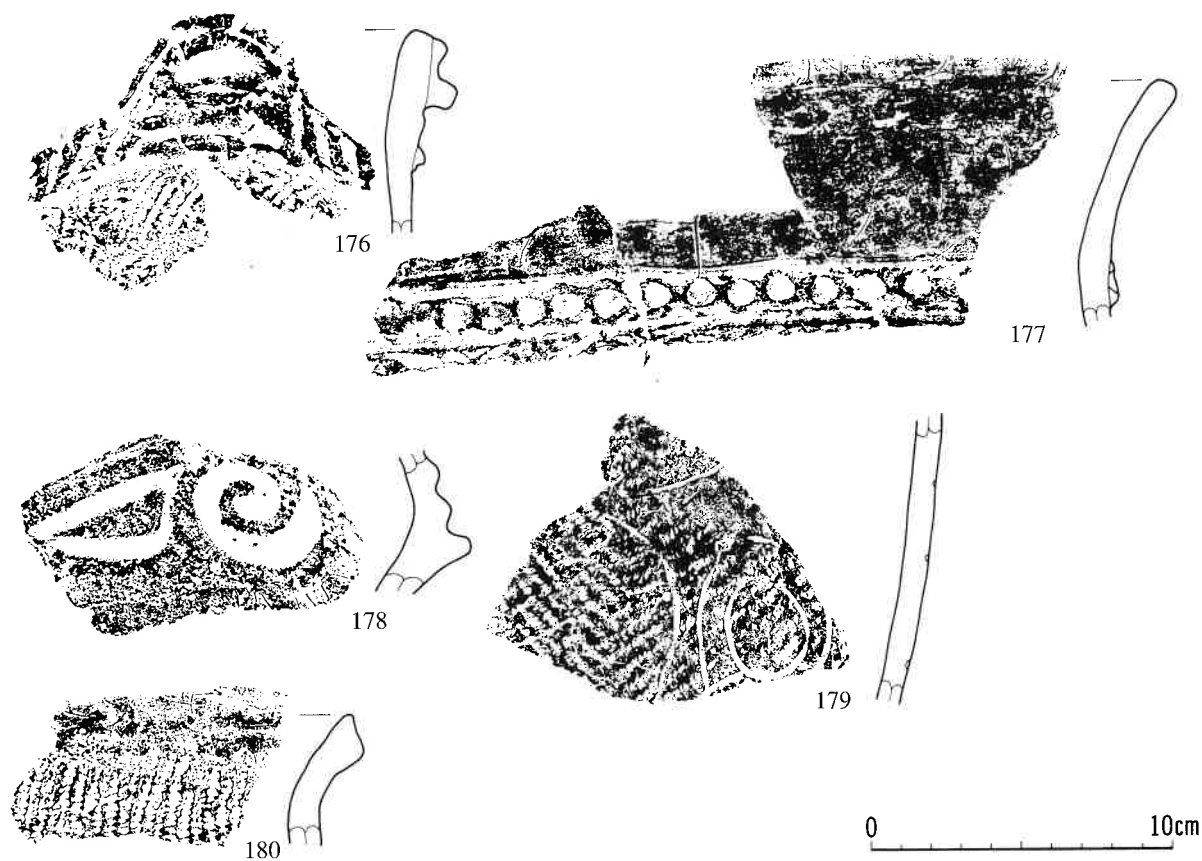
19図 第423号住居跡出土遺物 (17)



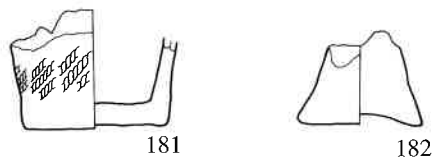
0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
164	423住	I	RL、沈線			ミガキ	Ⅲ-8		
165	〃	〃	無文帯	RLR、沈線		〃	〃	166と同一個体	
166	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
167	〃	〃	LR、沈線			〃	〃		
168	〃	〃		R単絡1、沈線		〃	〃		
169	〃	〃	RLR			〃	Ⅲ-11		
170	〃	堆積土	R押、刺突			〃	Ⅱ-5-1		
171	〃	〃	貼付(R押)、R押			〃	Ⅱ-5-2		
172	〃	〃	貼付			〃	Ⅲ-4		
173	〃	〃	〃、LR押	RL、沈線		〃	Ⅲ-5		
174	〃	〃	LR、沈線			〃	〃		
175	〃	〃	貼付、RL			〃	Ⅲ-6		

20図 第423号住居跡出土遺物 (18)

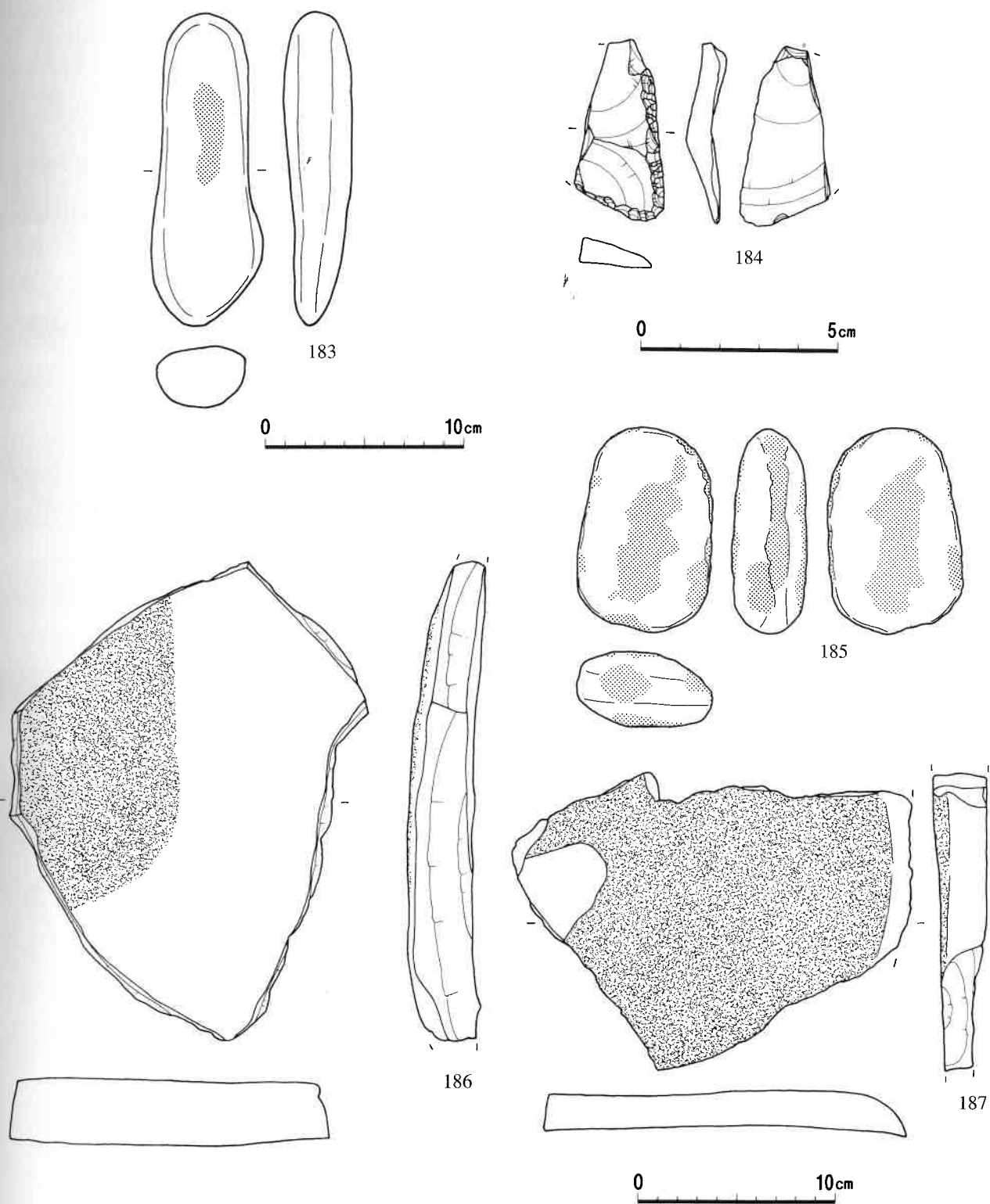


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
176	423住	堆積土	貼付(LR押)、LR			ミガキ	Ⅲ-6		
177	〃	〃	無文帯	隆帯(刺突)		〃	Ⅲ-8		
178	〃	〃	凹状沈線			〃	〃	頸部屈曲	
179	〃	〃		LR、沈線		〃	〃		
180	〃	〃	RL			〃	Ⅲ-11		



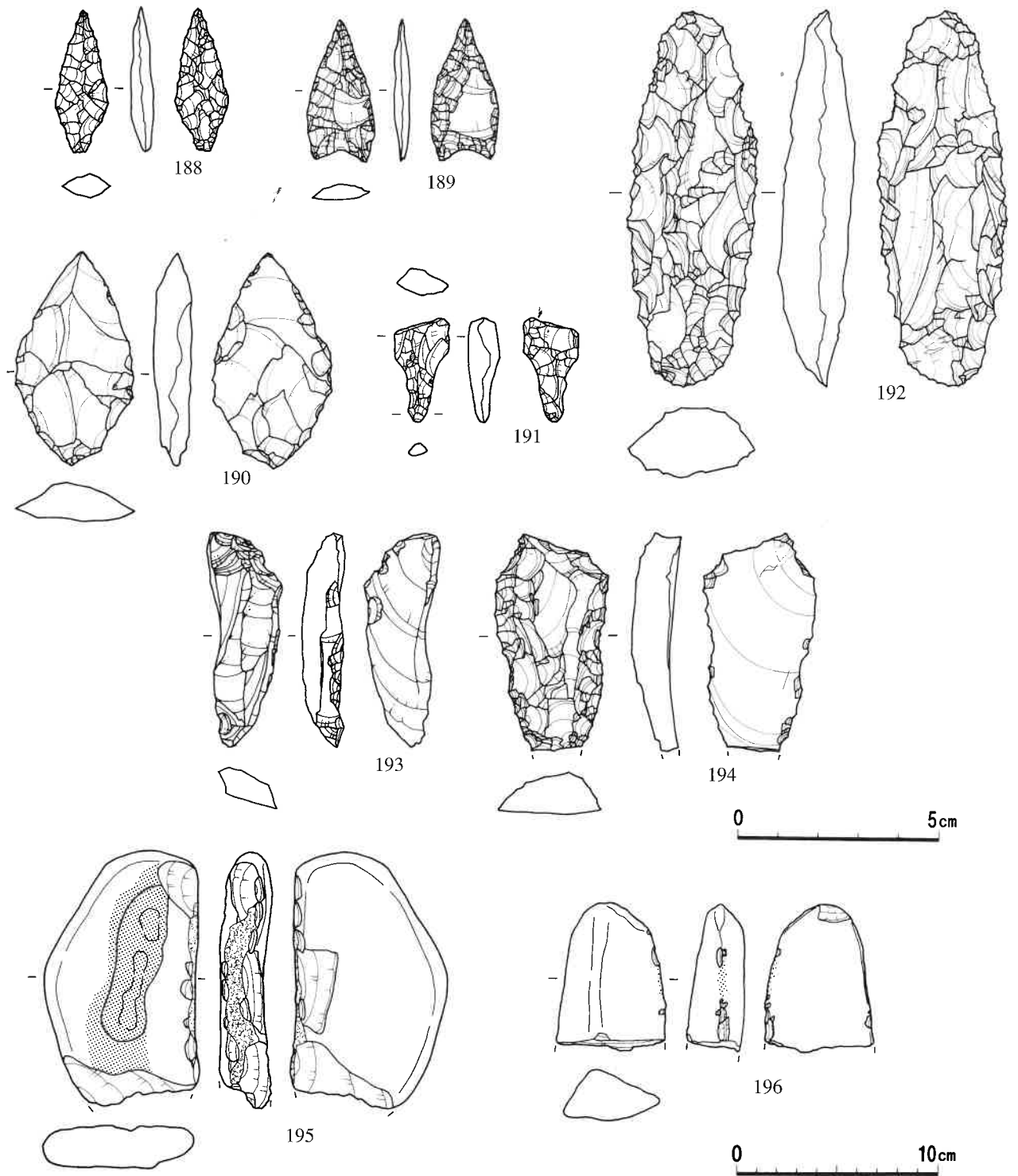
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
181	423住	堆積土			LR		無文	ミニチュア	深鉢形
182	〃	〃			無文			〃	台部?

21図 第423号住居跡出土遺物 (19)



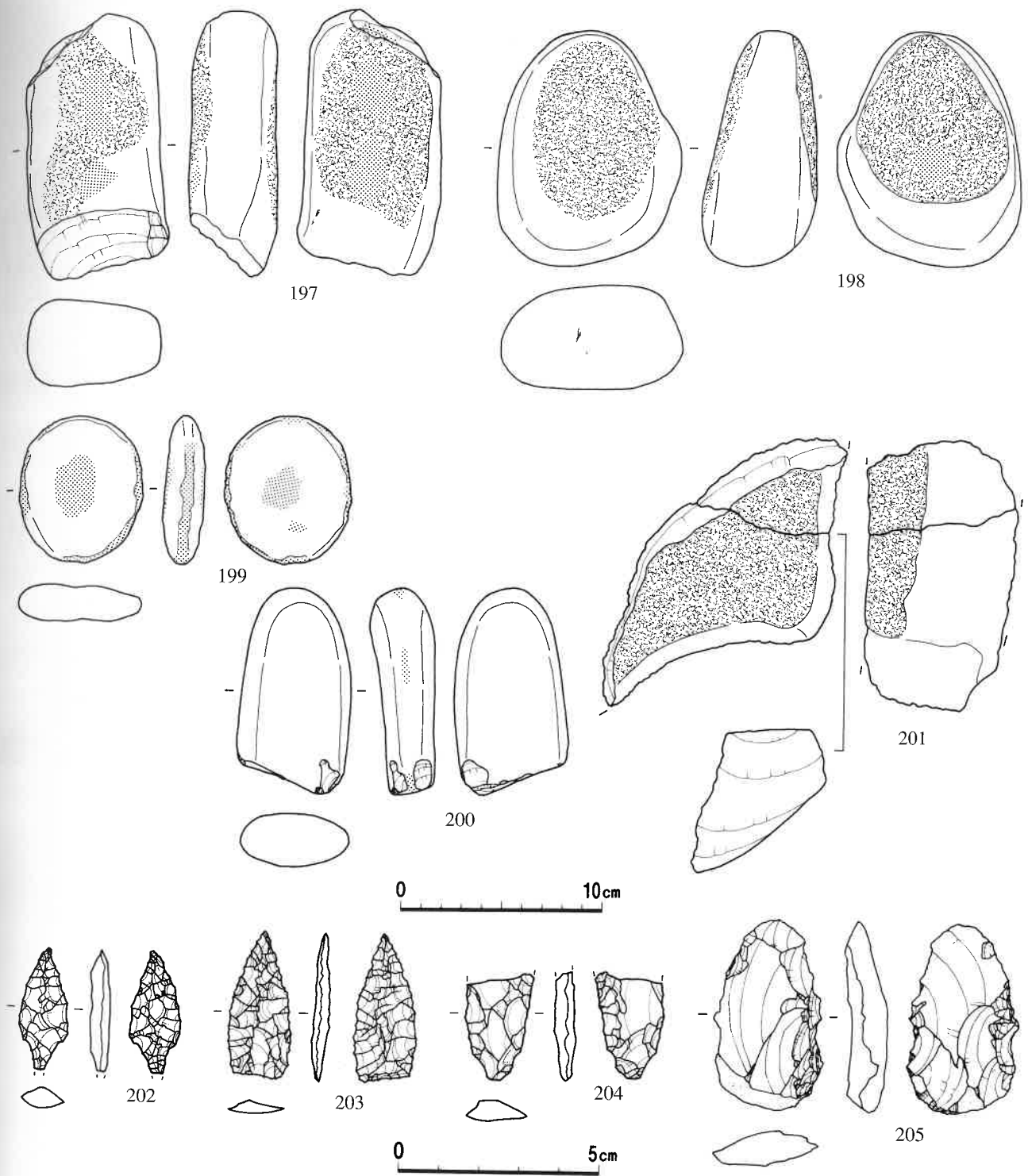
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
183	423住	床直	159	56	34	409.1	安	Ib	V Q-113、S-2	44044
184	〃	9b	45	(23)	9	(6.5)	珉頁	Ga	V R-114	40289
185	〃	〃	103	68	38	362.6	安	Ib	〃	49021
186	〃	〃	(242)	(183)	(38)	(1732.5)	〃	L	〃	44145
187	〃	〃	(150)	(202)	(27)	(800.7)	〃	〃	〃	44146

22図 第423号住居跡出土遺物 (20)



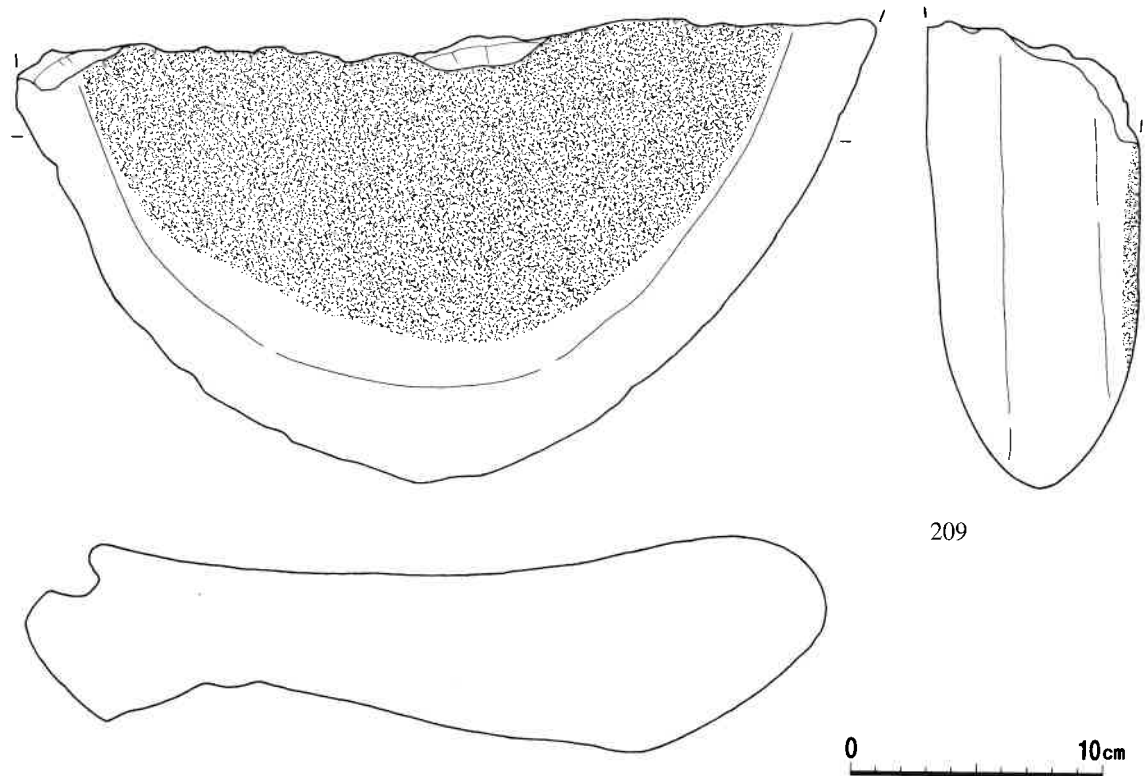
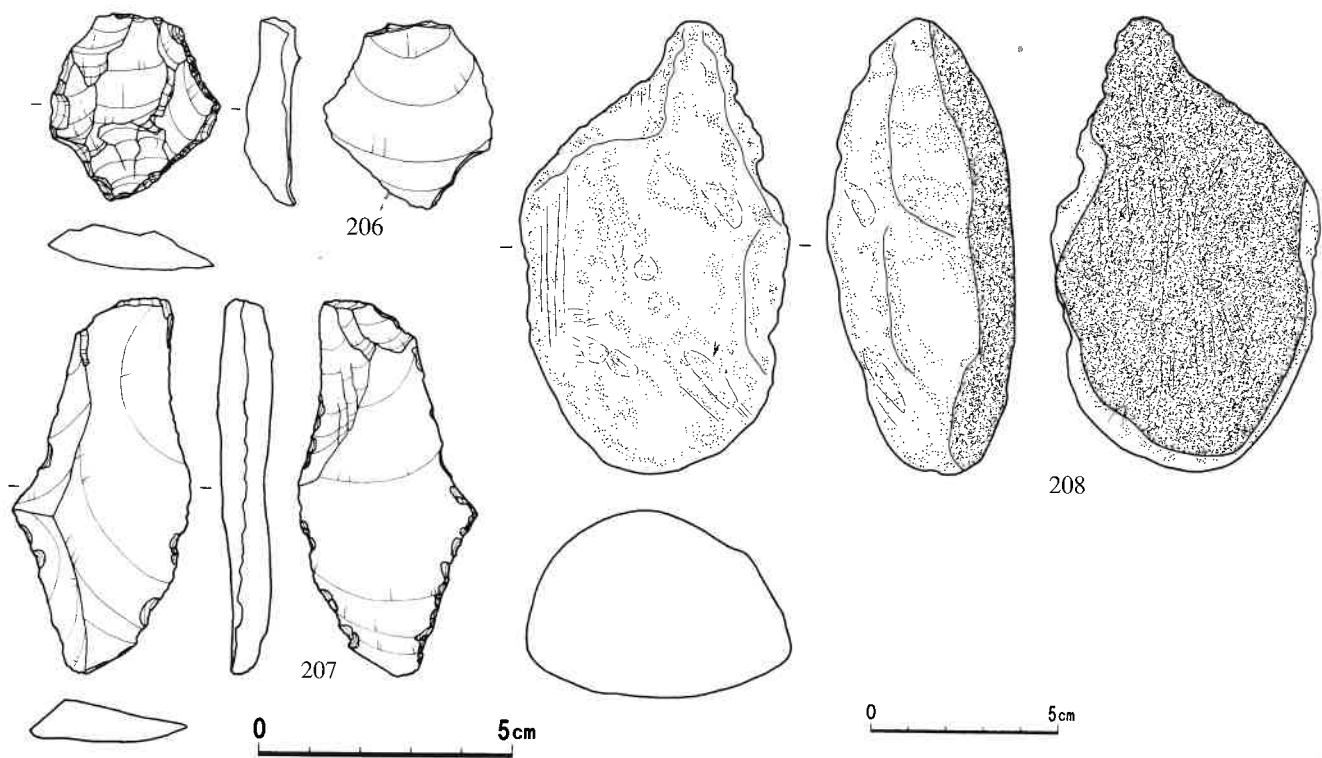
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
188	423住	9	35	13	5	2.0	珪頁	Ab	VR-114	52172
189	〃	〃	36	17	4	2.2	〃	Af	〃	53018
190	〃	〃	53	29	9	12.1	〃	Ba	〃	52174
191	〃	〃	26	14	8	2.1	〃	Db	〃	52173
192	〃	〃	92	32	19	56.4	〃	Ea	〃	52337
193	〃	〃	53	19	10	8.5	〃	Ga	〃	40287
194	〃	〃	(53)	28	13	(19.1)	〃	〃	〃	52308
195	〃	〃	(127)	77	(25)	(310.2)	凝	Ic	〃	44067
196	〃	〃	(73)	(55)	(29)	(117.8)	安	Ib	VR-115	49014

23図 第423号住居跡出土遺物 (21)



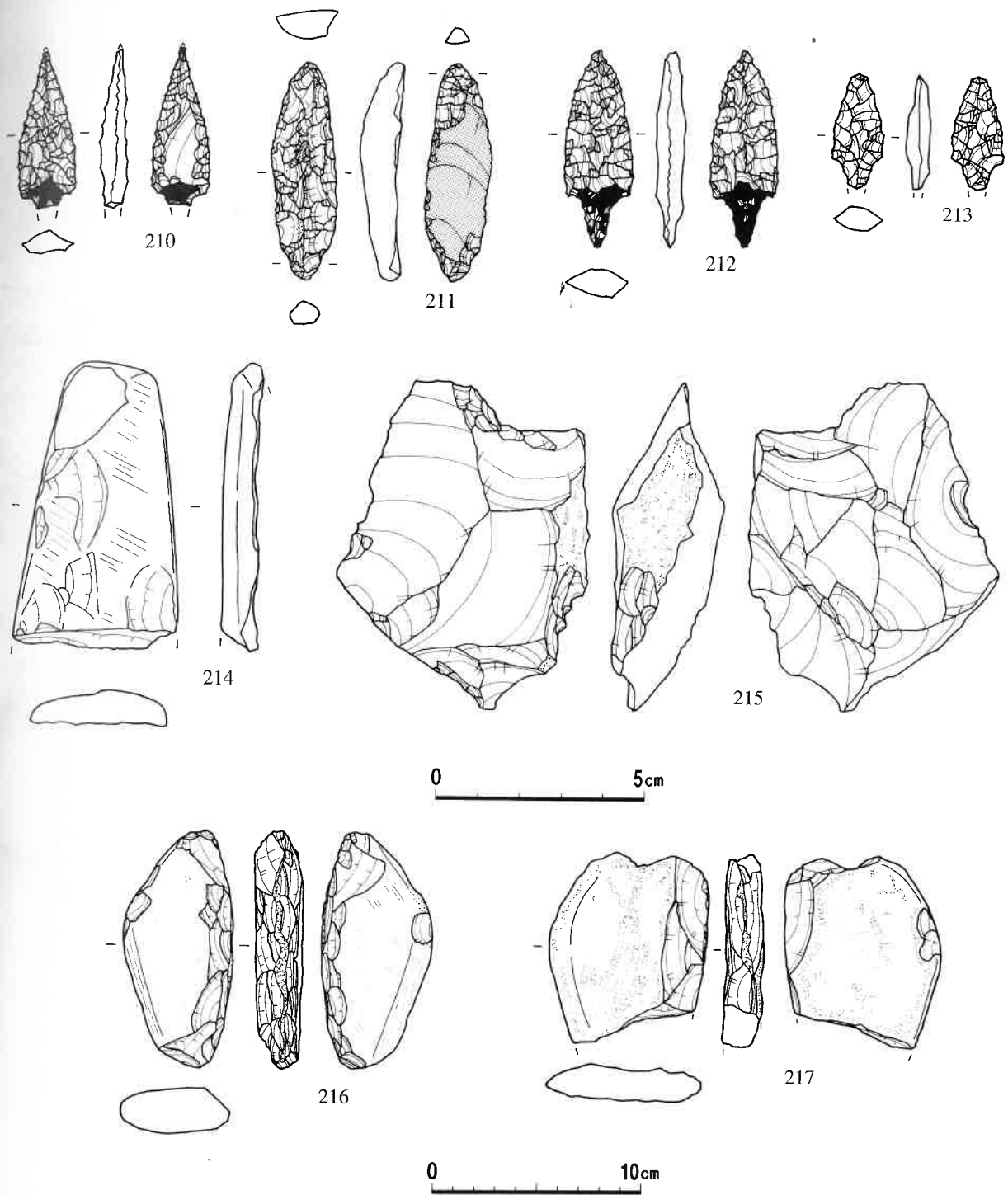
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
197	423住	9	132	71	44	621.4	安	Ic	VR-114	44066
198	〃	〃	117	92	58	843.2	〃	〃	〃	44072
199	〃	〃	73	63	21	100.4	〃	Ib	〃	44071
200	〃	〃	102	56	31	217.6	〃	〃	VR-114, 欠損面に使用痕	44074
201	〃	〃	(135)	(120)	(75)	(908.6)	〃	L	VR-114	44082
202	〃	8	(30)	12	5	(1.6)	珪頁	Ab	〃	52170
203	〃	〃	36	15	4	(2.0)	〃	Ad	〃	52336
204	〃	〃	(27)	(16)	(5)	(2.5)	〃	Ab	〃	52171
205	〃	〃	47	27	11	12.1	鉄	Gb	〃	40292

24図 第423号住居跡出土遺物 (22)



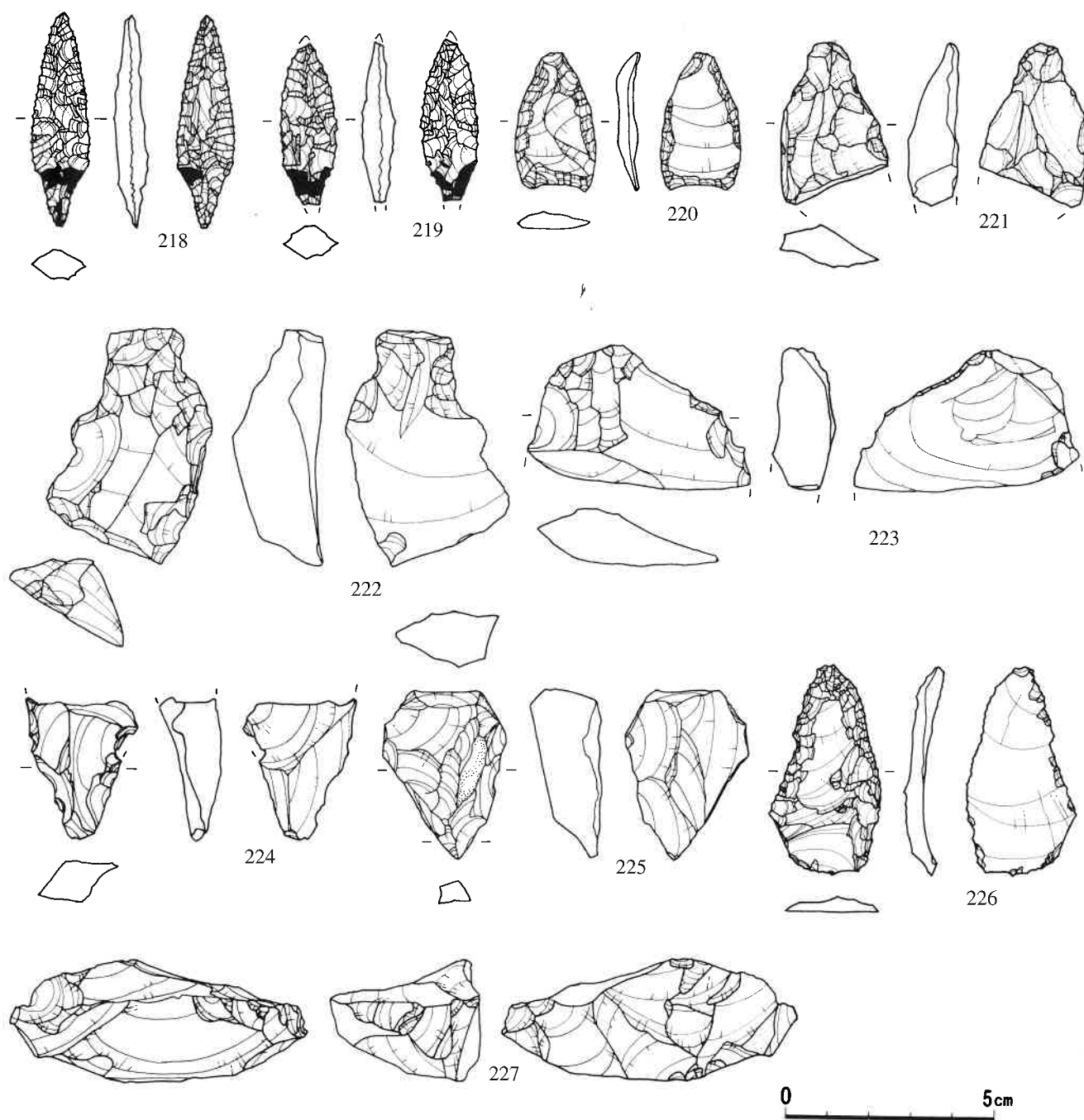
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
206	423住	8	37	33	10	9.8	珪頁	Ga	VR-114	40297
207	〃	〃	74	35	11	20.7	〃	Gc	〃	40316
208	〃	〃	119	70	49	123.3	軽	Tb	〃、砥石?	49028
209	〃	〃	(184)	(34)	(85)	(5139.0)	安	L	VR-114	49036

25図 第423号住居跡出土遺物 (23)



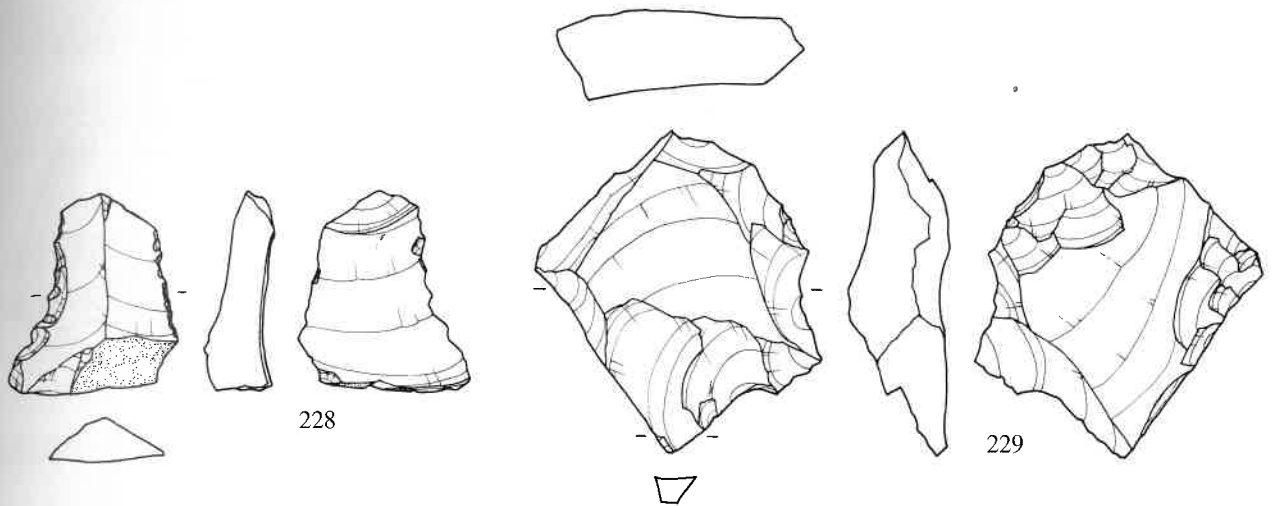
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
210	423住	7	(38)	13	6	(3.2)	珪頁	Aa	VR-114, アスファルト付着	52332
211	〃	5	52	16	10	6.9	〃	Da	VR-114, 石匙再加工?	51691
212	〃	3	46	16	7	4.9	〃	Aa	〃, アスファルト付着	52333
213	〃	〃	(27)	12	6	(1.6)	〃	Ab	V S - 114	52169
214	〃	〃	(69)	(40)	(9)	(33.2)	緑細凝	Ha	V R - 114	44105
215	〃	1	78	61	27	95.9	珪頁	Pa	〃	49010
216	〃	〃	112	52	23	183.5	安	Q	V R - 114・115	49015
217	〃	〃	(90)	75	(18)	(177.0)	〃	J	〃	49016

26図 第423号住居跡出土遺物 (24)

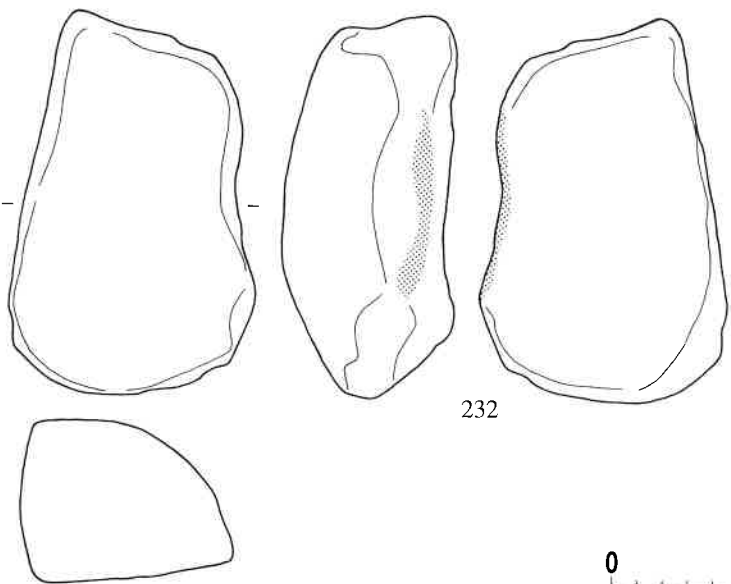
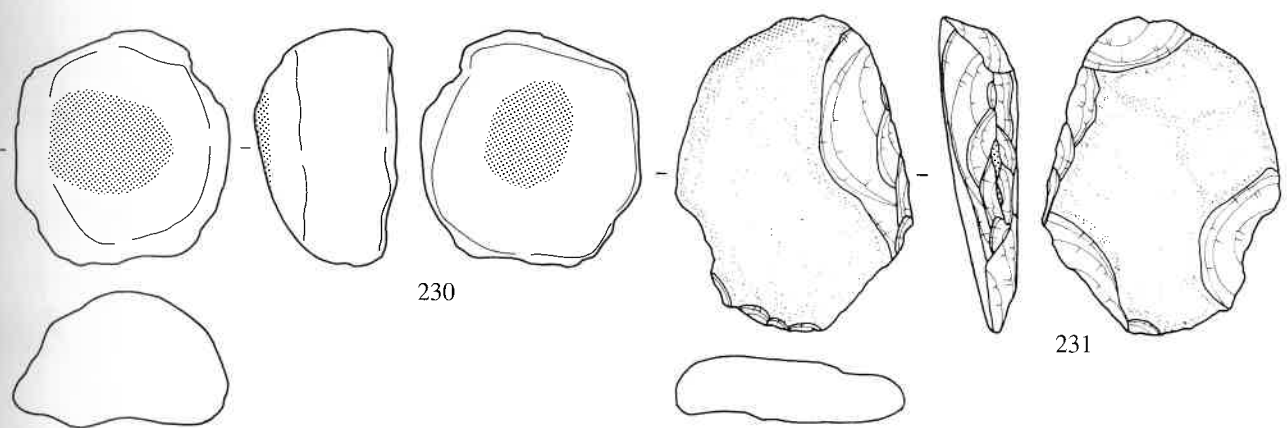


図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
218	423住	堆積土	50	14	9	4.6	珪頁	Ab	VS-115、アスファルト付着	52334
219	〃	〃	(38)	13	7	(3.5)	〃	〃	VR-114、アスファルト付着	52335
220	〃	〃	33	19	5	2.7	〃	Af	VS-114	40275
221	〃	〃	(39)	(25)	12	(8.9)	〃	Ca	VR-114	49009
222	〃	〃	56	39	22	33.5	〃	Cc	〃	40342
223	〃	〃	(34)	(54)	(15)	20.8	〃	Gb	〃	42830
224	〃	〃	(34)	(27)	(15)	(6.5)	〃	Ga	VR-114	42855
225	〃	〃	41	30	17	15.4	〃	Gb	石錐?、	41849
226	〃	〃	50	28	9	6.5	〃	Ga	VR-114	52315
227	〃	〃	29	71	36	58.8	〃	Pa	〃	42861

27図 第423号住居跡出土遺物 (25)



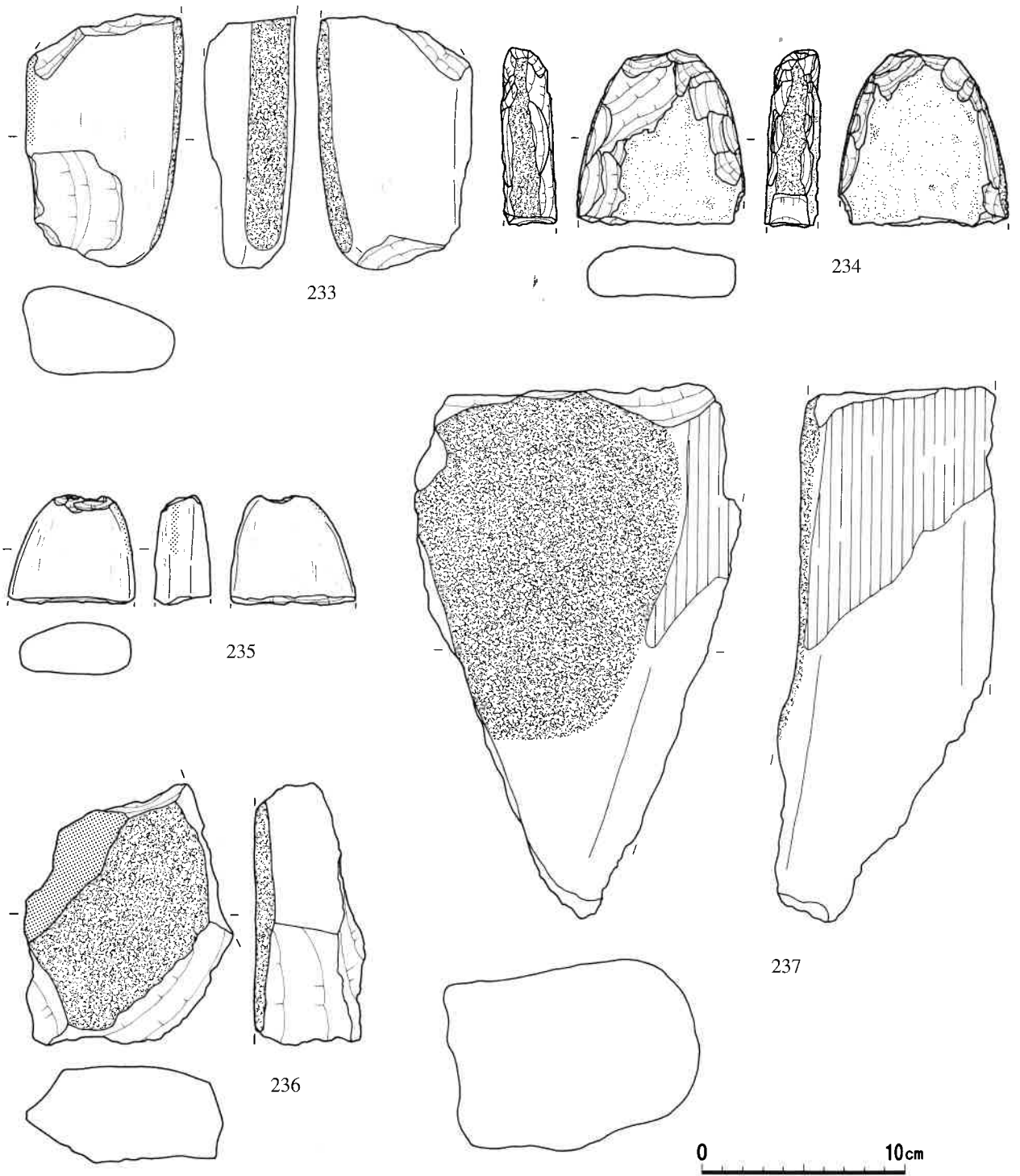
0 5cm



0 10cm

図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
228	423住	堆積土	40	34	14	11.9	珉頁	Ga	VS-114	40325
229	〃	〃	64	57	20	55.4	〃	Gb	VR-114、石核	49008
230	〃	〃	93	86	56	599.8	安	Ib	VQ-113	44041
231	〃	〃	125	94	31	317.5	〃	Q	VR-115	44154
232	〃	〃	151	99	69	1233.1	〃	Ib	VS-114	44049

28図 第423号住居跡出土遺物 (26)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
233	423住	堆積土	(123)	(76)	(45)	(575.0)	安	lc	VS-114		44060
234	〃	〃	(86)	(82)	(29)	(269.4)	〃	〃	VR-113、S-5		44045
235	〃	〃	(52)	(61)	(27)	(120.2)	凝	Q	VR-114、石錘?		44052
236	〃	〃	(128)	(102)	(54)	(727.6)	安	L	VR-114、C-1		44048
237	〃	〃	(265)	(160)	(105)	(4327.2)	〃	〃	〃		44047

29図 第423号住居跡出土遺物 (27)

第424号住居跡 (30図～32図)

〔位置と確認〕 VI E・F-120・121に位置する。第V層精査中に楕円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 長軸 3 m98cm、短軸 3 m20cmの隅丸長方形で、床面積は9.81m²である。長軸方向は北西-南東である。

〔壁・床面〕 壁はほぼ垂直に立ちあがる。壁高は東壁30cm、西壁17cm、南壁30cm、北壁20cmである。床面はほぼ平坦で堅緻である。中央の炉と見られる施設の周囲には貼り床が検出された。

〔柱穴〕 中軸線上の炉の両側で支柱穴となる2個のピットを確認した。深さはP₁…61cm、P₂…60cmである。

〔炉〕 床面の中央で地床炉と見られる施設を検出した。掘り方の規模は55cm×52cm、深さ5cmである。堆積土中には多量の炭化物が含まれる。

〔堆積土〕 4層に分層した。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物を含む。第1・2層中にはローム粒が多量に含まれるため、人為的な堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕 床面から石匙、敲磨器類などが、床面直上から第II群3類土器が、堆積土から第II群2・3類土器、スクレイパー類、敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 床面直上出土遺物から、縄文時代前期中葉(円筒下層b式期)と考えられる。

(小笠原 雅行)

第425号住居跡 (33図)

〔位置と確認〕 VI D-120に位置する。第403号住居跡の貼り床除去後、炉跡を確認した。

〔重複〕 第403号住居跡と重複し、本住居跡が古い。南側は風倒木により攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 遺構の重複、攪乱により平面形は不明である。

〔壁・床面〕 炉の周囲に堅い部分もあったが、床の範囲は不明である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 土器片敷炉を検出した。掘り方の規模は45cm×36cm、深さ8cmである。堆積土中には焼土・炭化物が含まれる。

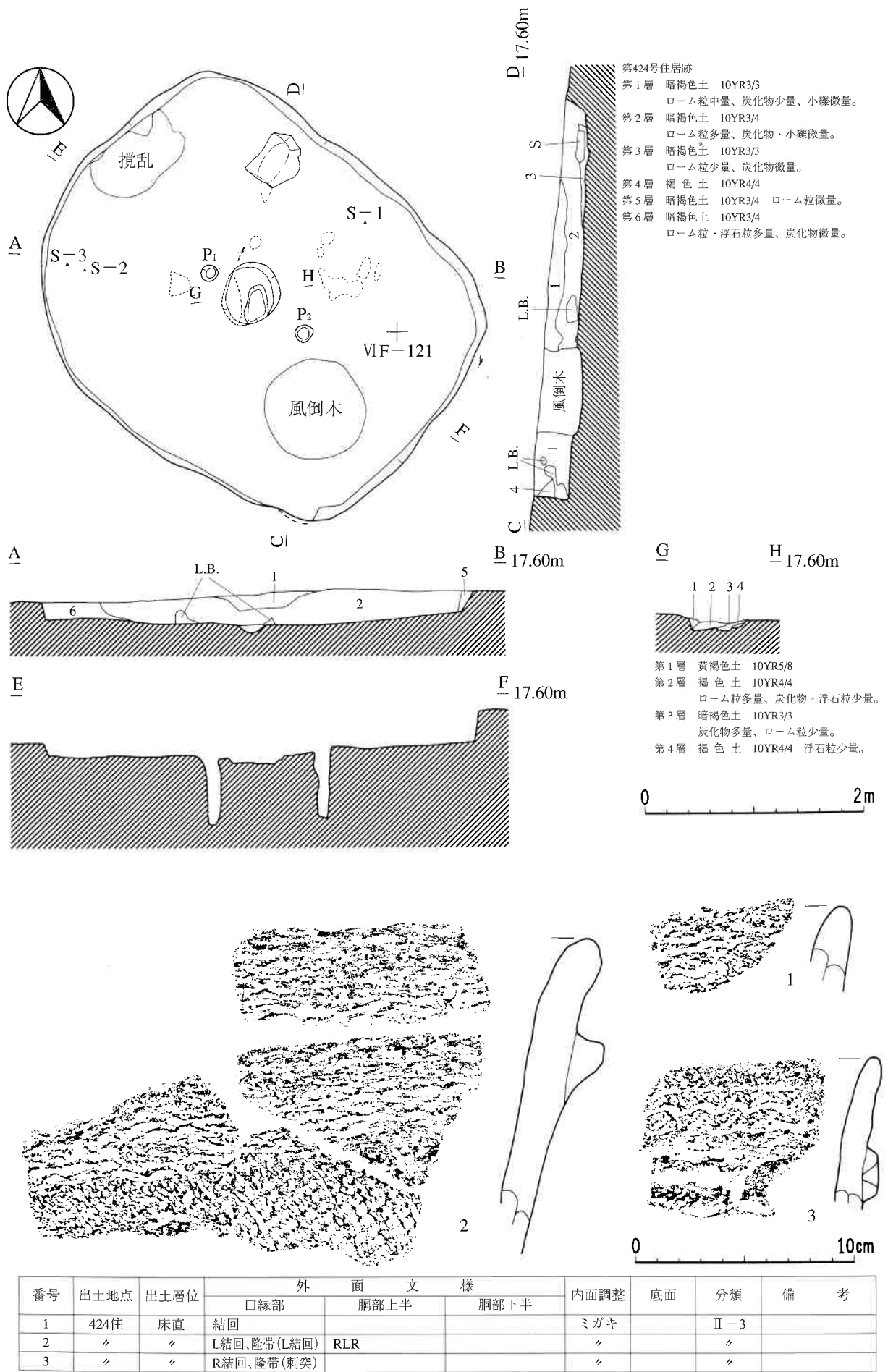
〔その他の施設〕 炉の北東側に溝状の落ち込みがあった。住居との関連は不明である。

〔堆積土〕 不明である。

〔出土遺物〕 炉に使用された土器は図示できなかった。

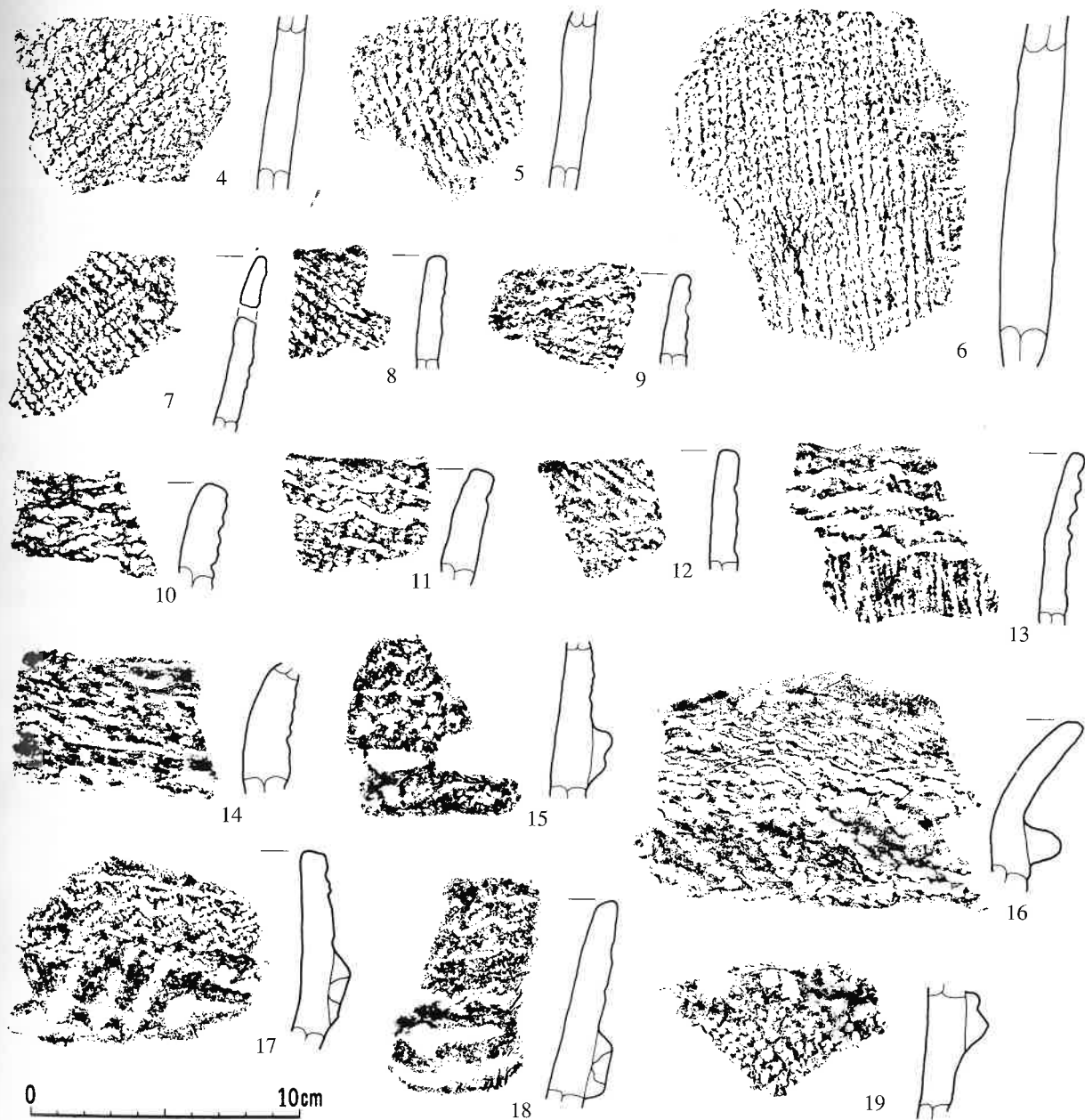
〔時期〕 重複関係から縄文時代中期前半より古いものと考えられる。

(小笠原 雅行)



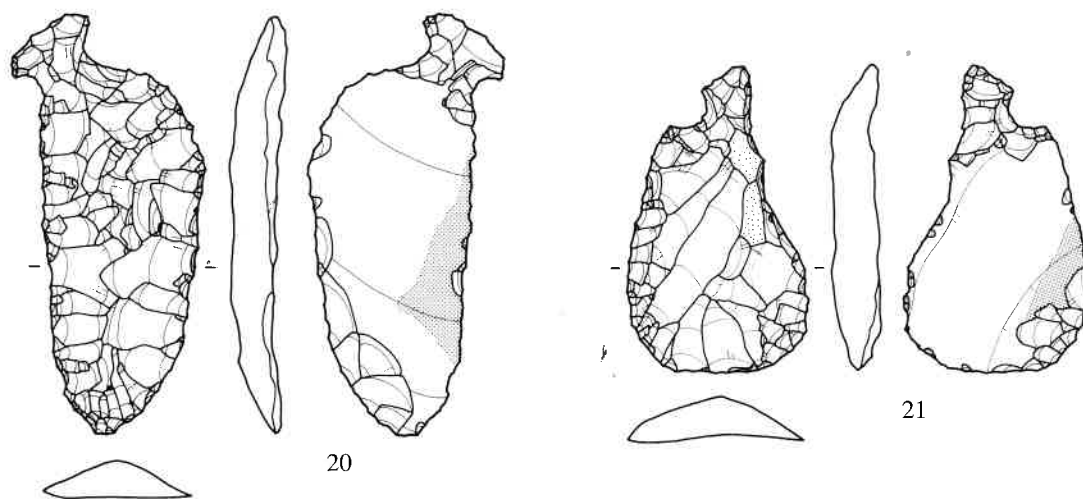
30図 第424号住居跡・出土遺物 (1)

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	424住	床直	結回			ミガキ		II-3	
2	〃	〃	L結回、隆帯(L結回)	RLR		〃		〃	
3	〃	〃	R結回、隆帯(刺突)			〃		〃	

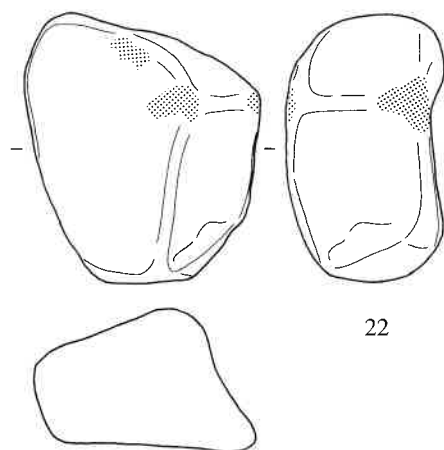


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
4	424住	床直		RLR		ミガキ		Ⅱ-6	
5	〃	〃		LR単絡1		〃		〃	
6	〃	〃		〃		〃		〃	
7	〃	堆積土	RLR			〃		Ⅱ-2	補修孔
8	〃	〃	〃			〃		〃	
9	〃	〃	R結回			〃		〃	
10	〃	〃	〃			〃		〃	
11	〃	〃	RLR、R結回			〃		〃	
12	〃	〃	〃			〃		〃	
13	〃	〃	RRL、LR結回			〃		Ⅱ-3	
14	〃	〃	RL結回			〃		〃	
15	〃	〃	R結回	隆帯(凹状)		〃		〃	
16	〃	〃	RL結回	〃(RLR押)		〃		〃	
17	〃	〃	LR・R結回	〃(RLR押、刺突)		〃		〃	
18	〃	〃	R結回	〃(刺突、凹線)		〃		〃	
19	〃	〃	〃	〃(刺突)、RLR		〃		〃	

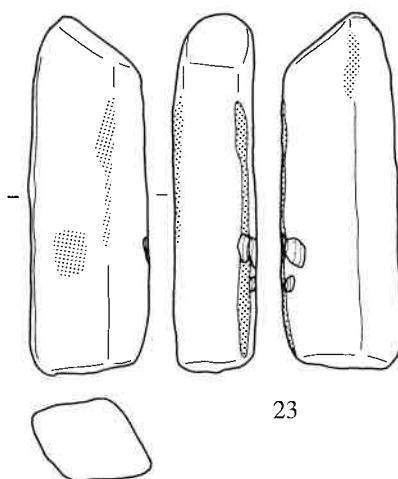
31図 第424号住居跡出土遺物(2)



0 5cm

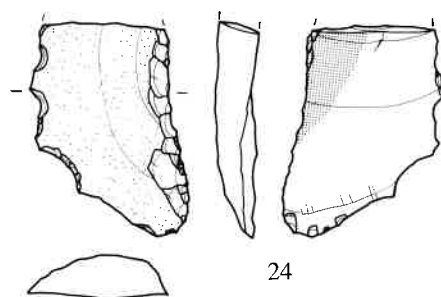


22



23

0 10cm

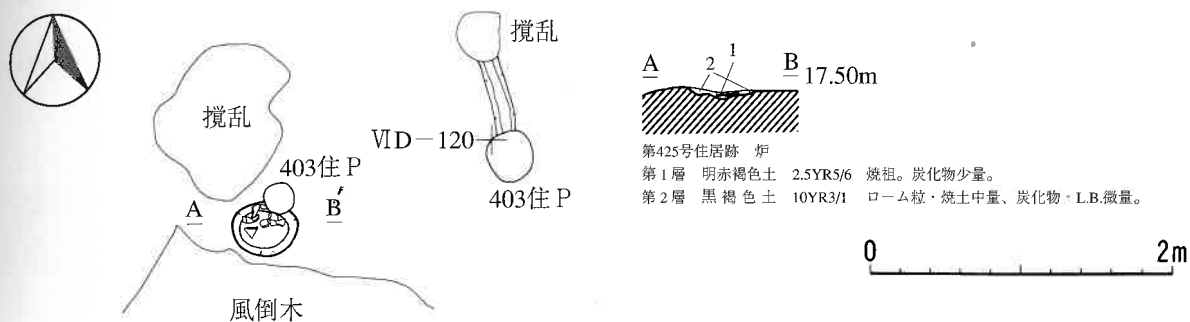


24

0 5cm

図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
20	424住	床面	83	38	11	23.5	珪頁	Cc	S-4		52177
21	〃	〃	61	36	9	16.9	〃	Ca	S-3		52176
22	〃	〃	106	93	62	754.2	安	lb	S-1		46337
23	〃	堆積土	141	47	32	345.5	〃	〃			42681
24	〃	〃	(42)	(32)	(8)	(10.3)	珪頁	Ga			52175

32図 第424号住居跡出土遺物 (3)



33図 第425号住居跡

第426号住居跡 (34図・35図～42図)

〔位置と確認〕 VQ～T-114・115、VR～T-116に位置し、第V層で確認した。堆積土の3層まで精査を行った段階で保存のため、調査を終了した。

〔重複〕 第422・423・427・428・486号住居跡、第130・133号溝跡と重複する。第428・486号住居跡より新しく、第422・423・427号住居跡、第130・133号溝跡より古い。

〔平面形・規模〕 平面形は長楕円形である。長軸14m30cm、短軸7m80cm、確認面での面積は94.5㎡で、大型住居と考えられる。

〔出土遺物〕 第2層から石匙、石錐、スクレイパー類、U.フレイク、磨製石斧などが、その他の堆積土から石鏃、石匙、敲磨器類などが、確認面から第Ⅲ群4・5類を主体とした土器、スクレイパー類、R.フレイク、敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 重複関係から縄文時代前期中葉と考えられる。

(秦 光次郎)

第427号住居跡 (43図)

〔位置と確認〕 VT-114に位置する。第V層で床面を確認した。

〔重複〕 第422・426号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。床面が一部で第426号住居跡の堆積土中につくられていたため、新旧関係が把握できた。

〔平面形・規模〕 先行トレンチによって半分以上欠失しており、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 壁は土層観察用ベルトの部分でのみ確認された。貼り床は炉を中心に施され、硬く踏み締まっていた。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 床面中央で周堤炉が確認された。周堤は高さ約3cmで、第VI層を貼り付けたものである。焼土の形成がみられるが、顕著ではない。

〔堆積土〕 暗褐色土主体の堆積である。

〔出土遺物〕 堆積土からは第Ⅱ群2類、第Ⅲ群4・8類土器、石錐などが出土した。床面からコハク玉が出土したが、図示できなかった。

〔時期〕 堆積土出土遺物から、縄文時代中期中葉から後葉に近い時期と考えられる。

(秦 光次郎)

第428号住居跡 (34図・44図)

〔位置と確認〕 VT・VA-115・116に位置する。第V層上で、暗褐色土の落ち込みを確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

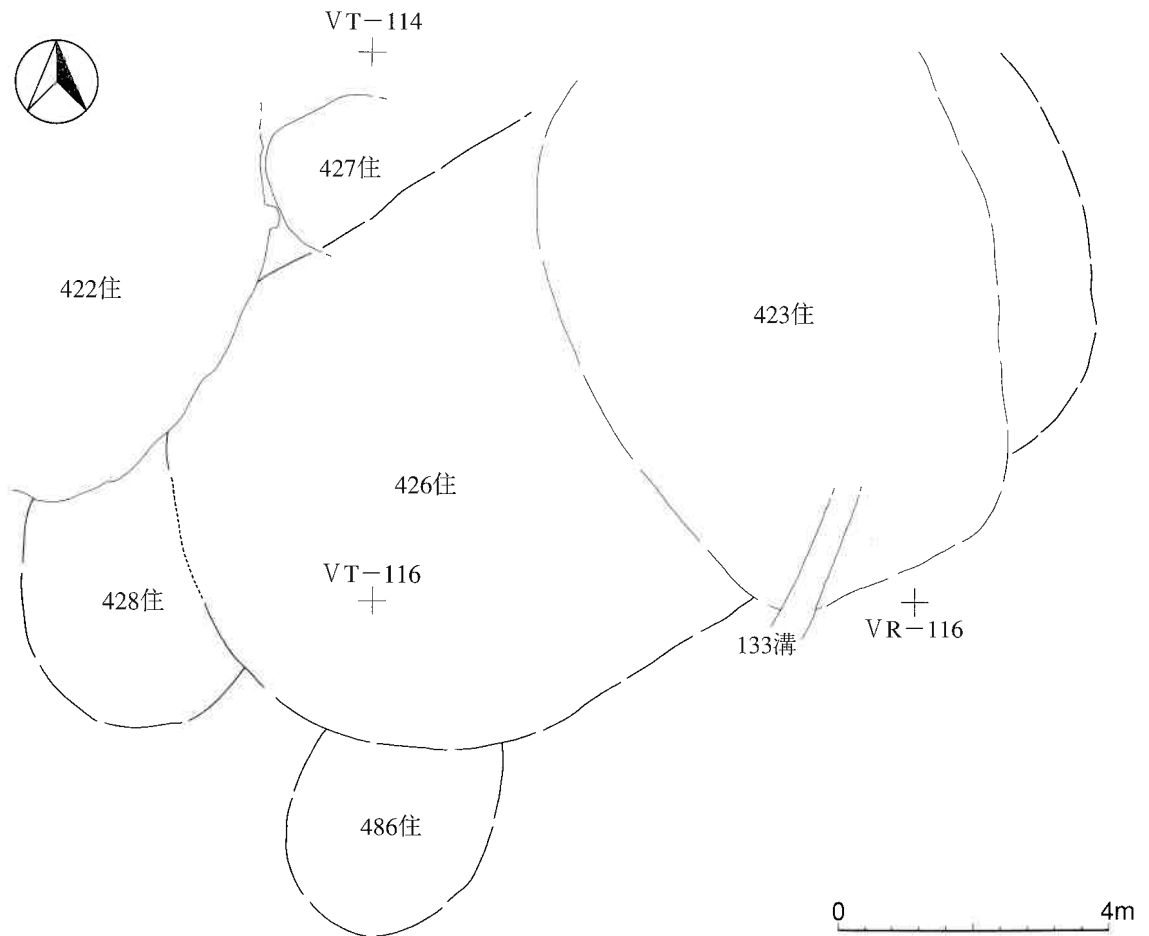
〔重複〕 第422号・426号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形と思われる。

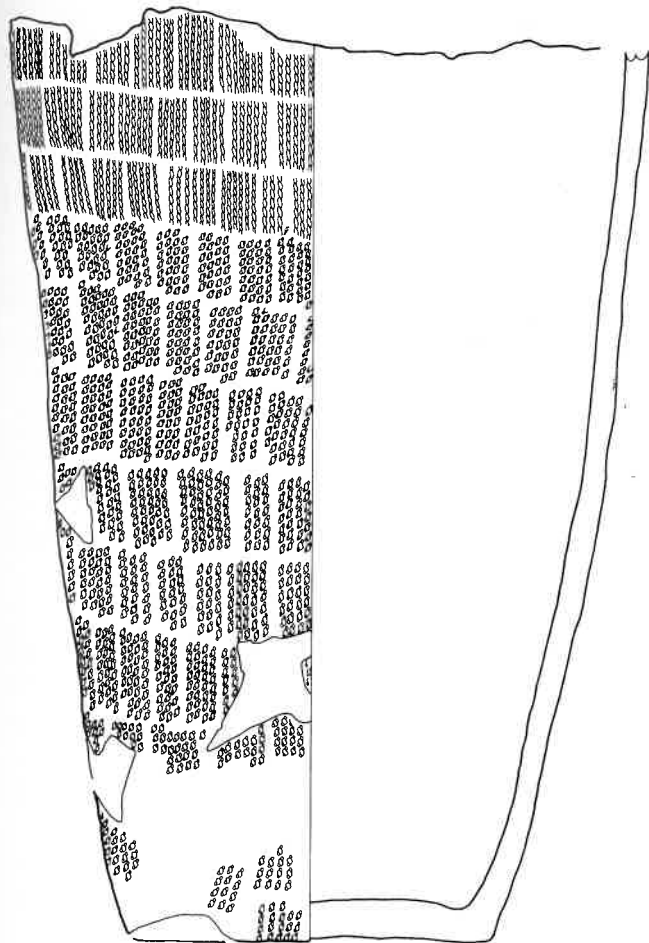
〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群3類土器が出土した。

〔時期〕 遺構の重複関係から縄文時代前期と考えられるが、精査を行っていないため、詳細は不明である。

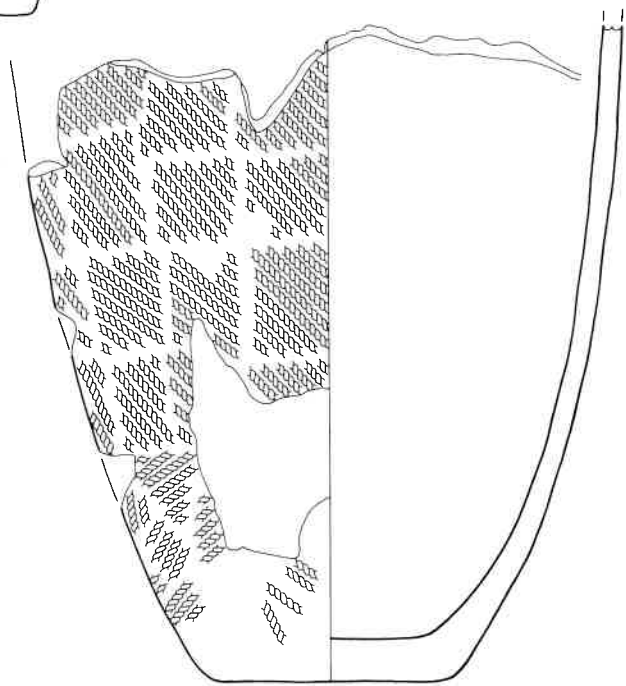
(秦 光次郎)



34図 第426・428号・486号住居跡



1



2

0 10cm

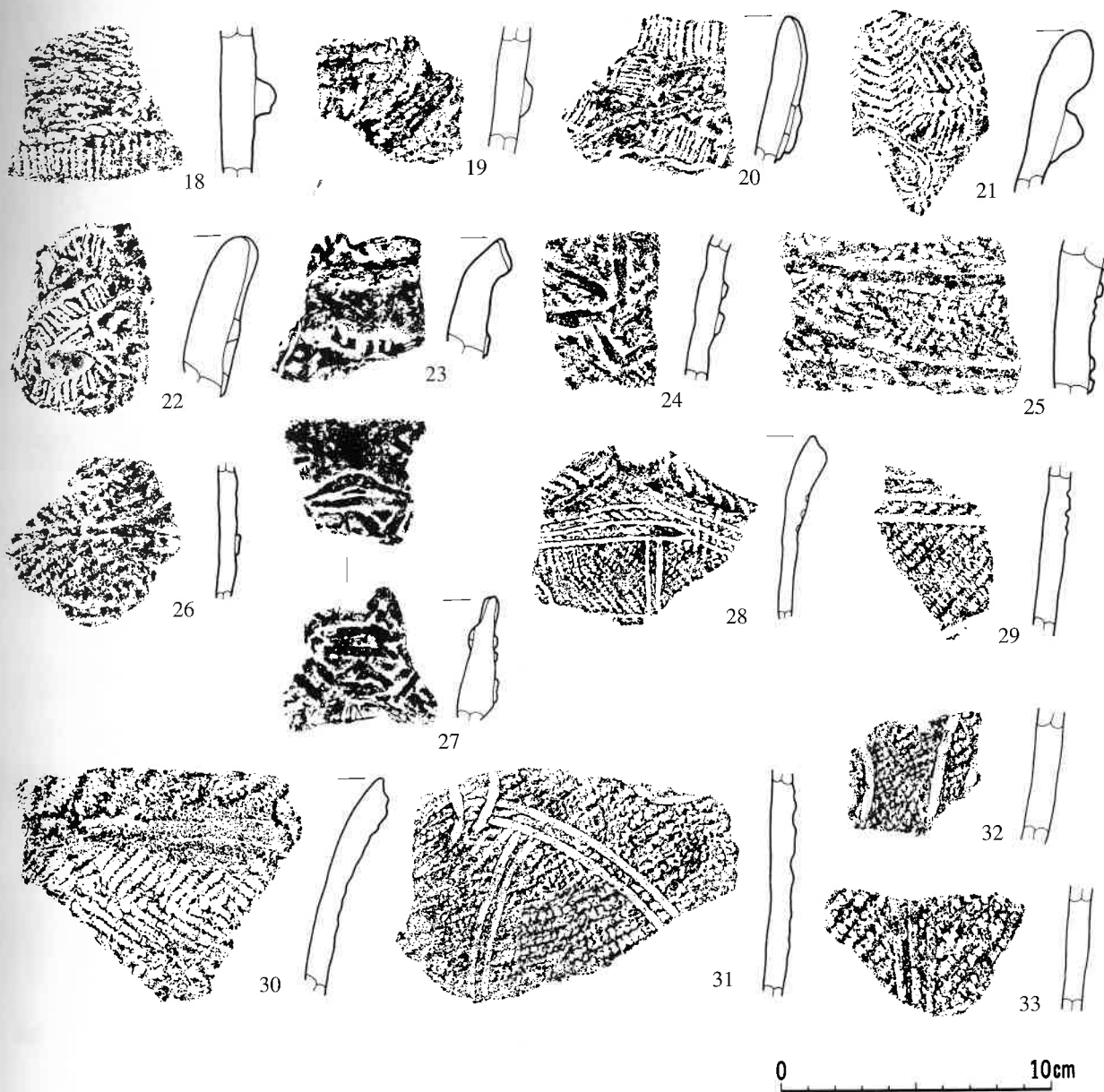
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	426住	1・2		R単絡1	LR単絡1	ミガキ	無文	II-6	
2	〃	堆積土			RL	〃	〃	III-6	

35図 第426号住居跡出土遺物 (1)



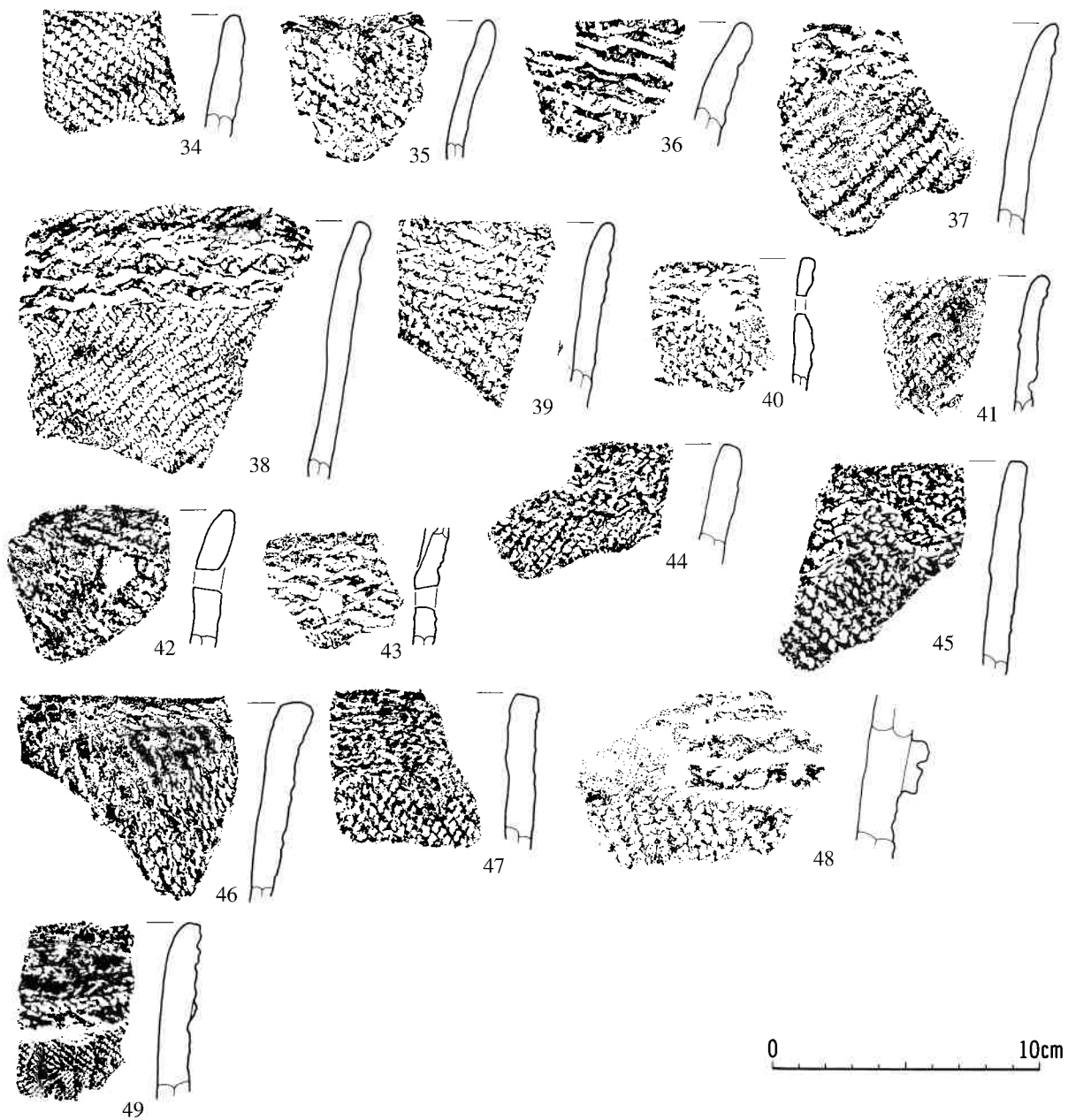
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
3	426住	3	RLR、RLR押			ミガキ	II-2	補修孔	
4	〃	〃	LR、R結回			〃	〃		
5	〃	〃	隆帯 (LR押)	RLR?		〃	〃		
6	〃	〃	R?押、RL、貼付			〃	III-4		
7	〃	〃	貼付			〃	〃	内面に盲孔	
8	〃	〃	〃、L押、沈線			〃	III-5	内面にも貼付	
9	〃	〃		RL、沈線		〃	〃		
10	〃	〃		〃		〃	III-6		
11	〃	〃	LR押			〃	〃		
12	〃	〃	LR?			〃	II-2		
13	〃	2	R結回			〃	〃		
14	〃	〃	LR、R結回			〃	〃		
15	〃	〃	〃、〃			〃	〃		
16	〃	〃	〃、〃			〃	〃		
17	〃	〃	隆帯 (凹形刺突)			〃	〃		

36図 第426号住居跡出土遺物 (2)



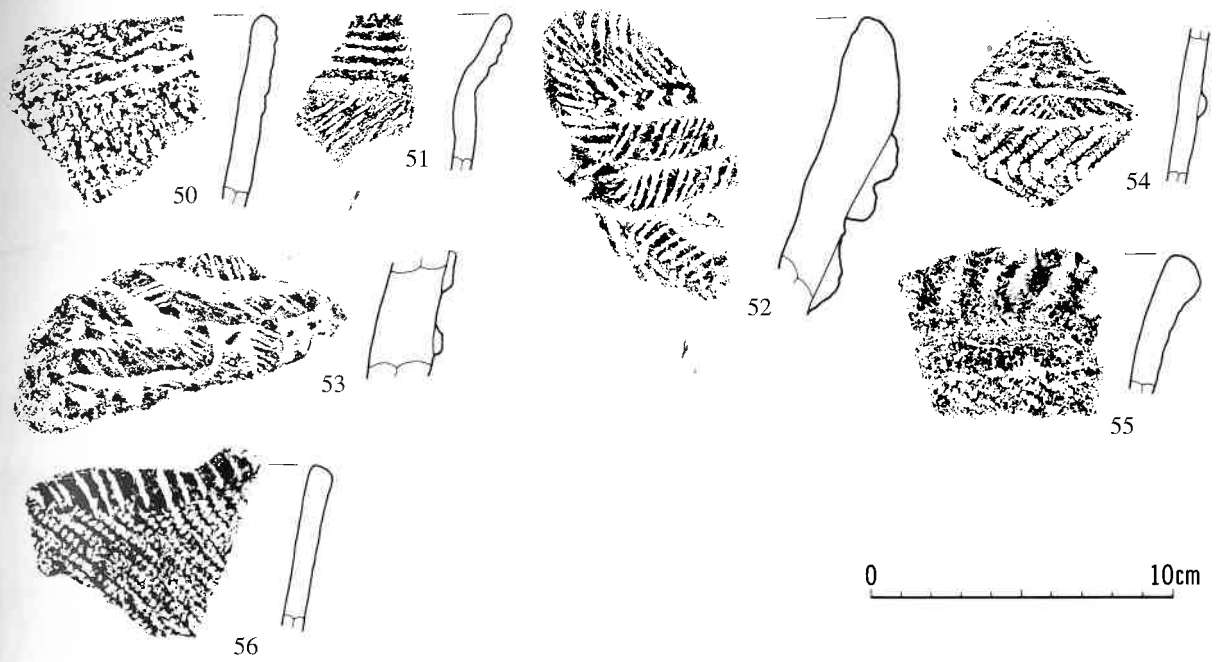
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
18	426住	2	R単絡1、LR押	隆帯、LR押、単絡1		ミガキ	II-3		
19	〃	〃	貼付 (L押)、R押			〃	II-5-2		
20	〃	〃	〃 (R単絡1)、〃			〃	III-2		
21	〃	〃	〃 (R押)、〃			〃	〃		
22	〃	〃	〃 (L単絡1)、L押			〃	〃		
23	〃	〃	貼付 (刻み)			〃	III-4		
24	〃	〃		結束第一種、貼付		〃	〃		
25	〃	〃		〃		〃	〃		
26	〃	〃		〃		〃	〃		
27	〃	〃	貼付、沈線			〃	III-5	内面にも貼付	
28	〃	〃	刻み、RL、沈線			〃	〃		
29	〃	〃		LR、沈線		〃	〃		
30	〃	〃	単絡1押	結束第一種		〃	III-6		
31	〃	〃		LR、沈線		〃	III-8		
32	〃	〃		〃		〃	〃		
33	〃	〃		〃		〃	〃		

37図 第426号住居跡出土遺物 (3)



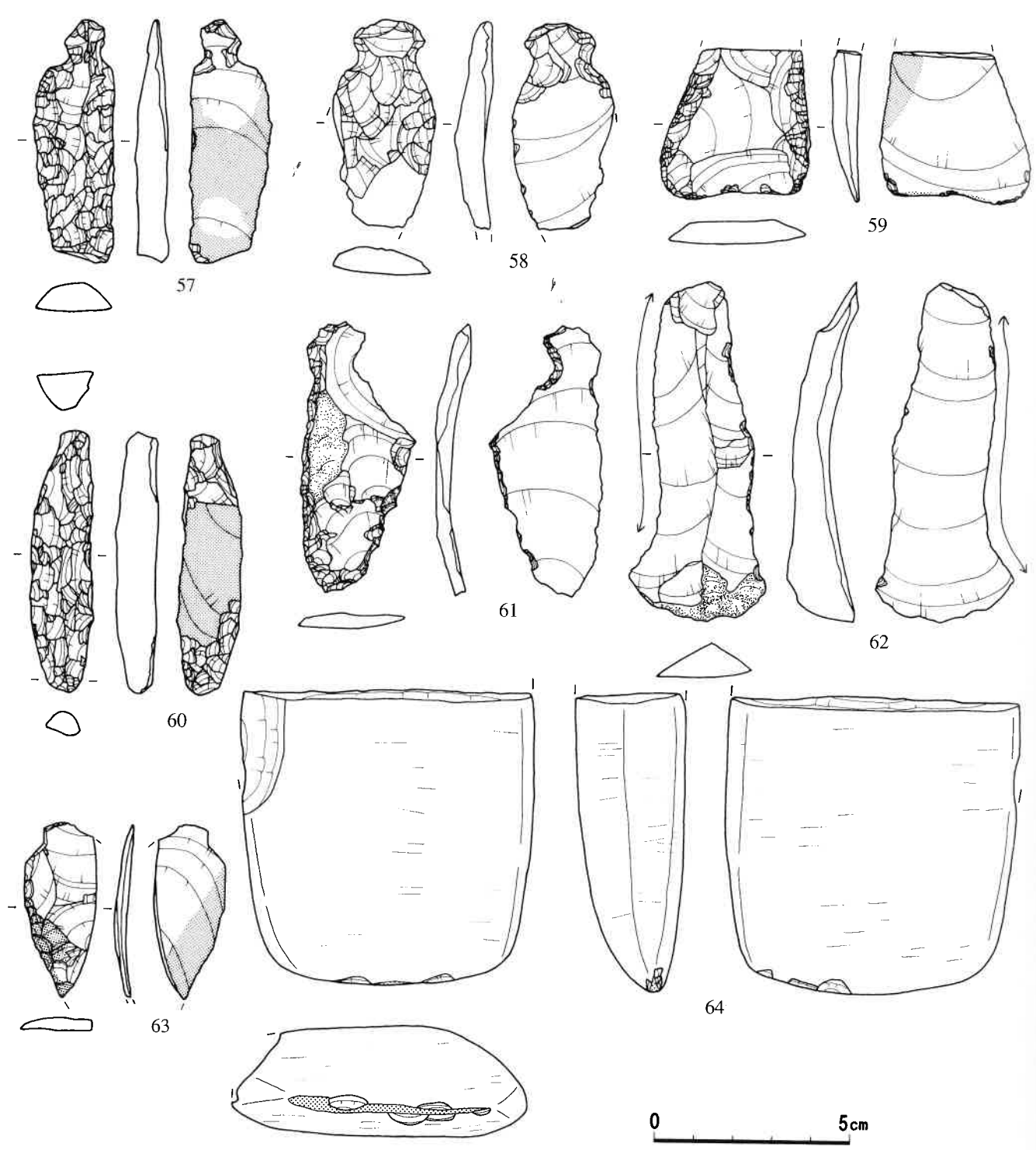
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
34	426住	2・3	RLR			ミガキ		II-2	
35	〃	〃	〃			〃		〃	
36	〃	〃	R結回			〃		〃	
37	〃	〃	LR、R結回			〃		〃	
38	〃	〃	〃、LR結回			〃		〃	
39	〃	〃	RLR、R結回			〃		〃	
40	〃	〃	〃、LR結回			〃		〃	補修孔
41	〃	確認面	LR			〃		〃	
42	〃	〃	RLR			〃		〃	補修孔
43	〃	〃	R結回			〃		〃	〃
44	〃	〃	LR、R結回			〃		〃	
45	〃	〃	RLR、〃			〃		〃	
46	〃	〃	R結回	L単絡1		〃		〃	
47	〃	〃	R単絡1	RLR		〃		〃	
48	〃	〃	隆帯(原体末端刺突)	〃		〃		II-3	
49	〃	〃	LR押、微隆帯(刺突)	結束第一種		〃		II-5-1	

38図 第426号住居跡出土遺物(4)



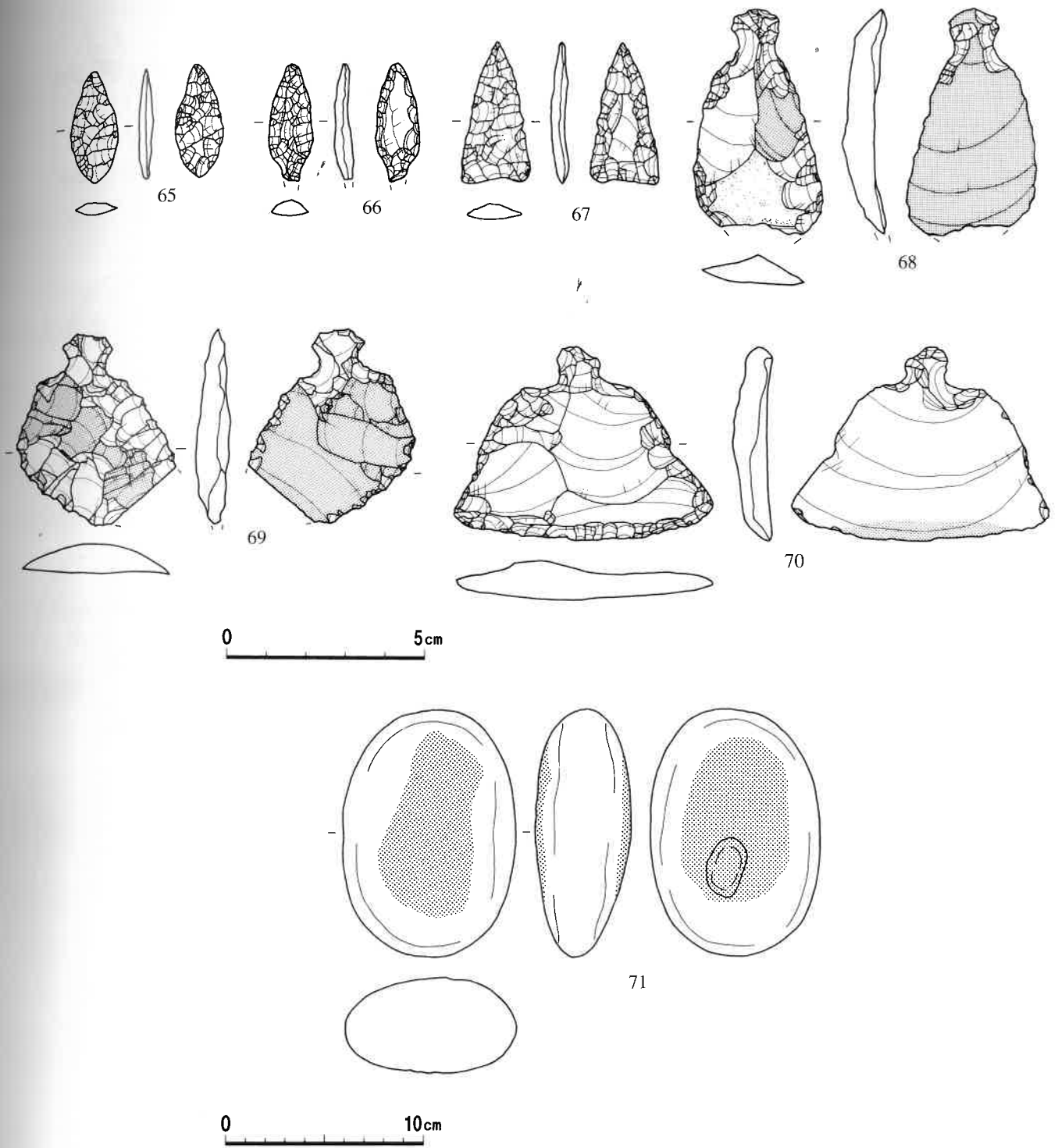
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
50	426住	確認面	RLR、R結回			ミガキ		Ⅱ-2	
51	〃	〃	L押			〃		Ⅱ-5-2	
52	〃	〃	貼付(L単絡1)、RL押			〃		Ⅲ-2	
53	〃	〃	〃、刺突			〃		Ⅲ-3	
54	〃	〃		結束第一種		〃		Ⅲ-4	
55	〃	〃	単絡1押、RL			〃		Ⅲ-6	
56	〃	〃	L押、RL			〃		〃	

39図 第426号住居跡出土遺物 (5)



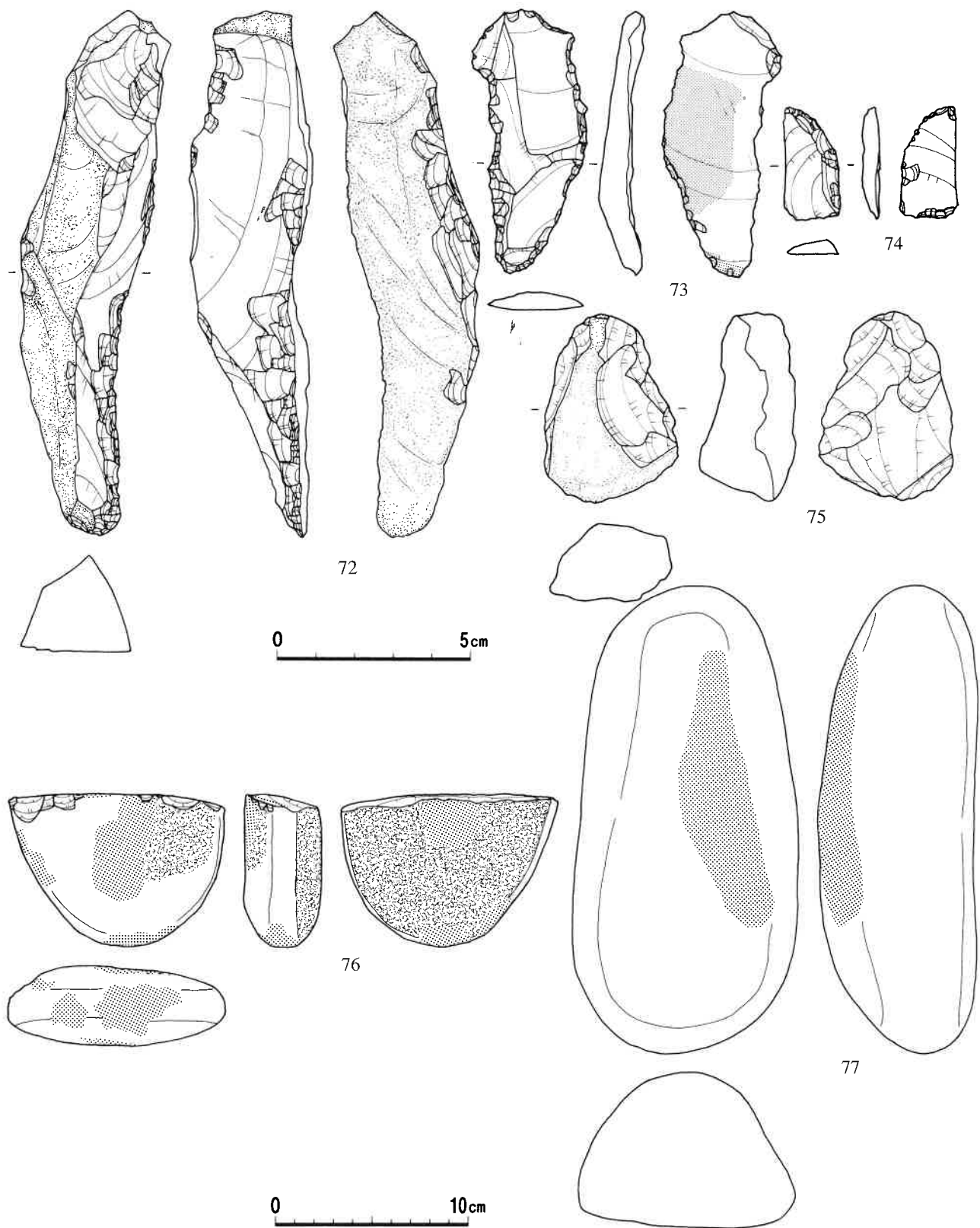
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
57	426住	2	62	21	8	9.2	珪頁	Ca		52187
58	〃	〃	(53)	(26)	(9)	(10.0)	〃	〃	焼付	52185
59	〃	〃	(38)	38	(7)	(11.1)	〃	Ga	石匙破片?	52186
60	〃	〃	67	16	11	13.5	〃	Da	石匙再加工?、尖端摩耗	52188
61	〃	〃	69	29	8	8.1	〃	Ca		52468
62	〃	〃	87	36	17	27.0	〃	Gc		40231
63	〃	〃	(44)	(18)	(4)	(2.8)	〃	Ga		40226
64	〃	〃	(71)	(75)	(28)	(261.7)	安	Ha		44171

40図 第426号住居跡出土遺物 (6)



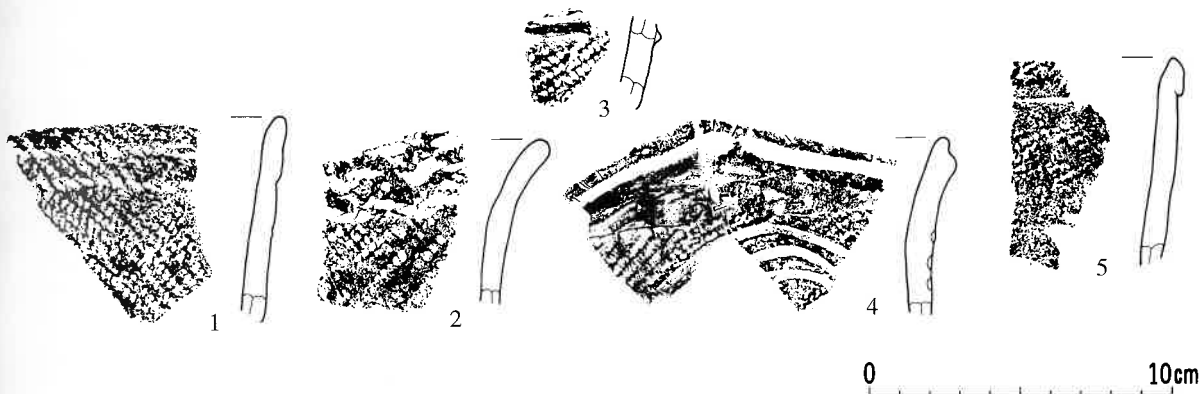
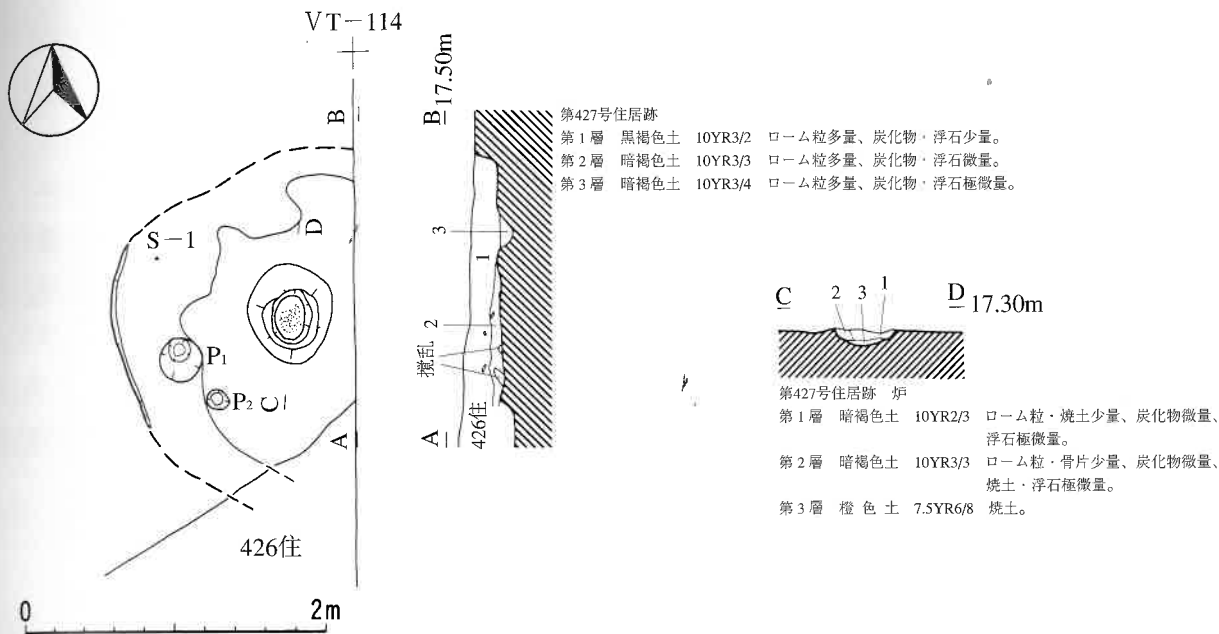
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
65	426住	堆積土	28	12	3	1.0	珪頁	Ac			52182
66	〃	〃	(29)	11	5	(1.4)	〃	Ab			52180
67	〃	〃	36	18	5	2.1	〃	Af			52181
68	〃	〃	(57)	33	11	(13.6)	〃	Ca			52183
69	〃	〃	(49)	41	8	(13.0)	〃	Cc			52178
70	〃	〃	49	65	10	20.7	〃	Cb			52184
71	〃	〃	125	87	48	638.4	安	Ib			44179

41図 第426号住居跡出土遺物 (7)

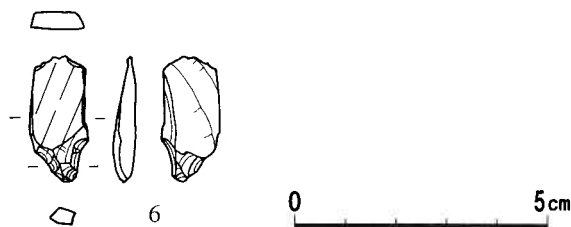


図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
72	426住	確認面	136	38	32	113.4	珪頁	Ga		40357
73	〃	〃	68	30	11	11.4	〃	〃	石匙?	52179
74	〃	〃	29	20	4	1.9	〃	Gb		42875
75	〃	〃	49	35	25	36.4	安	〃		44178
76	〃	〃	79	112	40	361.1	凝	Ib	欠損面に使用痕	44174
77	〃	〃	245	117	83	3365.4	安	〃	台石?	44173

42図 第426号住居跡出土遺物 (8)

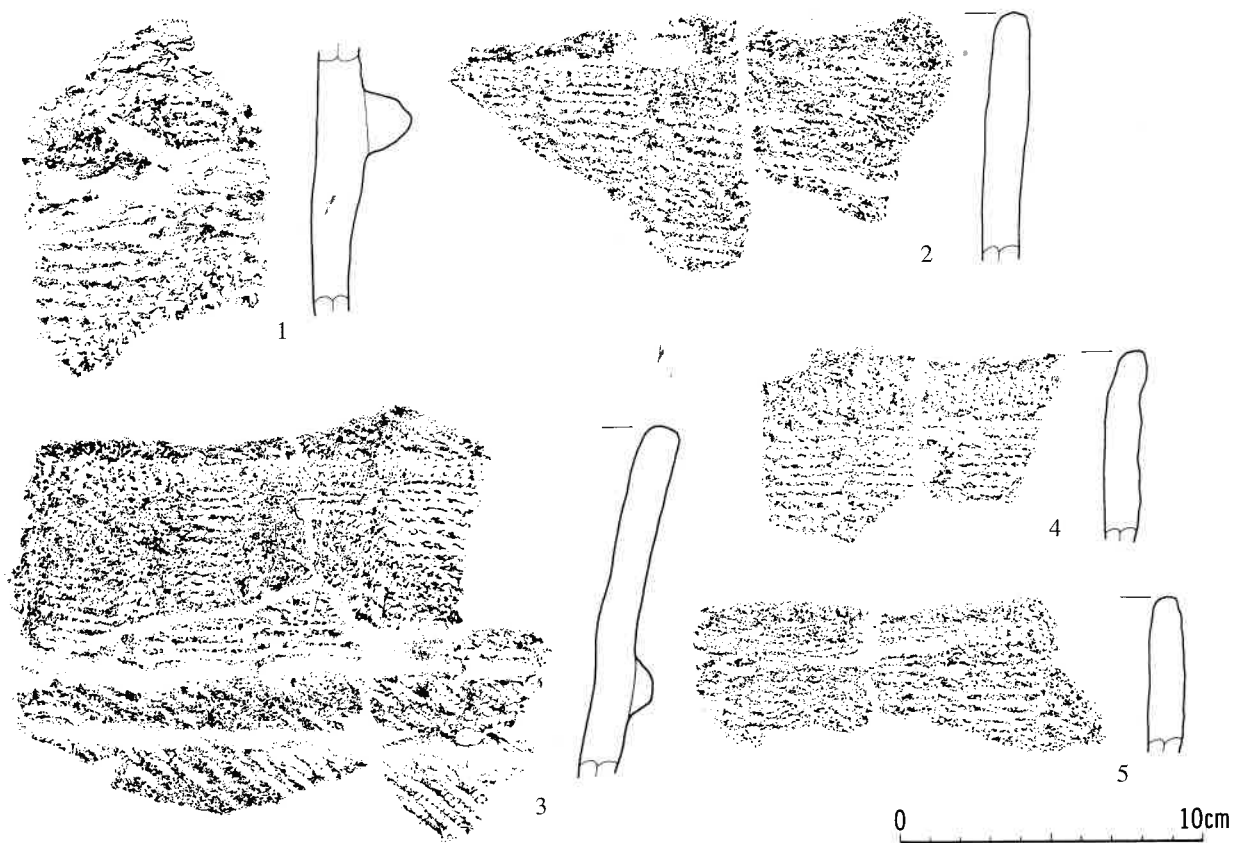


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	427住	堆積土	RLR、LR押			ミガキ		II-2	
2	〃	〃	LR、R結回			〃		〃	
3	〃	〃		LR、貼付		〃		III-4	
4	〃	〃	凹状沈線、LR、沈線			〃		III-8	
5	〃	〃	折返口縁、縄文			〃		III-11	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
6	427住	堆積土	25	11	4	1.4	珪頁	Db		42885

43図 第427号住居跡・出土遺物



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	428住	確認面	R結回	隆帯(RLR押)、RLR		ミガキ	II-3		
2	〃	〃	R単絡6A			〃	〃		
3	〃	〃	〃、R単絡6A押	隆帯(RL)、RL		〃	〃	3~5同一個体	
4	〃	〃	〃			〃	〃		
5	〃	〃	〃			〃	〃		

44図 第428号住居跡出土遺物

第429号住居跡 (45図・46図)

〔位置と確認〕 VI E-82・83に位置し、第Ⅲ層精査中に炉跡と貼り床を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 残存する貼り床の最大長は1 m45cmである。

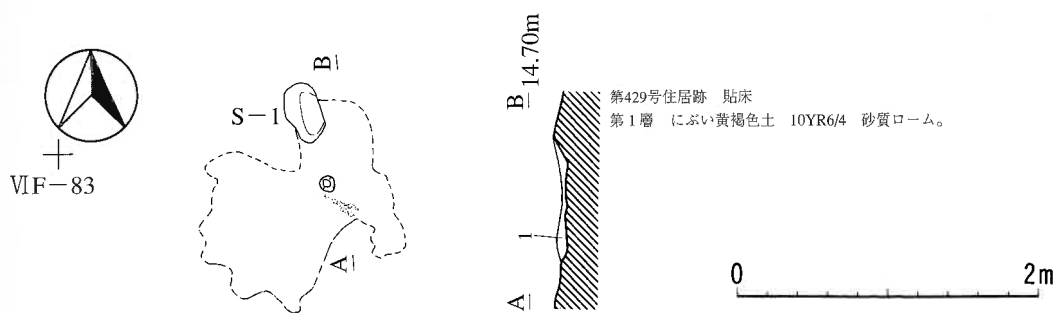
〔柱穴〕 ピットを1個確認した。深さはP1…11cmである。

〔炉〕 貼り床の一部が赤化しており、炉として使用されたものと考えられる。ただし、被熱部分は薄く、あまり顕著ではない。

〔出土遺物〕 床面から石皿・台石類が出土した。

〔時期〕 確認状況から縄文時代であるが、詳細は不明である。

(中村 哲也)



45図 第429号住居跡

第430号住居跡 (47図)

〔位置と確認〕 VI E-90に位置する。第Ⅲ層精査中に炉跡のみ確認した。

〔重複〕 不明である。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 不明である。

〔柱穴〕 不明である。

〔炉〕 第Ⅵ層が带状に盛られ、周囲に少量の炭化物の薄層が認められた。

〔堆積土〕 不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認状況から縄文時代であるが、詳細は不明である。

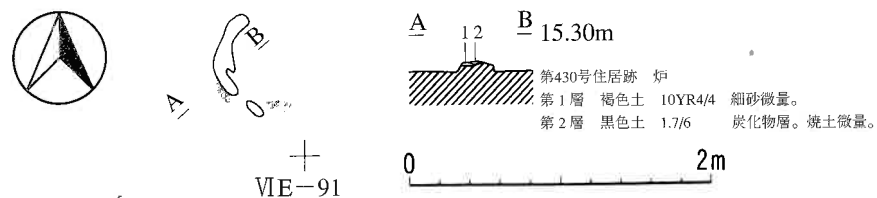
(中村 哲也)



1

図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
1	429住	床面	397	243	177	19780	安	L	S-1	49040

46図 第429号住居跡出土遺物



47図 第430号住居跡

第431号住居跡 (48図)

〔位置と確認〕 VIG-117・118、VIH-117に位置する。第Ⅲ層精査中に黄褐色土の貼り床の一部を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 床面はほぼ平坦で、堅緻である。

〔柱穴〕 床面上に1個確認された。深さはP₁…39cmである。

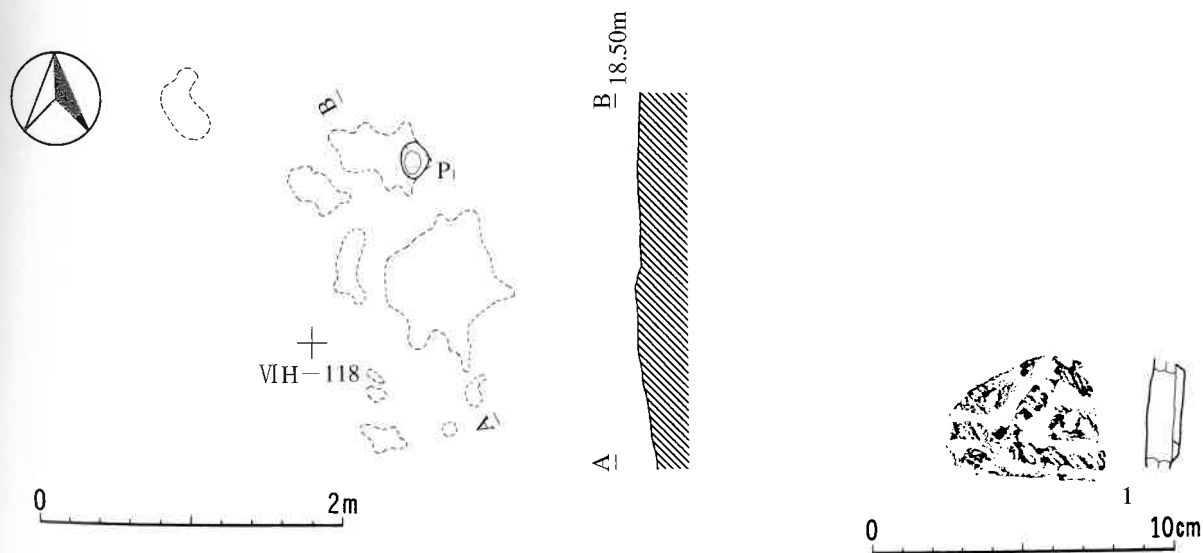
〔炉〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅲ群4類土器の小片が出土した。

〔時期〕 床面直上の出土遺物から、縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）と考えられる。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	431住	床直		結束第一種、貼付(RL)		ミガキ		Ⅲ-4	

48図 第431号住居跡・出土遺物

第432号住居跡 (49図・50図)

〔位置と確認〕 VID・E-119・120に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第439号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長軸のある楕円形である。規模は長軸2m90cm、短軸2m40cmで、床面積は5.68m²である。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁14cm、西壁22cm、南壁8cm、北壁26cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱穴〕 床面上に11個確認された。深さはP₁…5cm、P₂…15cm、P₃…5cm、P₄…6cm、P₅…32cm、P₆…16cm、P₇…4cm、P₈…18cm、P₉…6cm、P₁₀…16cm、P₁₁…14cmである。

〔炉〕 床面中央に土器埋設炉を検出した。

〔その他の施設〕 東壁付近に直径36cm、深さ8cmの窪みが確認され、幅24cm、高さ3cmの周堤を伴う。付属施設と考えられる。

〔堆積土〕 4層に分層した。自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群1類である。また、第3層から第Ⅲ群8類土器、堆積土から第Ⅱ・Ⅲ群土器が出土した。

〔時期〕 炉に使用された土器から、縄文時代中期前葉(円筒上層a式期)と考えられる。

(斎藤 岳)

第433号住居跡 (51図～56図)

〔位置と確認〕 VIB・C-117・118に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第445号住居跡、第680号土坑と重複し、新旧関係は第445号住居跡より新しく、第680号土坑とは不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある楕円形である。規模は長軸3m96cm、短軸3m34cm、床面積は10.7m²である。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁37cm、西壁47cm、南壁54cm、北壁43cmである。床面はほぼ平坦である。

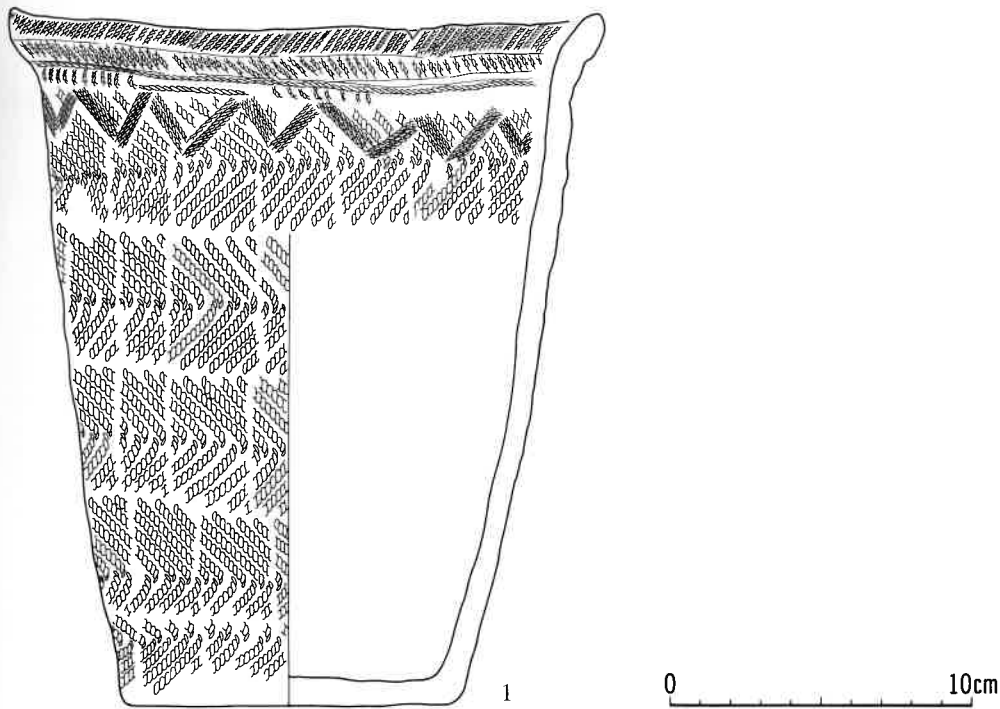
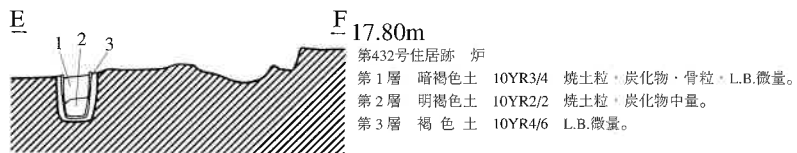
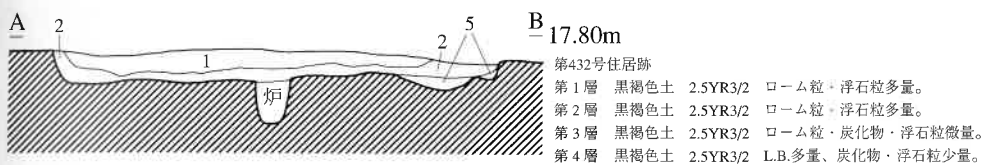
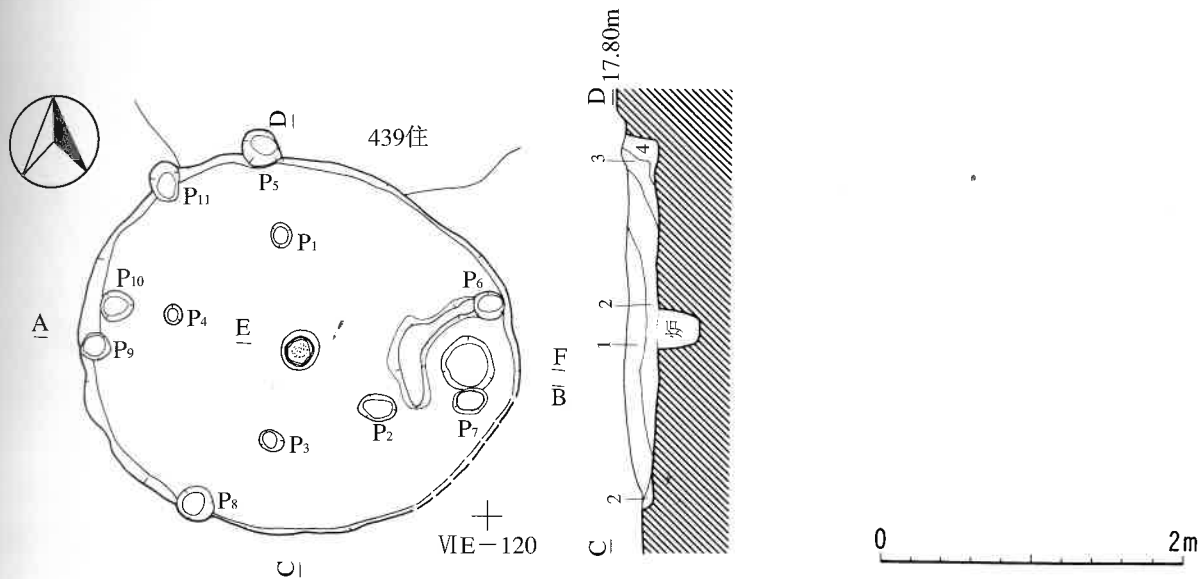
〔柱穴〕 確認できなかった。

〔炉〕 床面中央に周堤炉を検出した。規模は長軸58cm、短軸52cmである。

〔その他の施設〕 南東の壁際に長軸36cm、短軸32cm、深さ12cmの窪みがあり、周堤を伴う。付属施設と考えられる。第680号土坑は付属施設として一体をなす可能性があるが、明確にできなかったので、別遺構として扱った。

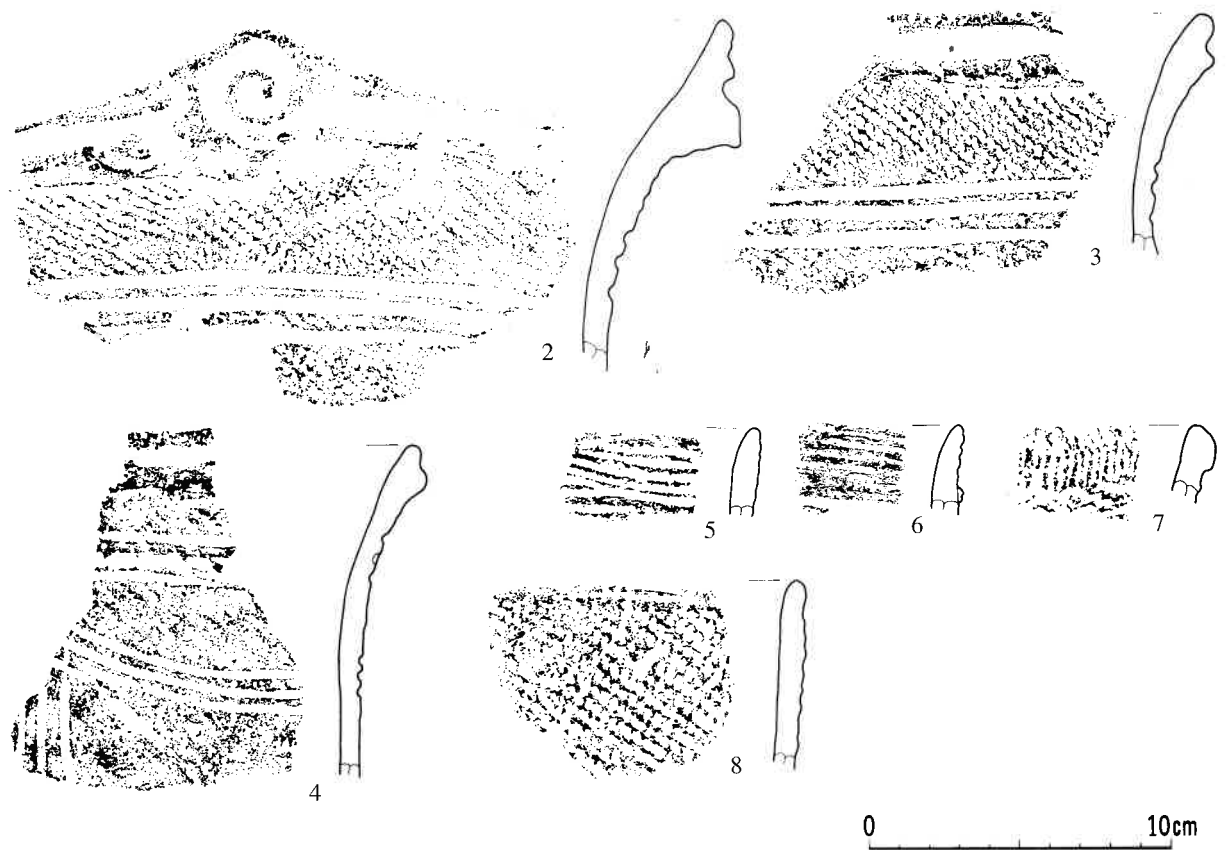
〔堆積土〕 10層に分層した。人為堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 堆積土から復元可能土器を含む第Ⅲ群4類土器を主体に、第Ⅲ群5類土器、石鏃、石匙、U.フレイクなどが出土した。



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	432住炉		RL、L押	結束第一種	結束第一種	ミガキ	無文	Ⅲ-1	

49図 第432号住居跡・出土遺物(1)

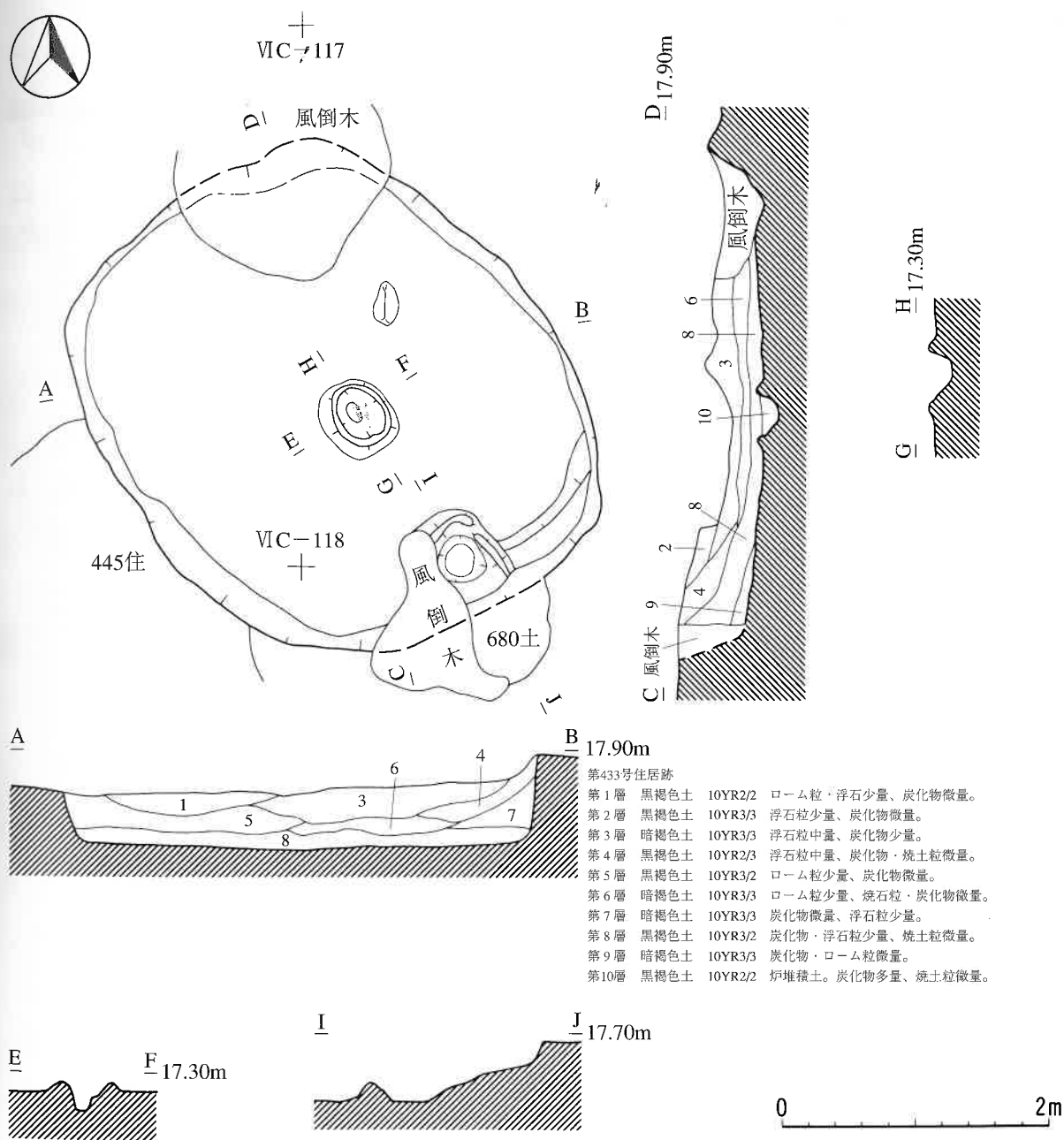


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
2	432住	3	凹状沈線	RLR、沈線		ミガキ	Ⅲ-8	3と同一個体	
3	〃	〃	〃	〃、〃		〃	〃		
4	〃	〃	〃	RL、沈線、刺突		〃	〃		
5	〃	堆積土	R単絡1押			〃	Ⅱ-5-1		
6	〃	〃	L押、微隆帯			〃	〃		
7	〃	〃	L単絡1			〃	Ⅲ-6		
8	〃	〃	RL			ミガキ	Ⅱ-6		

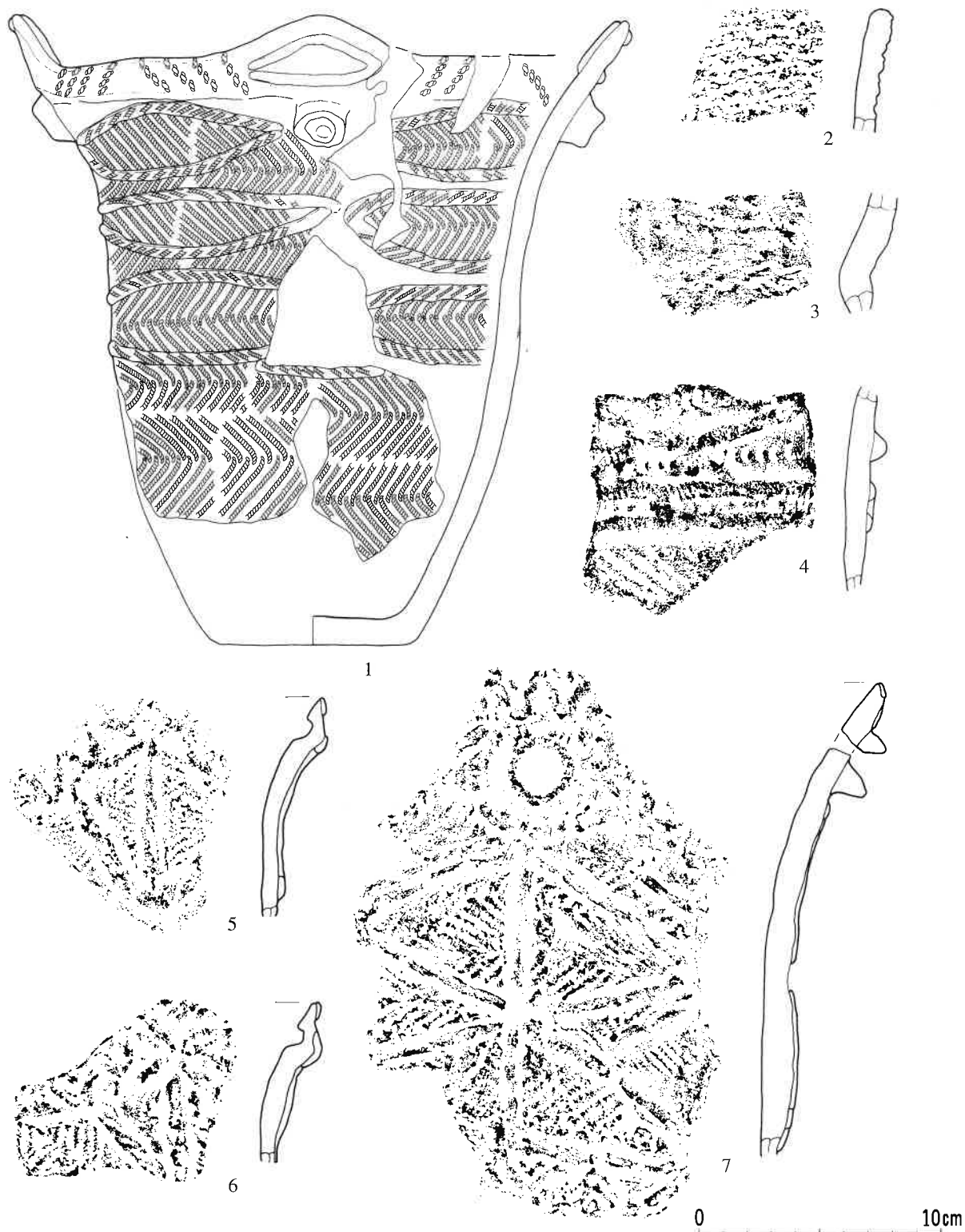
50図 第432号住居跡出土遺物 (2)

[時期] 堆積土出土土器から縄文時代中期中葉（円筒上層 d～e 式期）に近い時期と考えられる。

（斎藤 岳）

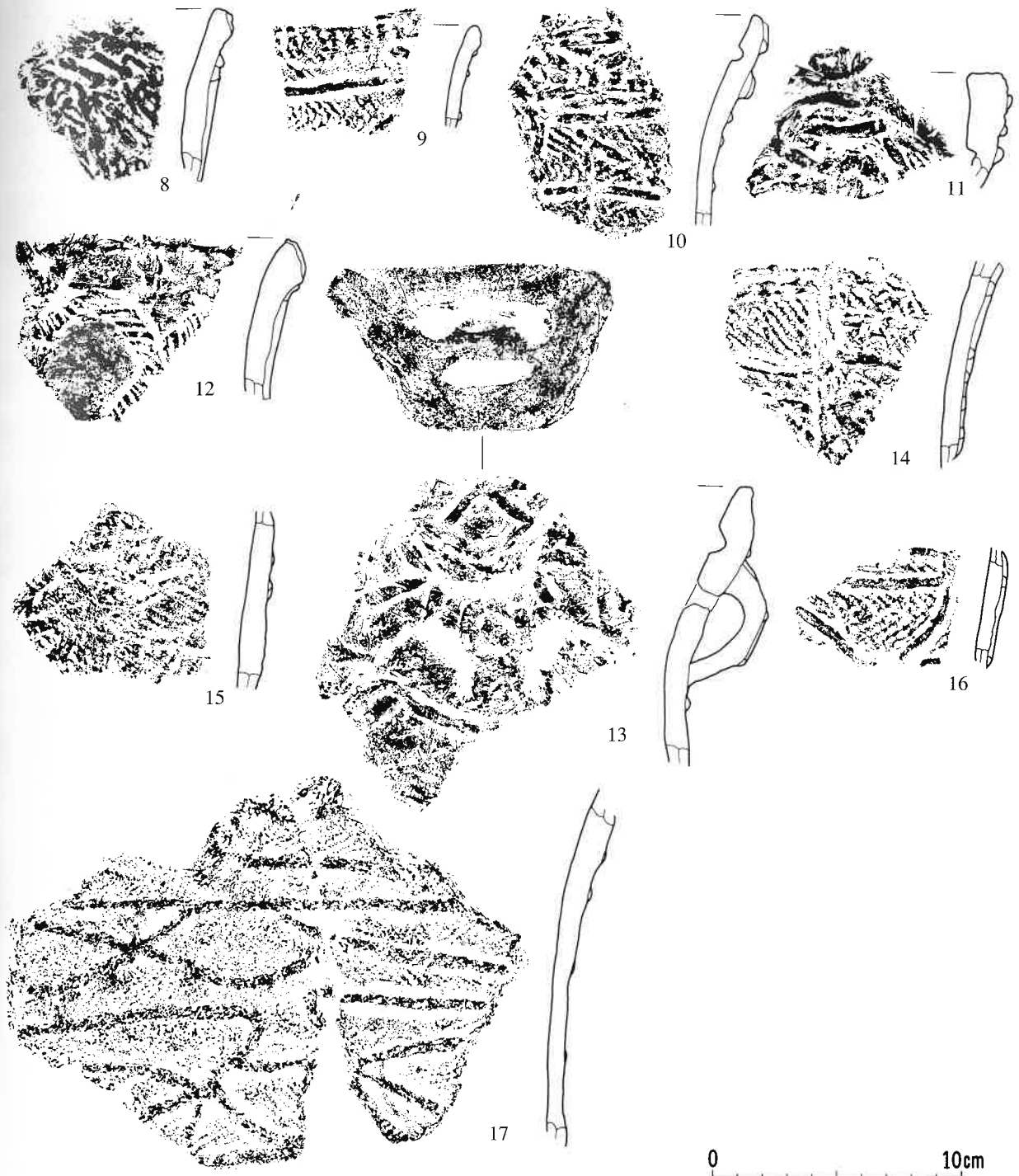


51図 第433号住居跡



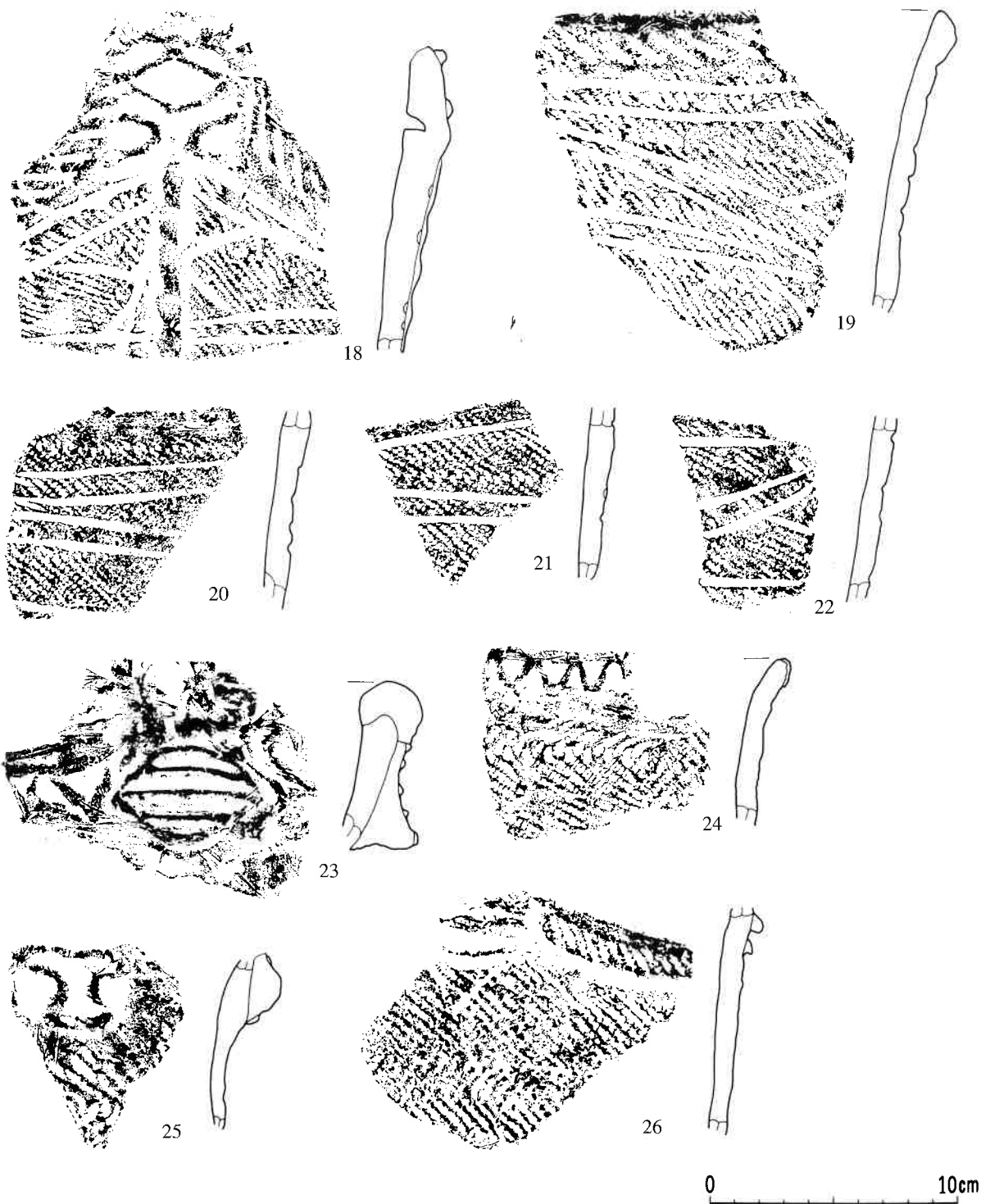
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
1	433住	堆積土	貼付、LR押	結束第一種、貼付	結束第一種	ミガキ	無文	Ⅲ-4	
2	〃	〃	LR結回			〃		Ⅱ-2	
3	〃	〃	LR押	R結回		〃		Ⅱ-5-2	
4	〃	〃	貼付 (R押)、刺突	結束第一種		〃		Ⅲ-3	
5	〃	〃	貼付	LR、貼付		〃		Ⅲ-4	内面に盲孔
6	〃	〃	〃	〃		〃		〃	5と同一個体
7	〃	〃	〃、貫通孔	結束第一種、貼付		〃		〃	

52図 第433号住居跡出土遺物 (1)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
8	433住	堆積土	貼付			ミガキ		Ⅲ-4	
9	〃	〃	RL押	結束第一種、貼付		〃		〃	
10	〃	〃	貼付	〃		〃		〃	内面に盲孔
11	〃	〃	〃			〃		〃	〃
12	〃	〃	〃 (L押)			〃		〃	
13	〃	〃	貼付、貫通孔			〃		〃	橋状把手
14	〃	〃		RL、貼付		〃		〃	
15	〃	〃		結束第一種、貼付		〃		〃	貼付剥落
16	〃	〃		〃		〃		〃	
17	〃	〃		〃		〃		〃	磨耗

53図 第433号住居跡出土遺物 (2)



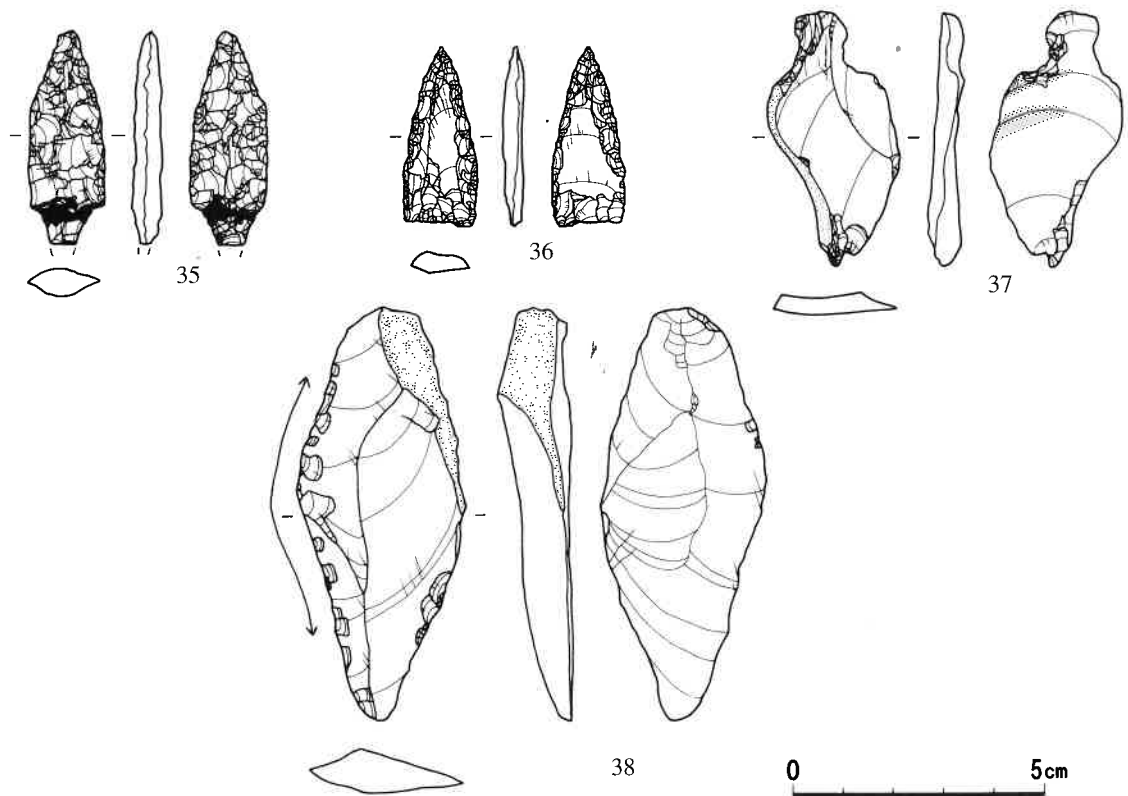
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
18	433住	堆積土	貼付、RL押	RL、沈線		ミガキ		Ⅲ-5	内面に楕円形孔
19	〃	〃	RL押	結束第一種(RL、RL)、沈線		〃		〃	
20	〃	〃		〃		〃		〃	
21	〃	〃		〃		〃		〃	
22	〃	〃		RL、沈線		〃		〃	
23	〃	〃	貼付			〃		Ⅲ-6	
24	〃	〃	〃	結束第一種		〃		〃	
25	〃	〃	〃	〃		〃		〃	
26	〃	〃	〃、RL	〃		〃		〃	

54図 第433号住居跡出土遺物 (3)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
27	433住	堆積土	貼付、L押	結束第一種		ミガキ		Ⅲ-6	内面盲孔
28	〃	〃	〃	RL		〃		〃	
29	〃	〃	RL	結束第一種		〃		〃	
30	〃	〃	LR押、LR	LR		〃		〃	
31	〃	〃	刺突	結束第一種		〃		〃	
32	〃	〃	LR			〃		〃	
33	〃	〃	RL	結束第一種		〃		〃	
34	〃	〃	無文	無文		〃		〃	

55図 第433号住居跡出土遺物(4)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
35	433住	堆積土	(42)	15	6	(3.6)	珪頁	Ab	アスファルト付着	50128
36	〃	〃	35	15	5	1.9	〃	Ad		50136
37	〃	〃	50	27	7	5.9	〃	Cg		50176
38	〃	〃	81	33	15	24.6	〃	Gc		45700

56図 第433号住居跡出土遺物 (5)

第434号住居跡 (57図・237図)

〔位置と確認〕 VIM-116に位置する。南盛土精査中に暗褐色土の落ち込みとして確認した。遺跡保存のため精査は行っていない。

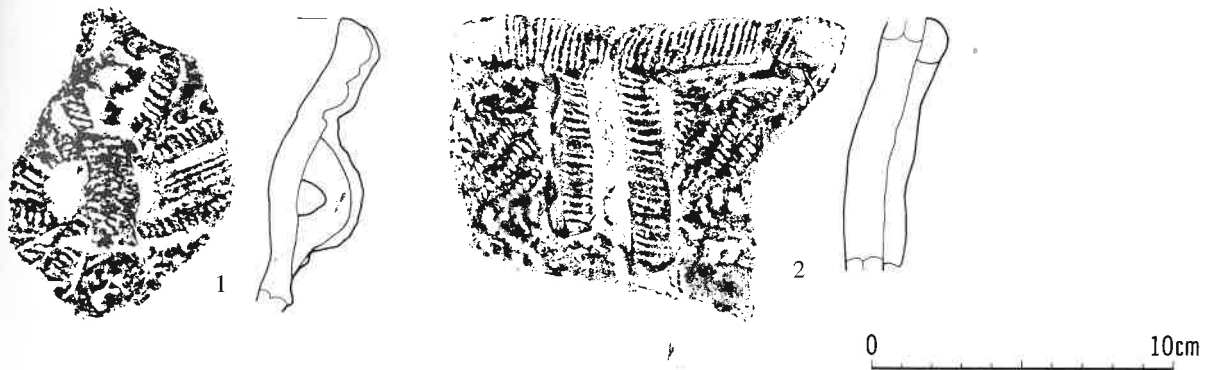
〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅲ群3・6類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため、詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	434住	確認面	貼付(R単絡1)、刺突			ミガキ		Ⅲ-3	
2	〃	〃		結束第一種、貼付(L単絡1)		〃		Ⅲ-6	

57図 第434号住居跡出土遺物

第435号住居跡 (58図～61図)

〔位置と確認〕 VIG-112・113に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第559号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。また東側が攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある楕円形である。規模は長軸 3 m 10cm、短軸 2 m 68cmである。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は西壁10cm、南壁15cm、北壁 6 cmである。床面は若干凹凸があり、中央部に長軸 1 m 32cm、短軸 1 m 2 cm、深さ10cmの窪みがある。

〔柱穴〕 8個確認された。それぞれのピットの深さは、P₁…18cm、P₂…36cm、P₃…32cm、P₄…14cm、P₅…25cm、P₆…19cm、P₇…23cm、P₈…33cmである。

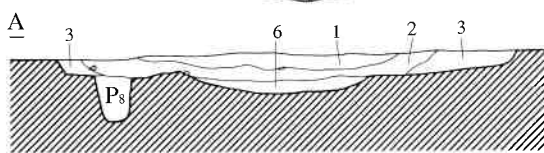
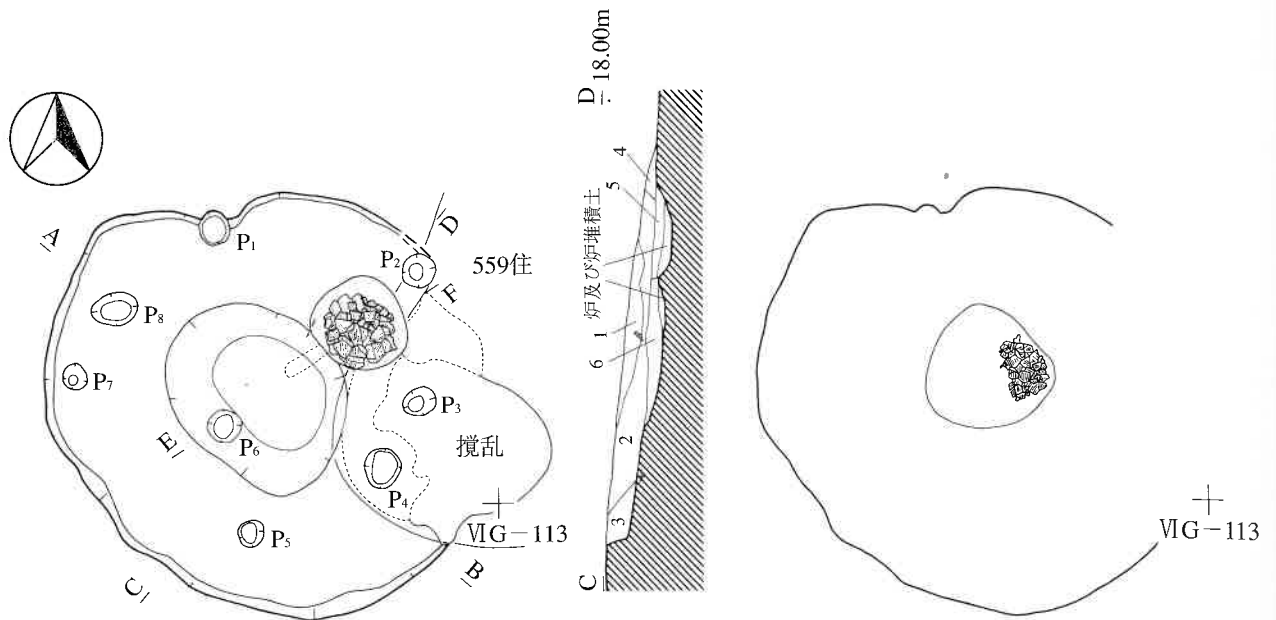
〔炉〕 床面中央とやや北東に 2 基の土器片敷炉を検出した。貼り床の存在から東側のものが新しく中央のものが古い。

〔堆積土〕 6層に分層した。自然堆積と考えられる。

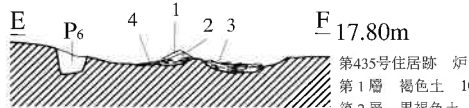
〔出土遺物〕 土器片敷炉の土器は第Ⅲ群11類である。また、床面直上から第Ⅲ群10・11類土器、敲磨器類などが、堆積土から第Ⅲ群11類土器、石鏃、石槍、石皿・台石類などが出土した。

〔時期〕 炉及び床面直上出土土器から、縄文時代中期末葉（大木10式併行期）と考えられる。

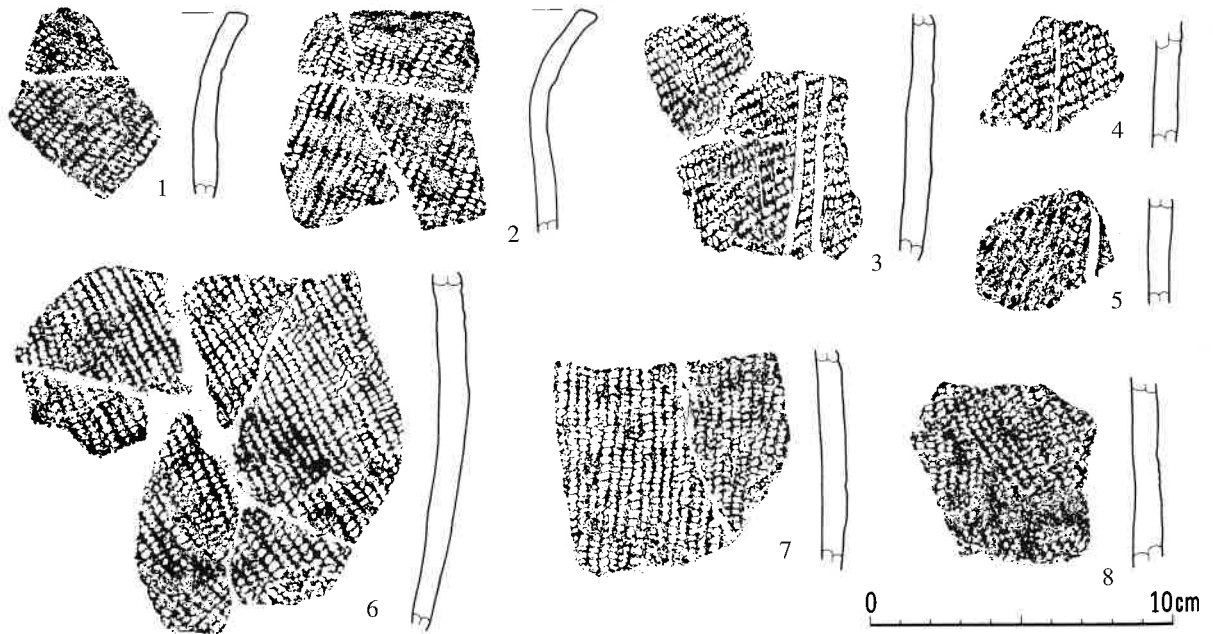
(斎藤 岳)



第435号住居跡
 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物少量、焼土微量。
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 焼土・炭化物・浮石粒少量。
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 焼土・炭化物・浮石粒微量。
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・浮石粒・ローム微量。
 第5層 黒褐色土 10YR2/2 焼土粒・炭化物・浮石粒少量。
 第6層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒・炭化物・浮石粒微量。

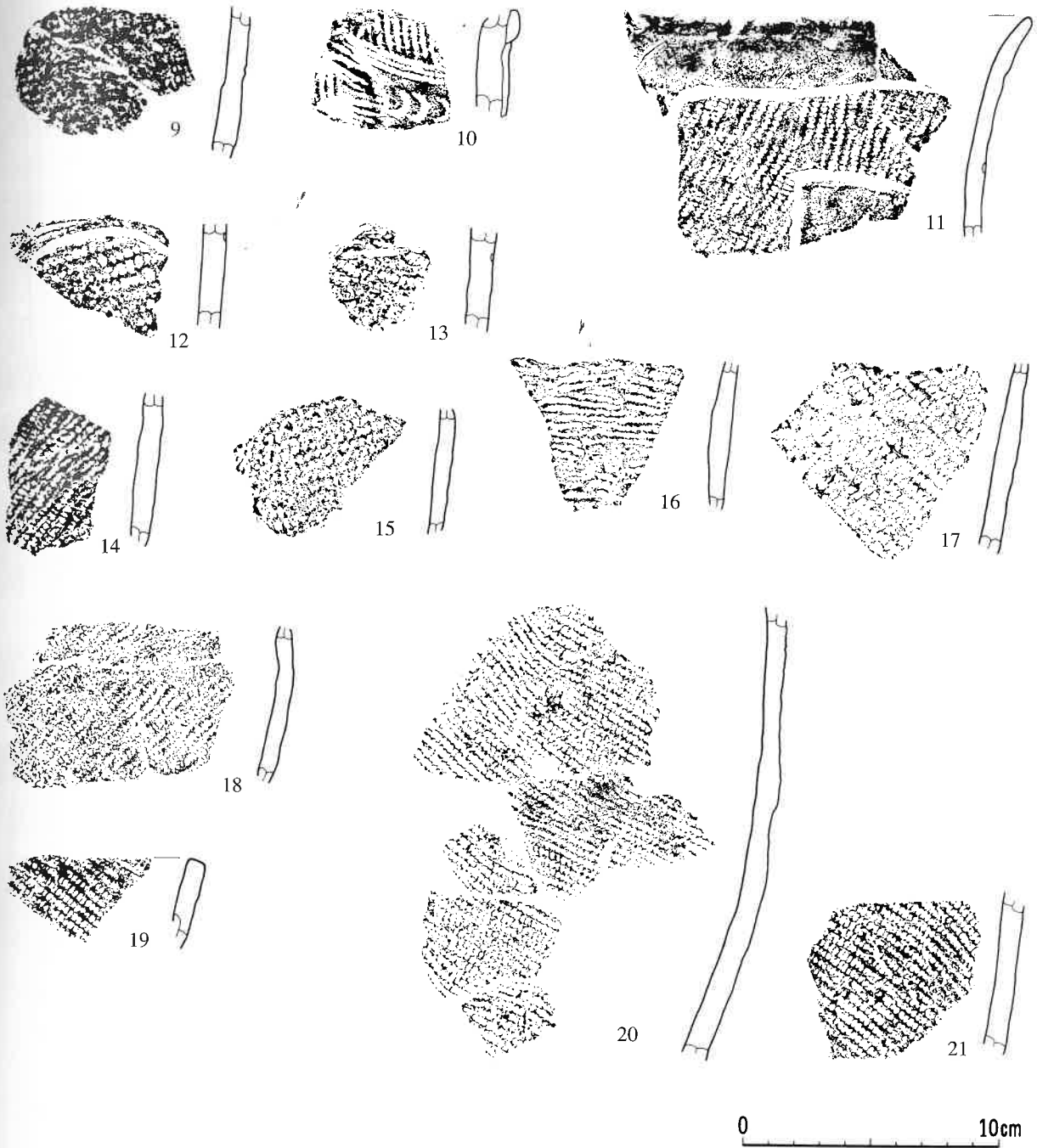


第435号住居跡 炉
 第1層 褐色土 10YR4/6 貼り床。炭化物微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒・炭化物・浮石粒微量。
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物微量。
 第4層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物少量。



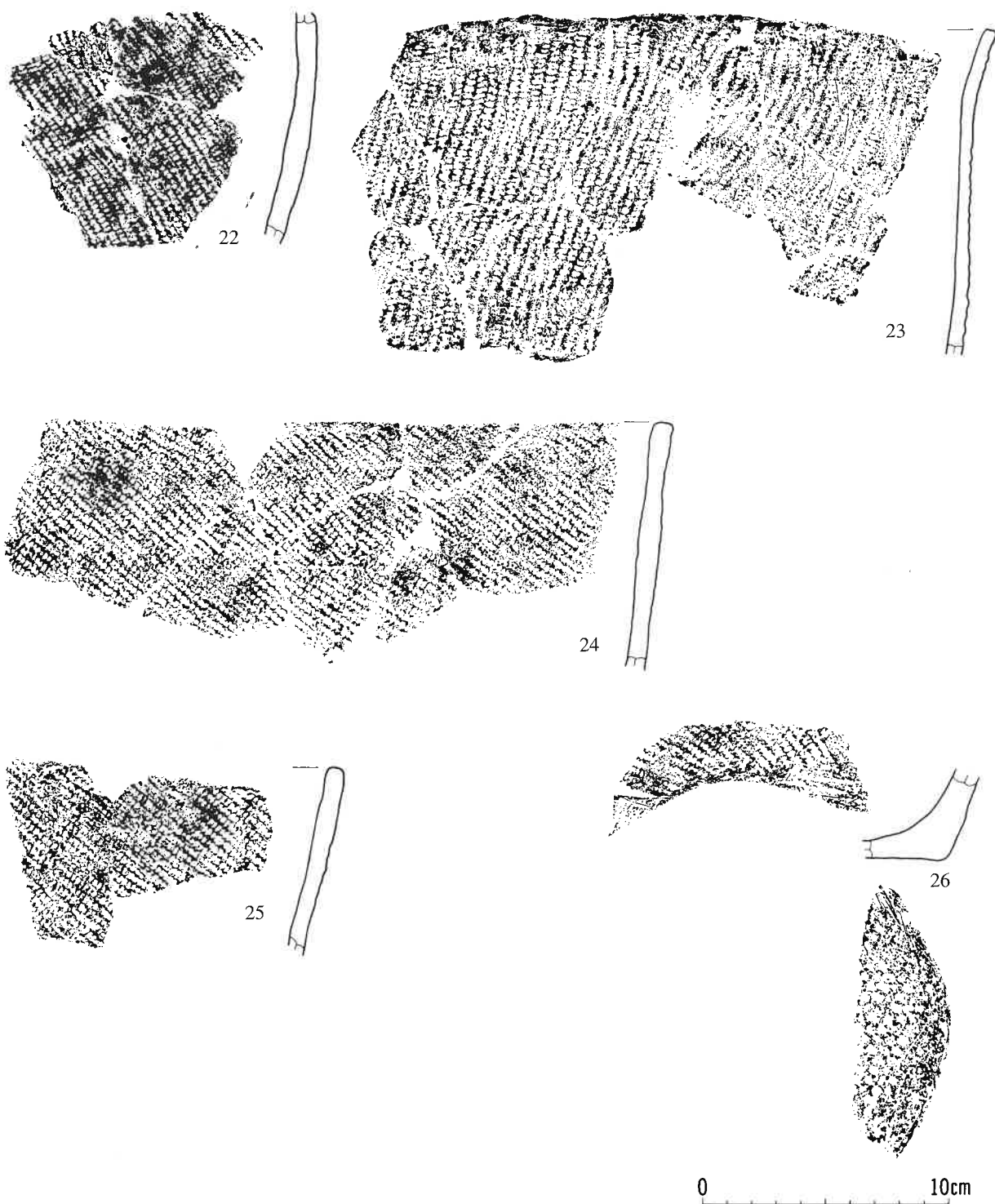
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	435住炉(古)	RL				ミガキ		Ⅲ-11	
2	〃	〃				〃		〃	
3	〃	〃		LR、沈線		〃		〃	3・4同一個体
4	〃	〃		〃		〃		〃	
5	〃	〃		RL、沈線		〃		〃	
6	〃	〃		RL		〃		〃	
7	〃	〃		〃		〃		〃	
8	〃	〃		〃		〃		〃	

58図 第435号住居跡・出土遺物(1)



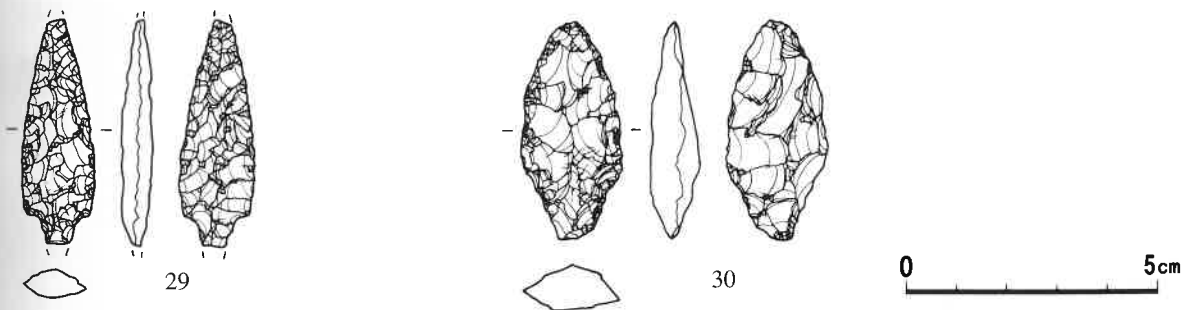
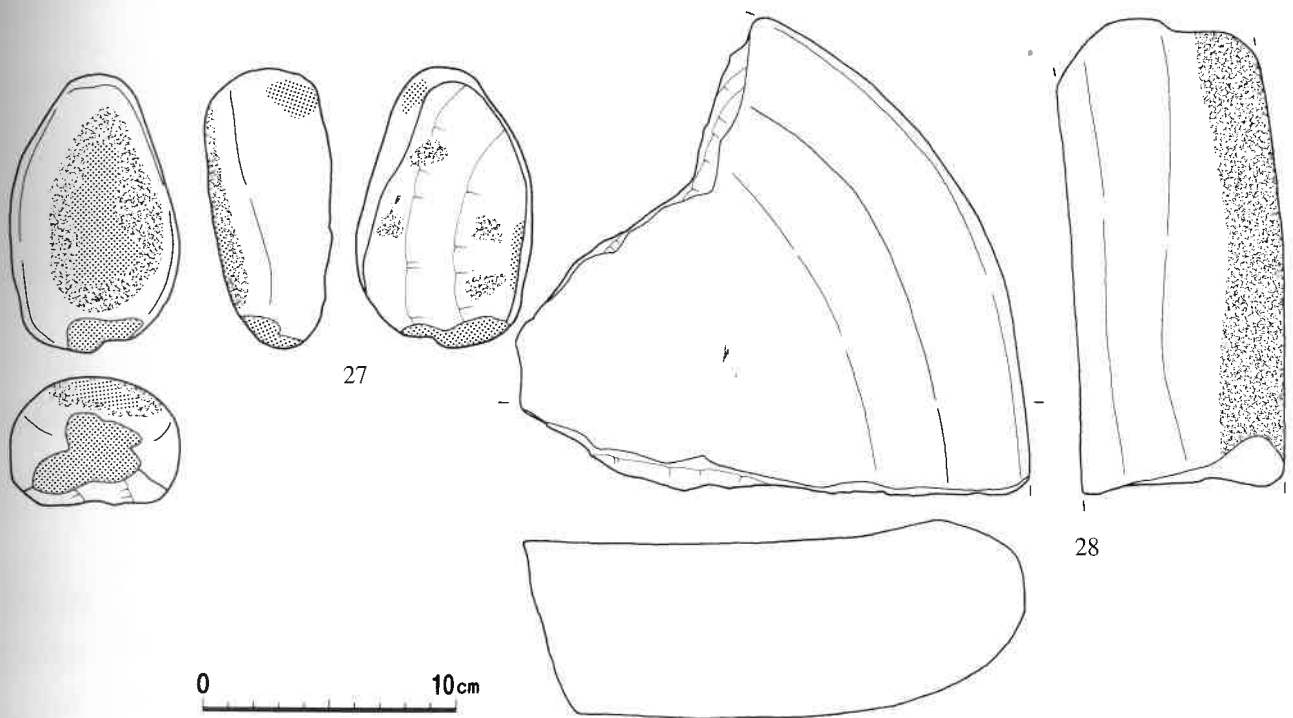
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
9	435住(古)			LR		ミガキ	Ⅲ-11		
10	435住	床直	貼付(L単絡1)、L押			〃	Ⅲ-2		
11	〃	〃	無文帯、沈線、RL			〃	Ⅲ-10		
12	〃	〃		LR、沈線		〃	Ⅲ-11		
13	〃	〃		〃		〃	〃		
14	〃	〃		RL		〃	〃		
15	〃	〃		〃		〃	〃		
16	〃	〃		LR		〃	〃		
17	〃	〃		RL		〃	〃		
18	〃	〃		〃		〃	〃		
19	〃	堆積土	LR			〃	〃	19~22同一個体	
20	〃	〃		LR		〃	〃		
21	〃	〃		〃		〃	〃		

59図 第435号住居跡出土遺物(2)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
22	435住	堆積土		LR		ミガキ		Ⅲ-11	
23	〃	〃	RL	RL		〃		〃	
24	〃	〃	LR	LR		〃		〃	24~26同一個体
25	〃	〃		〃		〃		〃	
26	〃	〃			RL		網代痕	〃	

60図 第435号住居跡出土遺物 (3)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
27	435住	床直	110	69	50	520.1	安	Ib	S-1	46340
28	〃	堆積土	(187)	(195)	(91)	(3443.8)	〃	L	S-2	46399
29	〃	〃	(45)	15	6	(3.9)	珪頁	Ab		50139
30	〃	〃	43	20	10	7.0	〃	Bb	石鏃?	50155

61図 第435号住居跡出土遺物 (4)

第436号住居跡 (62図・63図)

〔位置と確認〕 VI A・B-118・119に位置する。第Ⅲ層精査中に褐色土の円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第376号住居跡、第437号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

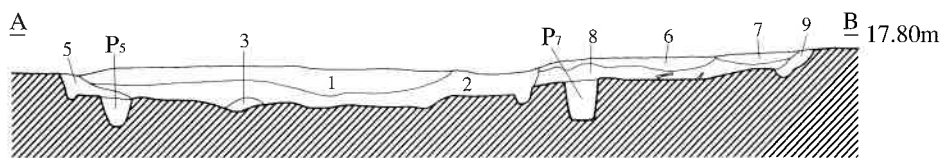
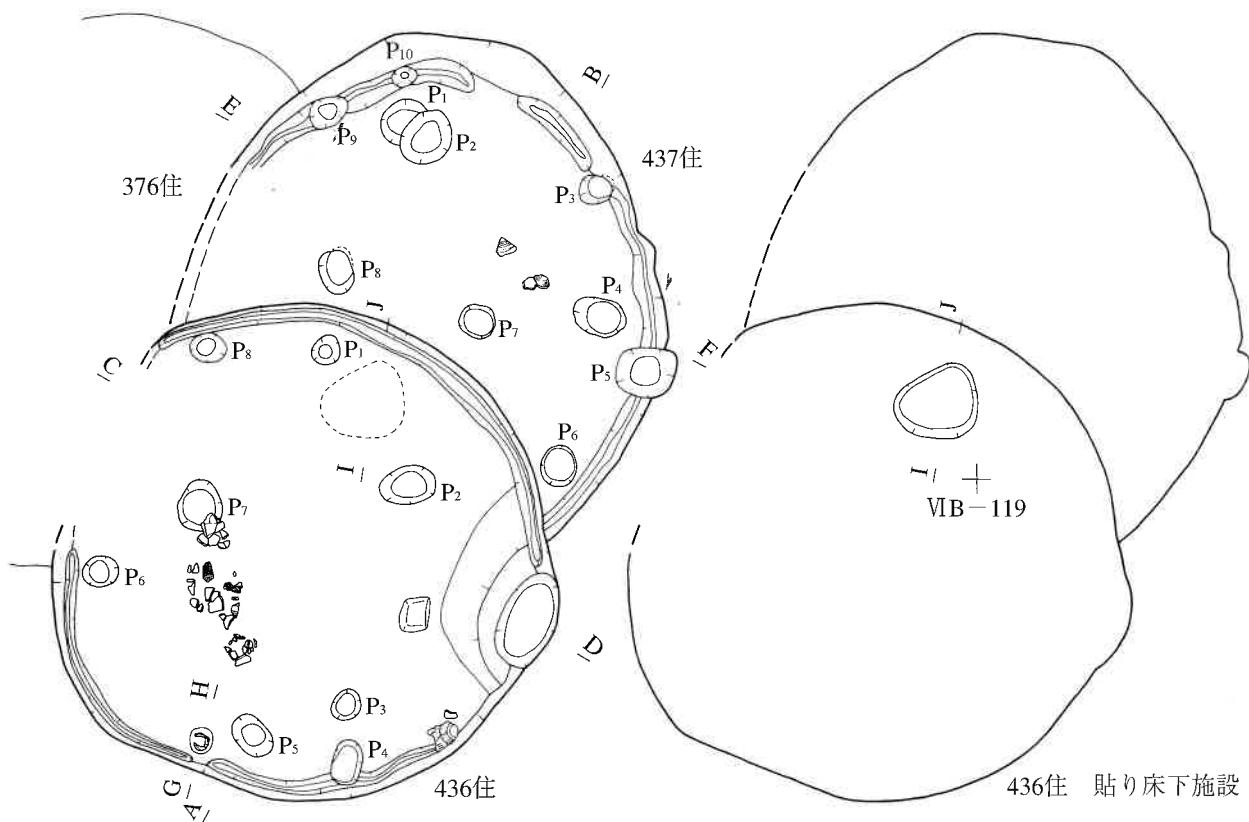
〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある円形である。規模は残存部分で長軸及び短軸ともに3m20cmである。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁20cm、西壁18cm、南壁22cm、北壁24cmである。床面はほぼ平坦であり、北側には貼り床がみられる。

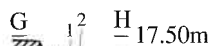
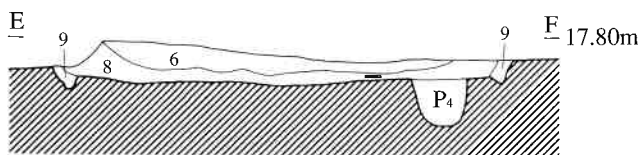
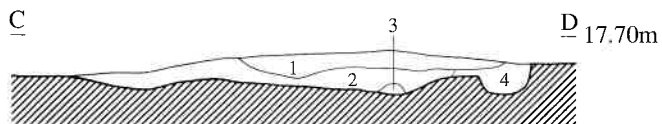


VB-118

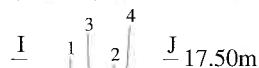
VB-118



- 第436・437号住居跡
- 第1層 褐色土 10YR4/4 炭化物・浮石粒微量。
 - 第2層 褐色土 10YR4/6 炭化物・浮石粒微量。
 - 第3層 明黄褐色土 10YR6/8 ローム粒少量、炭化物・浮石粒微量。
 - 第4層 褐色土 10YR4/4 浮石粒微量。
 - 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・浮石粒微量。
 - 第6層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・浮石粒微量。
 - 第7層 暗褐色土 10YR3/4 L.B.中量、浮石粒微量。
 - 第8層 暗褐色土 10YR3/4 L.B.中量、炭化物・浮石粒微量。
 - 第9層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.中量、炭化物・浮石粒微量。

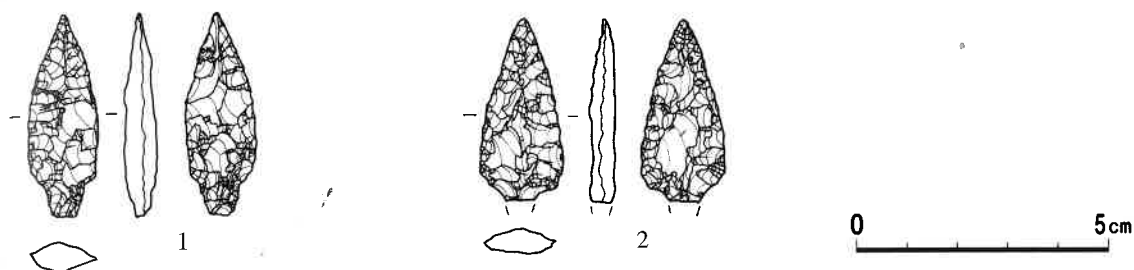


- 第436号住居跡 埋設土器
- 第1層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 浮石粒微量。
 - 第2層 明黄褐色土 10YR6/8 ローム粒・浮石粒微量。



- 第436号住居跡 貼り床下施設
- 第1層 褐色土 10YR4/4 貼り床。炭化物・浮石粒微量。
 - 第2層 明黄褐色土 10YR6/8 貼り床。浮石粒微量。
 - 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量、浮石粒微量。
 - 第4層 褐色土 10YR4/6 ローム粒少量、焼石粒微量。

62図 第436号・437号住居跡



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
1	436住	堆積土	40	13	6	2.8	珪頁	Ab			50138
2	〃	〃	(36)	16	5	(2.7)	〃	〃			50124

63図 第436号住居跡出土遺物

〔壁溝〕 北西部・南東部分を除き巡る。幅8～18cm、深さ11～24cmである。

〔柱穴〕 床面上に8個確認された。それぞれのピットの深さは、P₁…35cm、P₂…23cm、P₃…19cm、P₄…18cm、P₅…20cm、P₆…18cm、P₇…23cm、P₈…24cmである。

〔炉〕 確認できなかった。

〔その他の施設〕 南側に埋設土器が検出された。掘り方の規模は18cm×16cmで、直径約10cmの小型の土器が、床面に埋設されていた。

また南東の壁際に長軸58cm、短軸27cm、深さ11cmの窪みがあり、周囲の床面が若干盛り上がることから付属施設と考えられる。北側の貼り床下からも長軸56cm、短軸47cm、深さ22cmの不整楕円形の窪みが検出された。重複する第437号住居跡の炉の掘り方等の可能性もあるが、不明である。

〔堆積土〕 5層に分層した。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 堆積土から石鏃などが出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、詳細は不明である。

(斎藤 岳)

第437号住居跡 (62図・64図・65図)

〔位置と確認〕 VI A・B-118に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第376号住居跡、第436号住居跡と重複し、第376号住居跡より新しく第436号住居跡より古い。

〔平面形・規模〕 平面形は北東-南西に長軸のある楕円形である。規模は短軸3m15cmである。

〔壁・床面〕 各壁ともゆるやかに外傾しながら立ち上がる。壁高は北壁で13cmである。床面はほぼ平坦である。

〔壁溝〕 西～南部を除き巡る。幅9～14cm、深さ6cmである。

〔柱穴〕 10個確認された。ピットの深さは、P₁…38cm、P₂…28cm、P₄…31cm、P₇…28cmである。

〔炉〕 検出されなかった。

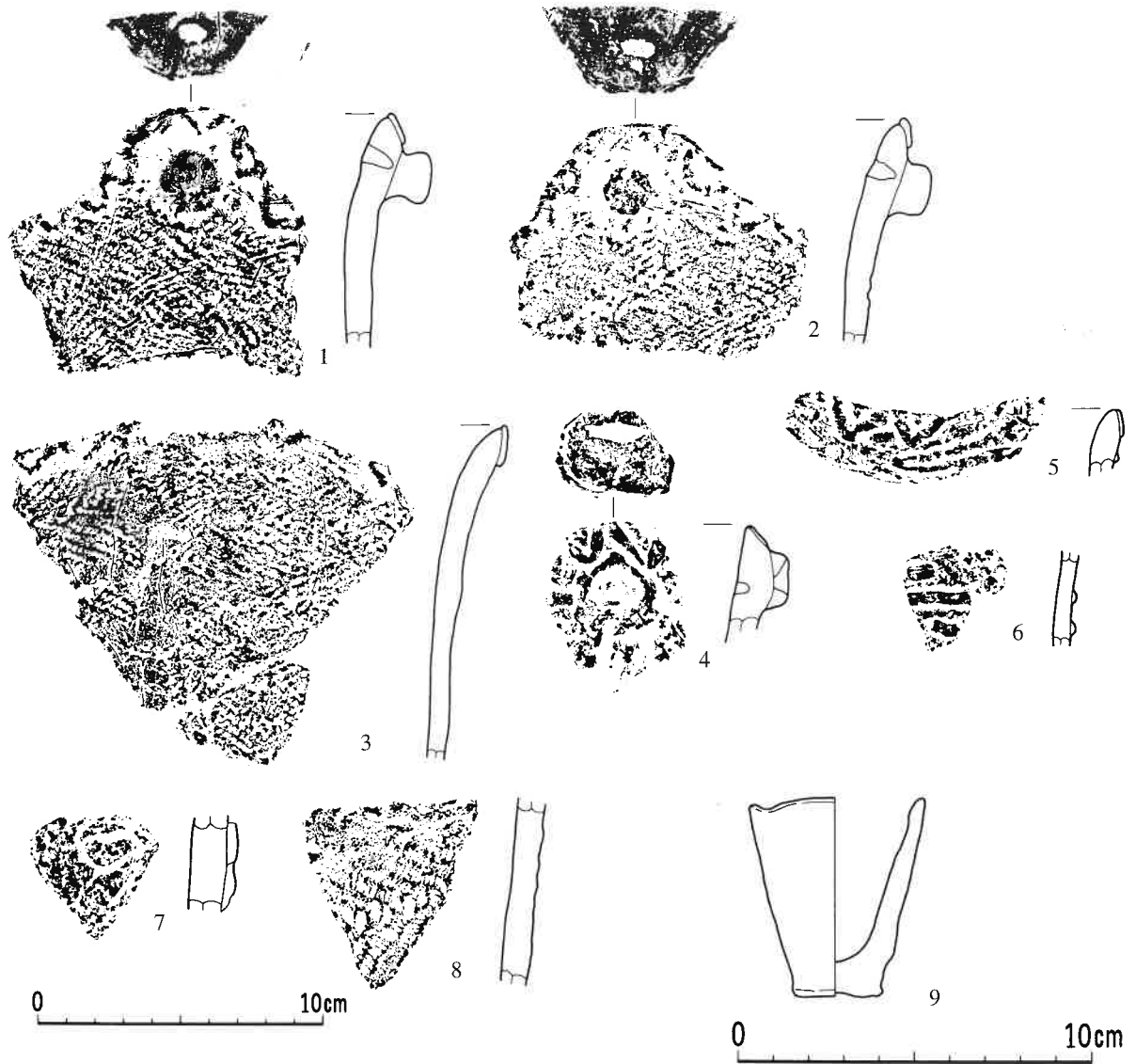
〔堆積土〕 4層に分層した。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅲ群4・5類土器が、堆積土から第Ⅲ群4類土器、R.フレイク、U.

フレイクなどが出土した。

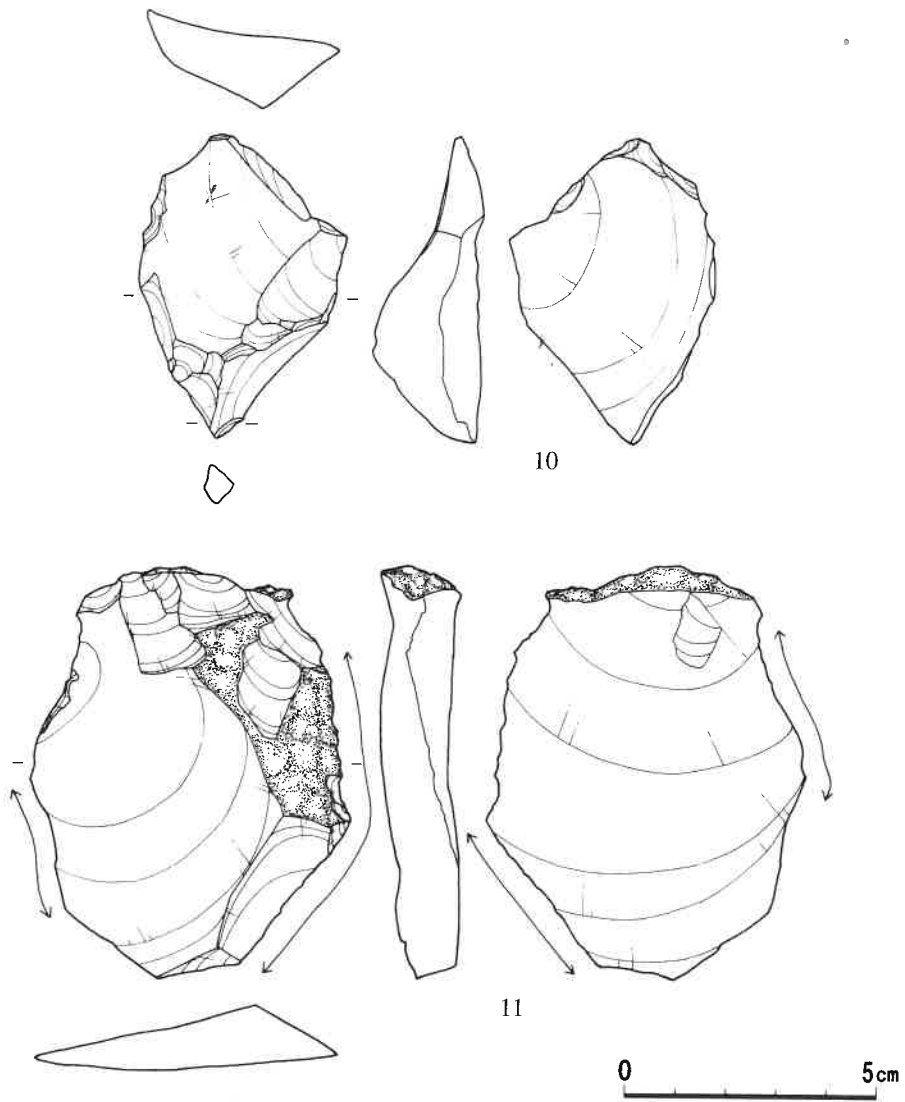
〔時期〕 床面直上出土土器から、縄文時代中期中葉（円筒上層 d～e 式期）と考えられる。

（斎藤 岳）



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	437住	床直	貼付	結束第一種		ミガキ	Ⅲ-4・5	内面に盲孔	
2	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
3	〃	〃	〃	〃		〃	〃	1～3同一個体	
4	〃	堆積土	〃			〃	Ⅲ-4	内面に盲孔	
5	〃	〃	〃			〃	〃	口縁内湾?	
6	〃	〃		貼付		〃	〃		
7	〃	〃		〃		〃	〃		
8	〃	〃		結束第一種		〃	Ⅲ-6		
9	〃	〃						ミニチュア	

64図 第437号住居跡出土遺物 (1)



图版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
10	437住	堆積土	60	41	21	30.1	珪頁	Gb	石錐?	45707
11	〃	〃	82	63	16	67.6	〃	Gc		45708

65図 第437号住居跡出土遺物 (2)

第438号住居跡 (66図・67図)

〔位置と確認〕 VID-118・119に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 風倒木により攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある楕円形である。規模は長軸3m78cmである。

〔壁・床面〕 各壁ともに外傾しながら立ち上がる。壁高は西壁9cm、南壁14cm、北壁25cmである。床面はほぼ平坦である。

〔壁溝〕 検出されなかった。

〔柱穴〕 床面上に2個確認された。それぞれのピットの深さは、P₁…27cm、P₂…13cmである。

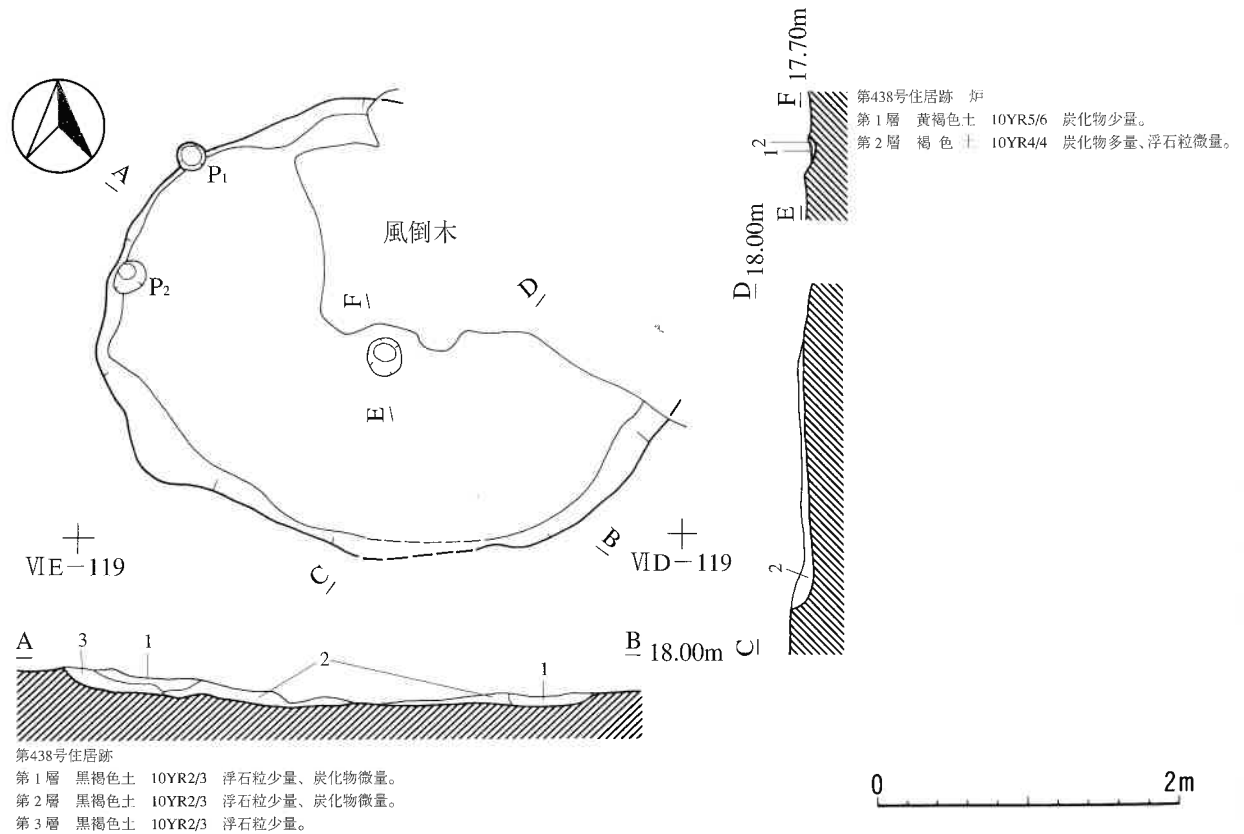
〔炉〕 床面中央に地床炉を検出した。規模が小さく、焼土は検出されなかったが、位置や炭化物の存在などから認定した。

〔堆積土〕 3層に分層した。自然堆積と考えられる。

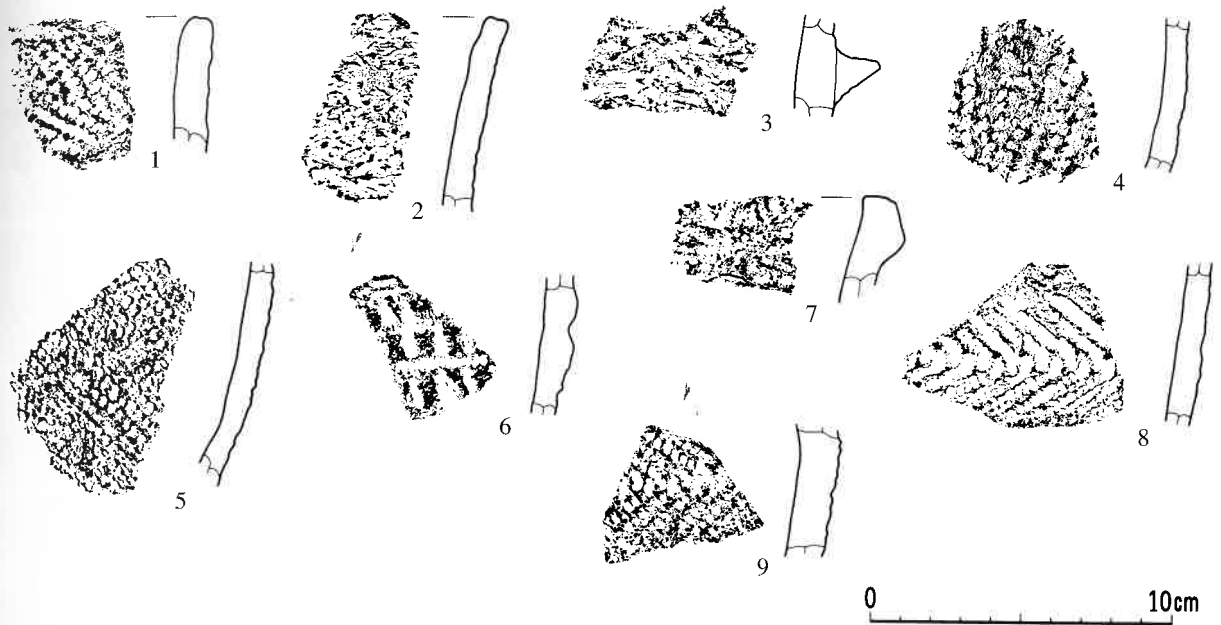
〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群を主体とする土器、石鏃などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代前期後半と考えられる。

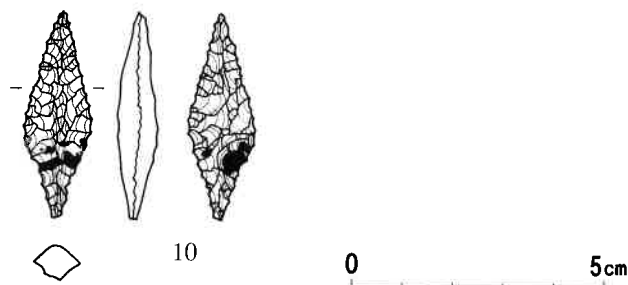
(斎藤 岳)



66図 第438号住居跡



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	438住	堆積土	RL			ミガキ		Ⅱ-2	
2	〃	〃	R結回?			〃		Ⅱ-3	
3	〃	〃		隆帯		〃		〃	
4	〃	〃			RLR	〃		Ⅱ-6	
5	〃	〃			〃	〃		〃	
6	〃	〃	R単絡I押			〃		Ⅱ-5-2	
7	〃	〃	RL			〃		Ⅲ-6	
8	〃	〃		結束第一種		〃		〃	
9	〃	〃		〃		〃		〃	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
10	438住	堆積土	40	13	8	2.9	珪頁	Ab	アスファルト付着	52300

67図 第438号住居跡出土遺物

第439号住居跡 (68図・69図)

〔位置と確認〕 VI D・E-118・119に位置する。第Ⅲ層精査中に暗褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第432号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある楕円形と考えられる。規模は残存範囲で長軸 3 m30cm、短軸 3 m10cmである。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は西壁 7 cm、北壁15cmである。床面はほぼ平坦であり、炉の周辺には貼り床がみられる。

〔壁溝〕 検出されなかった。

〔柱穴〕 床面上に10個確認された。それぞれのピットの深さは、P₁…19cm、P₂…21cm、P₃…65cm、P₄…26cm、P₅…28cm、P₆…13cm、P₇…24cm、P₈…22cm、P₉…19cm、P₁₀…25cmである。

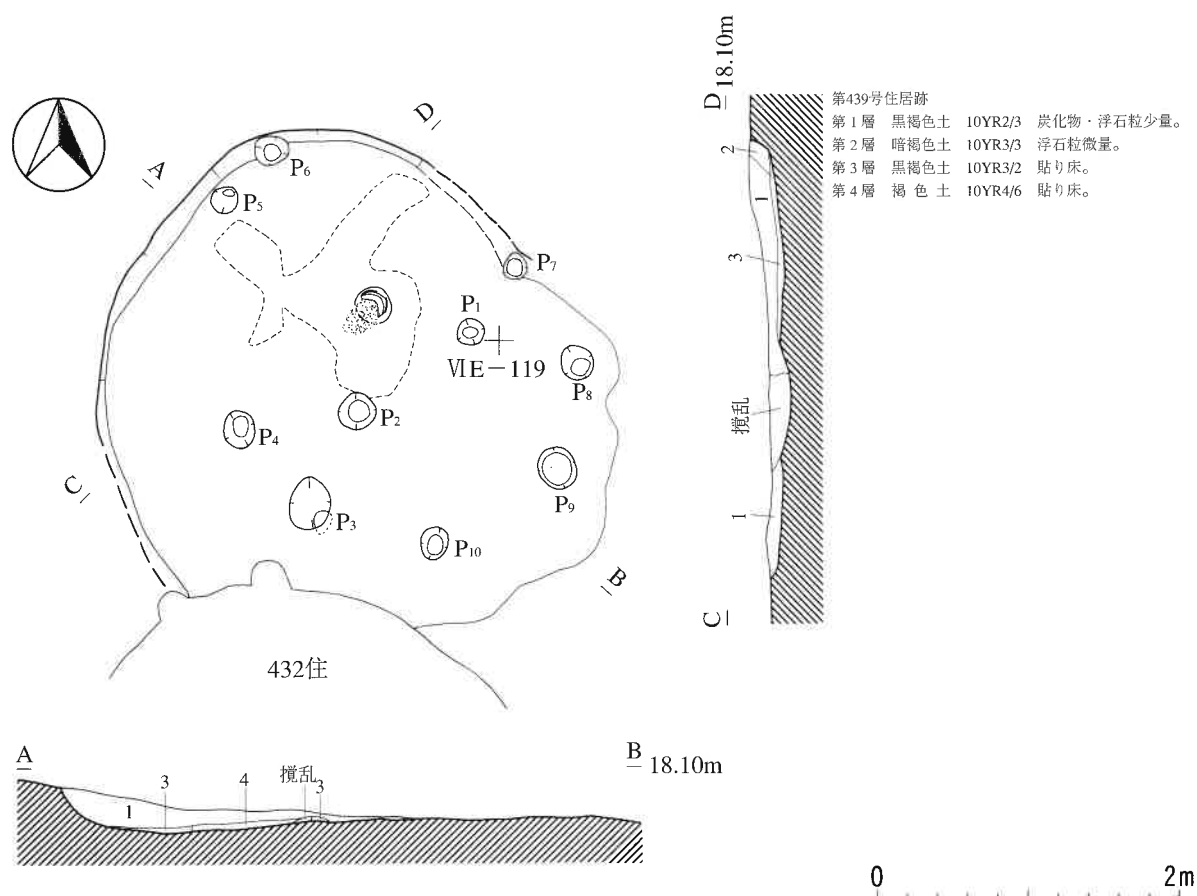
〔炉〕 床面中央からやや北側に土器埋設炉を検出した。掘り方の規模は確認状態で26cm×22cmである。なお、保存のため、土器の取り上げは行わなかった。

〔堆積土〕 4層に分層した。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群4・5類土器、石鏃などが出土した。

〔時期〕 重複関係にある第432号住居跡が縄文時代中期前葉（円筒上層a式期）と考えられるため、それ以前の時期と考えられる。

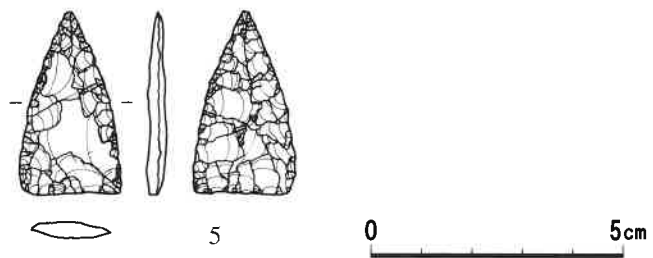
（斎藤 岳）



68図 第439号住居跡



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	439住	堆積土	貼付	LR? 貼付		ミガキ		Ⅲ-4	
2	〃	〃		RL、〃		〃		〃	
3	〃	〃	貼付、L・R押	結束第一種		〃		Ⅲ-4・5	
4	〃	〃			無文	〃		〃	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
5	439住	堆積土	36	20	4	2.1	珪頁	Ad		50188

69図 第439号住居跡出土遺物

第440号住居跡 (70図~76図)

〔位置と確認〕 VIO・P-116・117に位置する。南盛土精査中に黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は南北に長軸のある隅丸方形である。規模は長軸 3 m30cm、短軸 3 mで、床面積は7.92m²と推定される。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁53cm、西壁9 cm、南壁8 cm、北壁9 cmである。床面はほぼ平坦であり、炉の周辺には貼り床がみられる。

〔柱穴〕 床面上に4個確認された。それぞれのピットの深さは、P₁…6 cm、P₂…17cm、P₃…15 cm、P₄…22cmである。

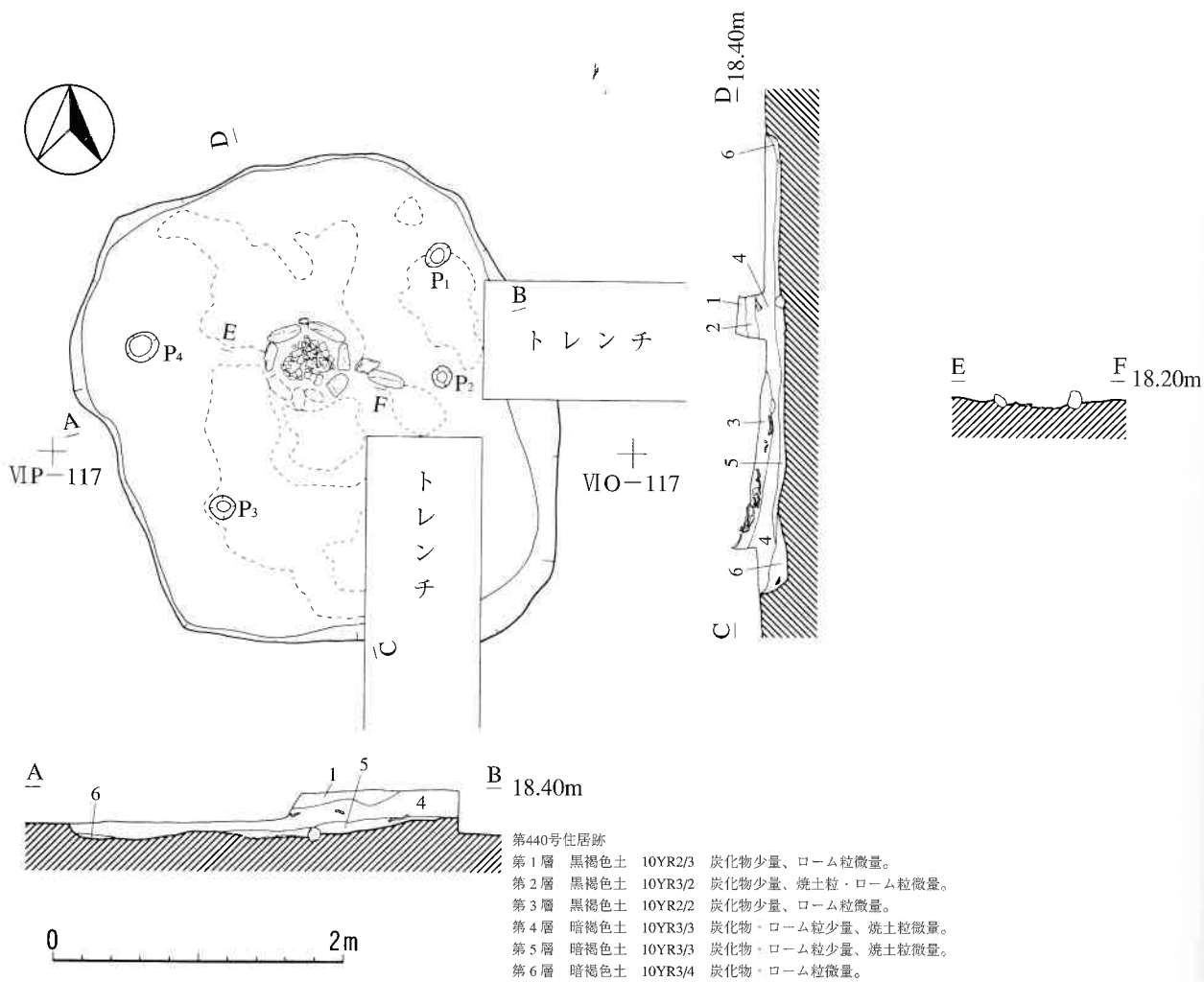
〔炉〕 床面中央からやや北側に石囲土器片敷炉を検出した。なお、保存のため、土器の取り上げは行わなかった。また南側の炉石を欠失するが、炉石に相当する大きさの落ちこみが確認でき、抜き取り痕の可能性はある。

〔堆積土〕 6層に分層した。人為堆積と考えられる。

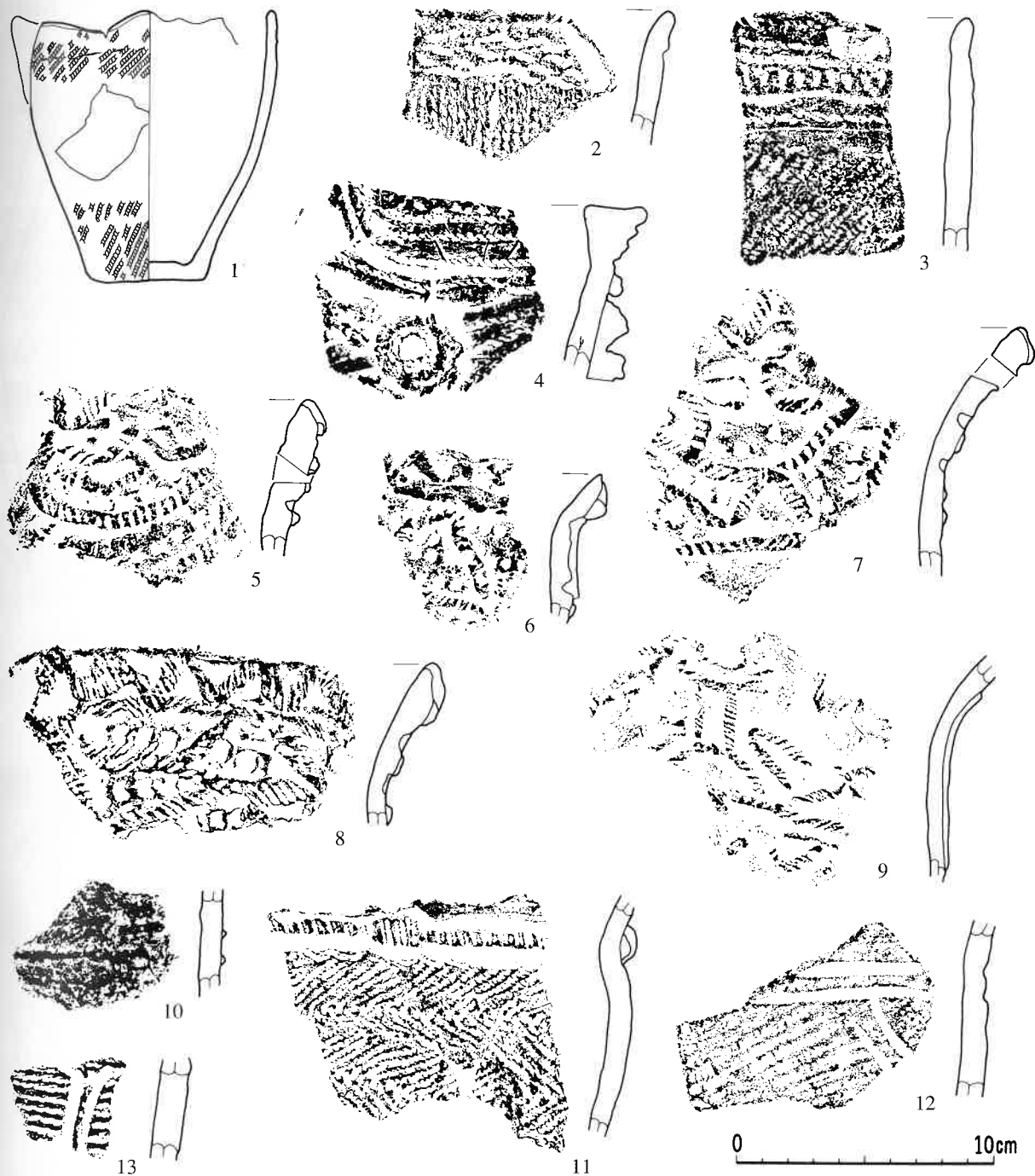
〔出土遺物〕 床面直上・堆積土から、第Ⅱ群・第Ⅲ群3・4類の小片、第Ⅲ群9類の大型破片が出土した。石器は床面直上から石鏃、敲磨器類などが、堆積土から石鏃、R.フレイクなどが出土した。

〔時期〕 床面直上出土遺物から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。

(斎藤 岳)

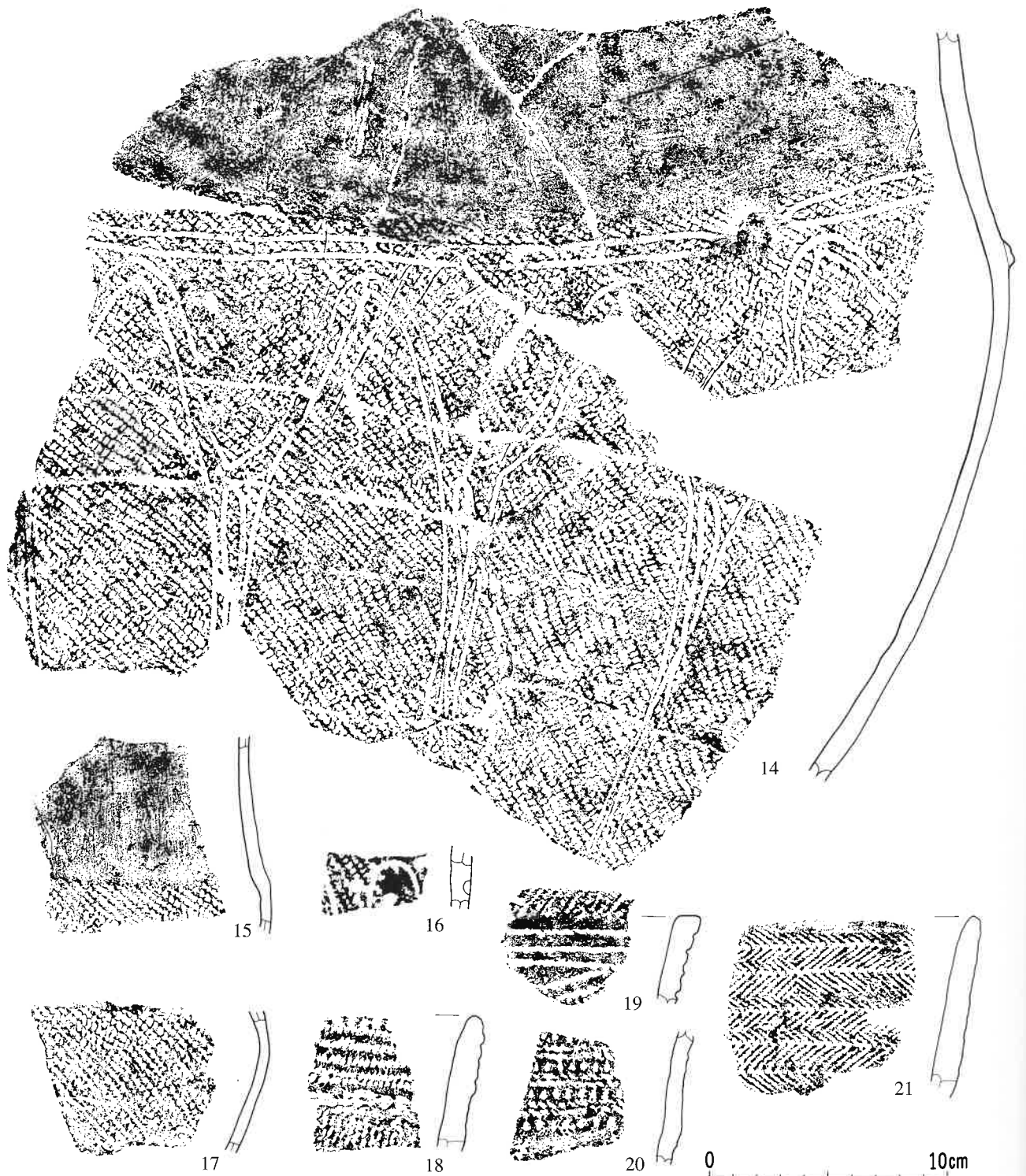


70図 第440号住居跡



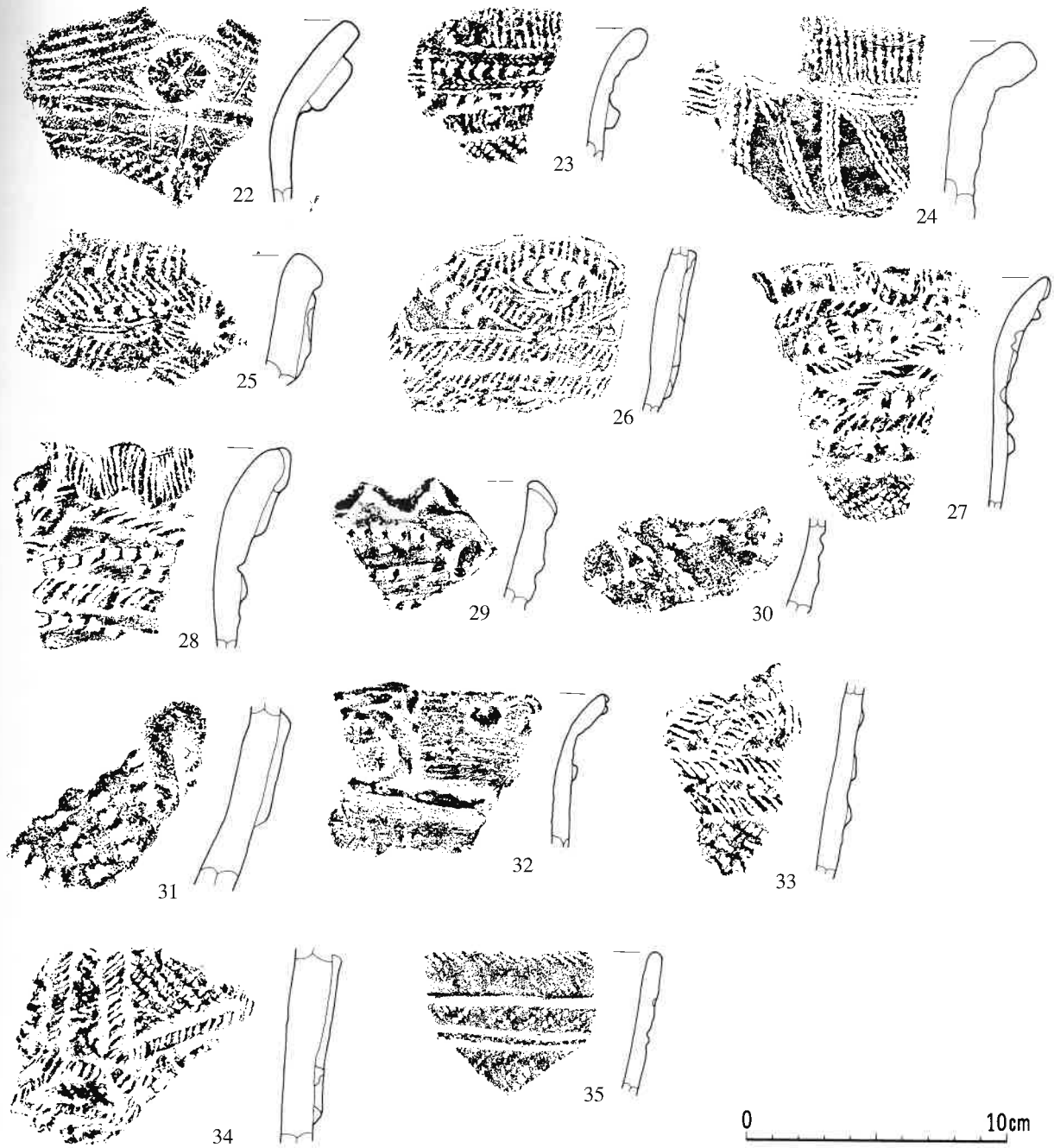
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	440住	堆積土	LR	LR	LR	ミガキ	無文	Ⅲ-6	
2	〃	床直	R結回	R単絡1		〃		Ⅱ-3	
3	〃	〃	LR押	貼付(剥落)、LR		〃		Ⅱ-5-2	
4	〃	〃	貼付(LR押)、LR押			〃		〃	
5	〃	〃	〃(R押)、刺突			〃		Ⅲ-3	貫通孔
6	〃	〃	〃(刻み)、〃			〃		〃	
7	〃	〃	〃(R押)、〃			〃		〃	貫通孔
8	〃	〃	〃(L単絡1)、〃			〃		〃	
9	〃	〃	貼付(L単絡1)			〃		Ⅲ-4	
10	〃	〃		貼付		〃		〃	
11	〃	〃		〃(L押)、結束第一種		〃		Ⅲ-6	
12	〃	〃		沈線、LR		〃		Ⅲ-8	
13	〃	〃		〃、R単絡1		〃		〃	

71図 第440号住居跡出土遺物(1)



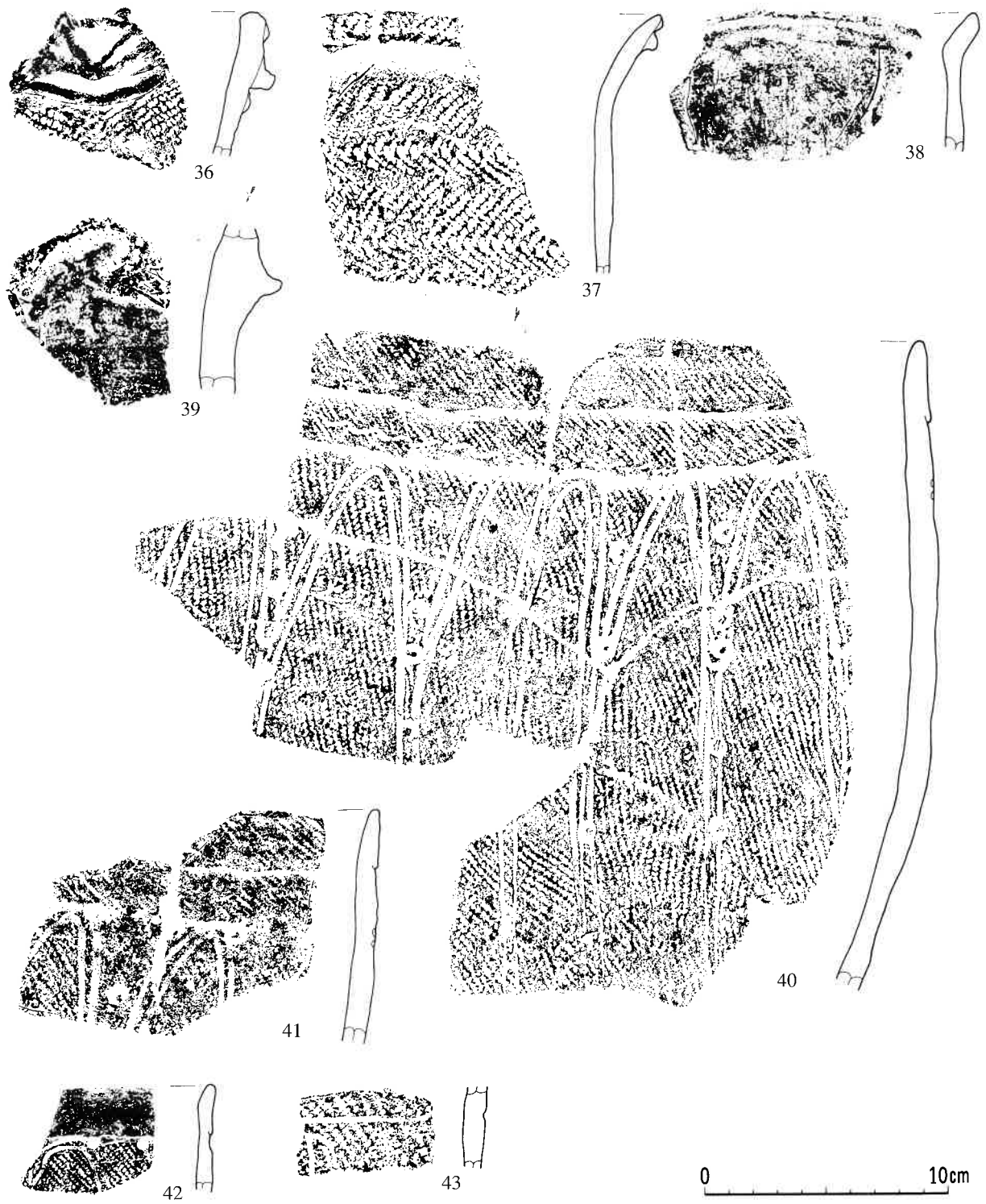
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
14	440住	床直	無文帯	RL、沈線、貼付		ミガキ		Ⅲ-9	
15	〃	〃	〃	RL		〃		〃	16と同一個体
16	〃	〃		〃		〃		〃	
17	〃	〃		〃、沈線、刺突		〃		〃	
18	〃	堆積土	単絡1押、刺突	単絡1		〃		Ⅱ-5-1	
19	〃	〃	LR押			〃		〃	口唇上面LR
20	〃	〃	〃、刺突			〃		Ⅱ-5-2	
21	〃	〃	結束第一種			〃		Ⅱ-5	

72図 第440号住居跡出土遺物 (2)



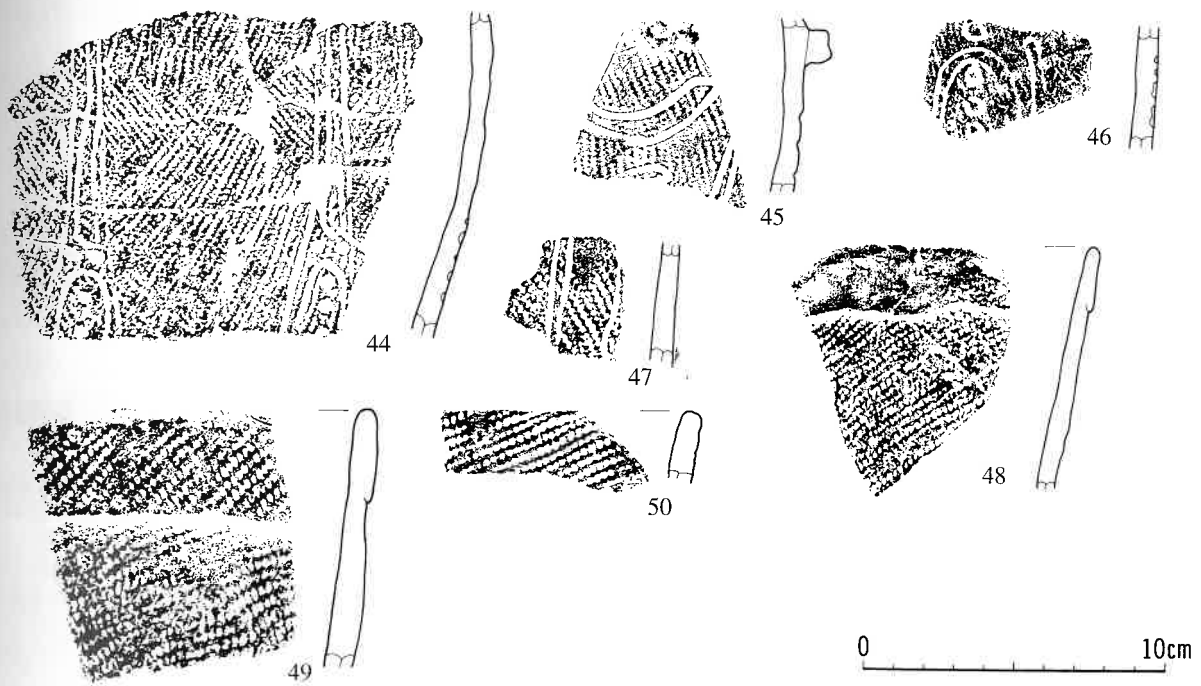
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
22	440住	堆積土	貼付(×字状の沈線)、LR押	LR、LR結回		ミガキ	Ⅱ-5-2		
23	〃	〃	〃(L単絡1)、L・R押			〃	Ⅲ-1		
24	〃	〃	〃(〃)、LR押			〃	〃		
25	〃	〃	〃(〃)、L押			〃	Ⅲ-2		
26	〃	〃	〃(〃)、〃			〃	〃		
27	〃	〃	〃(〃)、〃			〃	Ⅲ-3		
28	〃	〃	〃(〃)、刺突			〃	〃		
29	〃	〃	貼付、刺突			〃	〃		
30	〃	〃			刺突	〃	〃		
31	〃	〃	貼付(L押)、刺突			〃	〃		
32	〃	〃	貼付			〃	Ⅲ-4		
33	〃	〃		結束第一種、貼付(L押)		〃	〃		
34	〃	〃		〃、〃(刻み)		〃	〃		
35	〃	〃	RL、沈線			〃	Ⅲ-5		

73図 第440号住居跡出土遺物(3)

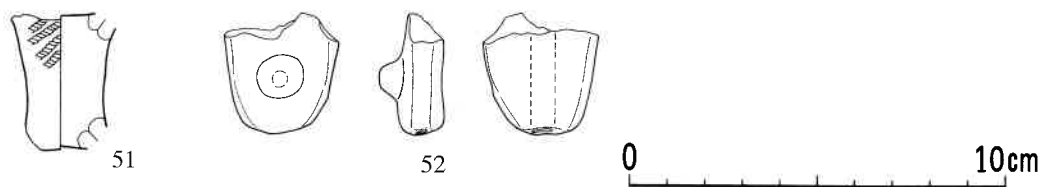


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
36	440住	堆積土	貼付	結束第一種?		ミガキ	Ⅲ-6		
37	〃	〃	LR、刺突	結束第一種		〃	〃		
38	〃	〃	無文			〃	〃		
39	〃	〃	凹状沈線			〃	Ⅲ-8		
40	〃	〃	折返口縁、RL	RL、沈線		〃	Ⅲ-9	41と同一個体	
41	〃	〃	〃、〃	〃、〃		〃	〃		
42	〃	〃	〃、無文帯	〃、〃、刺突		〃	〃		
43	〃	〃	RL、沈線			〃	〃		

74図 第440号住居跡出土遺物 (4)



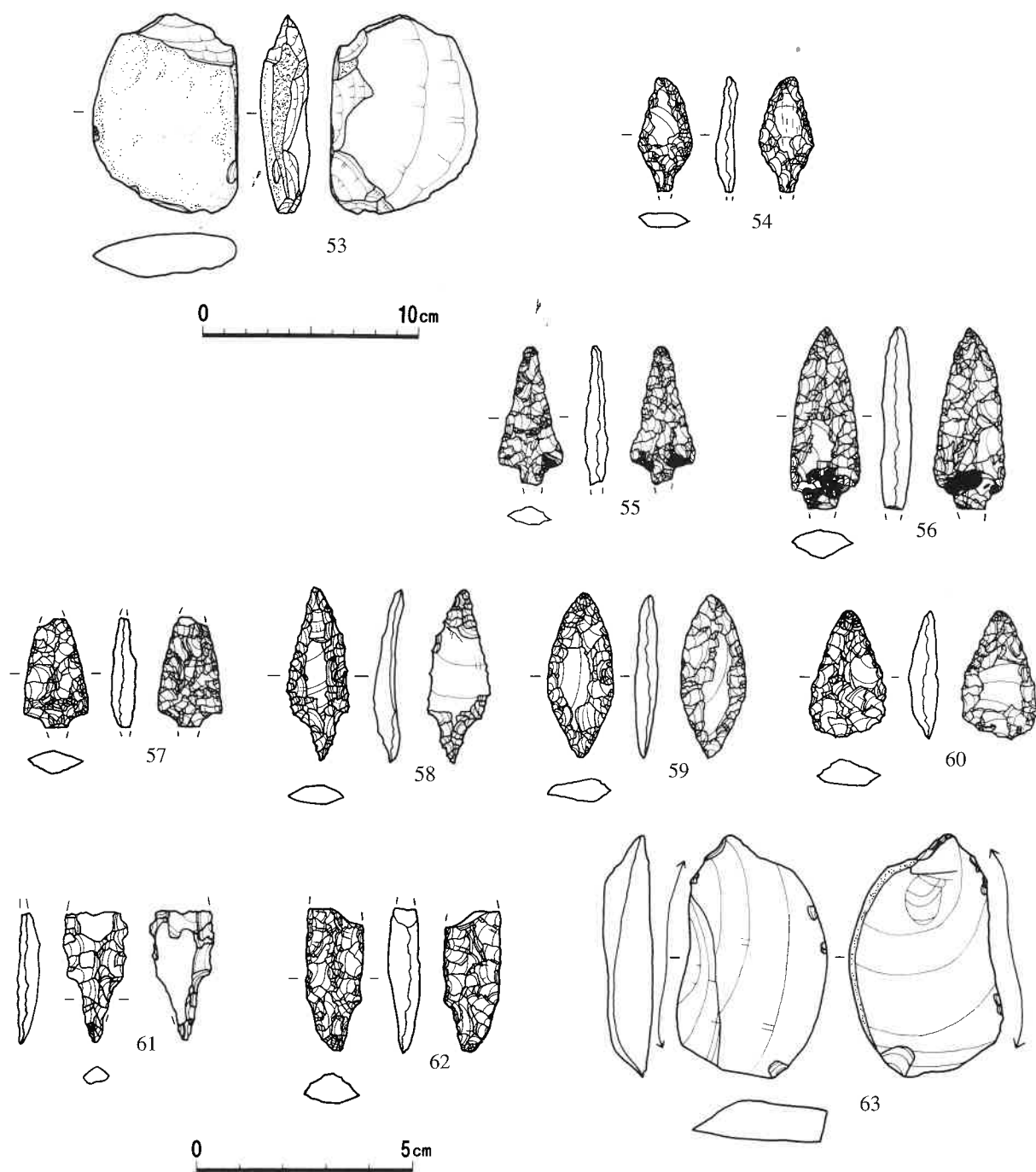
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
44	440住	堆積土		RL、沈線、刺突		ミガキ		Ⅲ-9	
45	〃	〃		貼付、〃、〃		〃		〃	
46	〃	〃		RL? 沈線		〃		〃	
47	〃	〃		RL、〃		〃		〃	
48	〃	〃	折返口縁、無文帯	LR		〃		Ⅲ-11	
49	〃	〃	〃、LR	〃		〃		〃	
50	〃	〃	LR			〃		〃	



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
51	440住	堆積土			RL			ミニチュア	台部

番号	出土地点	層位	計測値 (cm)			文様		種類	備考
			長さ	幅	厚さ	表面	裏面		
52	440住	堆積土	(3.3)	(3.2)	(1.7)	無文	無文	土偶	縦位に貫通孔

75図 第440号住居跡出土遺物 (5)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
53	440住	床直	91	66	23	160.7	安	Ic		46342
54	〃	〃	(26)	12	5	(1.0)	珪頁	Ab		50170
55	〃	堆積土	(32)	15	5	(1.7)	〃	Aa	アスファルト付着	50149
56	〃	〃	(42)	11	7	(4.5)	〃	Ab	〃	50135
57	〃	〃	(26)	15	6	(1.8)	〃	〃		50133
58	〃	〃	40	14	6	2.5	〃	〃		52301
59	〃	〃	38	16	6	1.9	〃	Ac		50120
60	〃	〃	30	18	7	2.8	〃	Ae		50142
61	〃	〃	(30)	15	5	(1.7)	〃	Aa	焼け	52289
62	〃	〃	(33)	13	8	(3.2)	〃	Ab		50167
63	〃	〃	56	36	11	19.6	細凝	Gb		40236

76図 第440号住居跡出土遺物 (6)

第441号住居跡 (77図)

〔位置と確認〕 VI B-119・120に位置する。第Ⅲ層上面で床面の一部を確認した。

〔重複〕 なし。一部で風倒木による攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 床面はほぼ平坦で、堅緻である。

〔壁溝〕 検出されなかった。

〔柱穴〕 床面上に2個確認された。それぞれのピットの深さは、 P_1 …37cm、 P_2 …24cmである。

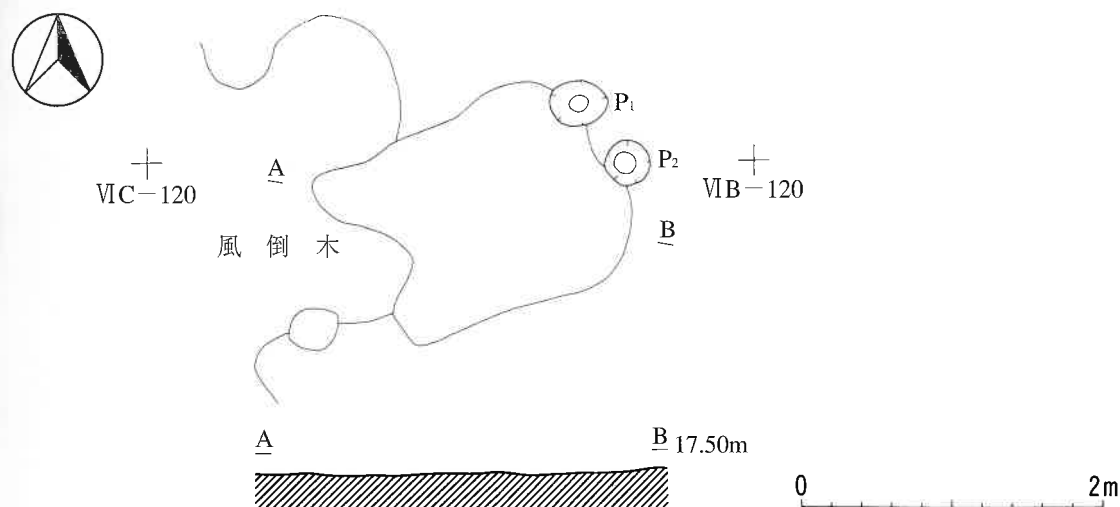
〔炉〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、詳細は不明である。

(斎藤 岳)



77図 第441号住居跡

第442号住居跡 (78図～81図)

〔位置と確認〕 VT-117・118に位置する。第380号住居跡の貼り床の下に確認した。

〔重複〕 第380号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある不整形である。規模は長軸 3 m23cm、短軸 3 mで、床面積は6.44m²である。範囲は堆積土や第380号住居跡の貼床のレベルや床面の状況から判断したが南側は第380号住居跡の構築時に若干の拡張を受けている可能性がある。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ちあがる。壁高は東壁10cm、西壁4cm、南壁14cm、北壁6cmである。床面はほぼ平坦であるが炉の周辺は約3cmほど窪む。

〔柱穴〕 床面上に7個確認された。ピットの深さは、 P_1 …36cm、 P_2 …27cm、 P_3 …28cm、 P_4 …23cm、 P_5 …23cm、 P_6 …19cm、 P_7 …35cmである。

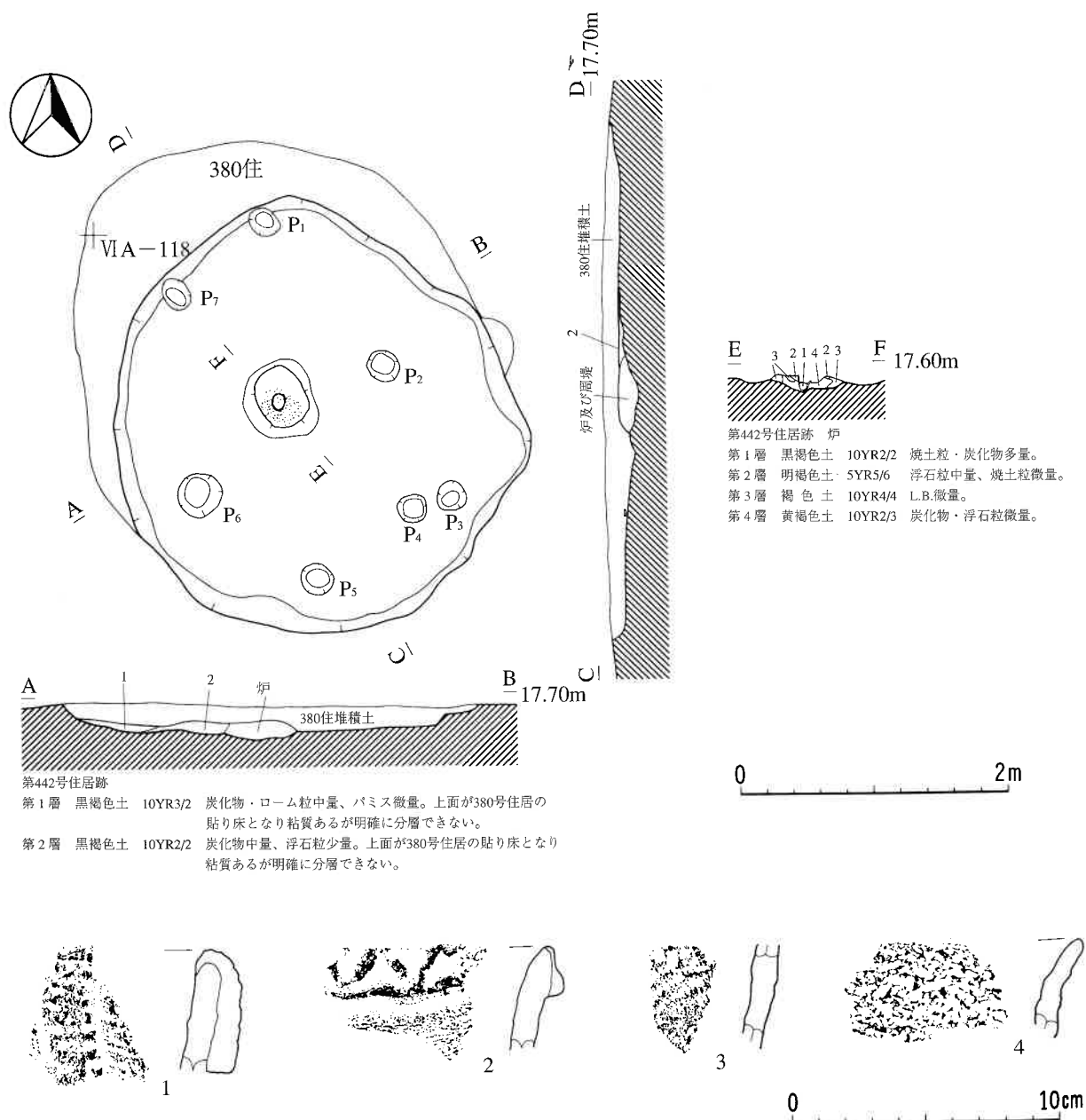
〔炉〕 床面中央に土器埋設炉を検出した。周堤を伴い、規模は長軸60cm、短軸56cmである。

〔堆積土〕 2層に分層した。自然堆積か人為堆積かは不明である。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅱ群5類・第Ⅲ群4類土器が出土した。堆積土からも第Ⅱ群5類・第Ⅲ群4類を主体とする土器、石鏃、石匙、石錐、スクレイパー類、R.フレイク、敲磨器類などが出土した。埋設炉の土器は図示できなかったが、第Ⅲ群4類である。

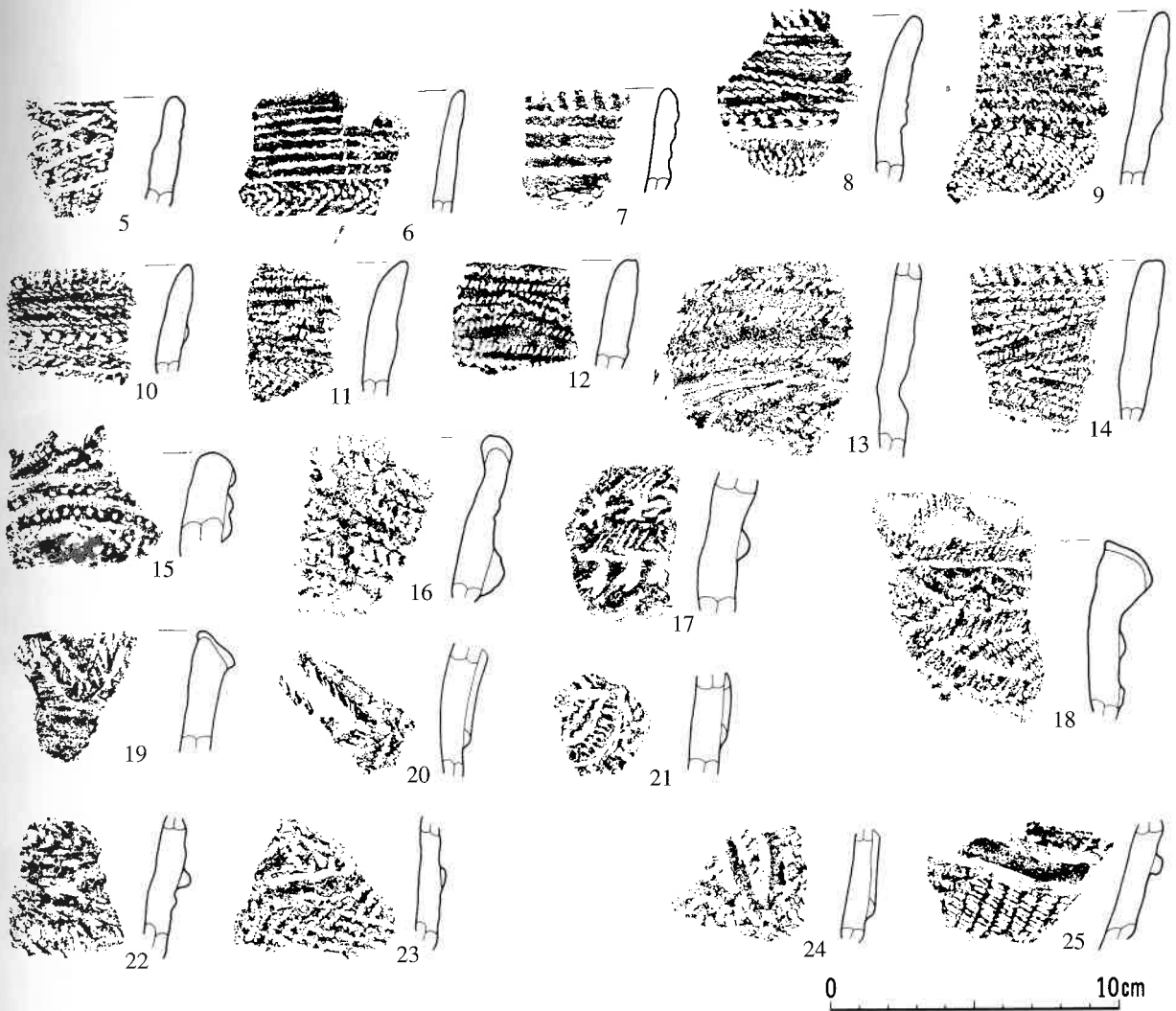
〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）である。

（斎藤 岳）



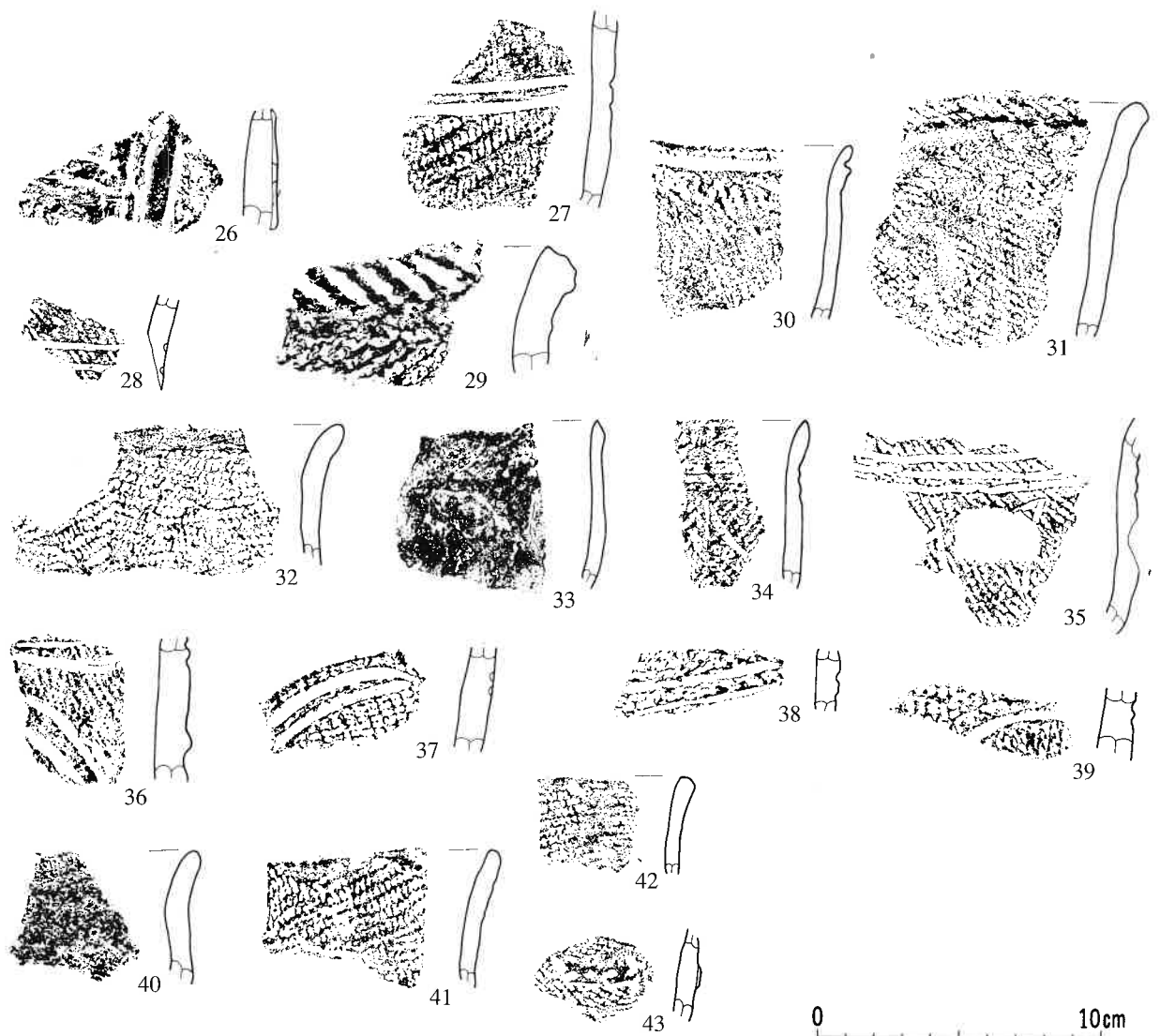
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	442住	床直	貼付 (R押)			ミガキ	Ⅱ-5-2		
2	〃	〃	貼付			〃	Ⅲ-4		
3	〃	〃		結束第一種		〃	Ⅲ-6		
4	〃	堆積土	R結回			〃	Ⅱ-2		

78図 第442号住居跡・出土遺物 (1)



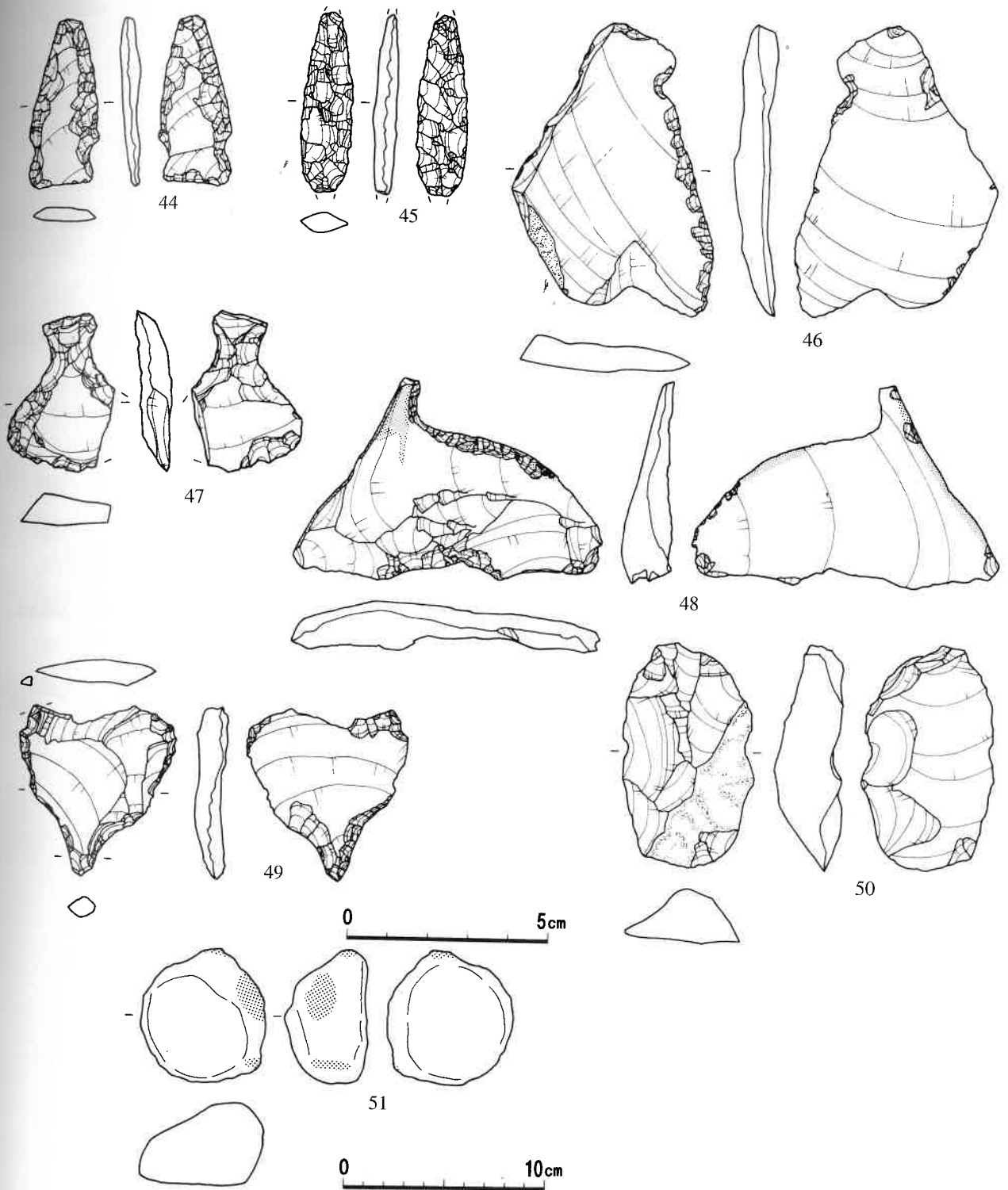
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
5	442住	堆積土	R単絡5			〃			
6	〃	〃	LR押	結束第一種		〃	II-5-1		
7	〃	〃	〃			〃	〃	口唇上面にもLR押	
8	〃	〃	〃、刺突	多軸絡?		〃	〃	〃	
9	〃	〃	〃	LR		〃	〃	〃	
10	〃	〃	〃、貼付(刺突)			ミガキ	〃	〃	
11	〃	〃	R単絡1押	LR		〃	〃		
12	〃	〃	〃			〃	〃		
13	〃	〃	R押	LR		〃	II-5-2	頸部くびれ	
14	〃	〃	LR・単絡1押			〃	〃	口唇部上面単絡1押	
15	〃	〃	R単絡1押、貼付(刺突)			〃	〃		
16	〃	〃	LR押、貼付(刺突)、刺突			〃	〃		
17	〃	〃	貼付(L押)、刺突			〃	III-3		
18	〃	〃	貼付(L単絡1)	結束第一種、貼付(L単絡1)		〃	III-4		
19	〃	〃	〃(刻み)			〃	〃		
20	〃	〃		結束第一種、貼付(刻み)		〃	〃		
21	〃	〃		〃、〃		〃	〃		
22	〃	〃		〃、貼付		〃	〃		
23	〃	〃		〃		〃	〃		
24	〃	〃		〃		〃	〃		
25	〃	〃		LR、貼付		〃	〃		

79図 第442号住居跡出土遺物(2)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
26	442住	堆積土		貼付		ミガキ		Ⅲ-4	
27	〃	〃		LR、沈線		〃		Ⅲ-5	
28	〃	〃		RL、〃		〃		〃	
29	〃	〃	LR押、LR			〃		Ⅲ-6	
30	〃	〃	沈線、RL			〃		〃	
31	〃	〃	刻み、〃			〃		〃	
32	〃	〃	LR			〃		Ⅲ-6	
33	〃	〃	無文			〃		〃	
34	〃	〃	LR? 沈線			〃		Ⅲ-8	
35	〃	〃		LR、沈線		〃		〃	
36	〃	〃		RL、〃		〃		〃	
37	〃	〃		LR、〃		〃		〃	
38	〃	〃		〃、〃		〃		〃	
39	〃	〃		R単緒1、〃		〃		〃	
40	〃	〃	無文			〃		Ⅲ-11	
41	〃	〃	RL			〃		〃	
42	〃	〃	〃			〃		〃	
43	〃	〃	〃、貼付(刺突)			〃		〃	

80図 第442号住居跡出土遺物 (3)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
44	442住	堆積土	42	18	5	3.4	珪頁	Ad		40222
45	〃	〃	(44)	12	6	(3.2)	〃	Ab		40228
46	〃	〃	73	50	11	24.8	〃	Ca		40223
47	〃	〃	40	(28)	9	(8.3)	〃	Cb		40224
48	〃	〃	50	70	12	19.8	〃	Ga	石匙?	40346
49	〃	〃	43	40	8	8.4	〃	Db		40312
50	〃	〃	56	33	17	27.7	〃	Gb		43272
51	〃	〃	66	62	41	190.4	安	Ib		44200

81図 第442号住居跡出土遺物 (4)

第444号住居跡 (82図)

〔位置と確認〕 VI J・K-109・110に位置する。第Ⅲ層上面で炉跡と床面の一部を確認した。

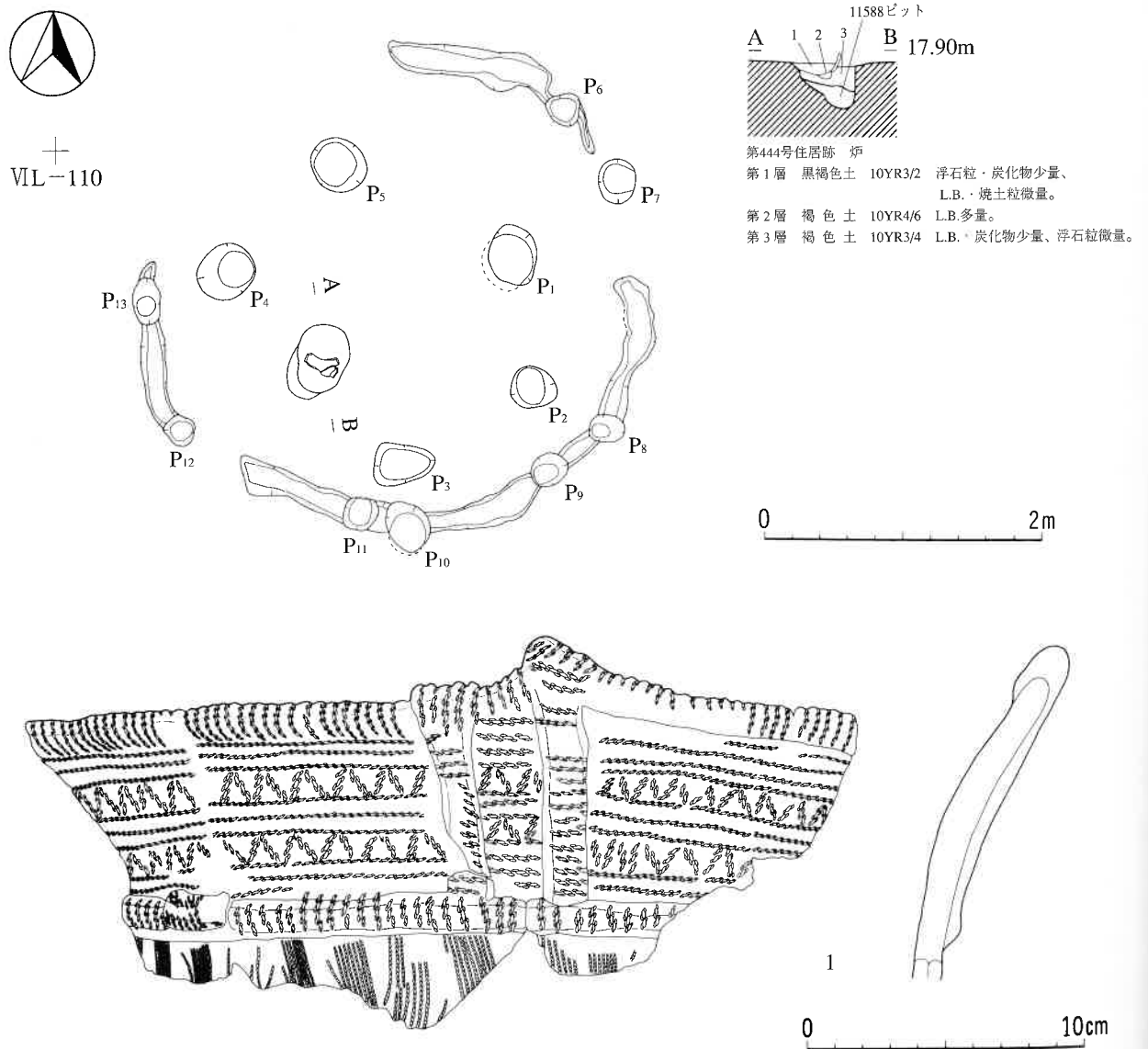
〔重複〕 調査区中央の掘立柱建物跡の柱穴群と重複する。第11589・11591・11592・11607・11608号ピットより古く、第11588・11590・11593・11594・11598・11609・11612・11617・11618・11620号ピットより新しい。なお、重複遺構については、数が多いため図示していない。

〔平面形・規模〕 平面形は北東-南西に長軸のある不整円形である。規模は長軸 3 m30cm、短軸 3 m10cmで、床面積は10.2m²と推定される。

〔壁・床面〕 床面はほぼ平坦であり、炉の周辺から北東側にかけて特に堅緻である。

〔壁溝〕 幅15~25cm、深さ5~20cmの壁溝が確認された。

〔柱穴〕 13個確認された。それぞれのピットの深さは、P₁…39cm、P₂…53cm、P₃…19cm、P₄…



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	444住炉		貼付(LR単絡1)、LR、RL	貼付、単絡1A		ミガキ	Ⅲ-1		

82図 第444号住居跡・出土遺物

50cm、P₅…38cm、P₆…26cm、P₇…31cm、P₈…32cm、P₉…39cm、P₁₀…30cm、P₁₁…19cm、P₁₂…55cm、P₁₃…24cmである。いずれも柱痕跡は確認できない。

[炉] 土器埋設炉を検出した。掘り方の規模は長軸47cm、短軸38cmである。

[堆積土] 確認できなかった。

[出土遺物] 埋設炉の土器は第Ⅲ群1類である。

[時期] 炉に使用された土器から、縄文時代中期初頭（円筒上層a式期）である。

(斎藤 岳)

第445号住居跡 (83図)

[位置と確認] VIC-117・118に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第433号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 不明である。

[壁・床面] 壁高は西壁5cm、南壁2cmである。床面はほぼ平坦である。

[柱穴] 床面上に4個確認された。それぞれのピットの深さは、P₁…16cm、P₂…20cm、P₃…52cm、P₄…54cmである。

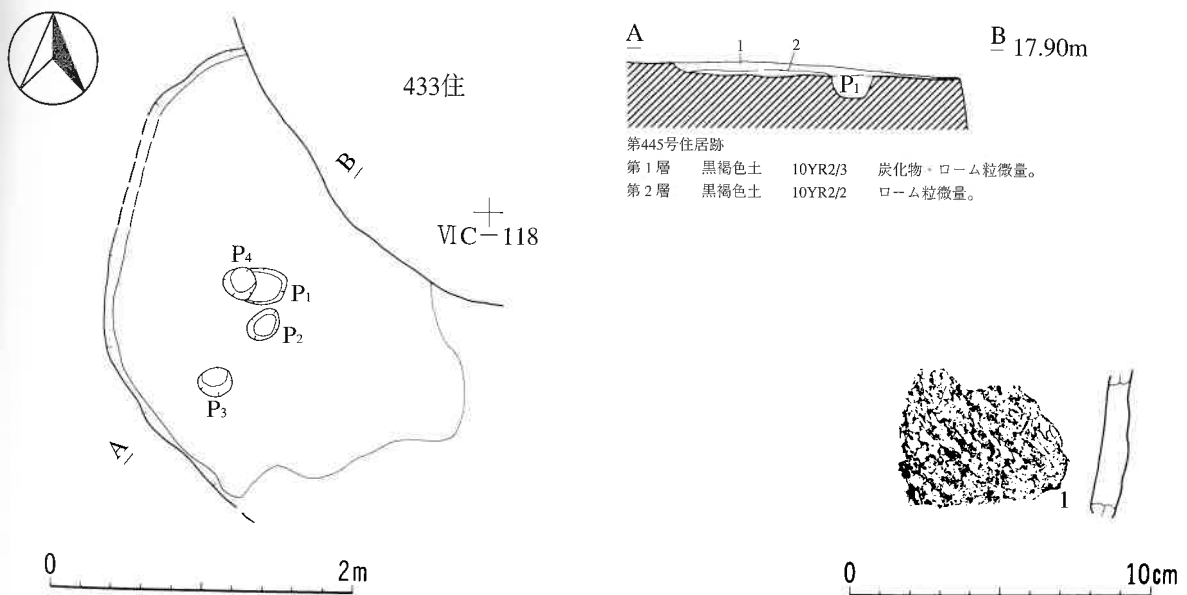
[炉] 検出されなかった。

[堆積土] 2層に分層した。自然堆積と考えられる。

[出土遺物] 堆積土から第Ⅱ群6類土器の小片が出土した。

[時期] ピット堆積土出土土器から、縄文時代前期と考えられる。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	445住ピット1	堆積土		RLR?		ミガキ		Ⅱ-6	

83図 第445号住居跡・出土遺物

第446号住居跡（84図・237図）

〔位置と確認〕 VI G-115・116に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の円形の落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

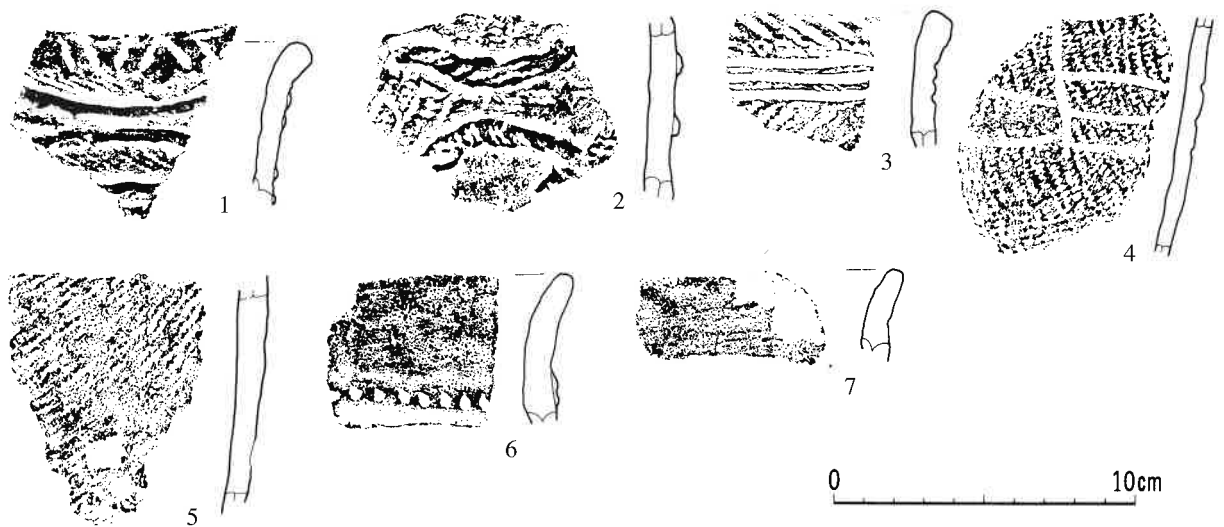
〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある楕円形である。規模は確認面で長軸 4 m25cm、短軸 4 m16cmである。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅲ群4・5・6・11類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため、詳細は不明である。

（斎藤 岳）



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	446住	確認面	RL押	貼付		ミガキ		Ⅲ-4	
2	〃	〃		RL、貼付（LR押）		〃		〃	
3	〃	〃	LR押	LR、沈線		〃		Ⅲ-5	
4	〃	〃		RL、〃		〃		〃	
5	〃	〃			LR	〃		Ⅲ-6	
6	〃	〃	無文	貼付（刺突）		〃		Ⅲ-11	7と同一個体
7	〃	〃	〃			〃		〃	

84図 第446号住居跡出土遺物

第447号住居跡（85図）

〔位置と確認〕 VI H-114・115に位置する。南盛土精査中に炉跡と床面の検出により確認した。

〔重複〕 なし。西側はトレンチにより削平されている。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 床面はほぼ平坦であり、炉の周辺には貼り床がみられる。

〔柱穴〕 床面上に1個確認された。ピットの深さは、P1…13cmである。

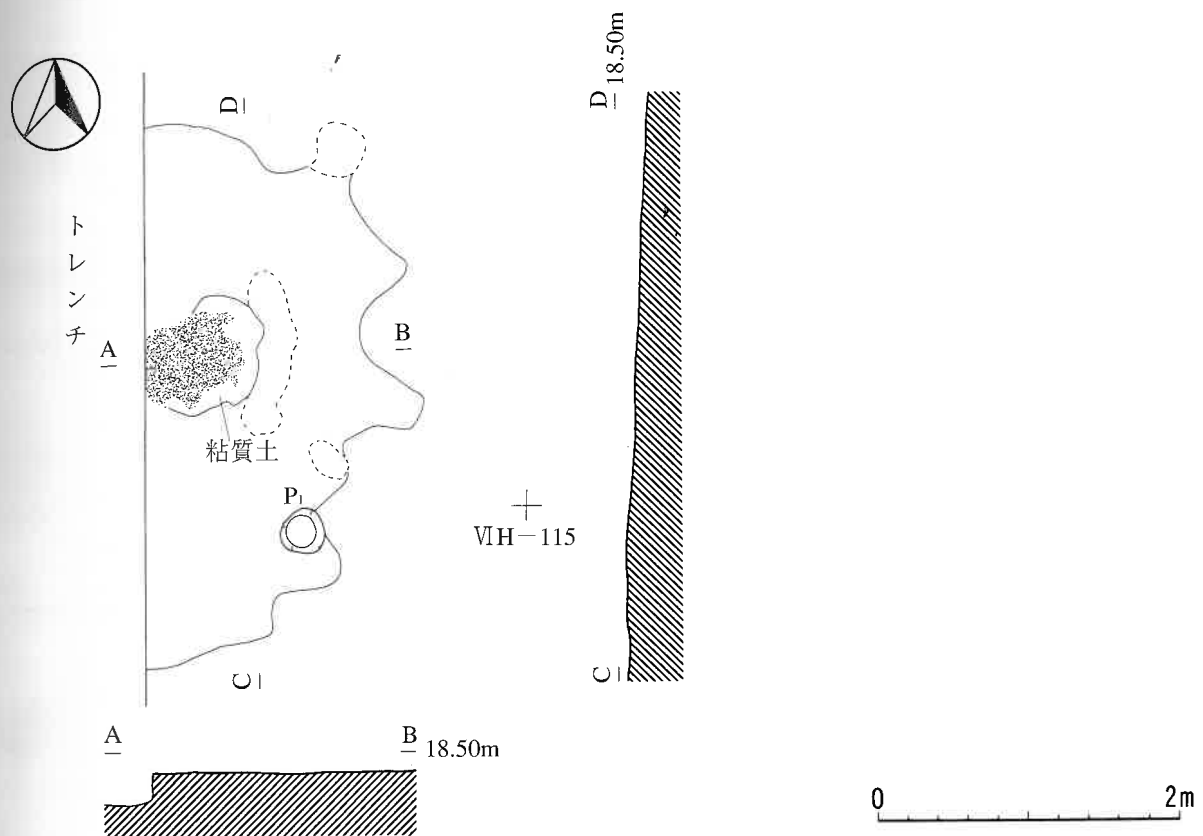
〔炉〕 地床炉を検出した。火焼面の周囲には灰色（5Y6/1）の粘質土がみられた。

〔堆積土〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、詳細は不明である。

(斎藤 岳)



85図 第447号住居跡

第448号住居跡 (86図)

〔位置と確認〕 VI I・J-113・114に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。ただし一部攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある楕円形と考えられる。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁3cm、西壁6cm、南壁4cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱穴〕 16個確認された。それぞれのピットの深さは、P₁…50cm、P₂…22cm、P₃…34cm、P₄…62cm、P₅…26cm、P₆…43cm、P₇…64cm、P₈…68cm、P₉…46cm、P₁₀…19cm、P₁₁…33cm、P₁₂…43cm、P₁₃…21cm、P₁₄…41cm、P₁₅…22cm、P₁₆…19cmである。

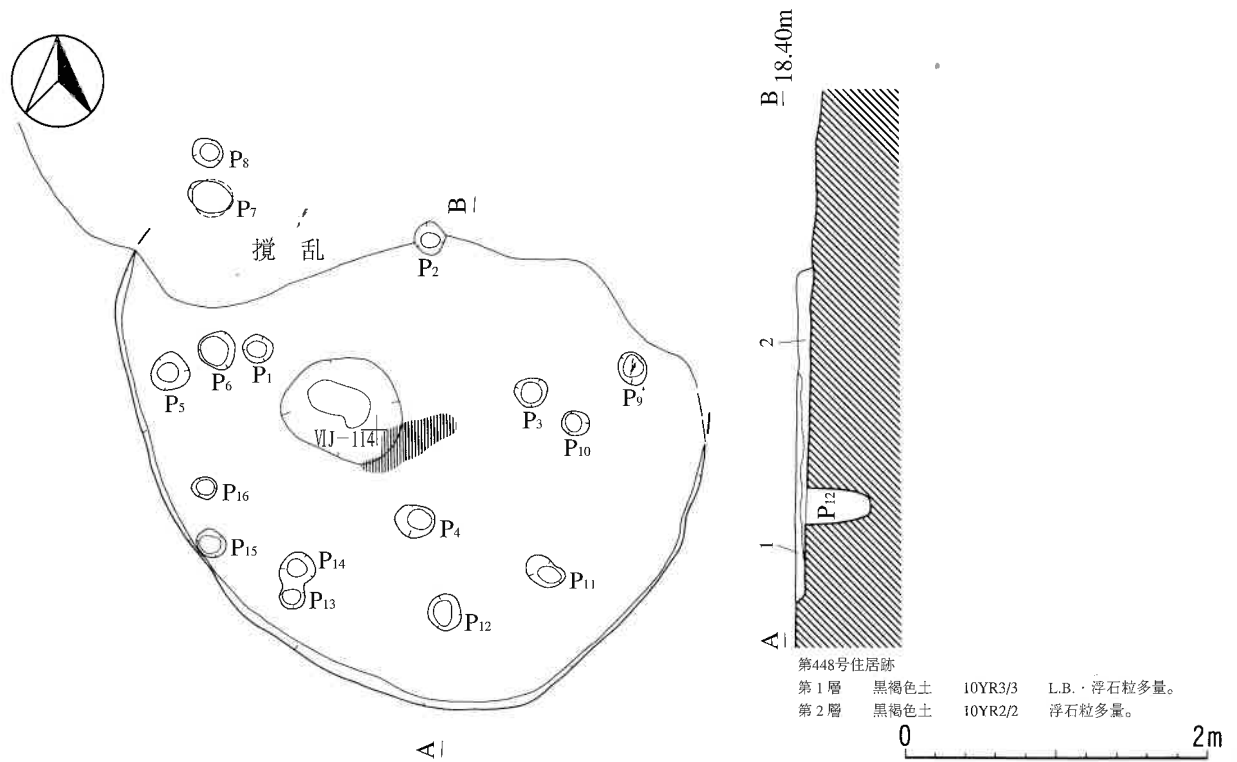
〔炉〕 床面中央からやや南西側に地床炉を検出した。規模は長軸80cm、短軸65cm、深さ6cmである。また、炉の東側床面には炭化物が付着していた。

〔堆積土〕 2層に分層した。人為堆積か自然堆積かは不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、詳細は不明である。

(斎藤 岳)



86図 第448号住居跡

第449号住居跡 (237図)

〔位置と確認〕 VI J - 118に位置する。南盛土トレンチ内で落ち込みを確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第450号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)

第450号住居跡 (87図・237図)

〔位置と確認〕 VI I ・ J - 118に位置する。南盛土トレンチ内で落ち込みを確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていないが、部分的に床面を検出し、床面直上土器と復元可能土器の取りあげを行った。

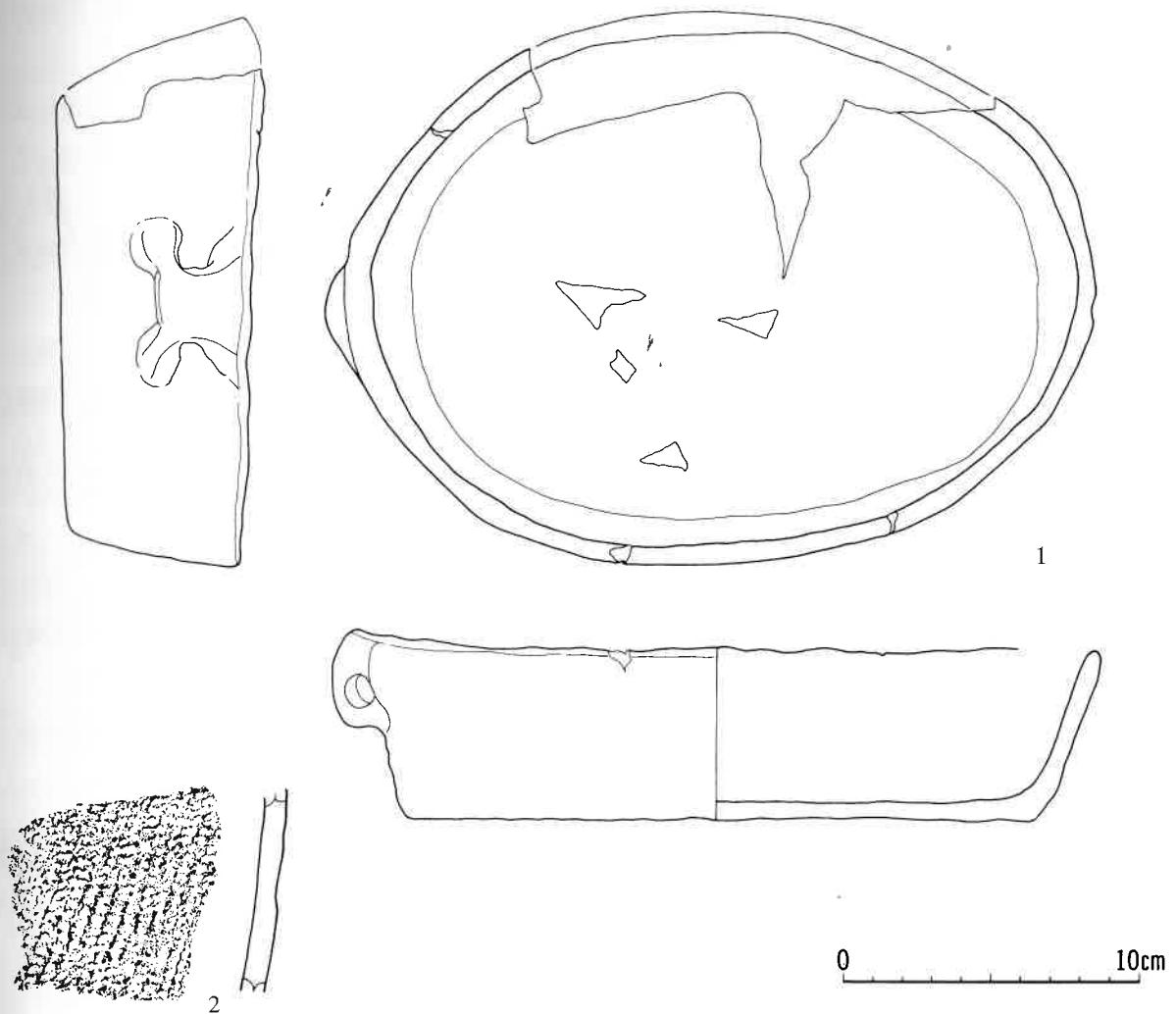
〔重複〕 第449号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 床面直上から第II群6類土器が、堆積土から橋状把手がついた皿形土器が出土した。

〔時期〕 床面直上出土土器から、縄文時代前期と考えられる。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	450住	堆積土	無文		無文	ミガキ	無文	Ⅲ-6	把手付皿形
2	〃	床直		LR		〃		Ⅱ-6	

87図 第450号住居跡出土遺物

第451号住居跡 (88図～91図)

〔位置と確認〕 VI F-91に位置し、先行トレンチを入れたところ壁と床面の一部を確認した。

〔重複〕 第394・395号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 東側は精査を行っていないため、全体の平面形は不明であるが、北西-南東に長軸のある楕円形と考えられる。残存部分の規模は長さ1 m60cm、幅2 m40cmである。

〔壁・床面〕 西壁、北壁と南壁の一部のみ検出した。各壁ともに外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は西壁21cm、南壁18cm、北壁5cmである。床面はほぼ平坦であり、貼り床が施され堅緻である。南側は一段高くなったテラス状となる。

〔柱穴〕 柱穴が検出されたが明確に主柱穴と断定できるものはない。ピットの深さは、P₁…6cm、P₂…44cmである。

〔炉〕 床面のほぼ中央から土器埋設炉を検出した。土器は下半部を使用し、掘り方の規模は直径約35cm、深さ12cmである。

〔その他の施設〕 長軸線上西壁の中間から、付属施設が検出された。小ピットを持ち、その周りは地山を土堤状に掘り残し、さらに薄く粘土を盛ったものである。小ピットは直径30cm、深さ15cmである。堆積土には炭化物が少量含まれる。

〔堆積土〕 7層に分層した。人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロック・炭化物を含む。

〔出土遺物〕 床面直上から石匙、敲磨器類などが、堆積土から第Ⅱ群5類土器、第Ⅲ群1・2類土器、石鏃、石槍、スクレイパー類、R.フレイク、敲磨器類などが出土した。20は浮線文が施文された異系統の土器片である。32は、安山岩の小礫に剥離加工がみられるものである。右側縁は直線状であり、両極打法が用いられた可能性がある。埋設炉の土器は図示できなかった。

〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代中期初頭から前葉（円筒上層a～b式期）に近い時期と考えられる。

（岡田 康博）

第452号住居跡（92図～102図）

〔位置と確認〕 VI F・G-91・92に位置し、先行トレンチを入れたところ、壁の一部を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 東側は精査を行っていないため、全体の平面形は不明であるが、北西-南東に長軸のある楕円形ないしは隅丸長方形と考えられる。残存部分の規模は長さ5m、幅3m70cmである。

〔壁・床面〕 西壁、北壁と南壁の一部のみ検出した。各壁ともに外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は西壁29cm、南壁21cm、北壁10cmである。床面はほぼ平坦であり、堅緻である。

〔柱穴〕 明確に支柱穴と断定できるものはないが、P₁・P₂は支柱穴の可能性がある。ピットの深さは、P₁…54cm、P₂…35cmである。また、壁際から壁柱穴が検出された。直径5cm～20cm、深さ9cm～30cmである。

〔炉〕 床面のほぼ中央から掘り方を持つ地床炉を検出した。掘り方の規模は70cm×60cm、深さ5cmである。堆積土には焼土、炭化物を含む。明確な火焼面は確認できなかった。

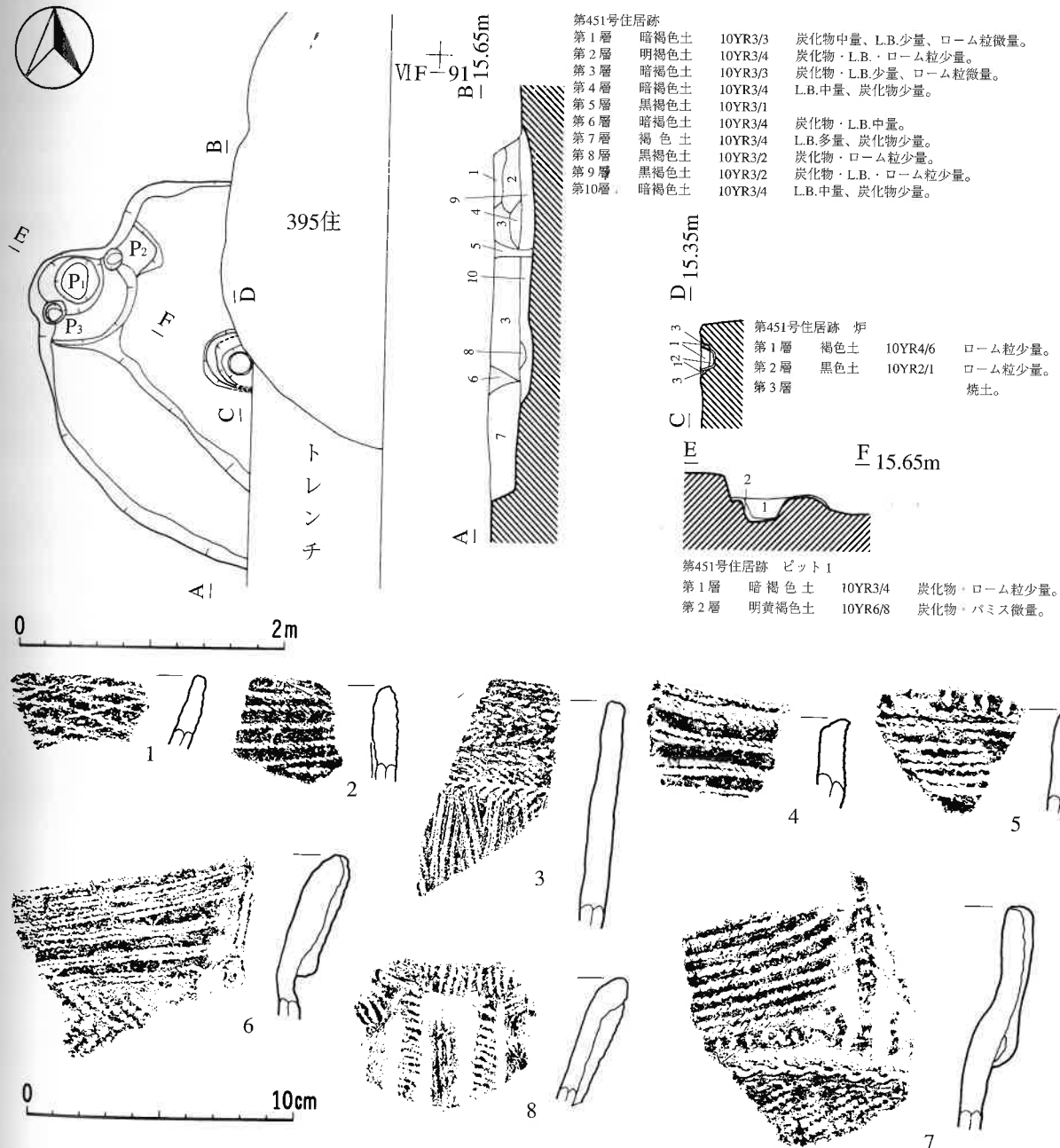
〔その他の施設〕 南側からピットが検出された。規模は1m8cm×97cm、深さ4cmである。堆積土には炭化物が少量含まれる。

〔堆積土〕 11層に分層した。人為的積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロック・炭化物を含む。

〔出土遺物〕 堆積土中から復元可能な土器を含む多量の土器が出土した。このうち、第6・7層では第Ⅱ群3類土器が、第3・4層では第Ⅱ群3・5類土器が、第1層では第Ⅱ群5類土器が出土した。石器は床面直上から敲磨器類などが、7層から敲磨器類、挟入扁平磨製石器などが、3層から角柱状の礫石器などが出土した。その他の堆積土から石鏃、石匙、スクレイパー類、敲磨器類、挟入扁平磨製石器などが出土した。

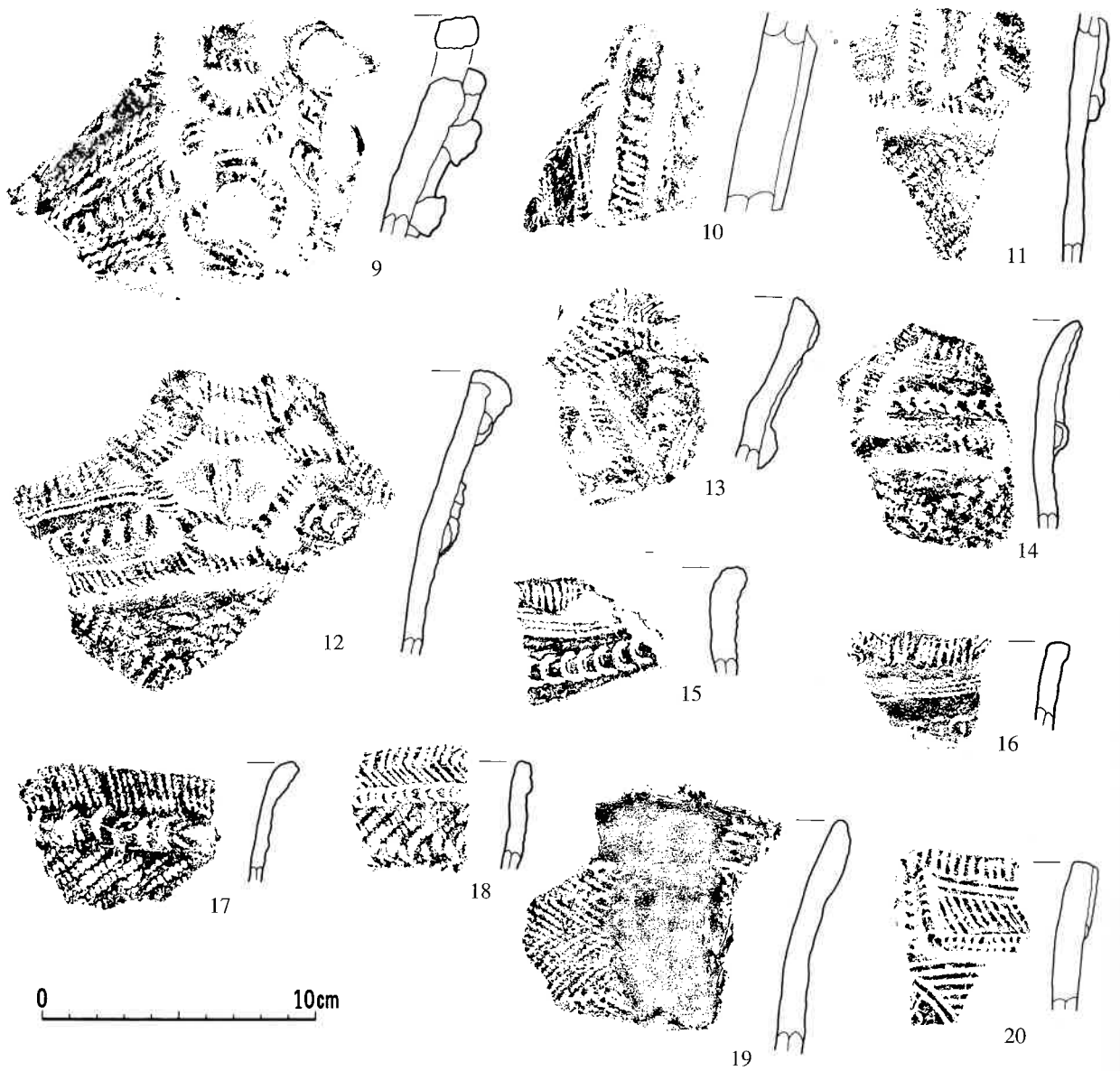
〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代前期中葉（円筒下層b式期）に近い時期と考えられる。

（岡田 康博）



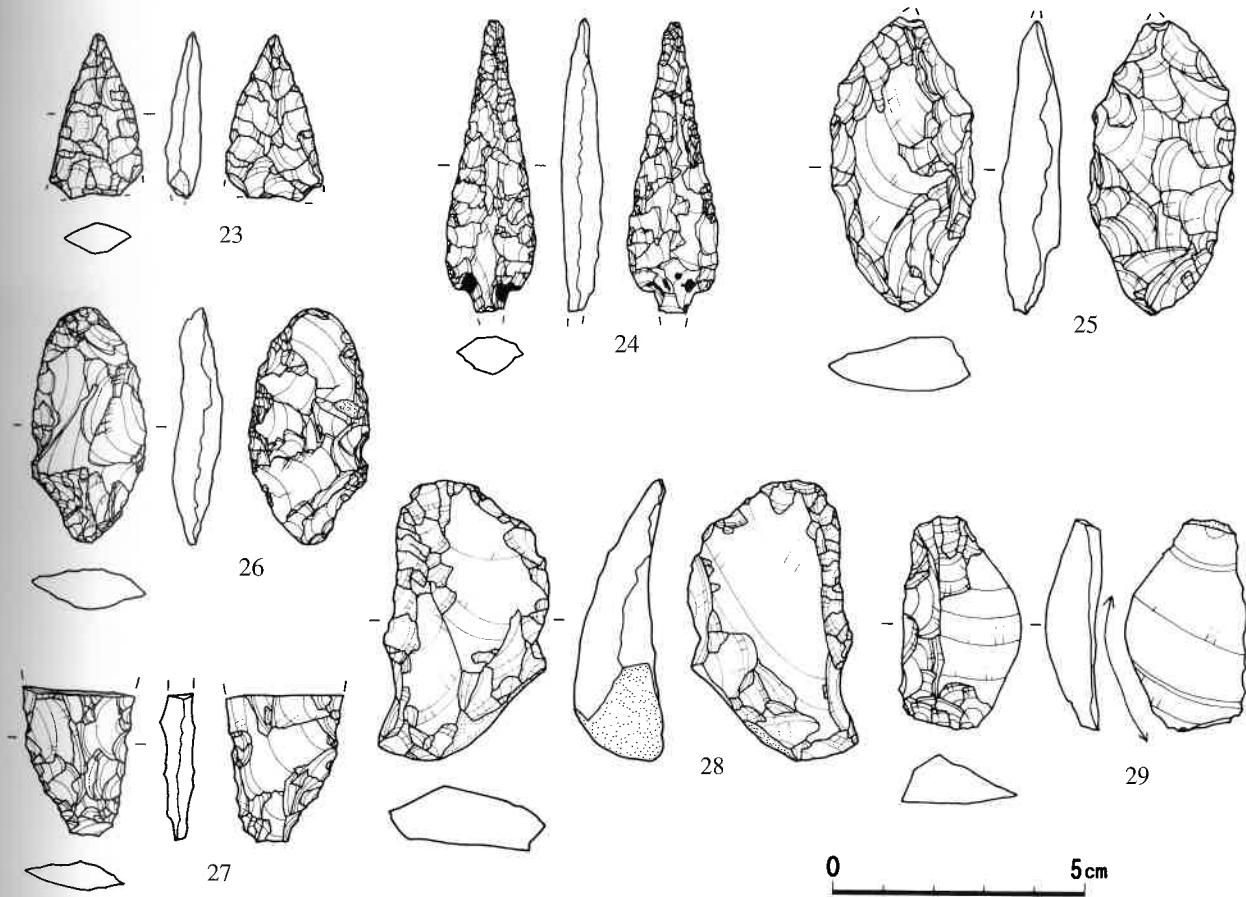
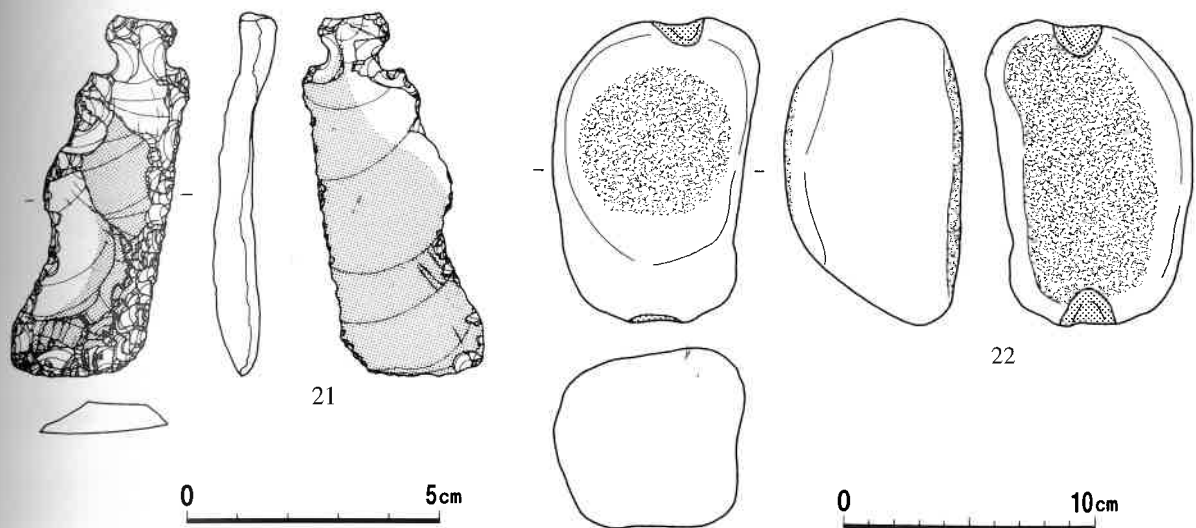
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	451住	堆積土	R単絡5			ミガキ	II-3		
2	〃	〃	L押			〃	II-5-1		
3	〃	〃	RL押、刺突	R単絡1A		〃	〃		
4	〃	〃	L押			〃	〃		
5	〃	〃	LR押			〃	〃		
6	〃	〃	貼付(L押),L押	LR		〃	II-5-2		
7	〃	〃	〃(刺突),R押	〃、R結回		〃	〃		
8	〃	〃	〃(L単絡1),L・R押			〃	III-1		

88図 第451号住居跡・出土遺物(1)



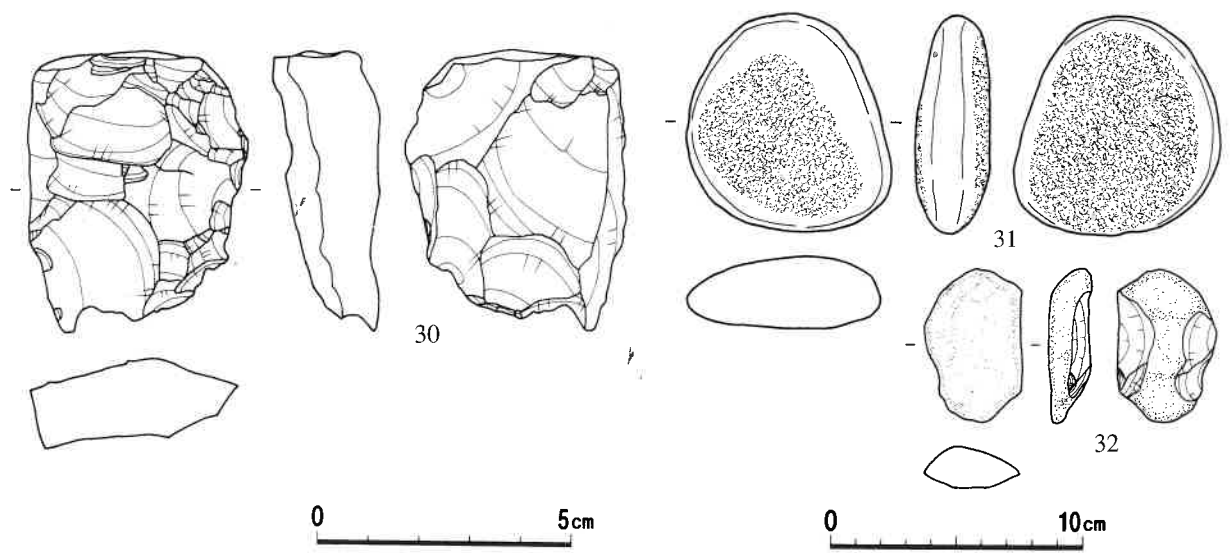
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
9	451住	堆積土	貼付(R押)、R押			ミガキ	Ⅲ-1		
10	〃	〃	〃(L単絡1)、〃			〃	〃		
11	〃	〃	〃(〃)、L押	結束第一種		〃	〃		
12	〃	〃	〃(〃)、〃	〃		〃	Ⅲ-2		
13	〃	〃	〃(〃)、〃	〃		〃	〃		
14	〃	〃	〃(〃)、〃	〃		〃	〃		
15	〃	〃	L単絡1、L押			〃	〃		
16	〃	〃	〃、〃			〃	〃		
17	〃	〃	〃、〃	LR?		〃	〃		
18	〃	〃	〃、〃	結束第一種		〃	〃		
19	〃	〃	LR押	〃		〃	Ⅱ-5-1	二又状頂部から粘土塗布	
20	〃	〃	浮線文			〃	Ⅲ		

89図 第451号住居跡出土遺物 (2)



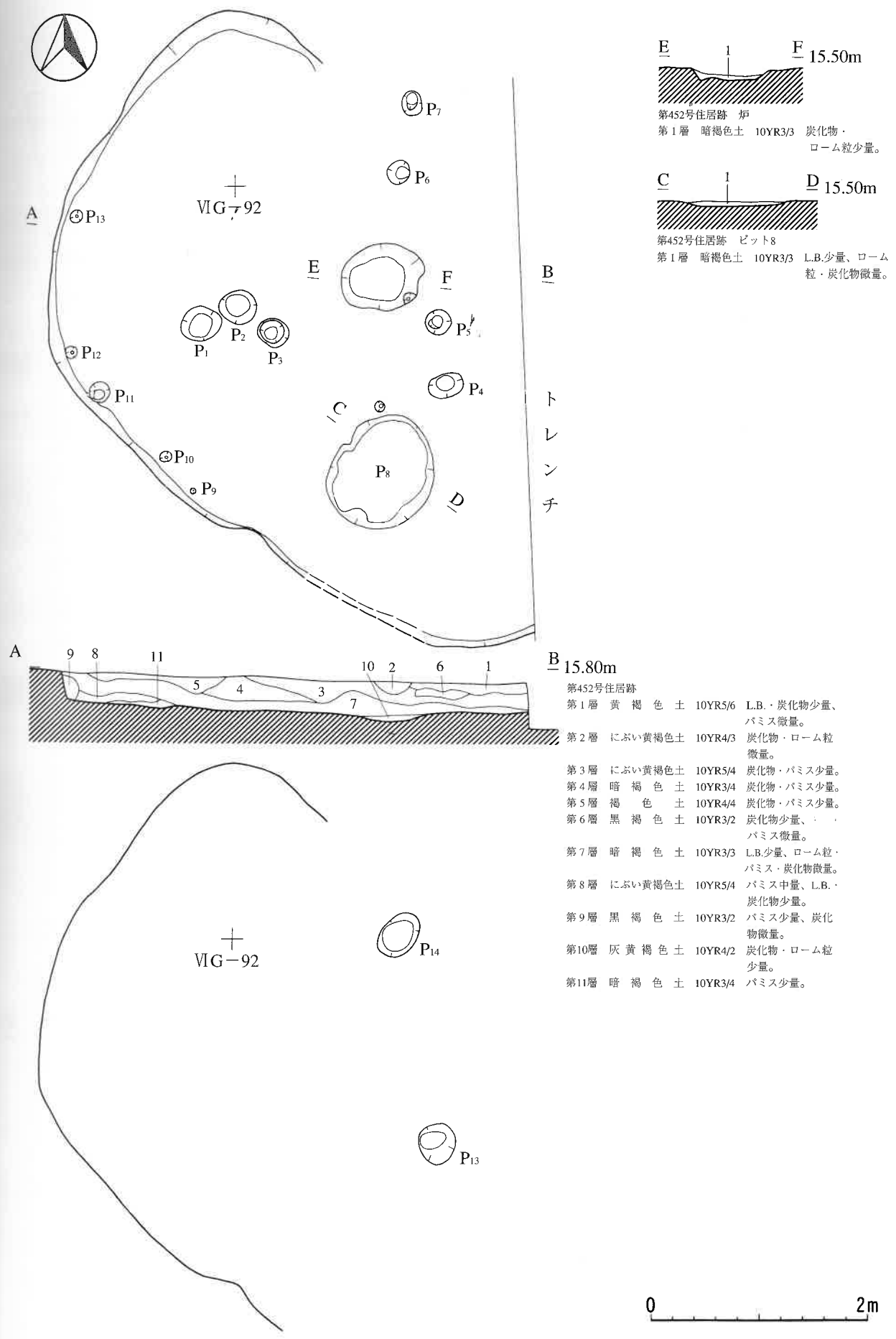
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
21	451住	床直	72	32	12	18.6	珪頁	Cc	S-5	51900
22	〃	〃	120	81	70	821.7	凝	Ic	石錘? S-8	42684
23	〃	堆積土	(33)	(19)	7	(3.3)	珪頁	Af		53009
24	〃	〃	(63)	18	8	(6.3)	〃	Aa	アスファルト付着	50146
25	〃	〃	(58)	29	12	(18.2)	〃	Ba		48029
26	〃	〃	47	22	10	9.8	〃	Bb	スクレイパー?	51867
27	〃	〃	(29)	(24)	(7)	(4.3)	〃	Ga		52317
28	〃	〃	55	32	18	26.0	〃	〃		40232
29	〃	〃	42	24	10	8.4	〃	〃		48482

90図 第451号住居跡出土遺物 (3)

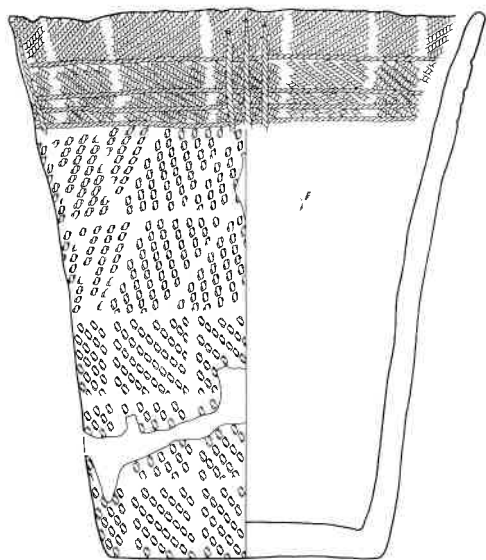


図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
30	451住	堆積土	55	43	21	44.9	珪頁	Gb		52190
31	〃	〃	85	80	29	268.5	安	lc		42683
32	〃	〃	60	39	17	51.9	〃	Q		42631

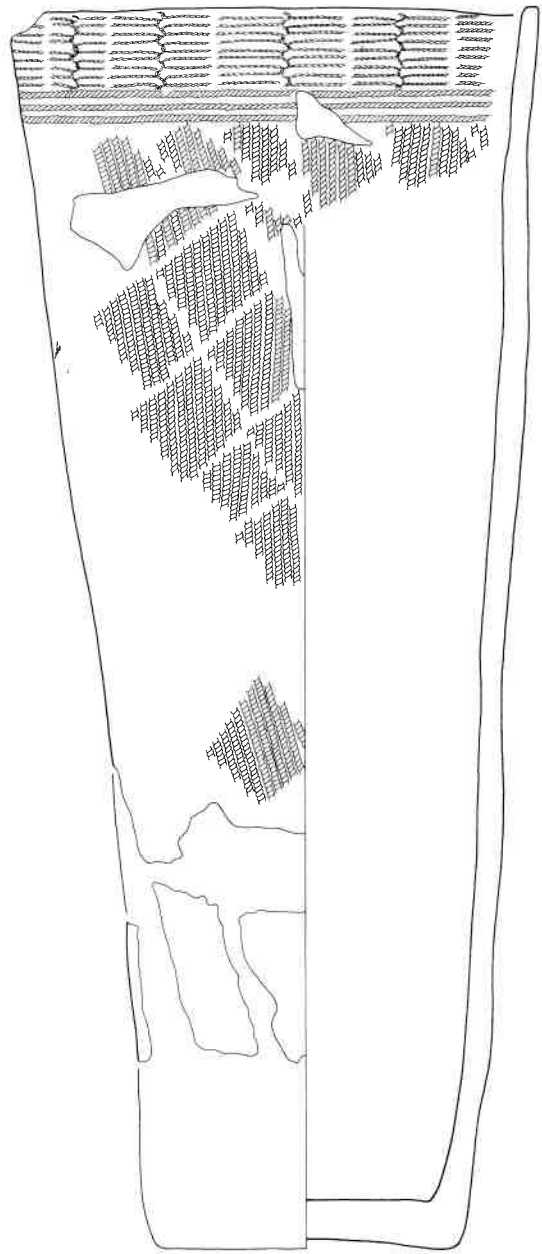
91図 第451号住居跡出土遺物 (4)



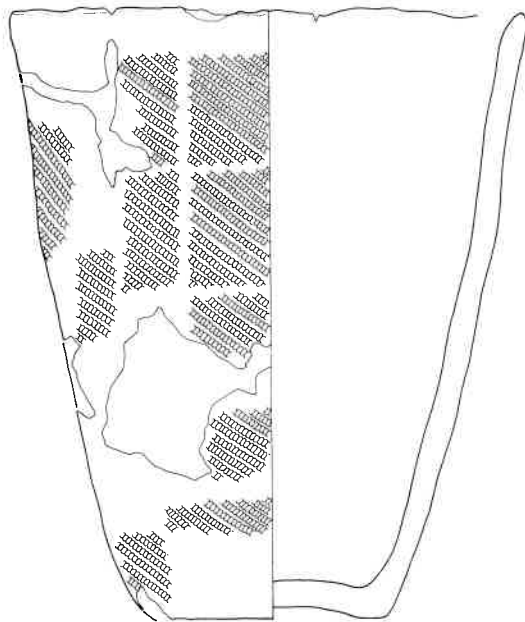
92図 第452号住居跡



1



2

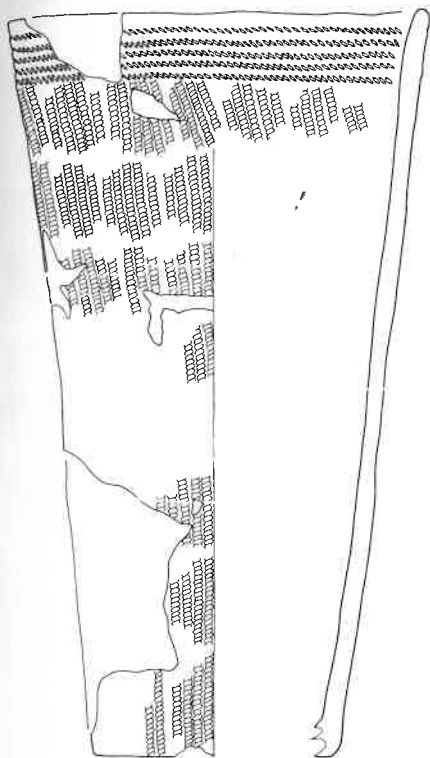


3

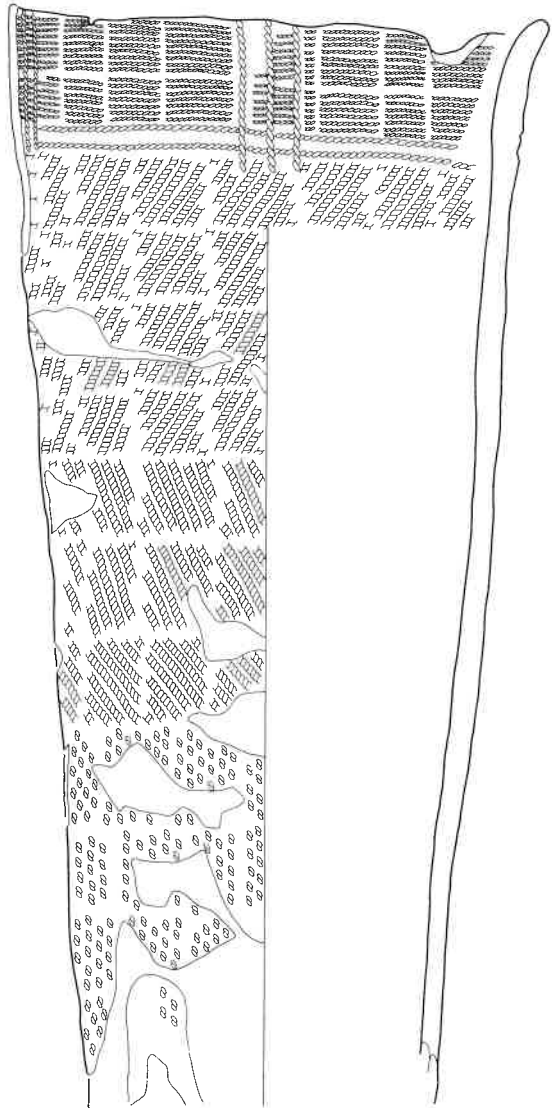
0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	452住	7	結束第一種? R押	RLR	RLR	ミガキ	無文	II-3	
2	〃	〃	R単絡6A	RL	RL	〃	〃	〃	
3	〃	〃	RL	〃	〃	〃	〃	II-6	

93図 第452号住居跡出土遺物 (1)



4

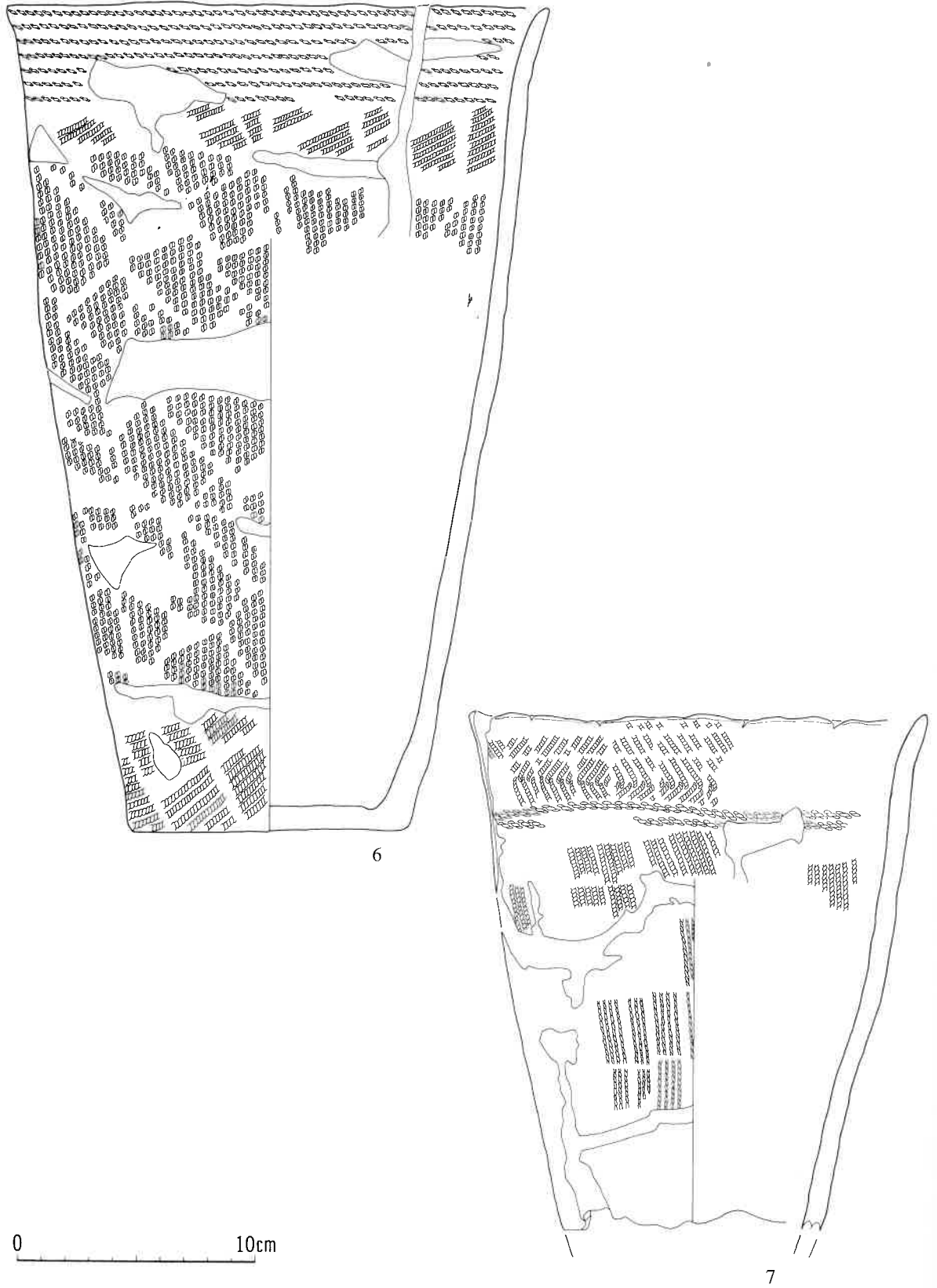


5

0 10cm

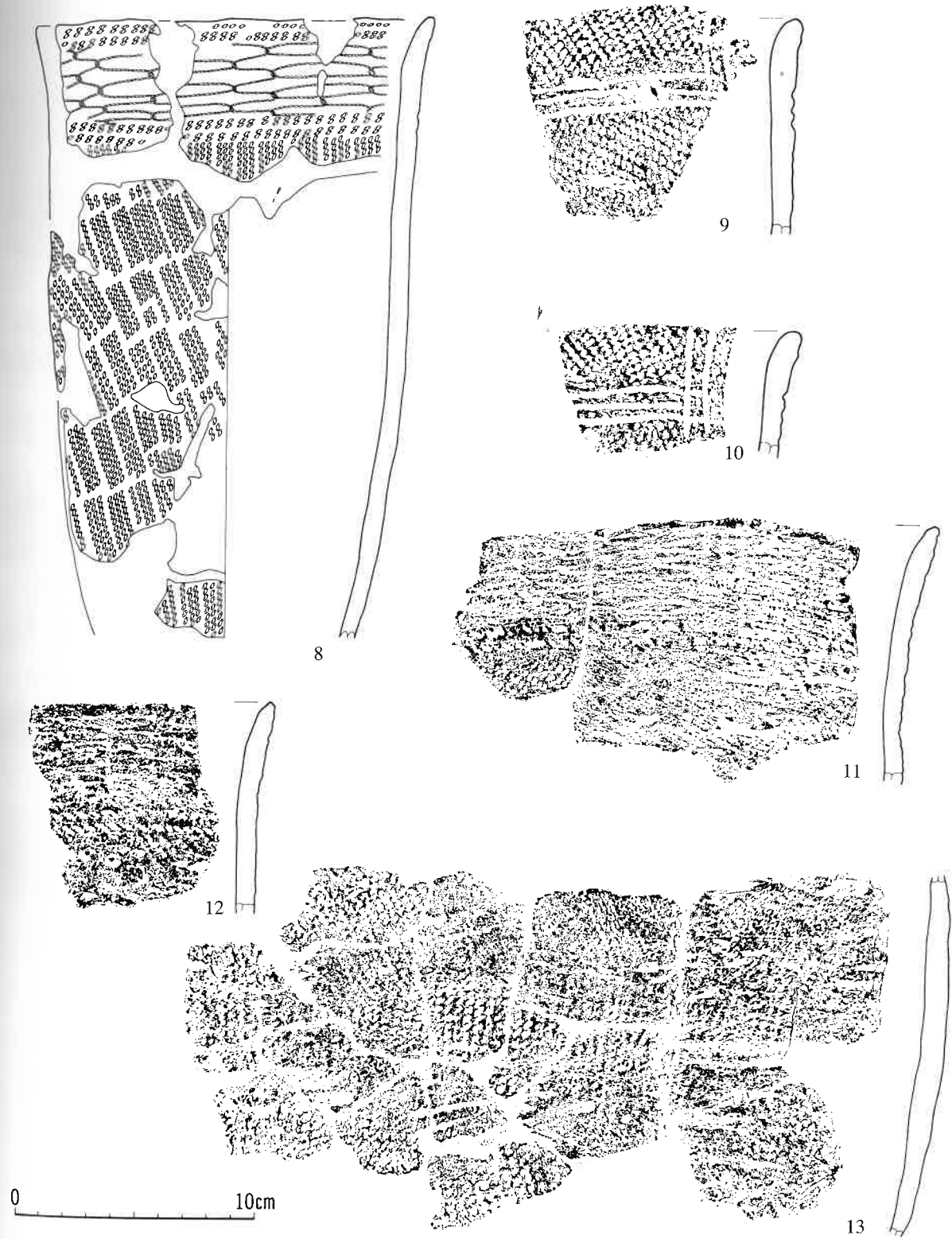
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
4	452住	6	LR押	RL	RL	ミガキ		II-5-1	
5	〃	〃	R単絡1	〃	RLR	〃		II-3	

94図 第452号住居跡出土遺物 (2)



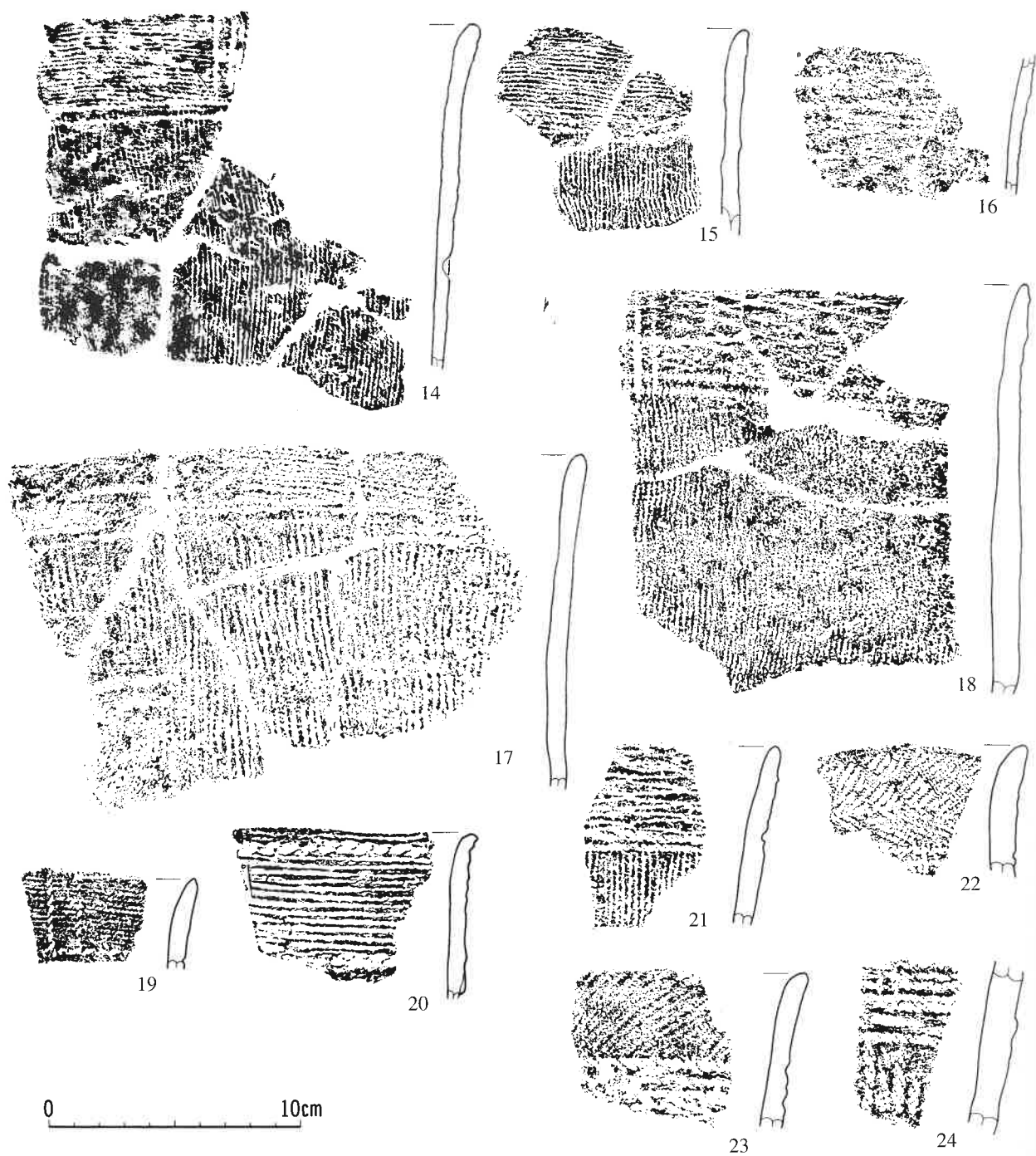
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
6	452住	4	LR押	LR、RLR	RLR	ミガキ	無文	II-5-1	
7	〃	3	結束第一種、LR押	RL	R単絡1	〃		II-4・5	

95図 第452号住居跡出土遺物 (3)



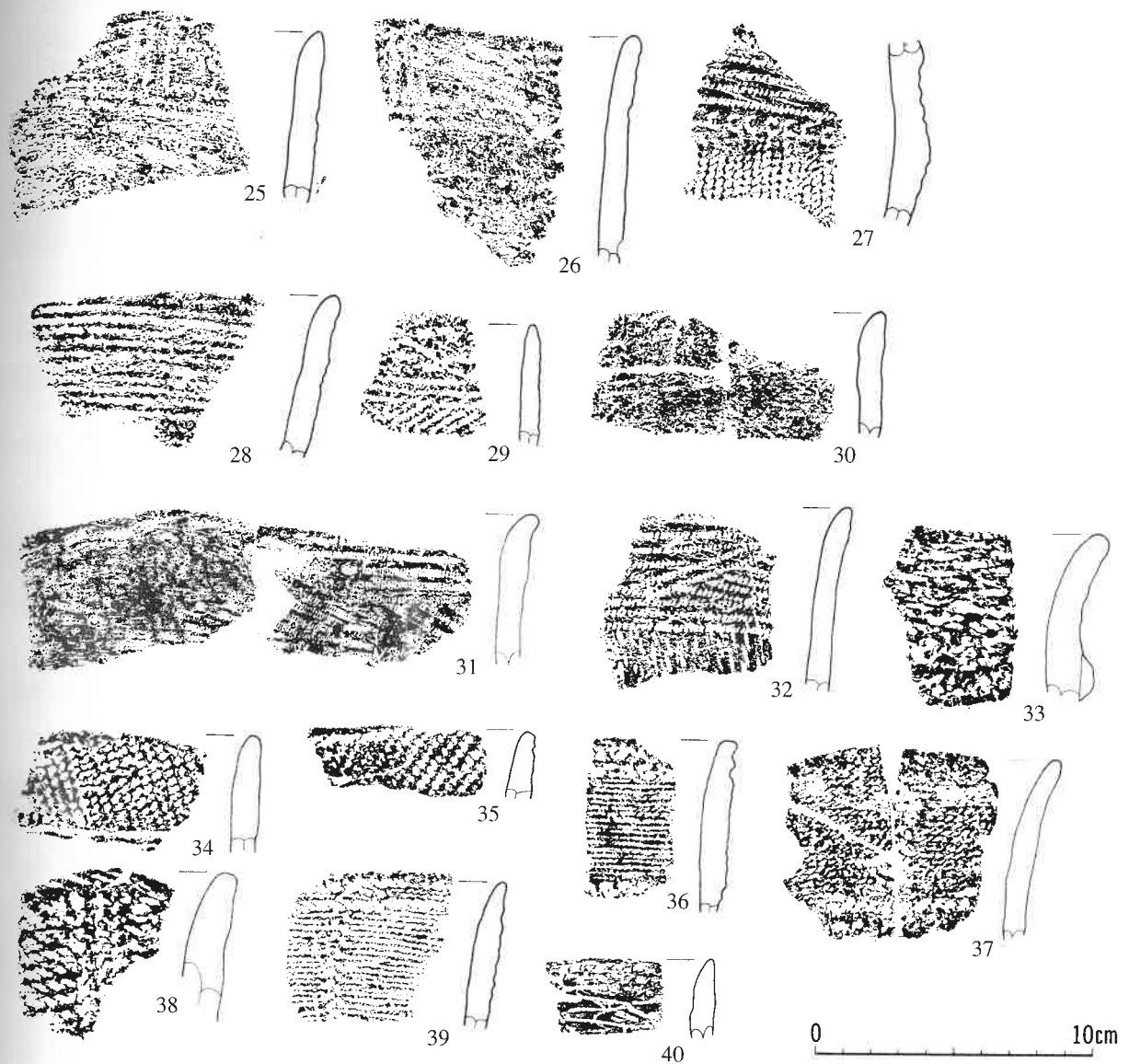
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
8	452住	3	R単絡6、RLR押	LR単絡1	LR単絡1	ミガキ		II-3	
9	〃	7	RL、RL押	RL		〃		10と同一個体	
10	〃	〃	〃、〃	〃		〃		〃	
11	〃	〃	R単絡6? LR押	RL?		〃		12と同一個体	
12	〃	〃	〃、〃	〃		〃		〃	
13	〃	5		RLR?		〃		II-6	

96図 第452号住居跡出土遺物 (4)



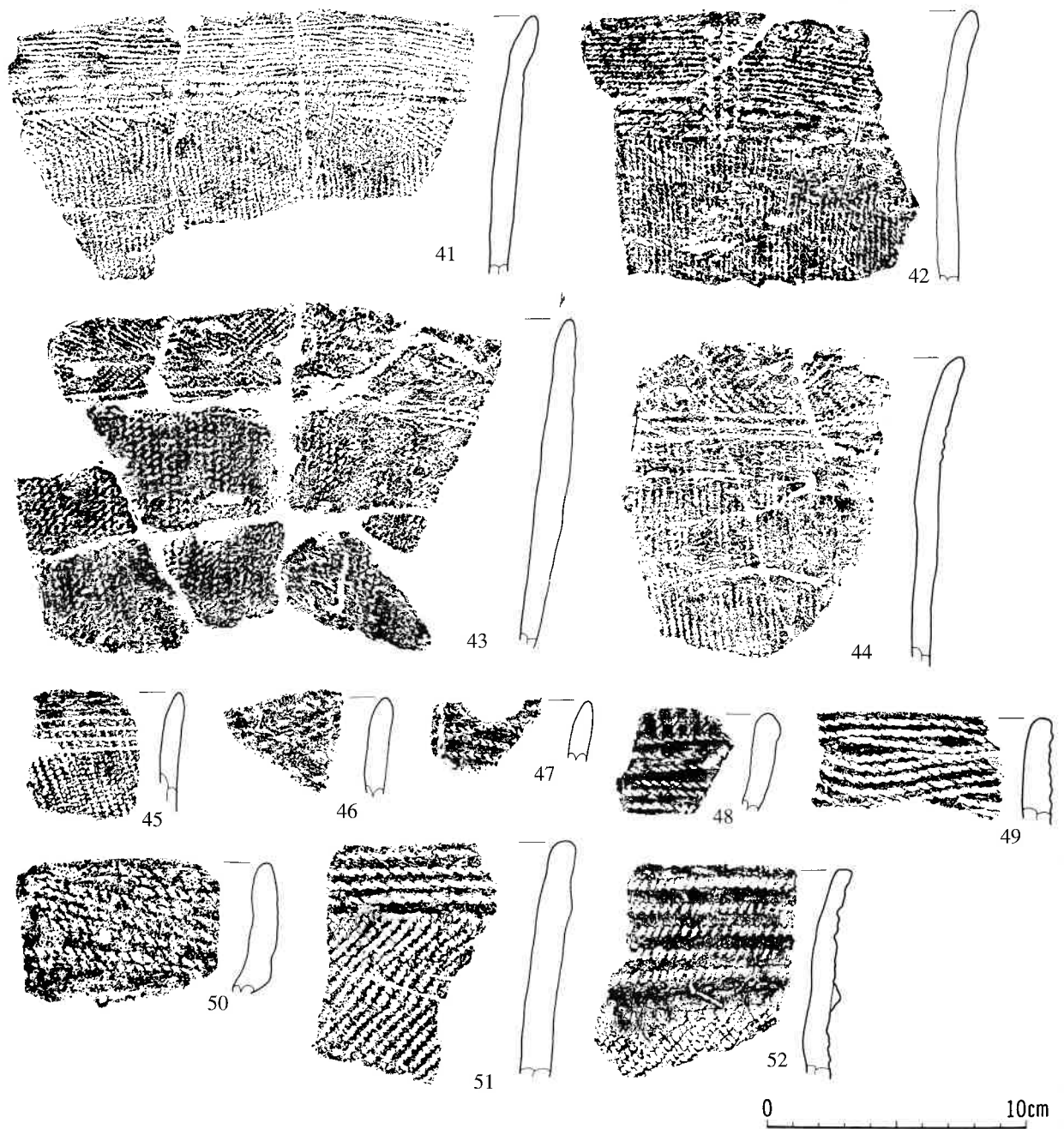
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
14	452住	4	R単絡1、LR押	R単絡1		ミガキ	II-3		
15	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
16	〃	〃	L押			〃	〃		
17	〃	〃	R単絡1押	R単絡1		〃	〃		
18	〃	3	R単絡1	〃		〃	〃		
19	〃	〃	〃、LR押			〃	〃		
20	〃	〃	〃、RLR押			〃	〃		
21	〃	〃	R単絡6	R単絡1		〃	〃		
22	〃	〃	結束第一種、LR押			〃	〃		
23	〃	〃	LR、LR押			〃	〃		
24	〃	〃	LR押	微隆帯、RL単絡1?		〃	II-5-1		

97図 第452号住居跡出土遺物 (5)



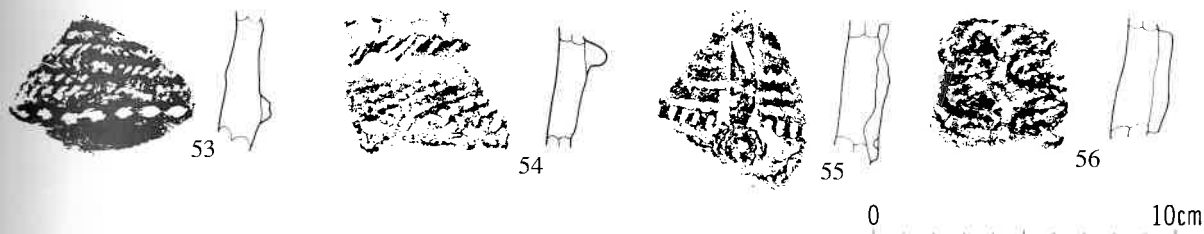
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
25	452住	3	LR押	LR		ミガキ	Ⅱ-5-1	26と同一個体	
26	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
27	〃	〃	R単絡1押、刺突	L単絡1		〃	Ⅱ-5-2		
28	〃	1	LR押			〃	Ⅱ-5-1		
29	〃	〃	R押			〃	〃		
30	〃	〃	〃			〃	〃		
31	〃	〃	単絡1押			〃	〃		
32	〃	〃	〃	単絡1		〃	〃		
33	〃	堆積土	RL結回	隆帯		〃	Ⅱ-2		
34	〃	〃	RLR、RL押			〃	Ⅱ-3		
35	〃	〃	LR、RLR押			〃	〃		
36	〃	〃	R単絡1、RLR押			〃	〃		
37	〃	〃	〃			〃	〃		
38	〃	〃	LR単絡1、LR押			〃	〃		
39	〃	〃	R単絡6A、〃			〃	〃		
40	〃	〃	R単絡6			〃	〃		

98図 第452号住居跡出土遺物 (6)

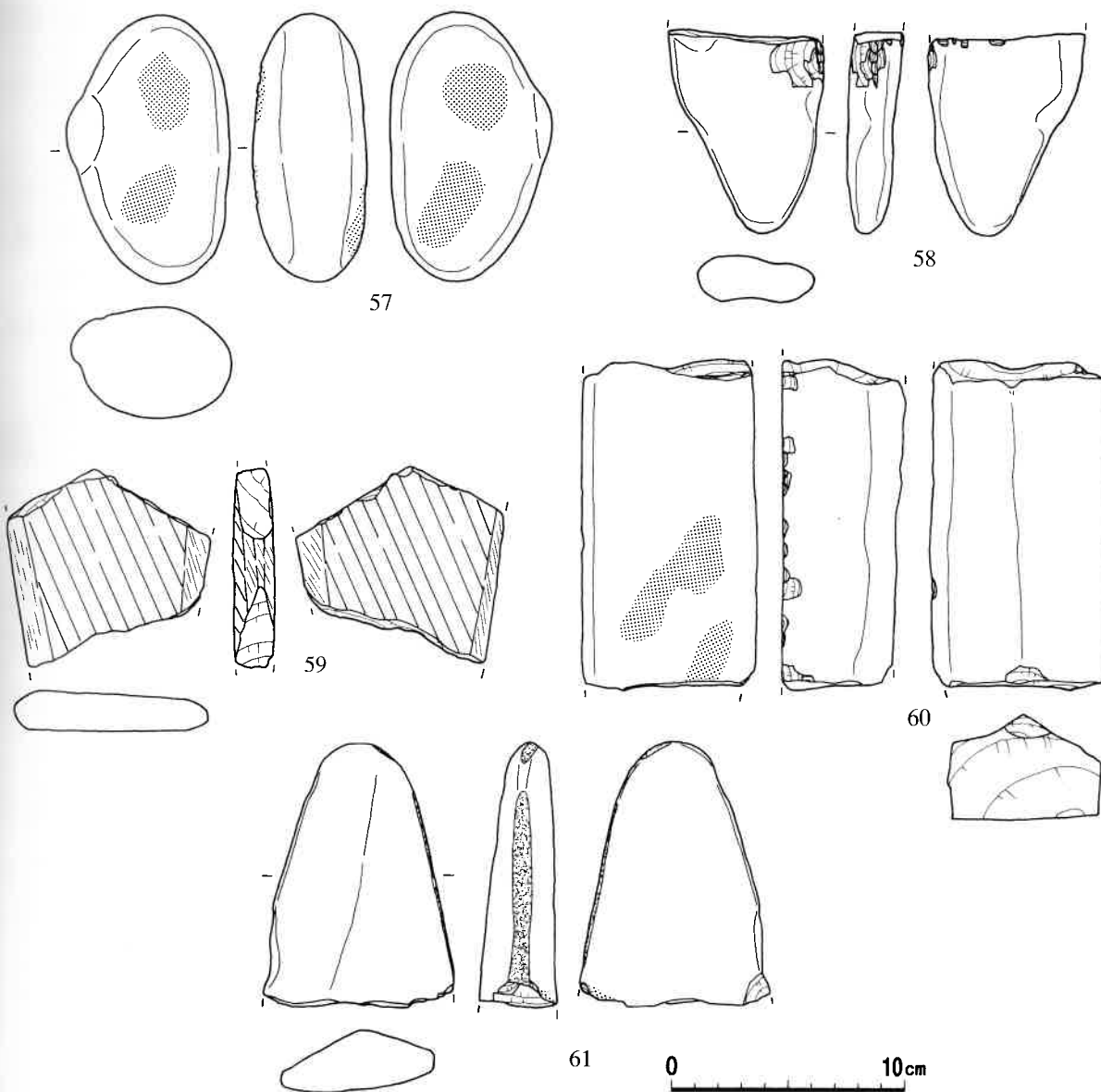


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
41	452住	堆積土	L単絡1、単絡1押	RL		ミガキ	II-3		
42	〃	〃	〃、R押	R単絡1		〃	〃		
43	〃	〃	結束第一種、R押	L単絡1		〃	〃		
44	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
45	〃	〃	L単絡1、LR押			〃	II-5-1		
46	〃	〃	LR押			〃	〃		
47	〃	〃	〃			〃	〃		
48	〃	〃	〃			〃	〃	口唇部上面LR押	
49	〃	〃	L押			〃	II-5-2		
50	〃	〃	LR押			〃	〃		
51	〃	〃	〃	LR		〃	〃	口縁部若干肥厚	
52	〃	〃	R単絡1	〃、微隆帯		〃	〃	隆帯断面三角形状	

99図 第452号住居跡出土遺物 (7)

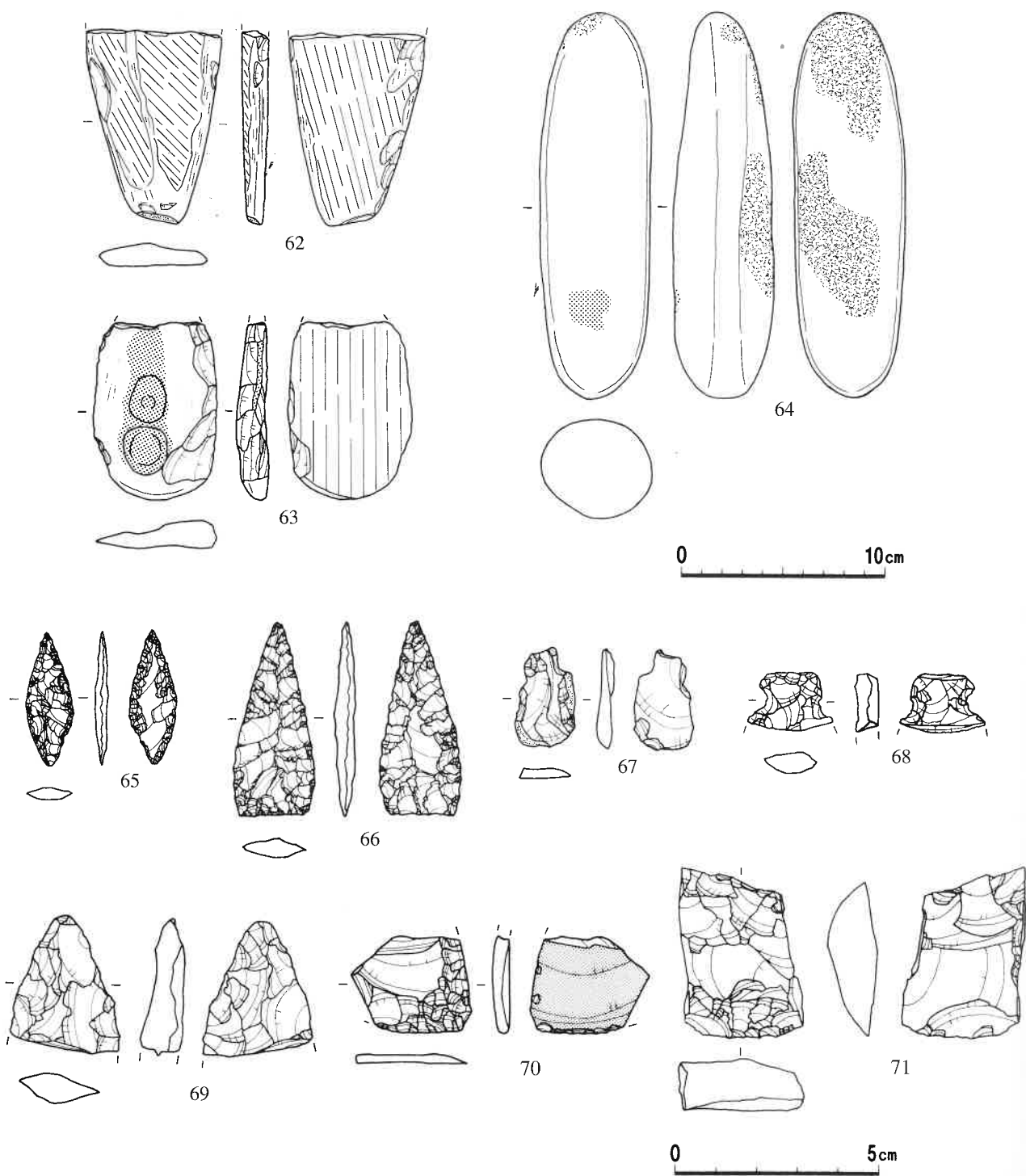


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
53	452住	堆積土	R押	隆帯(刺突)		ミガキ		II-5-2	
54	〃	〃	刺突	〃(L押)、LR?		〃		〃	
55	〃	〃	貼付、LR押、刺突			〃		〃	
56	〃	〃	貼付(L押)			〃		III-1	



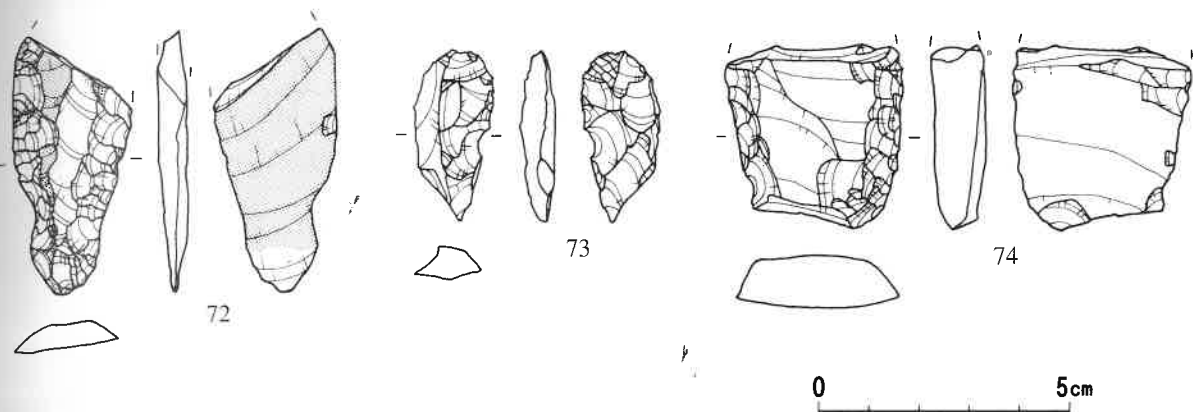
図版番号	出土地点	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	備	考	整理番号
57	452住	床直	114	69	48	544.0	凝	Ib	S-3		42690
58	〃	〃	(86)	(67)	(24)	(137.9)	流	〃	S-11		42686
59	〃	7	(84)	(89)	(17)	(168.8)	安	K			42688
60	〃	3	(141)	(75)	(53)	(743.7)	流	Ub	S-4		42691
61	〃	7	(112)	(82)	(33)	(303.0)	〃	Ic	S-2		42689

100図 第452号住居跡出土遺物(8)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
62	452住	堆積土	(93)	(66)	(13)	(97.5)	安	K		42632
63	〃	〃	(86)	60	15	(81.6)	凝	Ia		40253
64	〃	〃	187	55	50	622.5	流	Ic		42692
65	〃	〃	33	12	3	0.9	珪頁	Ac		50159
66	〃	〃	48	20	6	3.9	〃	Ad		50145
67	〃	〃	24	15	4	0.9	黒	Ca		41861
68	〃	〃	(14)	(21)	(6)	(1.6)	珪頁	〃		41862
69	〃	〃	(33)	(27)	(10)	(6.8)	〃	Ga	石槍?	41864
70	〃	〃	(24)	(29)	(4)	(2.8)	玉珪	〃	石匙破片?	52191
71	〃	〃	42	31	12	18.6	珪頁	〃	石鏡?	41885

101図 第452号住居跡出土遺物 (9)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
72	452住	堆積土	(52)	(24)	(6)	(7.0)	珪質	Ga	石匙破片?	41865
73	〃	〃	34	16	7	2.8	〃	〃		41894
74	〃	〃	(36)	(35)	(11)	(19.4)	〃	〃		41871

102図 第452号住居跡出土遺物 (10)

第453号住居跡 (103図～131図)

〔位置と確認〕 IV O-113に位置し、第Ⅲ層精査中に暗褐色土の楕円形の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第457・471号住居跡と重複し、第457号住居跡より新しく、第471号住居跡より古い。

〔平面形・規模〕 南側しか残存しないため、全体の平面形は不明であるが、北西-南東に長軸のある楕円形の可能性が高い。残存部分の規模は長さ7 m30cm、幅6 m20cmである。

〔壁・床面〕 残存している各壁ともに緩やかに湾曲しながら立ち上がる。壁高は西壁21cm、南壁5cmである。床面はほぼ平坦であり、比較的堅緻である。南壁の床面が約12cmほど一段高くなったテラス状となっており、拡張の可能性がある。

〔壁溝〕 南壁際と床面南側から検出された。幅約3cm～10cm、深さ3cm～10cmである。床面の壁溝は拡張前のものである可能性がある。

〔柱穴〕 主柱穴はP₁～P₄の4本と考えられる。ピットの深さは、P₁…54cm、P₂…53cm、P₃…54cm、P₄…48cmである。また、壁柱穴が検出され、直径10cm～20cm、深さ5cm～20cmである。

〔炉〕 床面中央東側寄りから掘り方のある地床炉が検出された。掘り方の規模は90cm×65cm、深さ6cmである。

〔その他の施設〕 長軸の両端の壁際から付属施設の可能性があるピットが検出された。ピットの規模は西側が90cm×70cm、深さ34cm、東側が直径50cm、深さ13cmである。堆積土には炭化物が含まれる。

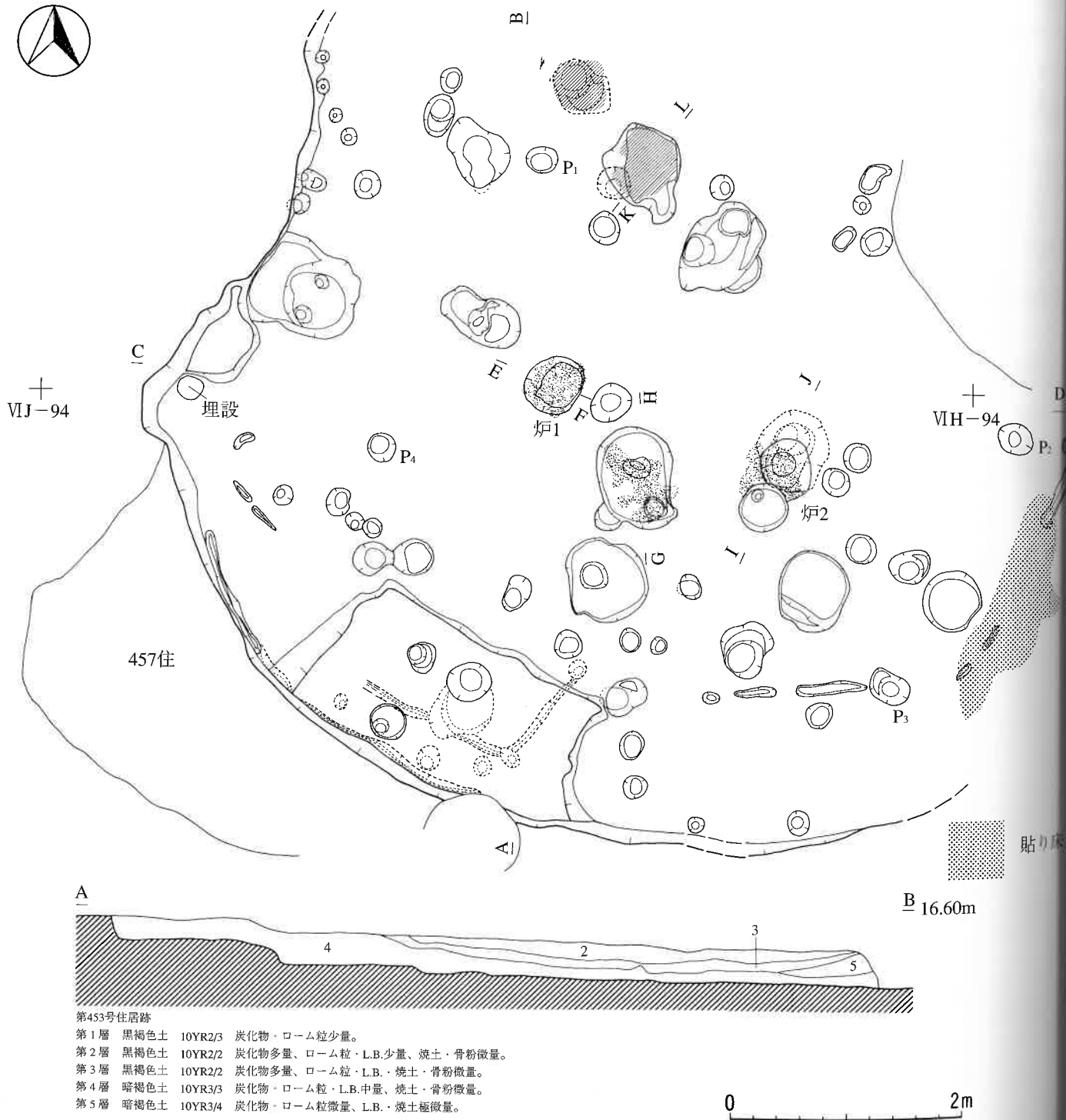
〔堆積土〕 4層に分層した。人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロック・炭化物を微量に含む。

〔出土遺物〕 床面直上、炉堆積土、ピット堆積土から第Ⅱ群5類を主体とした土器が出土した。堆積土からも復元可能土器を含む第Ⅱ群5類土器が出土した。石器は炉の堆積土から石錐が、第4層から石篋、スクレイパー類、R.フレイク、U.フレイク、軽石製品などが、第3層から石匙、スクレイパー類、R.フレイク、石核、頁岩原石、敲磨器類などが、第2層から石匙、スクレイパー類、頁岩原石などが、第1層からスクレイパー類、U.フレイクなどが、その他の堆積土から石鏃、石匙、

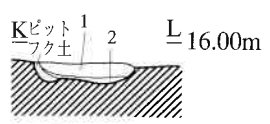
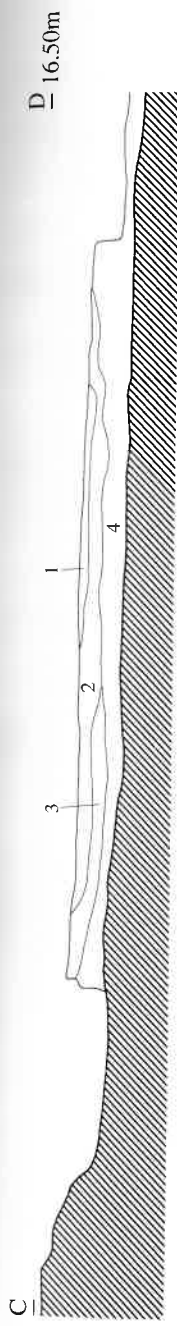
スクレイパー類、敲磨器類、挟入扁平磨製石器などが、ピット 8 の堆積土から石鏃などが、ピット 23の堆積土からスクレイパー類などが出土した。

〔時期〕 床面直上・ピット堆積土出土土遺物から、縄文時代前期末葉（円筒下層 d₁ 式期）と考えられる。

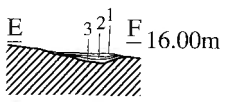
(岡田 康博)



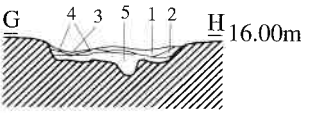
103図 第457号住居跡 (1)



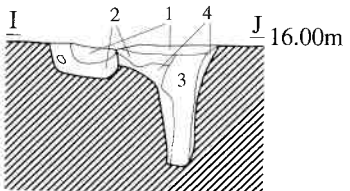
第453号住居跡 炉4
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・ローム粒・L.B.微量、焼土・パミス極微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量、L.B.極微量。



第453号住居跡 炉1
 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・焼土微量。
 第2層 褐色土 10YR4/6 炭化物・焼土微量。
 第3層 赤褐色土 5YR4/6 焼土層。炭化物少量。



第453号住居跡 炉2
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・焼土微量、炭化物極微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・ローム粒微量。
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 焼土・炭化物・ローム粒微量。
 第4層 赤褐色土 5YR4/8 焼土層。L.B.少量、5層との境目に炭化物の層。
 第5層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物少量、ローム粒・L.B.微量。

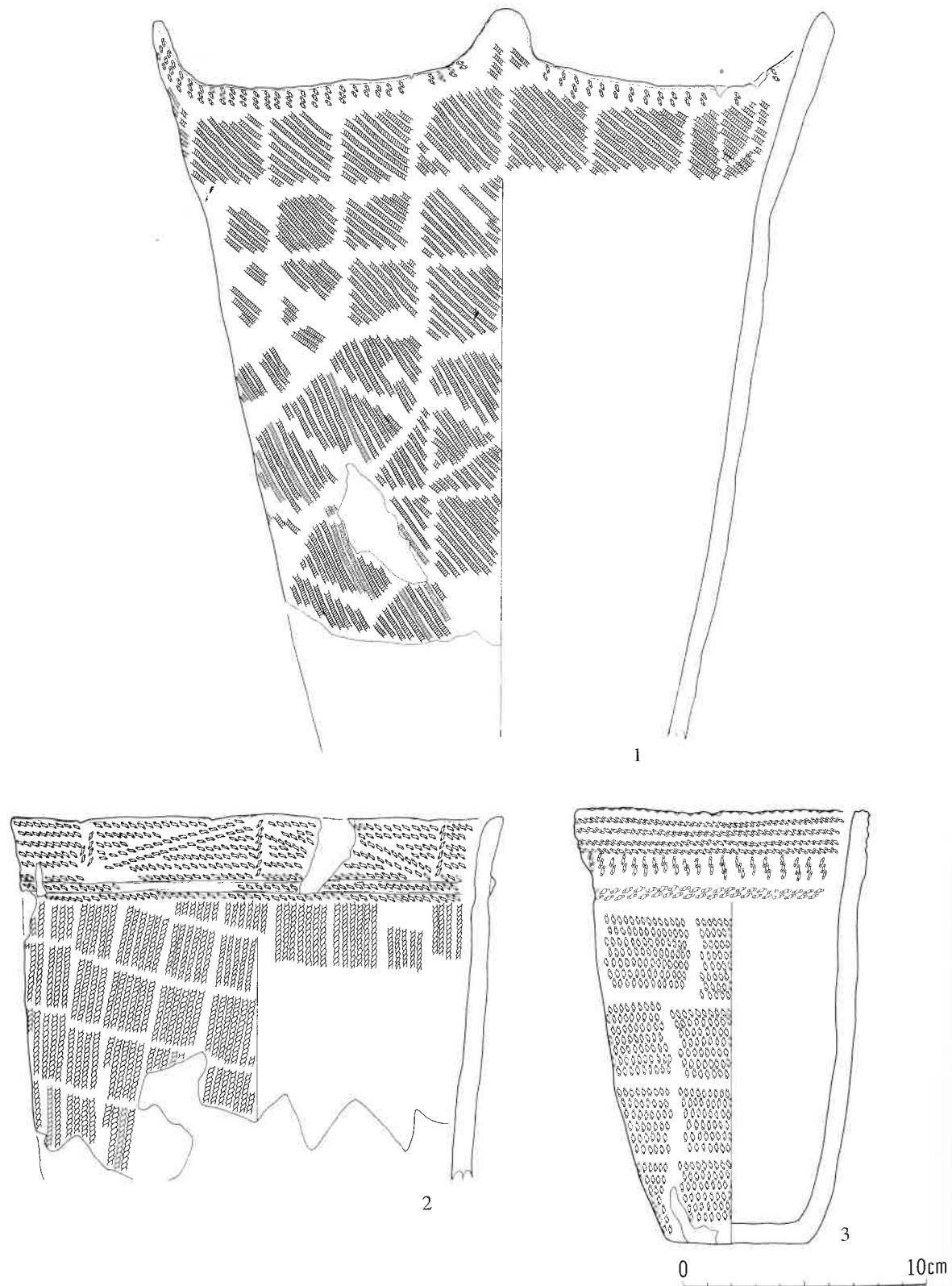


第453号住居跡 ビット13
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・焼土・ローム粒微量。
 第2層 褐色土 10YR4/6 L.B.多量、炭化物極微量。

第453号住居跡 炉Na3 ビット24
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・ローム粒少量、焼土微量。
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・焼土・ローム粒微量。
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・ローム粒・L.B.微量。
 第4層 褐色土 10YR4/6 L.B.多量、炭化物微量。

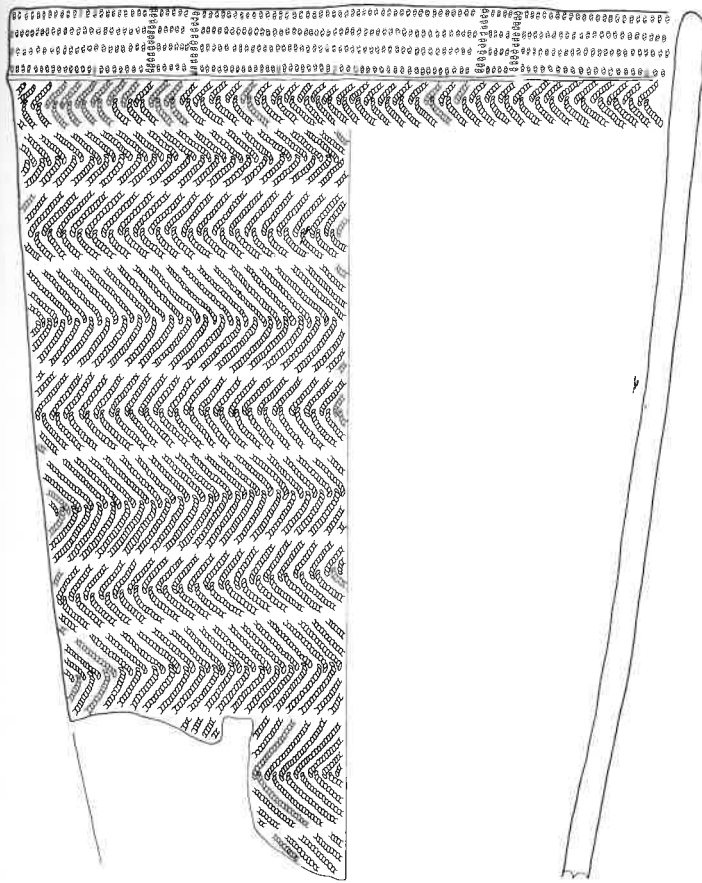


104図 第453号住居跡 (2)

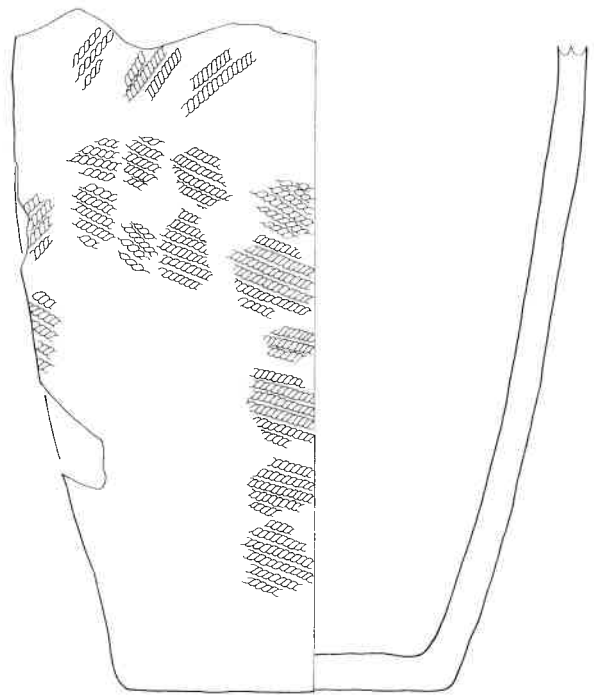


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	453住	堆積土	RL押、RL	RL		ミガキ		II-5-2	
2	〃	4	LR押	微隆帯(LR押)、L単絡1		〃		II-5-1	
3	〃	〃	LR押、RLR押	R多軸絡		〃	無文	〃	

105図 第453号住居跡出土遺物 (1)



4

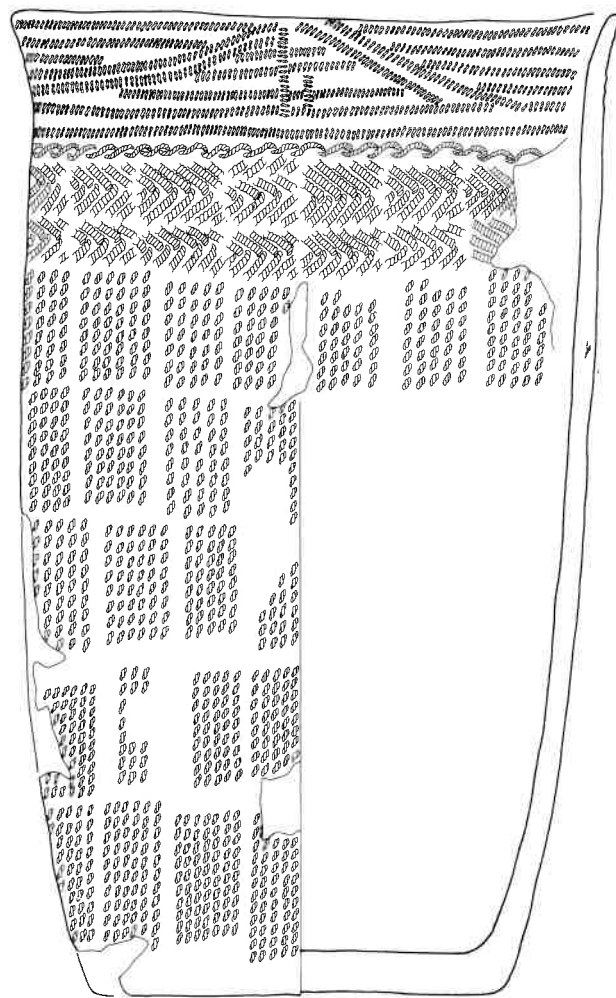


5

0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
4	453住	4	L単絡1押	微隆帯状の膨隆	結束第一種	ミガキ		II-5-1	
5	〃	〃			LR	〃	無文	II-6	

106図 第453号住居跡出土遺物 (2)

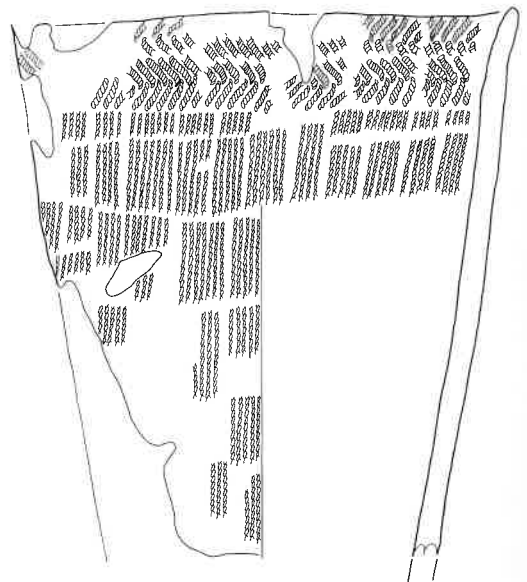


6

0 10cm



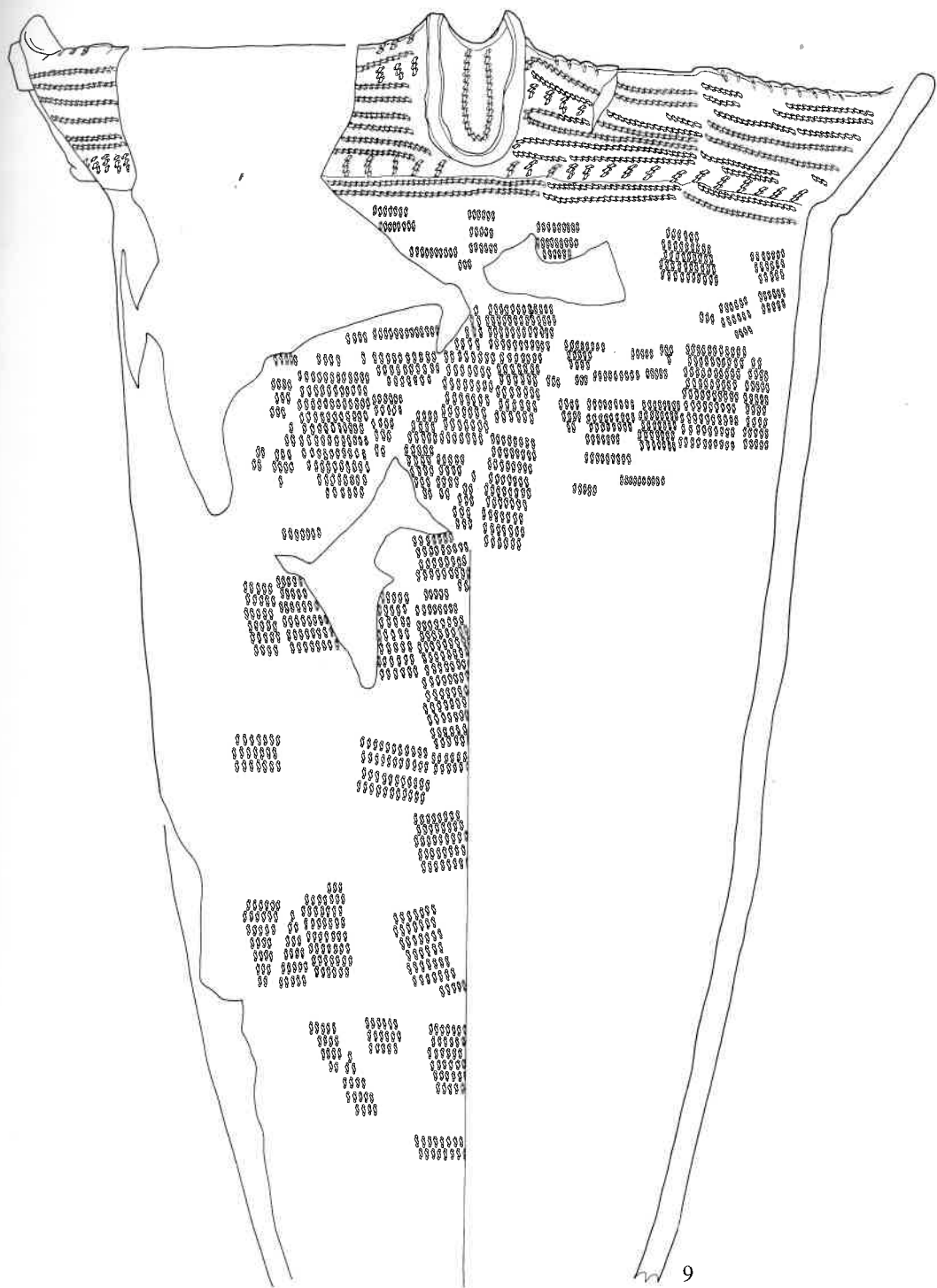
7



8

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
6	453住	床直	RL押、RL	RL		ミガキ	II-5-2		
7	〃	4	LR押	微隆帯(LR押)、L単絡1		〃	II-5-1		
8	〃	〃	〃、RLR押	R多軸絡		〃	無文	〃	

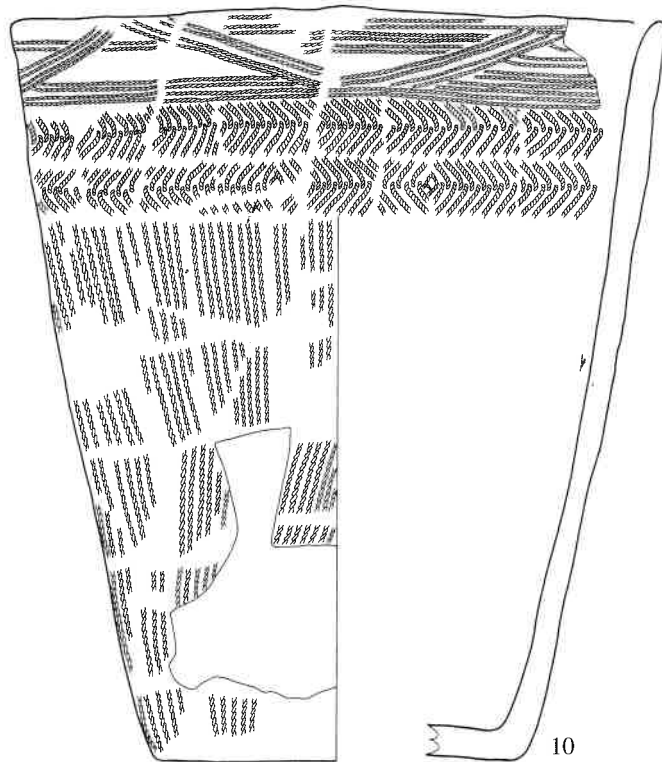
107図 第453号住居跡出土遺物 (3)



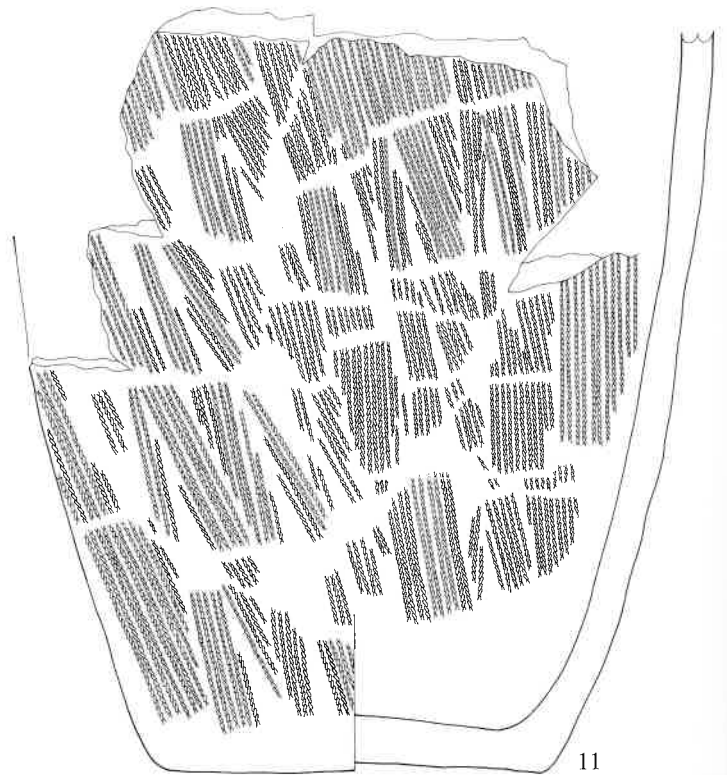
0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
9	453住	2	貼付(LR押)、LR押	R多軸絡		ミガキ		II-5-2	

108図 第453号住居跡出土遺物(4)



10

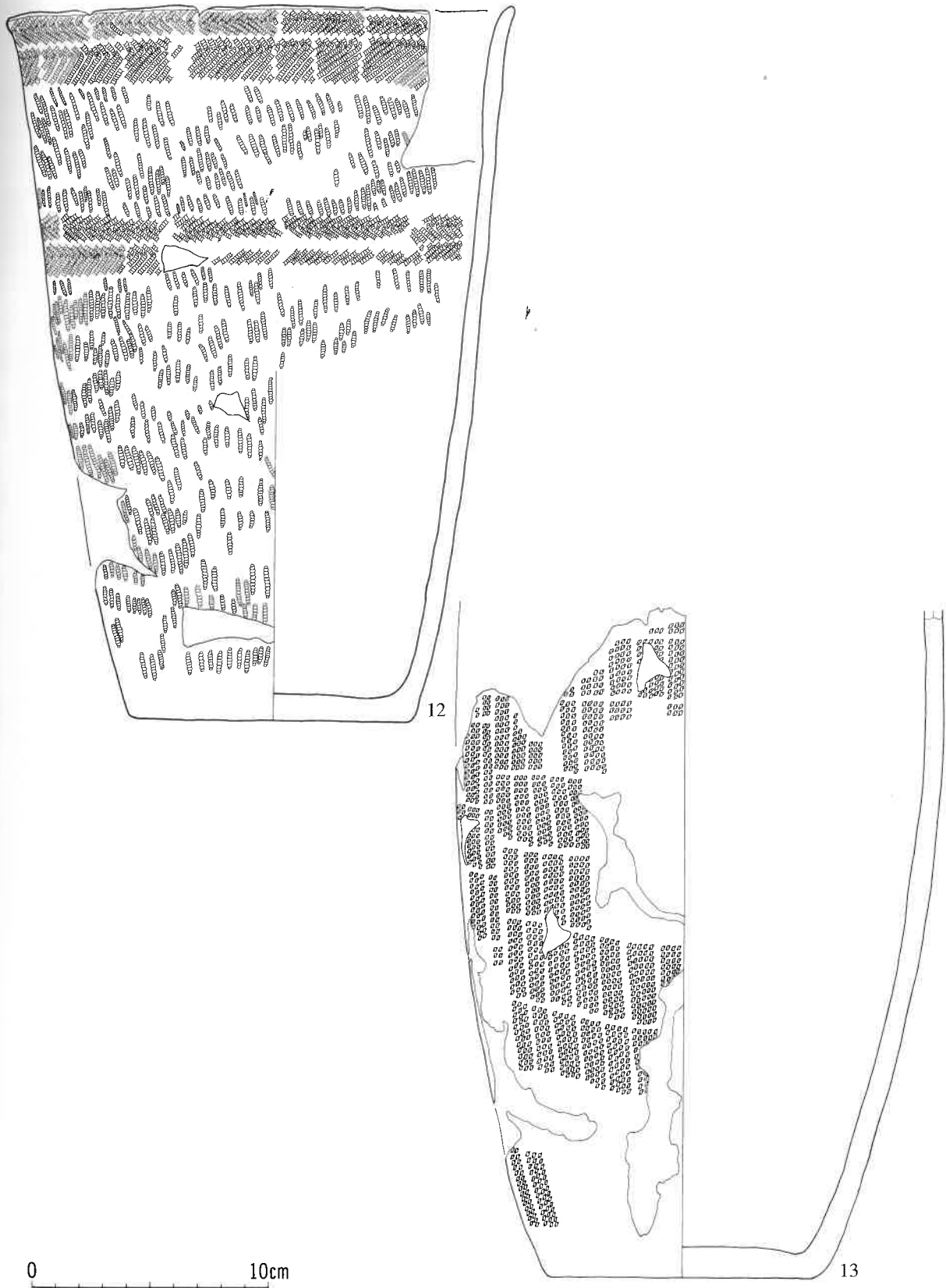


11

0 10cm

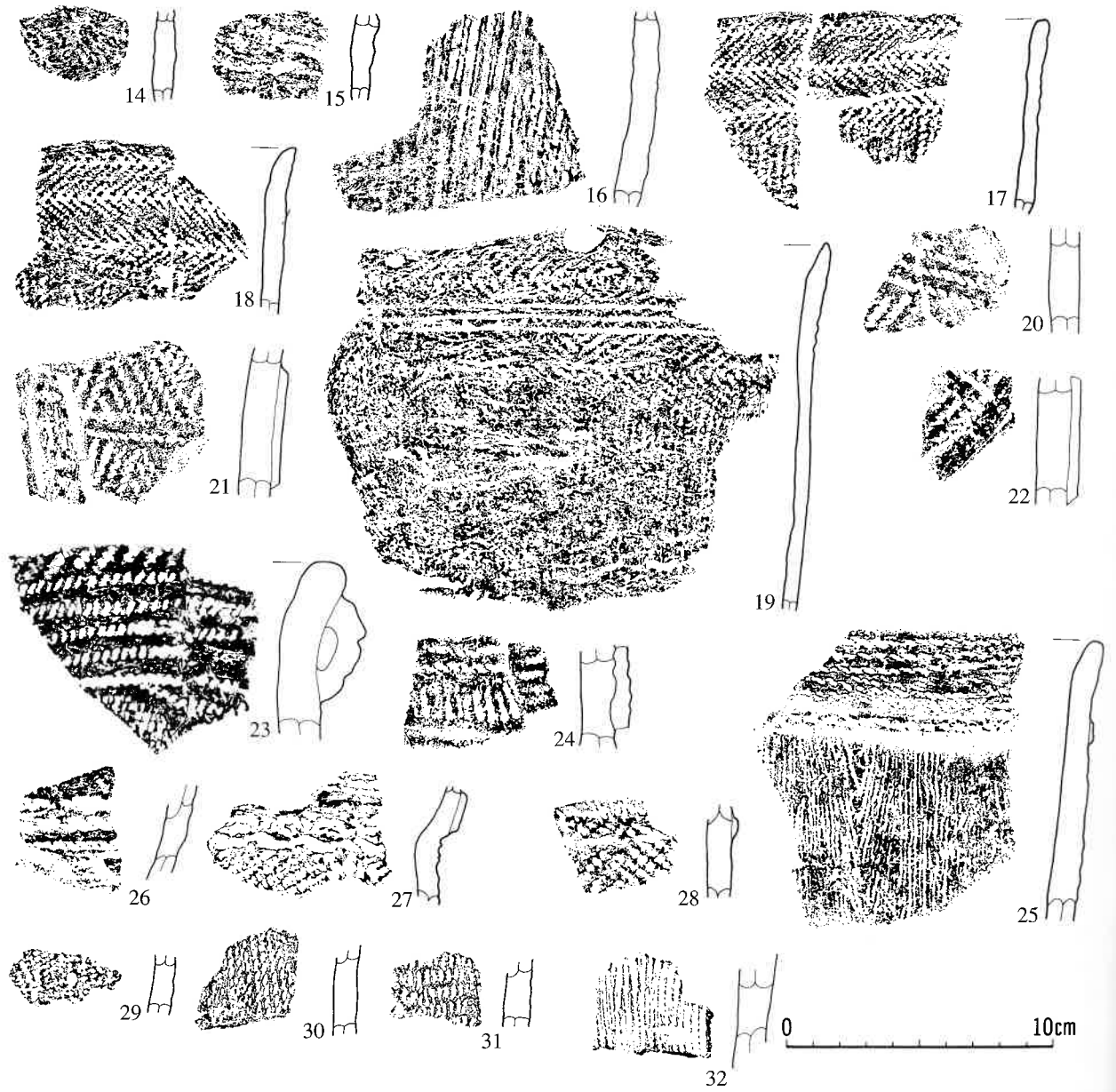
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
10	453住	2	R押	結束第一種	L単絡1	ミガキ	無文	II-5-1	
11	〃	〃			L・R単絡1	〃	〃	II-6	

109図 第453号住居跡出土遺物 (5)



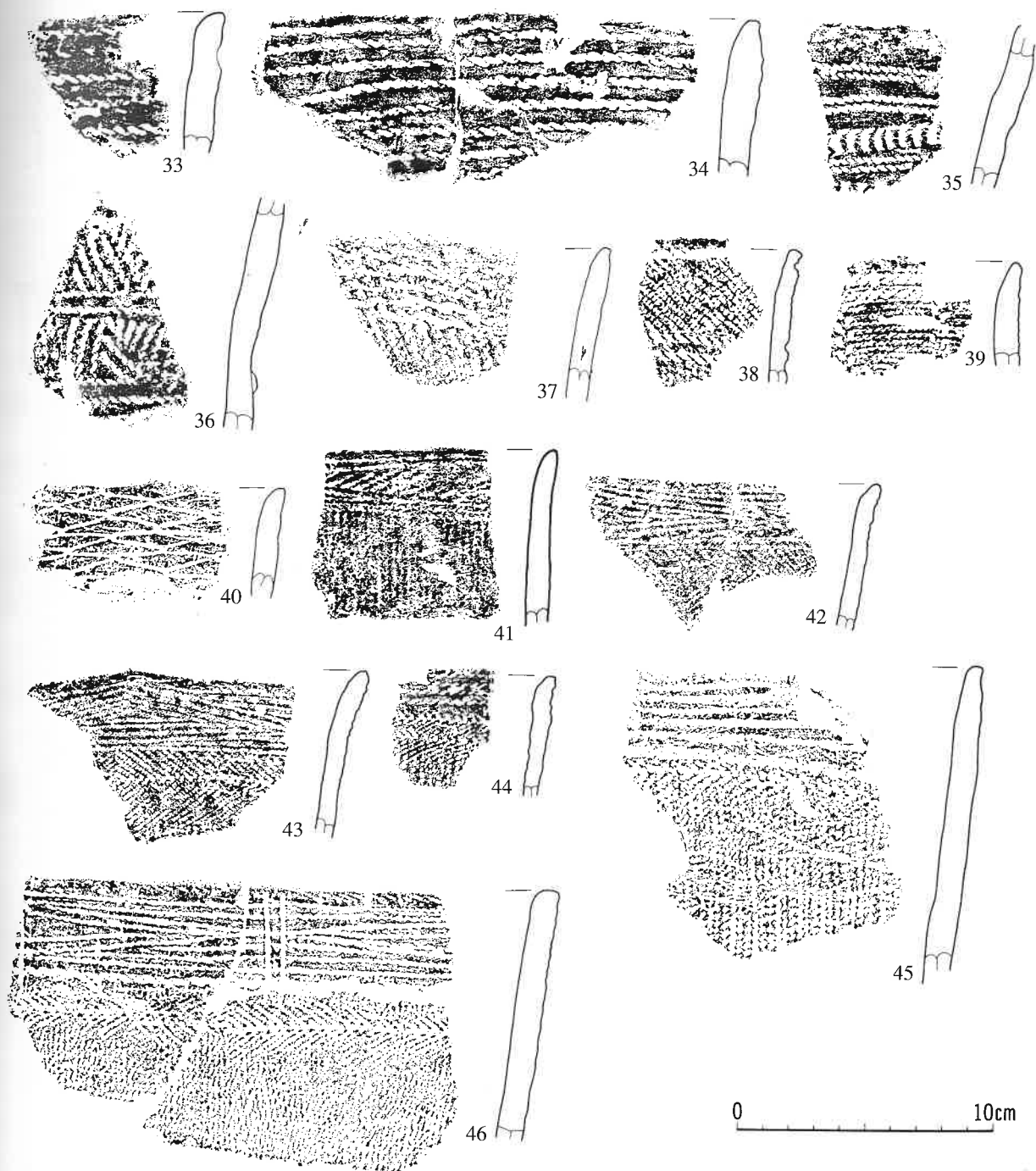
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
12	453住	堆積土	結束第一種	LLR、結束第一種	LLR	ミガキ	無文	II-5-1	
13	〃	2			LR単絡1	〃	〃	II-6	

110図 第453号住居跡出土遺物 (6)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
14	453住炉	堆積土		不明		ミガキ	II-6	繊維多量	
15	〃	〃		〃		〃	〃	〃	
16	〃	〃			単絡1	〃	〃	〃	
17	453住	床直	結束第一種	RL?		〃	II-3~5		
18	〃	〃	〃			〃	〃		
19	〃	〃	〃、R押	結束第一種、縄文		〃	〃		
20	453住ピット11	堆積土	LR押			〃	II-5-2		
21	〃	〃	貼付(LR押)、LR押			〃	〃		
22	〃	〃	〃(〃)、〃			〃	〃		
23	〃	〃	R単絡1押、橋状把手			〃	〃		
24	〃	〃	貼付(LR押)、LR押			〃	〃		
25	453住ピット13	〃	LR押	微隆帯(刺突)、L単絡1A		〃	II-5-1		
26	〃	〃	〃			〃	〃		
27	453住ピット21	〃		隆帯(LR押)、L結回、LR		〃	II-5-2	頸部くびれ	
28	〃	〃		微隆帯(RL)、RL		〃	II-5		
29	453住ピット22	〃		RL		〃	II-6		
30	〃	〃		L単絡1		〃	〃		
31	〃	〃		R多軸絡		〃	〃		
32	〃	〃		単絡1		〃	〃		

111図 第453号住居跡出土遺物(7)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
33	453住ビット26	堆積土	LR押			ミガキ	II-5-2		
34	〃	〃	〃			〃	〃		
35	〃	〃	〃、刺突			〃	〃		
36	〃	〃	〃、貼付			〃	〃	貼付大部分剥落	
37	453住	4	RLR、LR結回			〃	II-2		
38	〃	〃	RL、LR押			〃	II-3		
39	〃	〃	R単絡6A、RLR押			〃	〃		
40	〃	〃	R単絡6			〃	〃		
41	〃	〃	LR押	RL?		〃	II-5-1		
42	〃	〃	R押	結束第一種		〃	〃		
43	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
44	〃	〃	RL押	〃		〃	〃		
45	〃	〃	R押	〃、RL		〃	〃		
46	〃	〃	LR押	〃、R単絡1		〃	〃	口唇部上面RL	

112図 第453号住居跡出土遺物 (8)



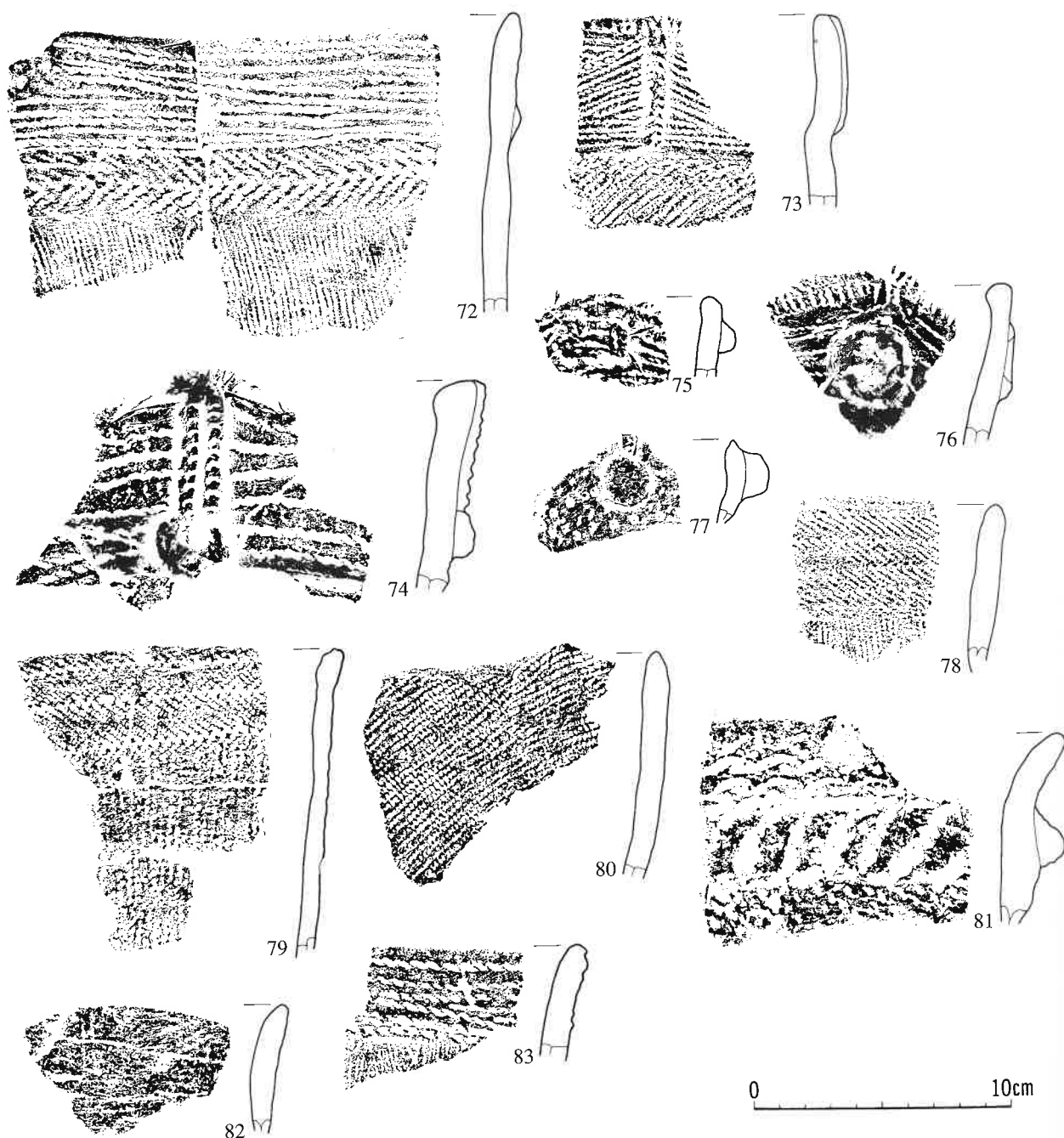
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
47	453住	4	R押	結束第一種		ミガキ	II-5-1	頸部若干膨隆	
48	〃	〃	RL押	〃		〃	〃	〃	
49	〃	〃	〃	〃、RL		〃	〃	〃	
50	〃	〃	L押			〃	〃	〃	
51	〃	〃	〃	多軸絡		〃	〃	口縁部肥厚	
52	〃	〃	〃	微隆帯(刺突)、R単絡1A		〃	〃	〃	
53	〃	〃	〃	〃(〃)、〃		〃	〃	〃	
54	〃	〃	〃	〃(〃)、RL、L結回		〃	〃	〃	
55	〃	〃	単絡1押			〃	〃	〃	
56	〃	〃	〃	RL		〃	〃	〃	
57	〃	〃	〃	結束第一種	L単絡1	〃	〃	〃	
58	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
59	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	

113図 第453号住居跡出土遺物(9)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
60	453住	4	R単絡1押	結束第一種		ミガキ	II-5-1		
61	〃	〃	〃	微隆帯(R単絡1押)		〃	〃		
62	〃	〃	単絡1押	微隆帯、結束第一種	RL?	〃	〃		
63	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
64	〃	〃	絡条体押	R単絡1A		〃	〃		
65	〃	〃	口唇LR、R押	結束第一種		〃	II-5-2		
66	〃	〃	R押	〃	RLR	〃	〃		
67	〃	〃	LR押	結回		〃	〃		
68	〃	〃	RL押			〃	〃		
69	〃	〃	単絡1押、R結回	多軸絡		〃	〃		
70	〃	〃	LR押	微隆帯(刺突)、RL		〃	〃		
71	〃	〃	〃	〃(〃)、R単絡1A		〃	〃		

114図 第453号住居跡出土遺物(10)



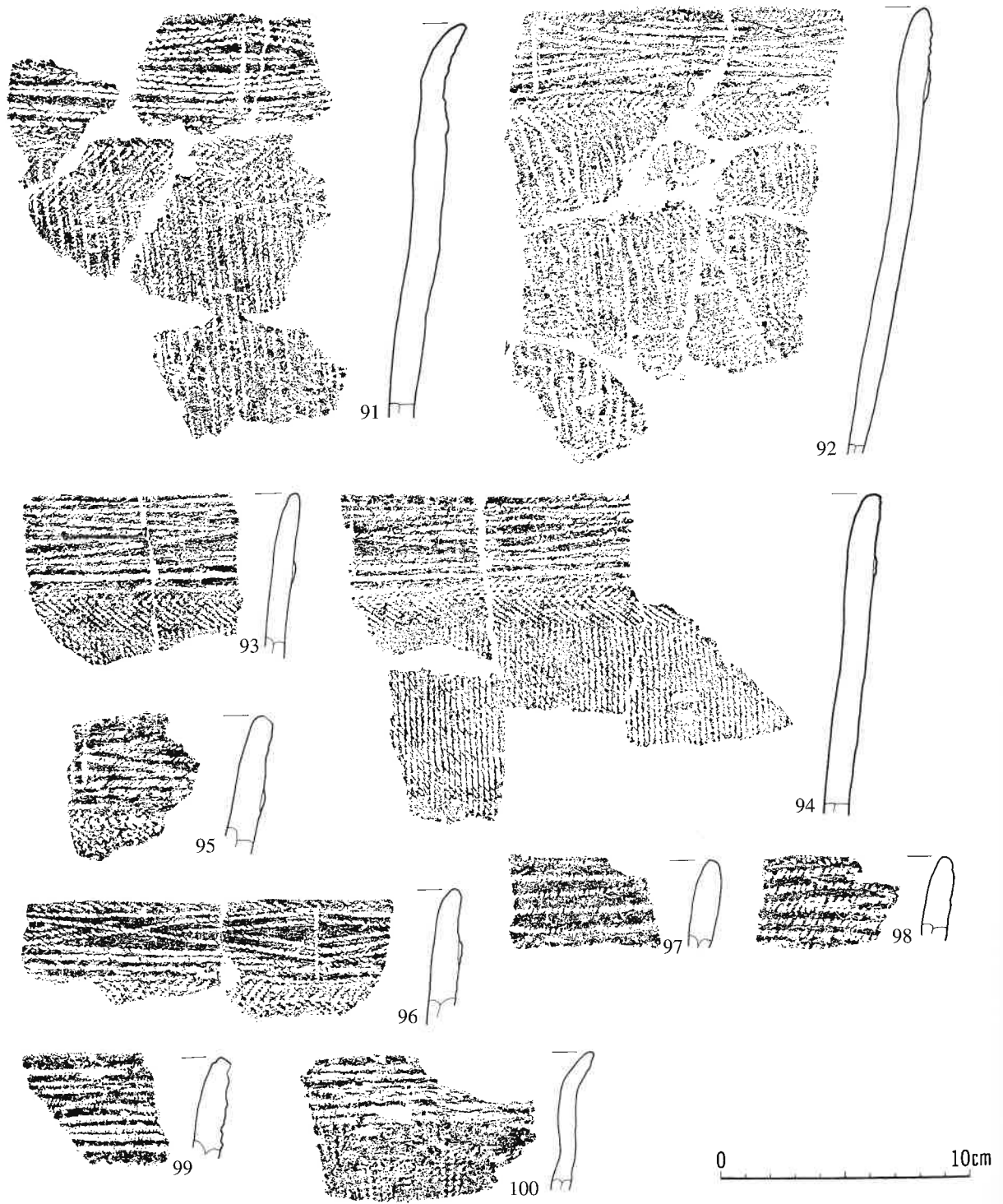
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
72	453住	4	LR押、微隆帯(LR押)	結束第一種、単絡1		ミガキ	Ⅱ-5-2		
73	〃	〃	貼付、LR押、刺突	LR、L結回		〃	〃		
74	〃	〃	〃(刺突)、LR押、刺突			〃	〃		
75	〃	〃	〃(R押)、R押			〃	〃		
76	〃	〃	貼付、L押			〃	〃	口唇部上面L押	
77	〃	〃	〃、刺突			〃	〃		
78	〃	〃	結束第一種	RL		〃	Ⅱ-5		
79	〃	〃	〃	RLR		〃	〃		
80	〃	〃	LR			〃	〃		
81	〃	3	LR結回	隆帯(RLR押)、RLR		〃	Ⅱ-2		
82	〃	〃	結束第一種、単絡1押			〃	Ⅱ-3~5		
83	〃	〃	LR押、刺突	R単絡1		〃	Ⅱ-5-1		

115図 第453号住居跡出土遺物 (11)



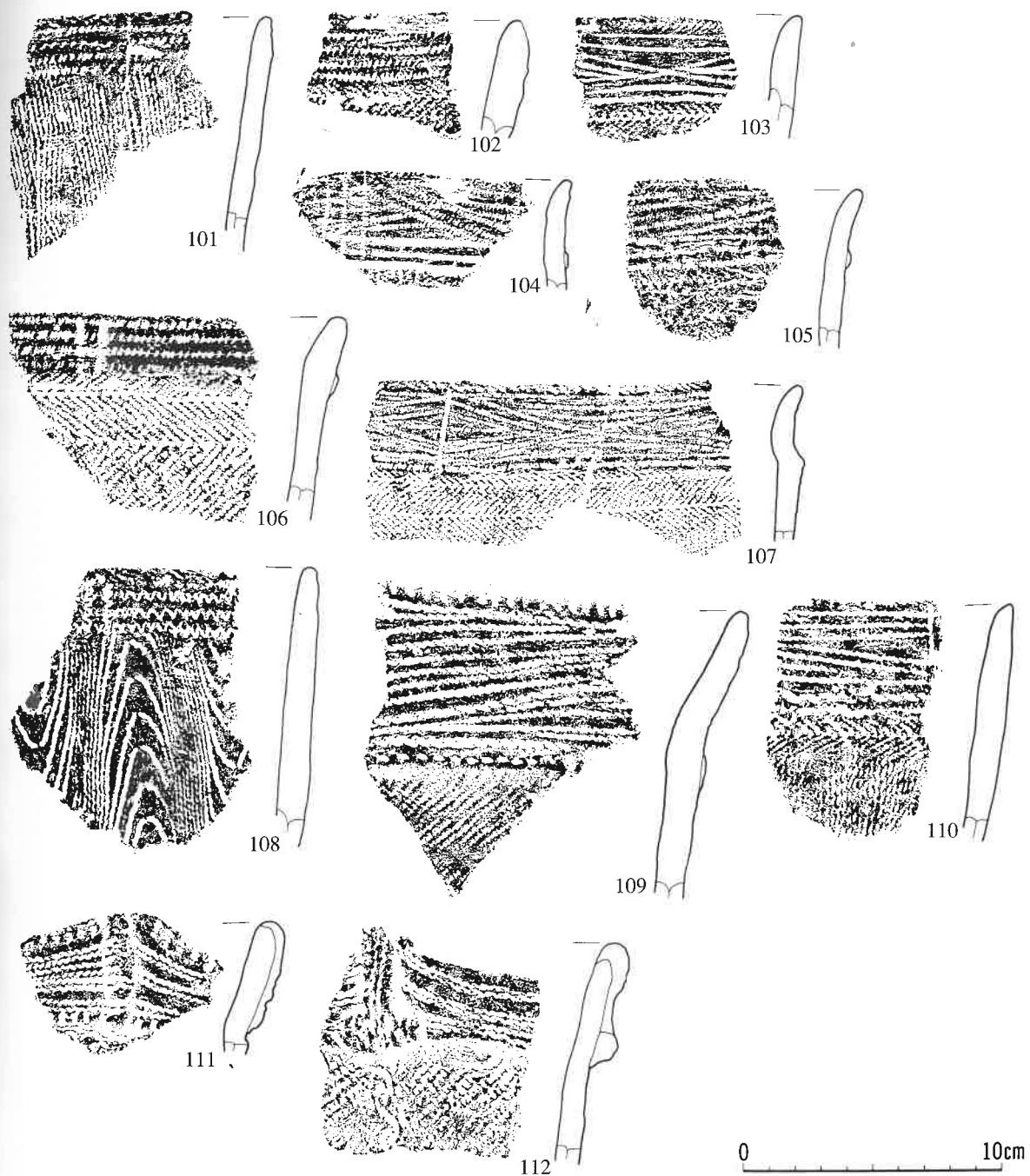
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
84	453住	3	R押	RL	RL	ミガキ		II-5-1	
85	〃	〃	〃	〃		〃		〃	
86	〃	〃	〃	〃		〃		〃	
87	〃	〃	LR押	LR		〃		〃	
88	〃	〃	R押	結束第一種	R単絡1	〃		〃	
89	〃	〃	R・LR押	〃	RL?	〃		〃	
90	〃	〃	LR?押	〃	L単絡1	〃		〃	

116図 第453号住居跡出土遺物 (12)



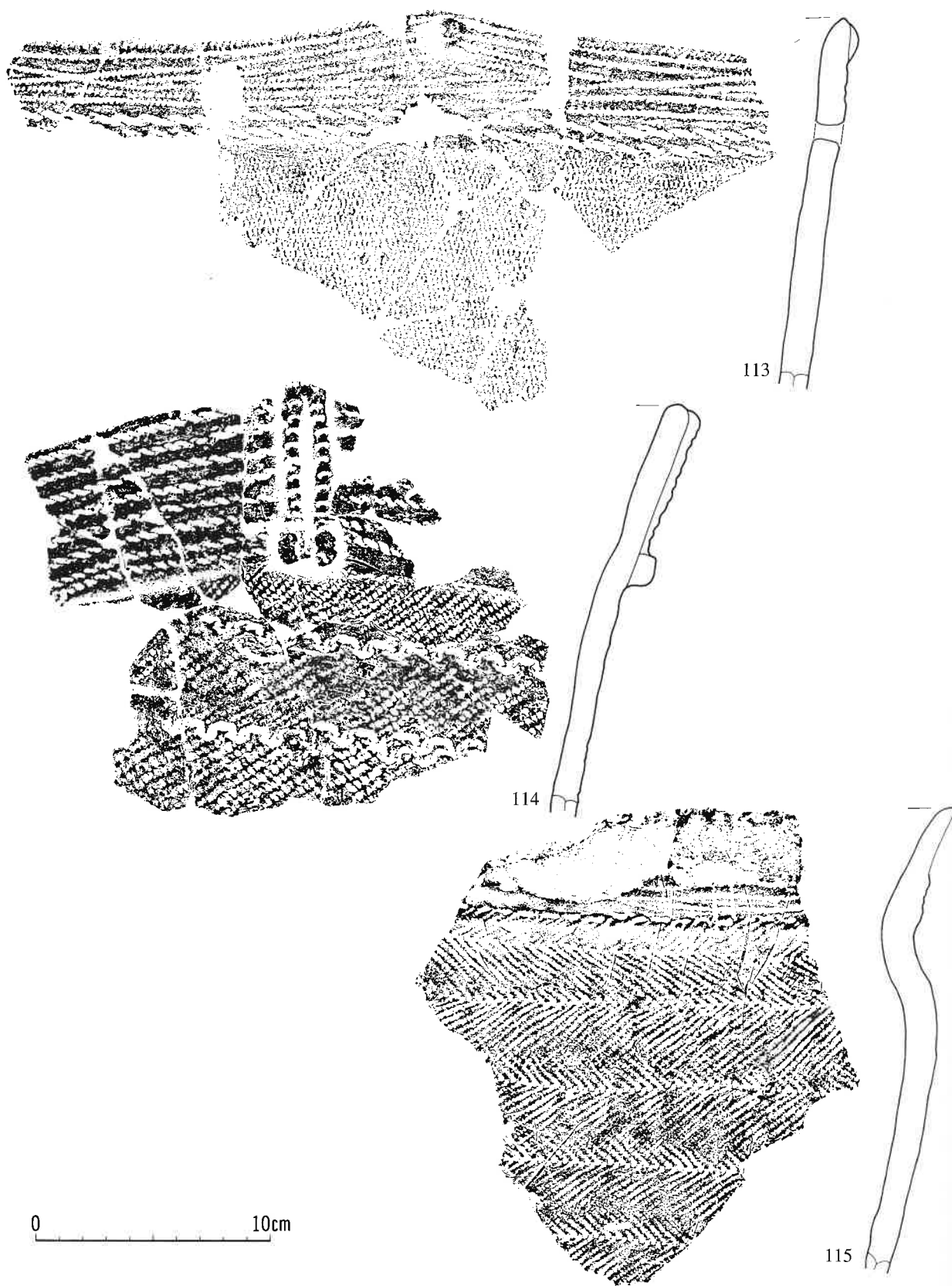
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
91	453住	3	LR押、刺突	LR、RRL		ミガキ	Ⅱ-5-1		
92	〃	〃	R押	微隆帯、結束第一種	RRL	〃	〃		
93	〃	〃	〃	〃、〃	R単絡1	〃	〃		
94	〃	〃	〃	〃、〃	〃	〃	〃		
95	〃	〃	〃	〃、〃		〃	〃		
96	〃	〃	L押	〃、〃		〃	〃		
97	〃	〃	単絡1押			〃	〃		
98	〃	〃	R単絡1押			〃	〃		
99	〃	〃	〃			〃	〃		
100	〃	〃	単絡1押	LR単絡1		〃	〃		

117図 第453号住居跡出土遺物 (13)



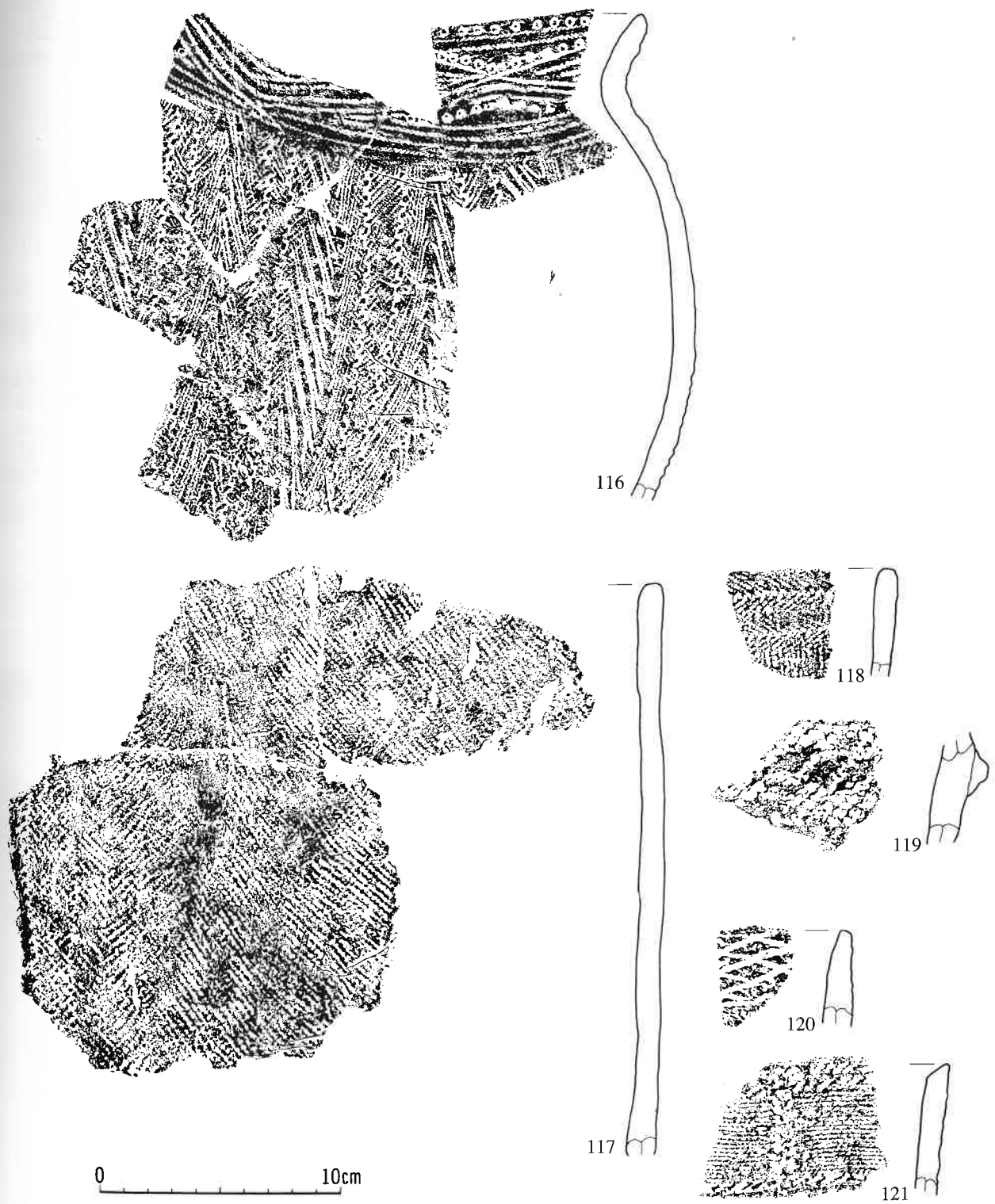
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
101	453住	3	R単絡1押	L単絡1		ミガキ	II-5-1		
102	〃	〃	単絡1押	結束第一種		〃	〃		
103	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
104	〃	〃	R単絡1押	微隆帯、結束第一種		〃	〃		
105	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
106	〃	〃	単絡1押	〃		〃	〃		
107	〃	〃	〃	結束第一種		〃	〃	頸部くびれ、口唇RL	
108	〃	〃	R単絡押	R単絡1A		〃	〃		
109	〃	〃	LR押	微隆帯(刺突)、LR		〃	II-5-2	口唇上面刻み	
110	〃	〃	〃	結束第一種、L単絡1		〃	〃		
111	〃	〃	貼付、L・R押、刺突			〃	〃		
112	〃	〃	貼付(LR押)、LR押	LR、LR結回		〃	〃		

118図 第453号住居跡出土遺物(14)



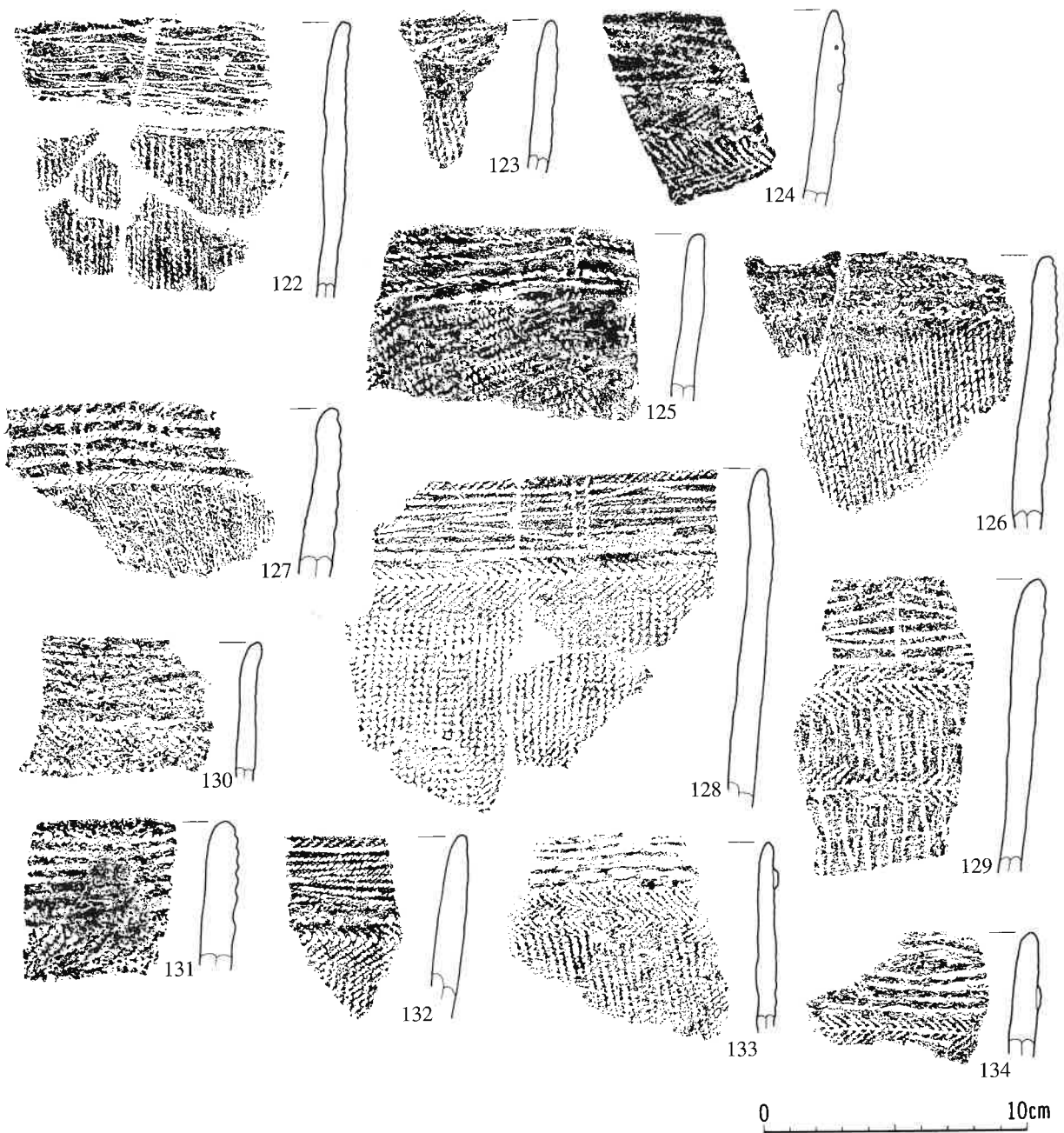
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
113	453住	3	貼付、R単絡1、LR押	多軸絡		ミガキ		Ⅱ-5-2	
114	〃	〃	貼付(刺突)、LR押	LR、LR結回		〃		〃	
115	〃	〃	剥落、LR押、刺突	結束第一種		〃		〃	頸部くびれ

119図 第453号住居跡出土遺物 (15)



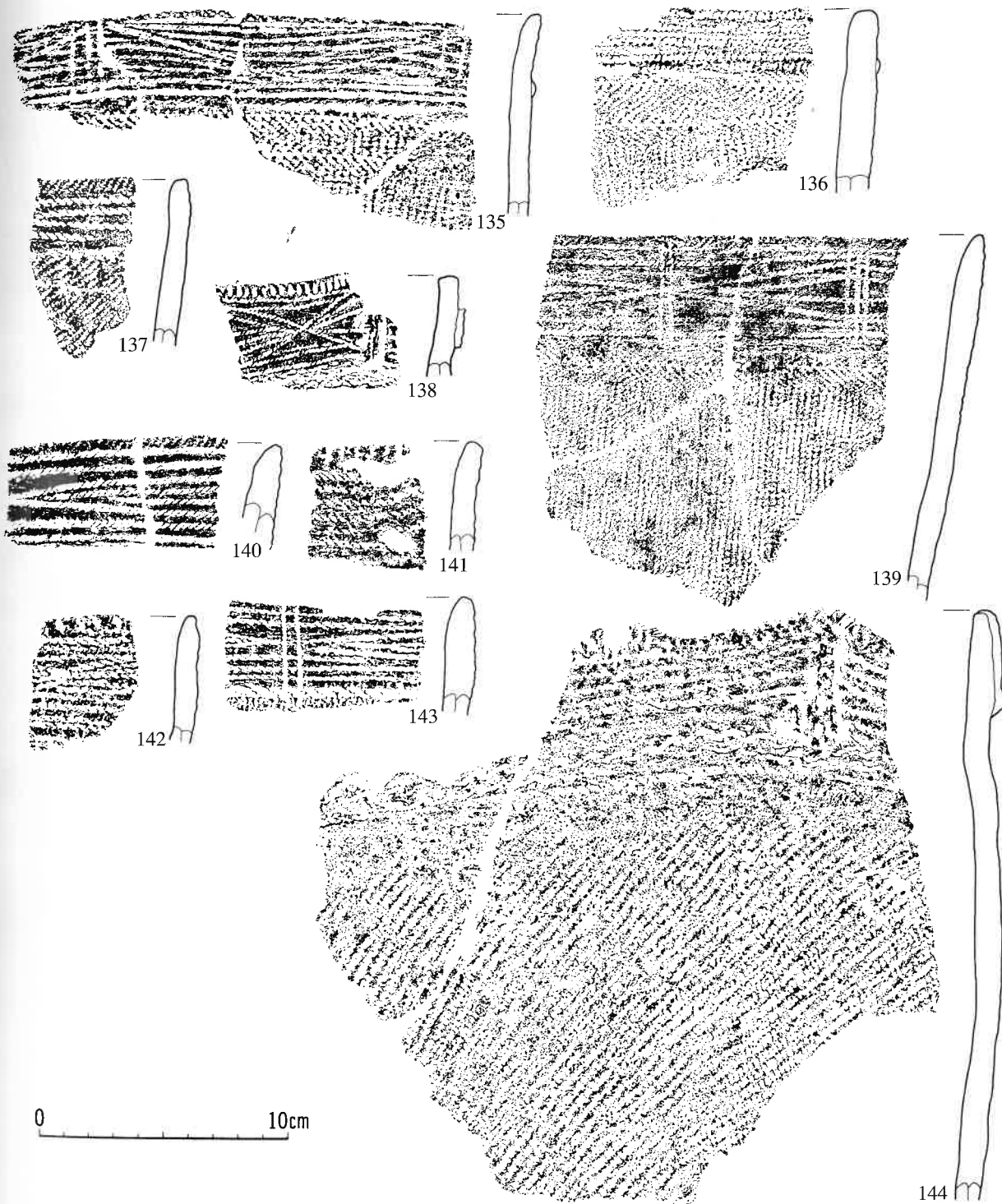
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
116	453住	3	LR押、刺突	L・R単絡1A、L結回		ミガキ		Ⅱ-5-2	
117	〃	〃	結束第一種	結束第一種	LR	〃		Ⅱ-5	
118	〃	〃	〃			〃			
119	〃	2		隆帯(RLR押)、RLR		〃		Ⅱ-2	
120	〃	〃	R単絡5			〃			
121	〃	〃	R単絡6A			〃		Ⅲ-3	

120図 第453号住居跡出土遺物(16)



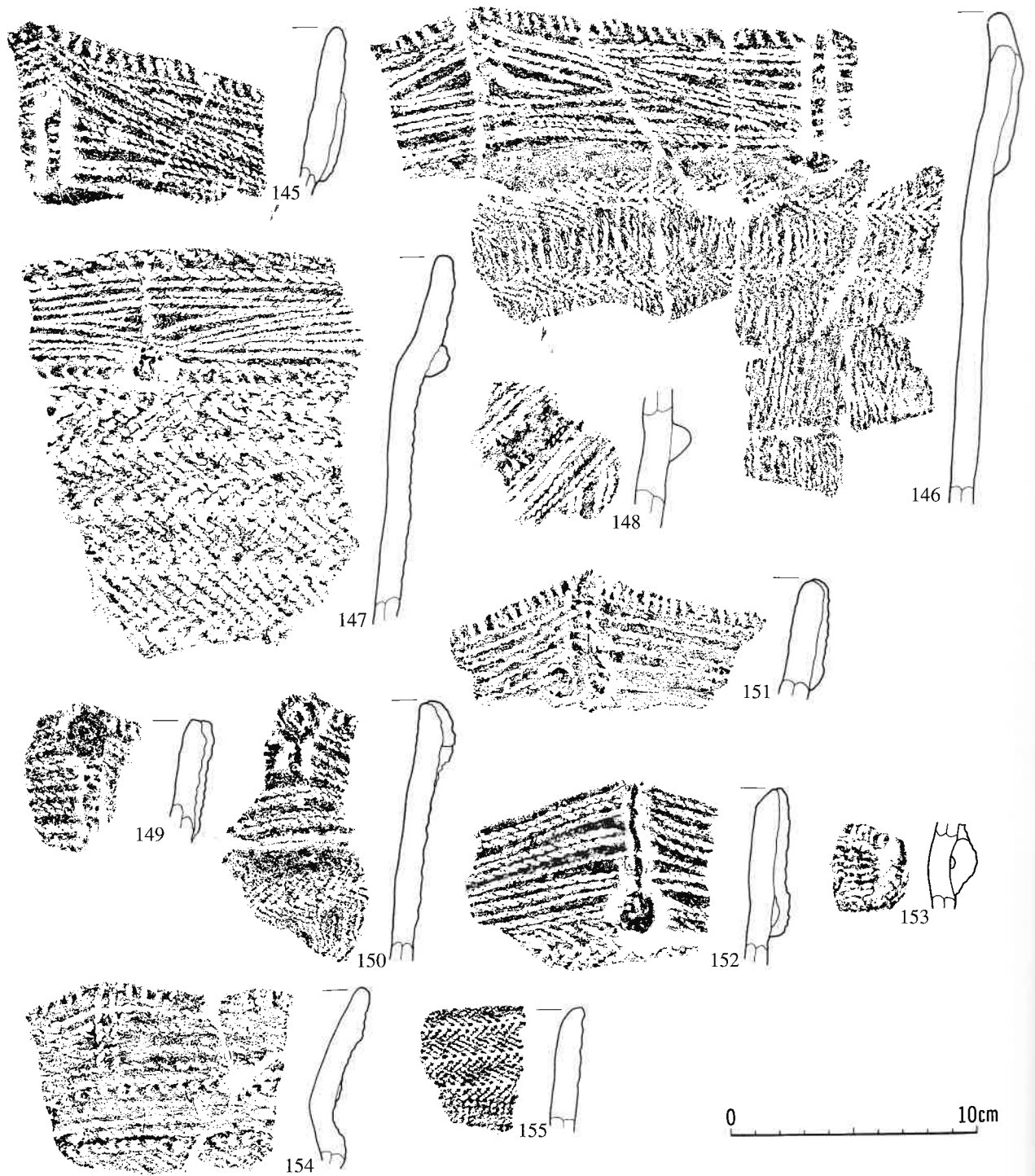
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
122	453住	2	R単絡6、R押	R単絡1		ミガキ	II-5-1		
123	〃	〃	R押	L単絡1		〃	〃		
124	〃	〃	RL押、刺突	結束第一種		〃	〃		
125	〃	〃	L押	R単絡1		〃	〃		
126	〃	〃	〃、L結回	L単絡1		〃	〃		
127	〃	〃	R押	R単絡1A		〃	〃		
128	〃	〃	R・LR押	結束第一種	L単絡1	〃	〃		
129	〃	〃	R押	〃	単絡1? 結束第一種	〃	〃		
130	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
131	〃	〃	LR押	〃		〃	〃		
132	〃	〃	R押	〃		〃	〃		
133	〃	〃	〃	微隆帯(刺突)、結束第一種	RL	〃	〃		
134	〃	〃	〃	〃(R押)、〃		〃	〃		

121図 第453号住居跡出土遺物 (17)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
135	453住	2	R押	微隆帯、結束第一種	RL?	ミガキ	II-5-1		
136	〃	〃	L単絡1押	〃、〃	〃	〃	〃		
137	〃	〃	LR押	LR		〃	〃		
138	〃	〃	貼付(R押)、R押、刺突	LR?		〃	〃		
139	〃	〃	R・LR押	結束第一種	L単絡1	〃	II-5-2		
140	〃	〃	R押			〃	〃		
141	〃	〃	LR押			〃	〃	口唇上面もLR押	
142	〃	〃	〃			〃	〃	〃	
143	〃	〃	〃	単絡1?		〃	〃		
144	〃	〃	貼付(LR押)、LR押	LR結回、LR押、LR	LR	〃	〃		

122図 第453号住居跡出土遺物 (18)



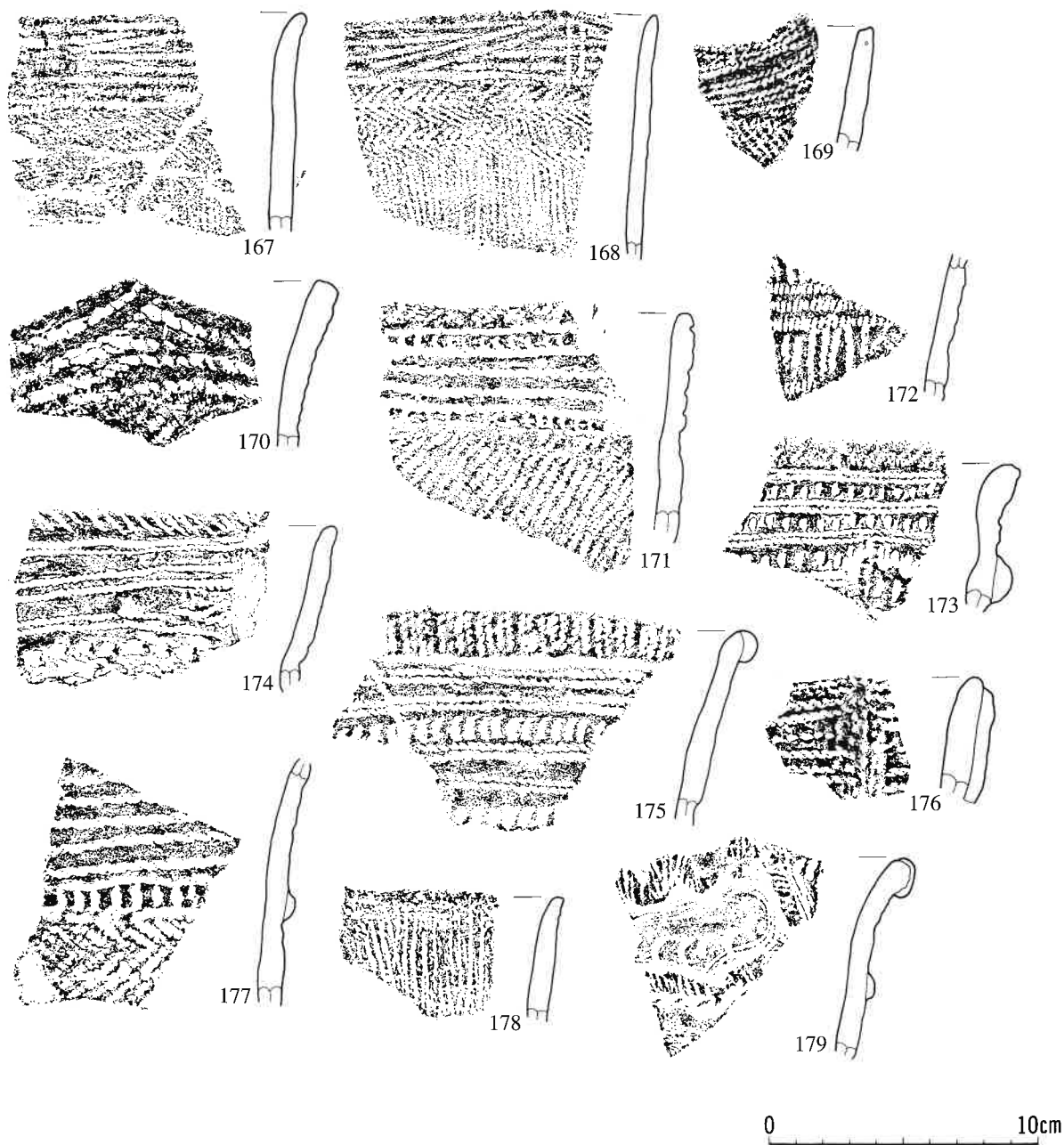
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
145	453住	2	貼付(LR押)、LR押			ミガキ	II-5-2	口唇上面もLR押	
146	〃	〃	〃	結束第一種、R単絡1		〃	〃	〃	
147	〃	〃	貼付、R・LR押、刺突	結束第一種		〃	〃	口唇上面RL	
148	〃	〃	貼付(L押)、L・R押			〃	〃		
149	〃	〃	〃(〃)、L押			〃	〃		
150	〃	〃	〃(R押)、LR押	結束第一種		〃	〃		
151	〃	〃	貼付、LR押			〃	〃	口唇上面もLR押	
152	〃	〃	〃	結束第一種		〃	〃		
153	〃	〃	橋状把手、刺突			〃	〃		
154	〃	〃	貼付、刺突、LR押			〃	〃	口唇上面LR押	
155	〃	〃	結束第一種			〃	II-5		

123図 第453号住居跡出土遺物 (19)



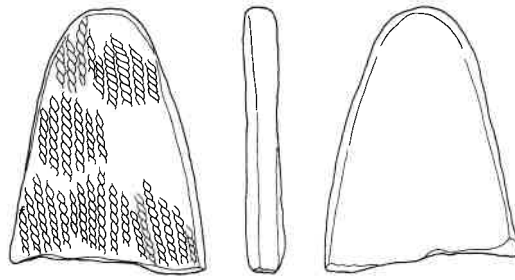
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
156	453住	1	LR押			ミガキ	II-5-2	口唇上面LR押	
157	〃	〃	貼付(刺突)、刺突	結束第一種		〃	〃		
158	〃	堆積土	単絡1、RL押	L単絡1		〃	II-3		
159	〃	〃	R・LR押	結束第一種		〃	II-5-1		
160	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
161	〃	〃	RL押	R単絡1		〃	〃		
162	〃	〃	LR押、刺突	微隆帯(刺突)、結束第一種	R単絡1	〃	〃	口唇上面刻み	
163	〃	〃	単絡1押	微隆帯、縄文		〃	〃		
164	〃	〃	〃	結束第一種		〃	〃	口縁部くびれ	
165	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
166	〃	〃	〃	RL		〃	〃		

124図 第453号住居跡出土遺物(20)



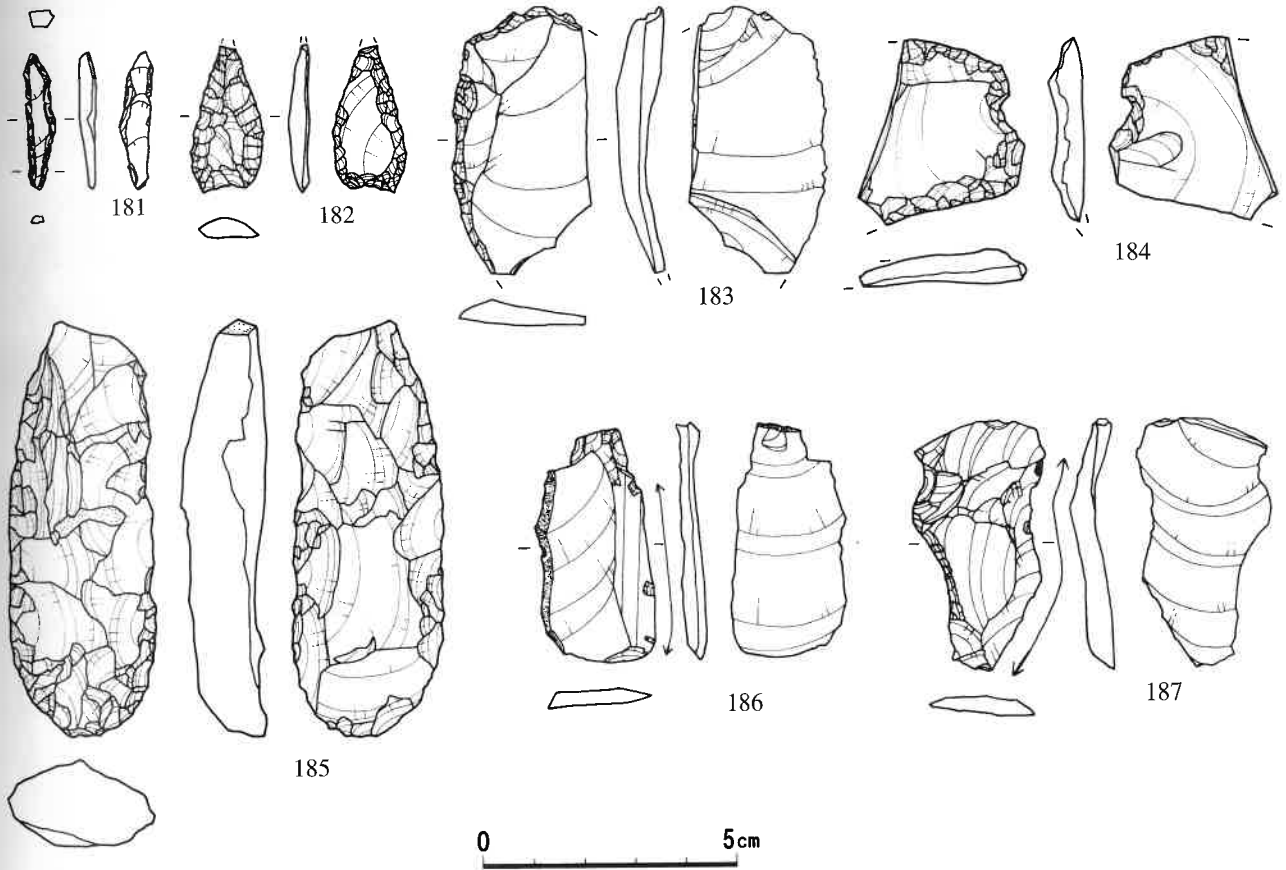
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
167	453住	堆積土	単絡1	RL		ミガキ	II-5-1		
168	〃	〃	R単絡1押	結束第一種	L単絡1	〃	〃		
169	〃	〃	R押			〃	II-5-2	口唇上面R押	
170	〃	〃	LR押			〃	〃		
171	〃	〃	〃、刺突	LR		〃	〃	口唇上面LR	
172	〃	〃	〃、R単絡1押			〃	〃		
173	〃	〃	貼付(L押)、L押、刺突			〃	〃	口唇上面LR	
174	〃	〃	〃(剥落)、〃、〃	結回		〃	〃		
175	〃	〃	〃(L単絡1)、〃、〃			〃	〃		
176	〃	〃	貼付(刺突)、LR押			〃	〃		
177	〃	〃	〃(LR押)、〃	結束第一種		〃	〃		
178	〃	〃	LR押	R単絡1		〃	II-6		
179	〃	〃	貼付(L単絡1)、L押			〃	III-2		

125図 第453号住居跡出土遺物 (21)



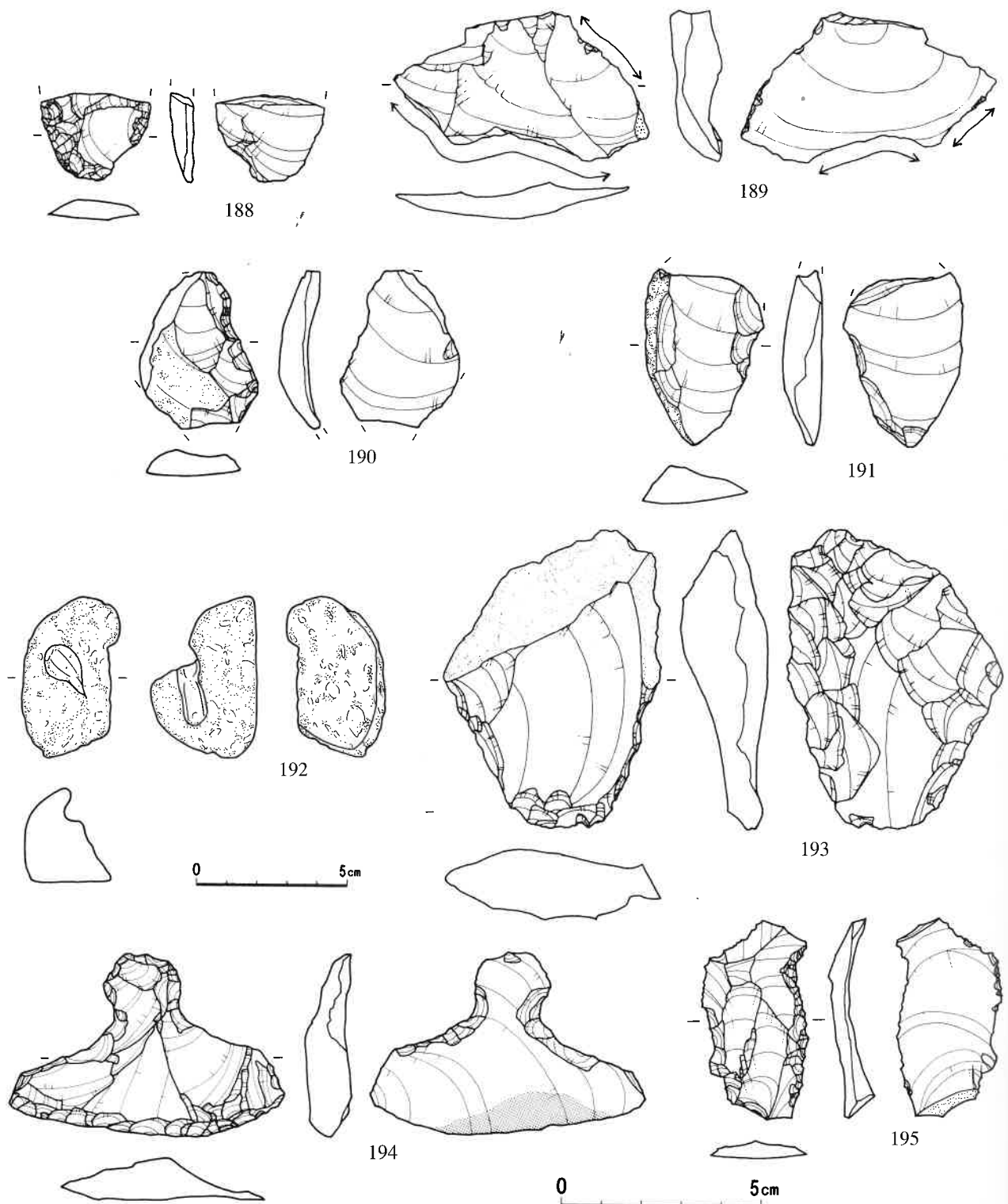
180

番号	出土地点	出土層位	計測値 (cm)				種類	整理番号
			長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
180	453住	堆積土	(66)	(51)	8	23	土製品	1518



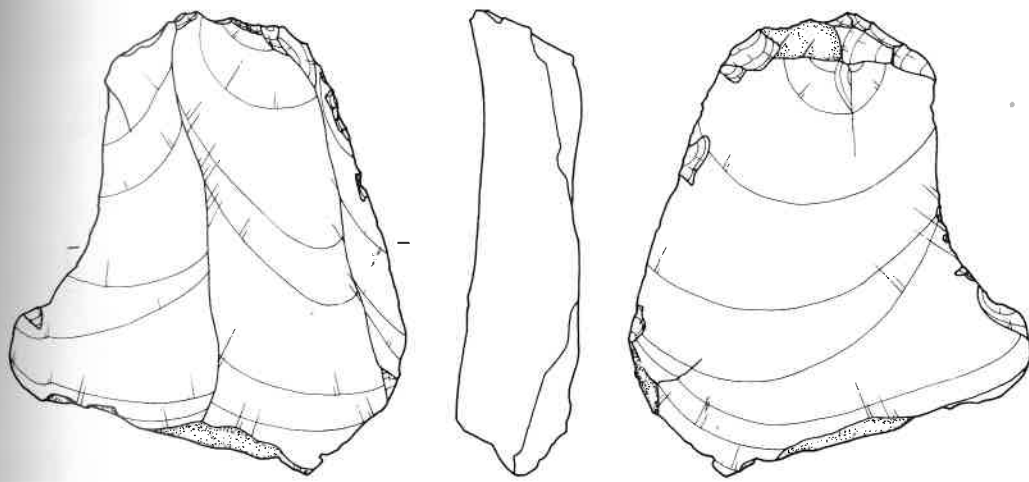
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
181	453住炉	堆積土	27	6	3	0.6	珪頁	Da		52200
182	453住ピット8	〃	(27)	14	4	(1.3)	〃	Af		53010
183	453住ピット23	〃	(52)	27	9	(9.5)	〃	Ga		52201
184	453住ピット	〃	(37)	(29)	(7)	(6.5)	〃	Cf		41914
185	453住	4	81	31	17	44.1	〃	Ea		45711
186	〃	〃	47	23	4	4.3	〃	Gb	石匙?	48638
187	〃	〃	49	27	8	6.0	〃	Ga		48540

126図 第453号住居跡出土遺物 (22)

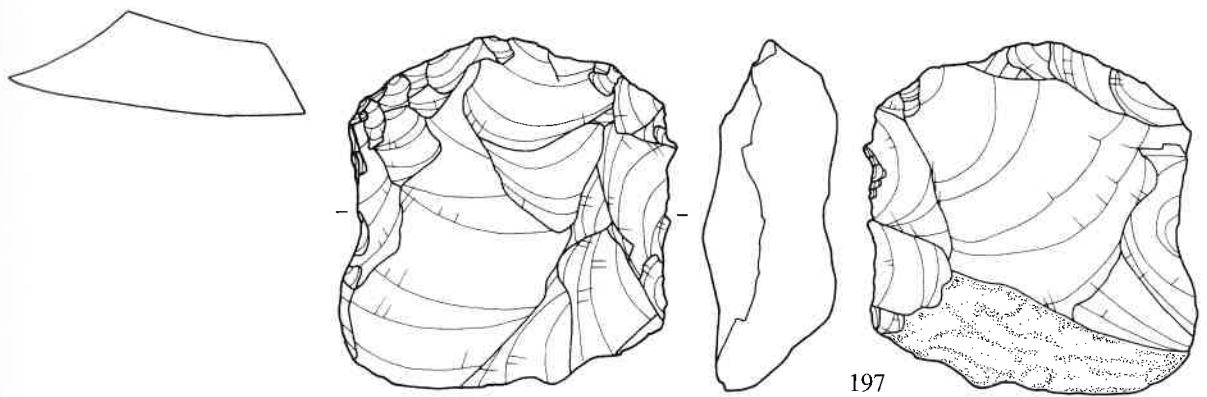


図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
188	453住	4	(22)	(27)	(6)	(3.2)	珪頁	Ga		48536
189	〃	〃	37	64	13	19.4	〃	Gc		40238
190	〃	〃	(39)	(29)	(10)	(7.8)	〃	Ga	焼付	48537
191	〃	〃	(43)	29	10	(13.0)	〃	〃		48530
192	〃	〃	53	33	35	7.9	軽	Tb	砥石?	42048
193	〃	3	74	54	22	67.6	珪頁	Ga		40251
194	〃	〃	46	68	12	19.9	〃	Cb		53011
195	〃	〃	49	27	11	8.3	〃	Ga		52318

127図 第453号住居跡出土遺物 (23)

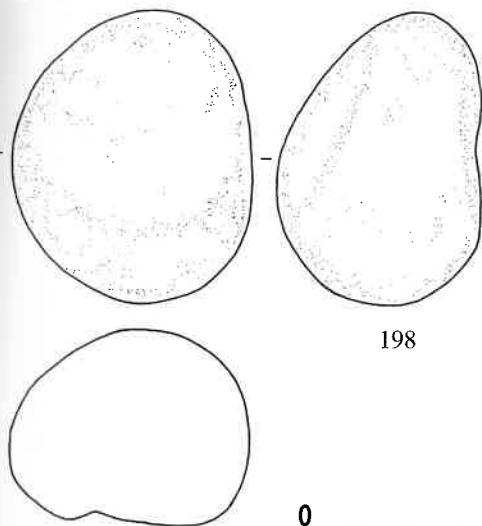


196



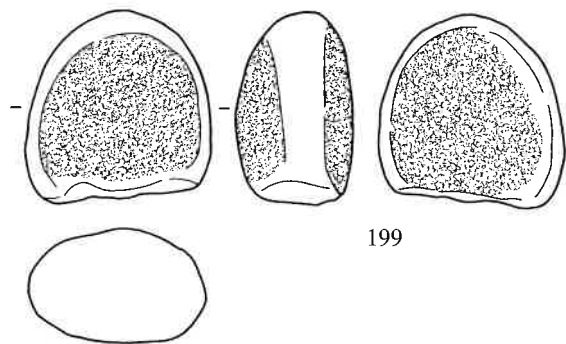
197

0 5cm



198

0 5cm

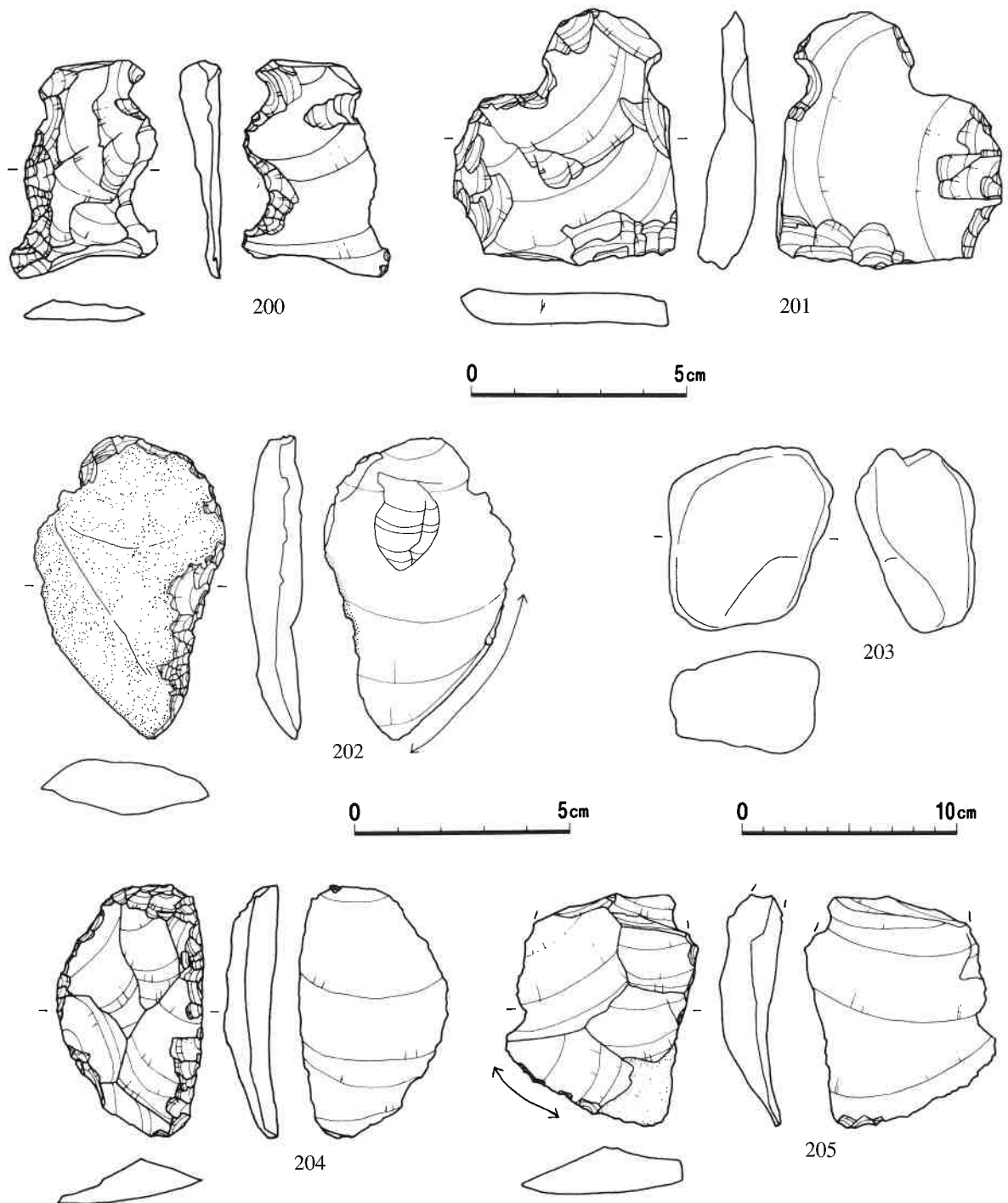


199

0 10cm

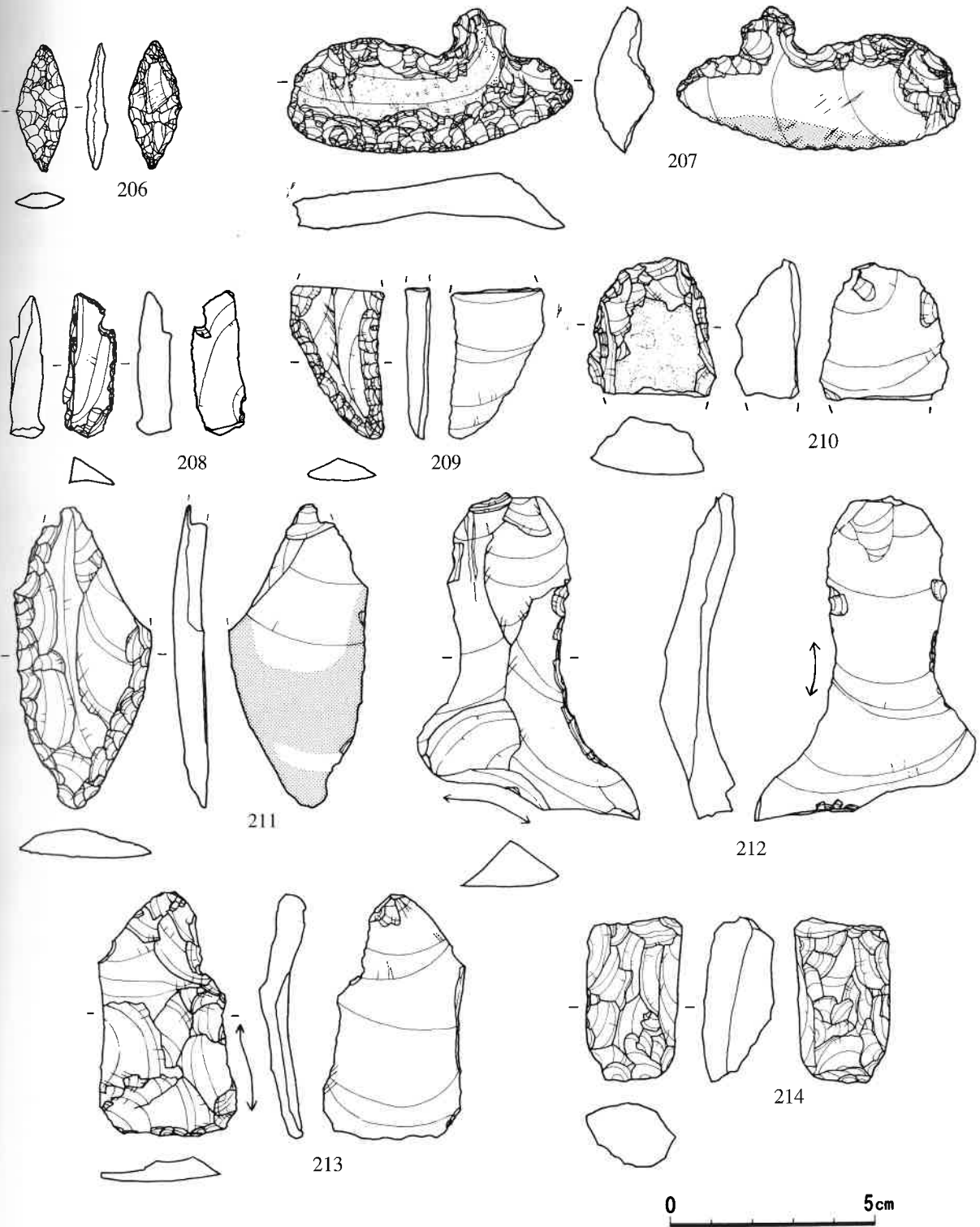
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
196	453住	3	92	80	24	136.3	珪頁	Gb		40255
197	〃	〃	70	67	26	115.8	〃	Pa		52196
198	〃	〃	58	48	40	147.3	頁	Pb		42642
199	〃	〃	75	73	46	352.9	安	Ic		42699

128図 第453号住居跡出土遺物 (24)



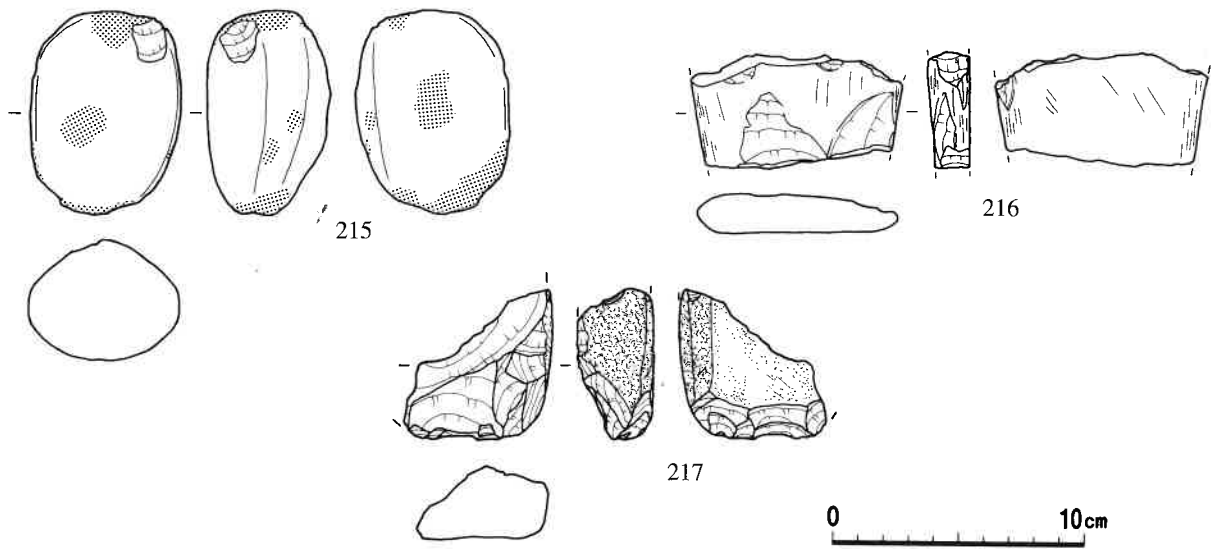
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
200	453住	2	50	34	9	9.4	珪頁	Ca		52193
201	〃	〃	60	52	13	34.2	〃	Cb		52194
202	〃	〃	71	44	13	38.7	〃	Ga		40249
203	〃	〃	85	77	56	418.7	頁	Pb		42706
204	〃	1	59	34	12	16.1	珪頁	Ga		52192
205	〃	〃	54	45	14	26.7	〃	Gc		48532

129図 第453号住居跡出土遺物 (25)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
206	453住	堆積土	31	12	5	1.4	珪頁	Ac		50165
207	〃	〃	35	70	14	20.6	〃	Cb		50184
208	〃	〃	35	13	8	2.7	〃	Ca		41897
209	〃	〃	(37)	(23)	(6)	(4.8)	〃	Ga		48519
210	〃	〃	(34)	(34)	(15)	(15.3)	〃	〃		52195
211	〃	〃	(73)	34	8	(18.8)	〃	〃	石匙破片?	52197
212	〃	〃	79	54	18	29.6	〃	〃		52199
213	〃	〃	59	34	11	10.6	〃	〃		52198
214	〃	〃	40	23	17	19.2	〃	〃		40235

130図 第453号住居跡出土遺物 (26)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
215	453住	堆積土	80	60	49	254.8	安	Ib		42644
216	〃	〃	(44)	(84)	(16)	(88.8)	〃	K		42641
217	〃	〃	(59)	(58)	(30)	(100.3)	〃	Ic		42640

131図 第453号住居跡出土遺物 (27)

第454号住居跡 (132図)

〔位置と確認〕 VIA-89に位置し、第Ⅲ層精査中に貼り床の一部を確認した。

〔重複〕 第284・285号埋設土器遺構と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 床面のみしか確認できなかったため、全体の形状は不明である。残存している床面は長さ1m70cm、幅1m30cmである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。残存する床面はほぼ平坦で、貼り床が施されており堅緻である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

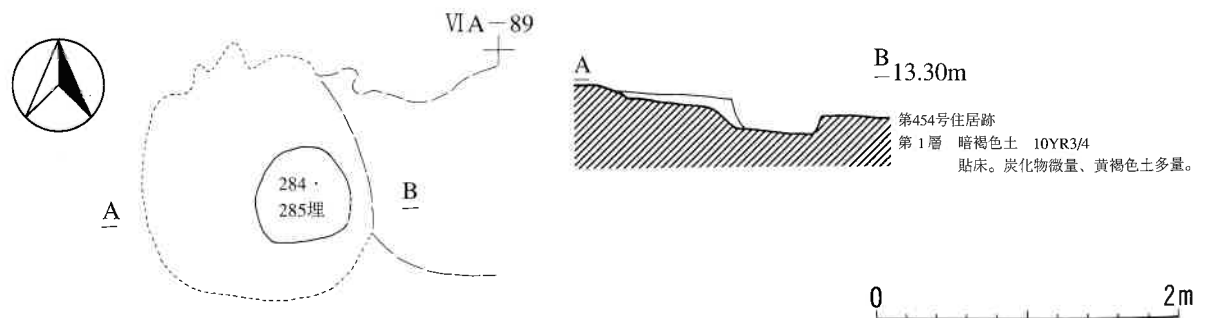
〔炉〕 残存しない。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、詳細は不明である。

(岡田 康博)



132図 第454号住居跡

第455号住居跡 (133図)

〔位置と確認〕 VI F - 88・89に位置し、第351号住居跡精査中に土器埋設炉を確認した。

〔重複〕 第351号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 炉跡しか残存しないため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 壁・床面ともに残存しない。

〔柱穴〕 検出されなかった。

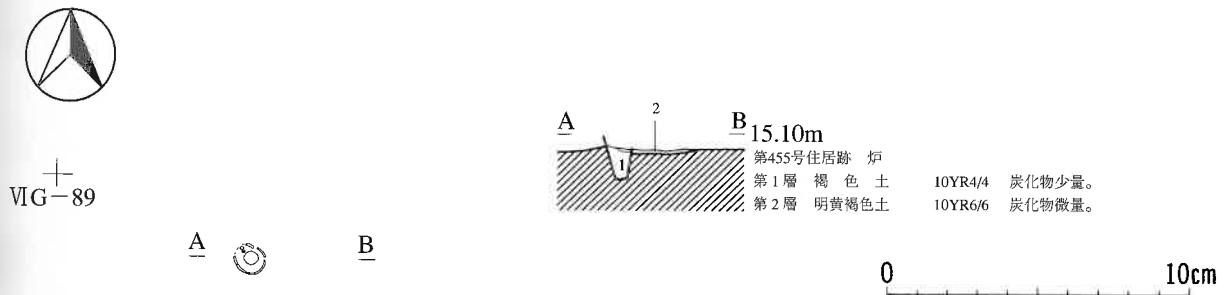
〔炉〕 土器埋設炉が検出された。土器はほぼ完形のものを使用し、掘り方の規模は直径約15cm、深さ25cmである。堆積土には炭化物、焼土を含んでいる。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は図示できなかった。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期である。

(岡田 康博)



133図 第455号住居跡

第456号住居跡 (134図～143図)

〔位置と確認〕 VI A・B - 79・80、VI C - 80に位置する。第V層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 長軸 5 m25cm、短軸 3 m65cmの長方形である。長軸方向は北西-南東である。床面積は16.0m²である。

〔壁・床面〕 北壁は外傾して立ち上がる。これ以外の各壁は、垂直に近い角度で立ち上がる。床面は、第VI層を床面とし、比較的堅緻である。

〔炉〕 床面中央に検出された。掘り方を持つ地床炉と考えられる。焼土は検出されなかった。

〔柱穴〕 床面から、79個の柱穴が検出された。P₁・P₂が主柱穴、P₃₉～P₇₉が壁柱穴と考えられる。壁柱穴は、南西隅には検出されなかった。

〔その他の施設〕 壁柱穴の途切れる南西隅が出入口である可能性が考えられる。床面の堅さには、顕著な差異は認められなかった。

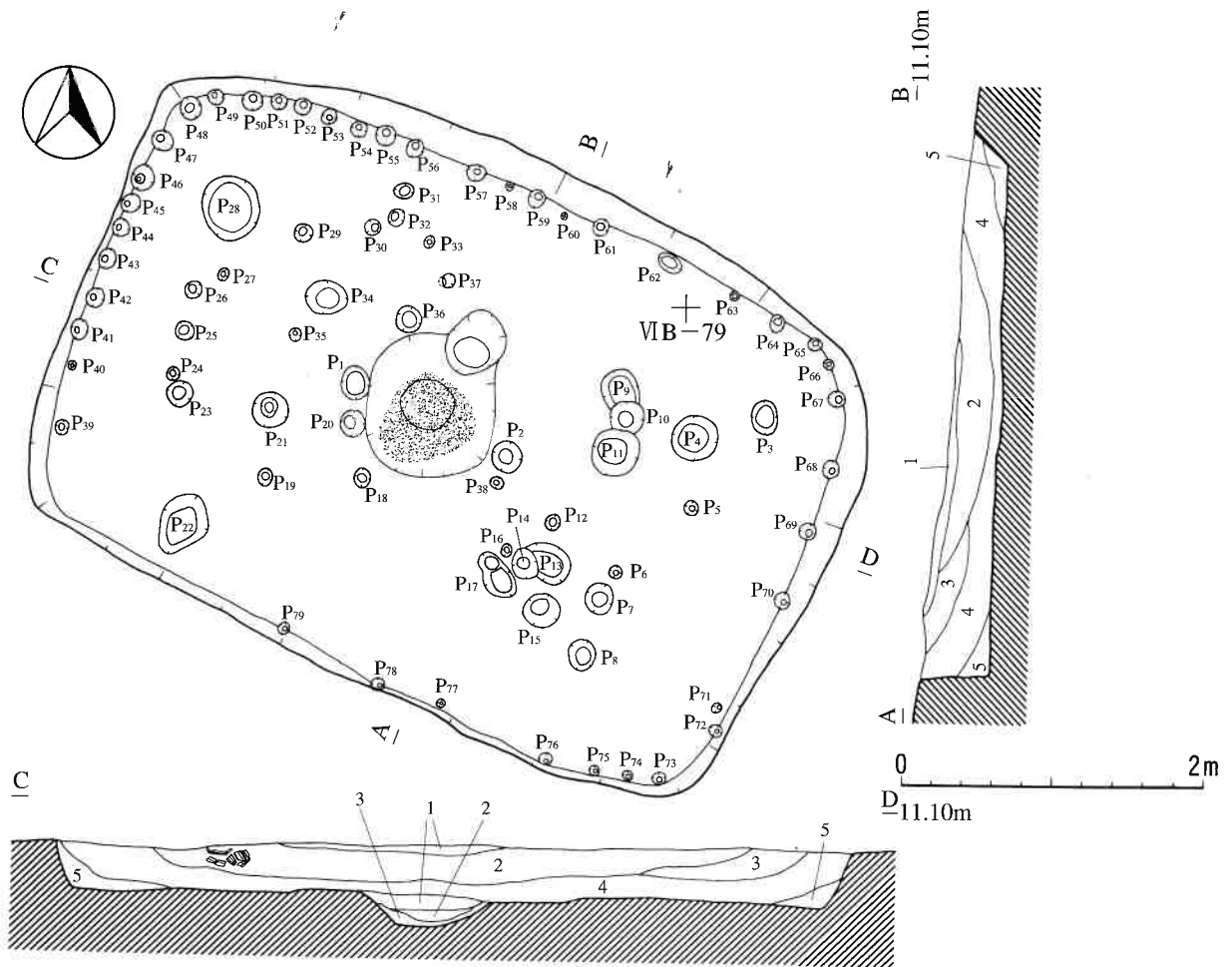
〔堆積土〕 5層に分層された。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 第1・2・4・5層から復元可能な土器を含む多量の土器が出土した。いずれも第II群3類土器である。石器は床面直上から角柱状の礫石器などが、2層から石匙などが、1・2層か

ら石鏃、石匙などが、堆積土から石匙などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代前期中葉（円筒下層b式期）に近い時期と考えられる。

（中村 哲也）



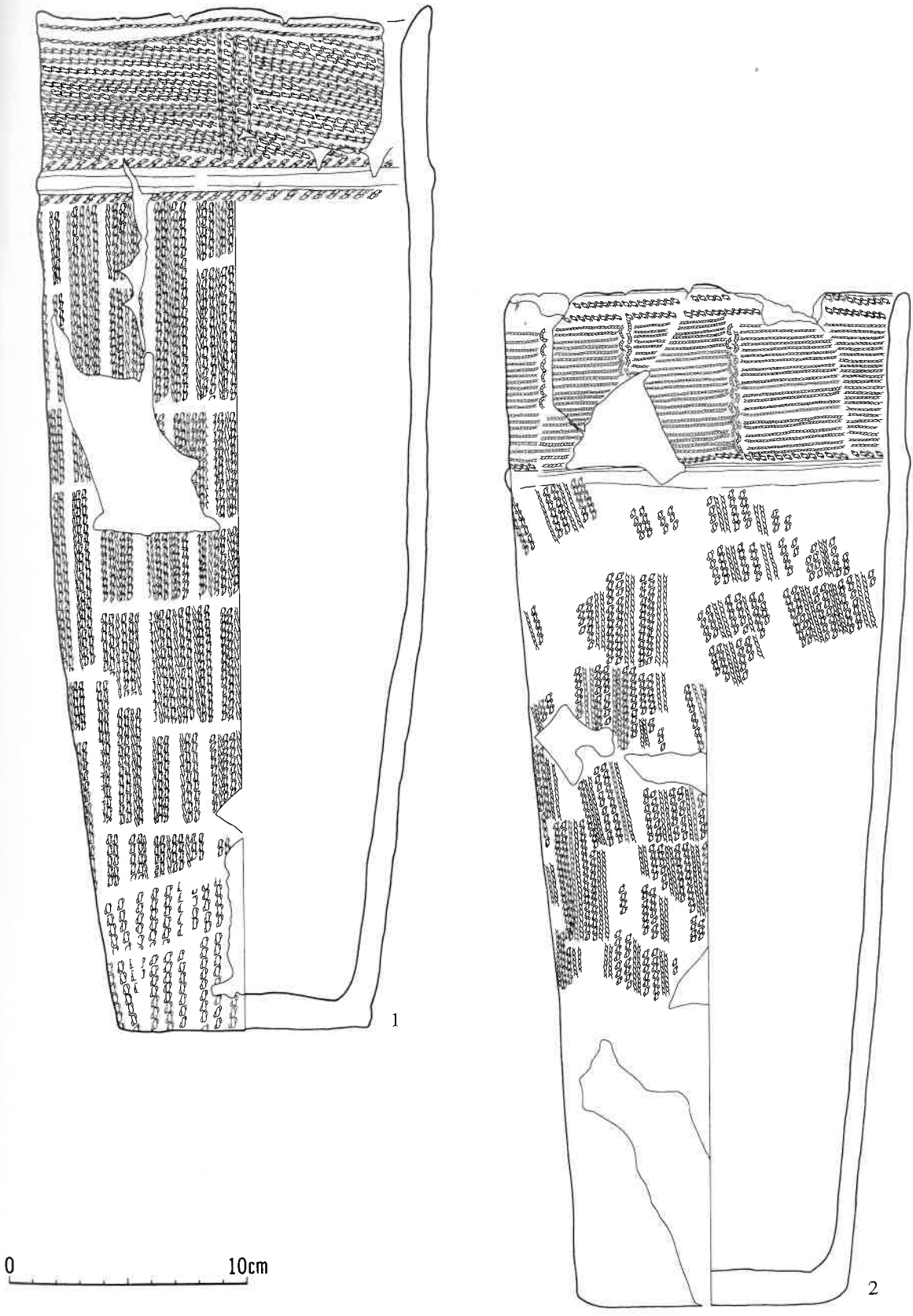
第456号住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・ローム粒多量、焼土粒少量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量、炭化物少量、砂質土微量。
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 L.B.多量、炭化物少量。
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・L.B.多量、炭化物少量。
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・L.B.少量。

第456号住居跡 炉

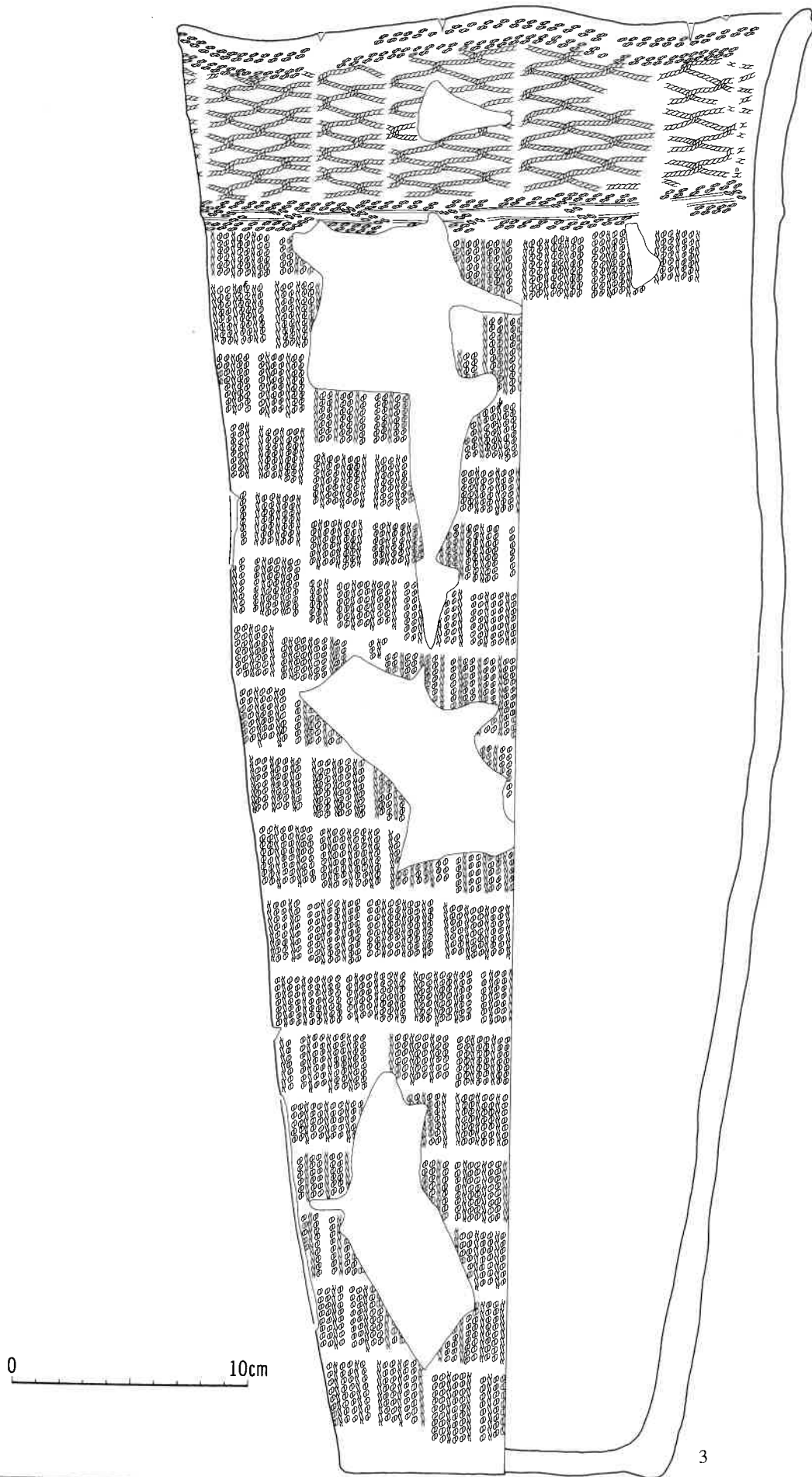
- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物微量。焼土粒極微量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物多量、ローム粒極微量。
- 第3層 黒褐色土 10YR6/4 ローム粒多量、炭化物少量。

134図 第456号住居跡



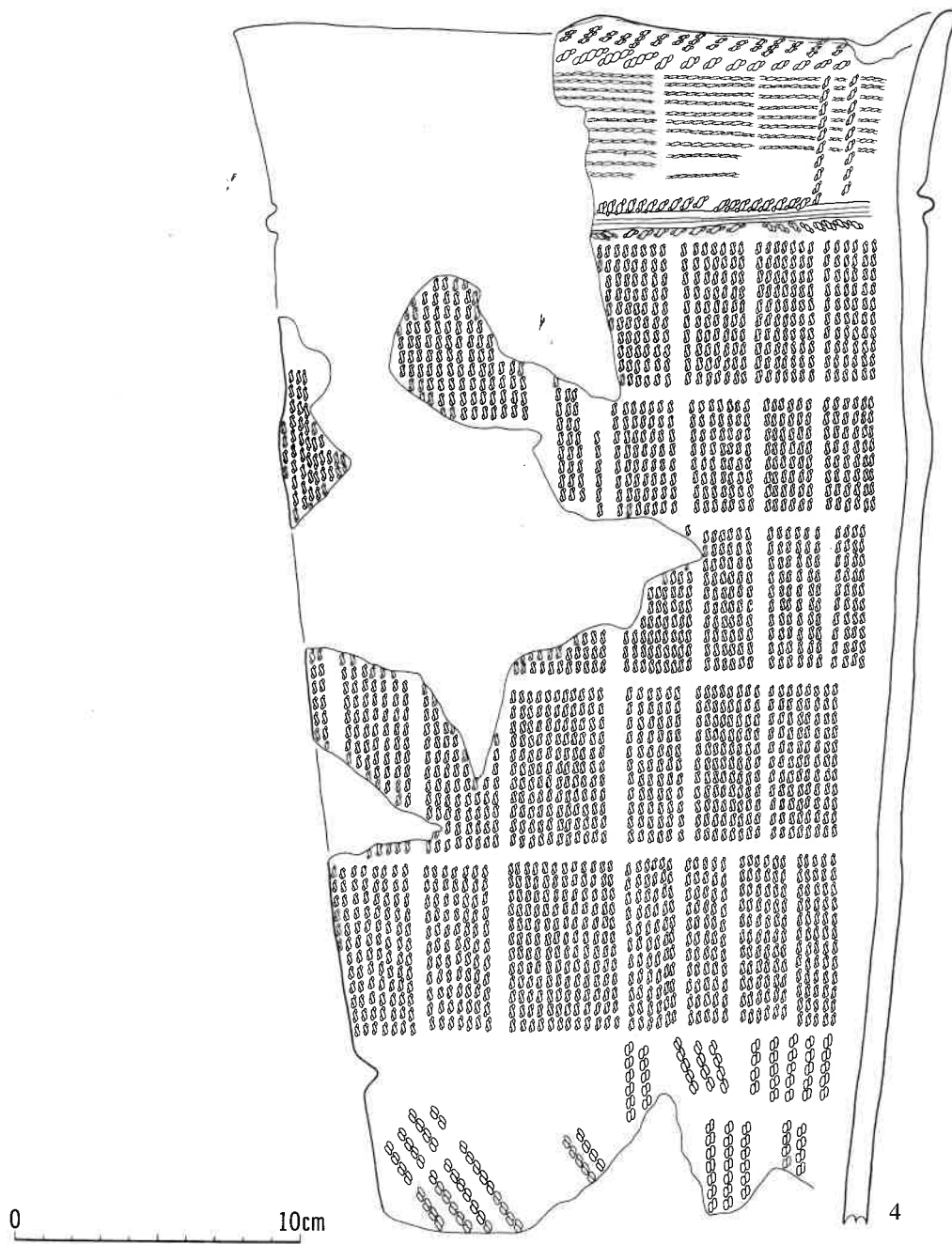
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	456住	4	LR単絡1、LR押	LR・R単絡1	LR・R単絡1	ミガキ	無文	Ⅱ-3	
2	〃	堆積土	R単絡6A、〃	〃	〃	〃	〃	〃	

135図 第456号住居跡・出土遺物(1)



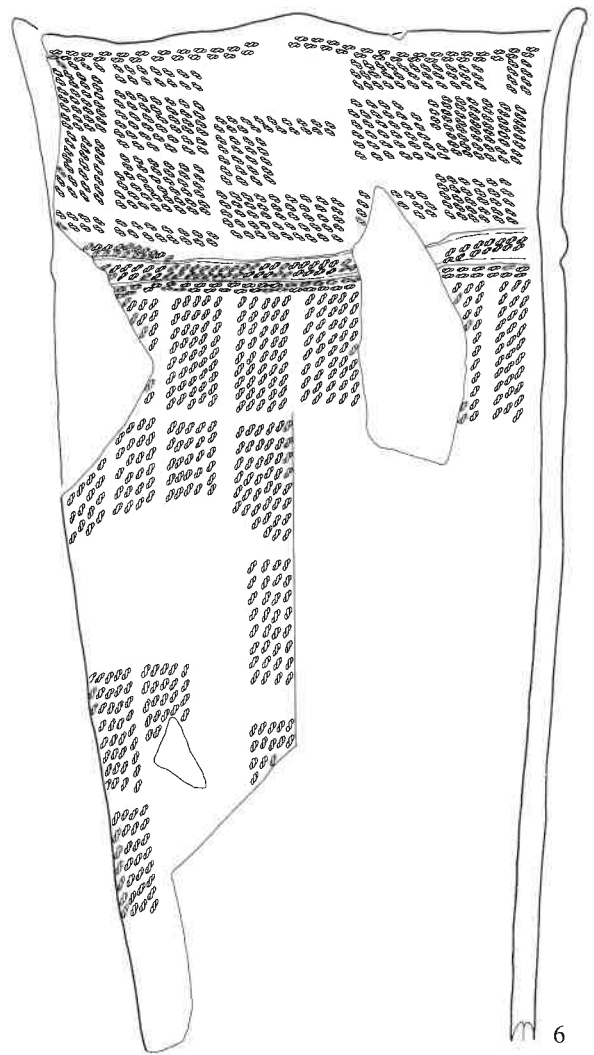
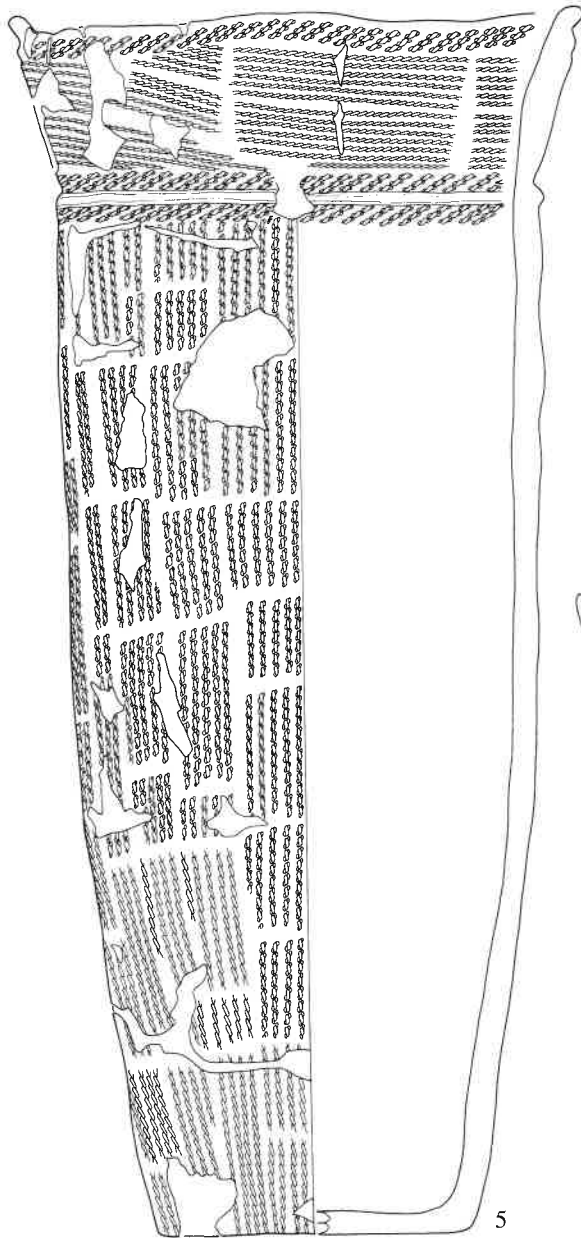
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
3	456住	2	R単絡6、RLR押	低登帯(RLR押)、LR・R単	LR、R単絡1	ミガキ	無文	II-3	

136図 第456号住居跡出土遺物 (2)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
4	456住	2	R単絡1、RL・RLR押	低隆帯(RL押)、LR単絡1	RLR	ミガキ		II-3	

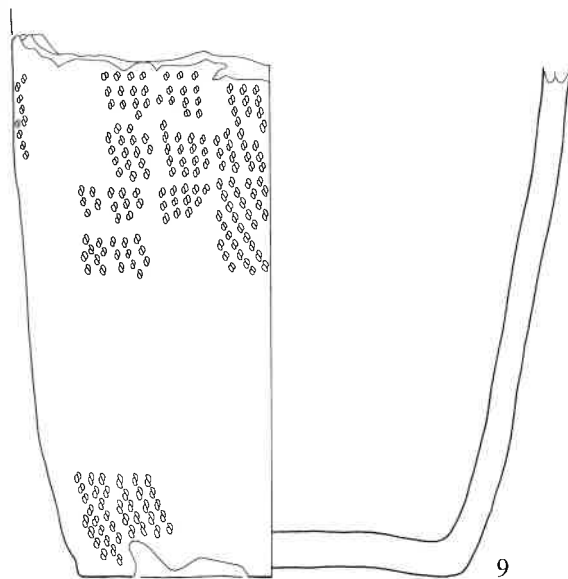
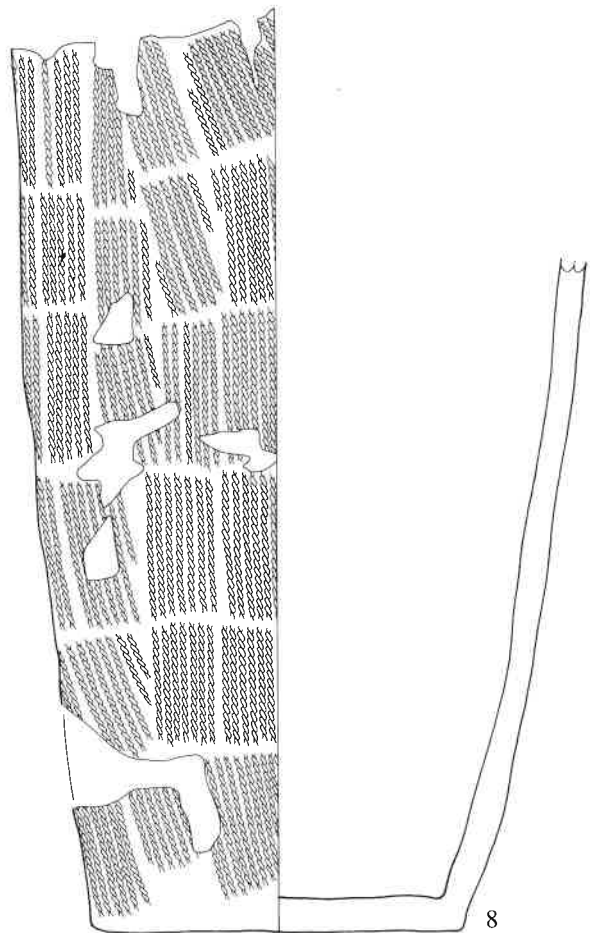
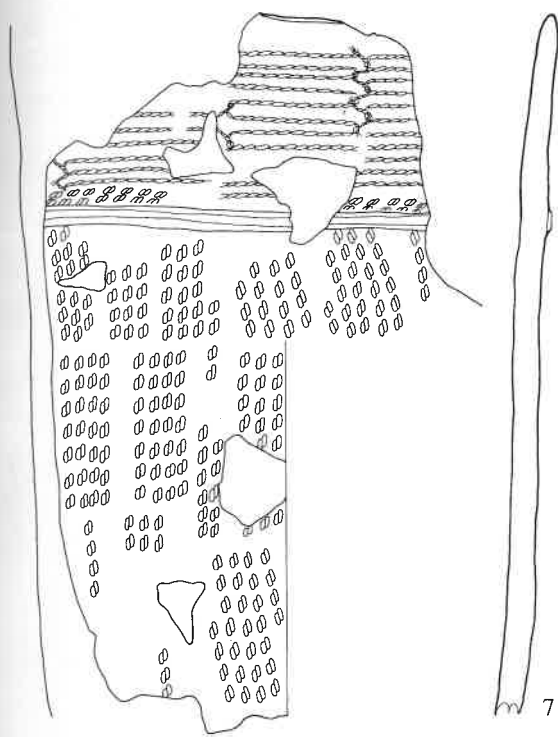
137図 第456号住居跡出土遺物(3)



0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
5	456住	1・2	R単絡1、RLR押	低隆帯(RLR押)、LR単絡1	R単絡1	ミガキ	無文	Ⅱ-3	
6	〃	〃	LR単絡1、〃	〃(〃)、〃		〃		〃	

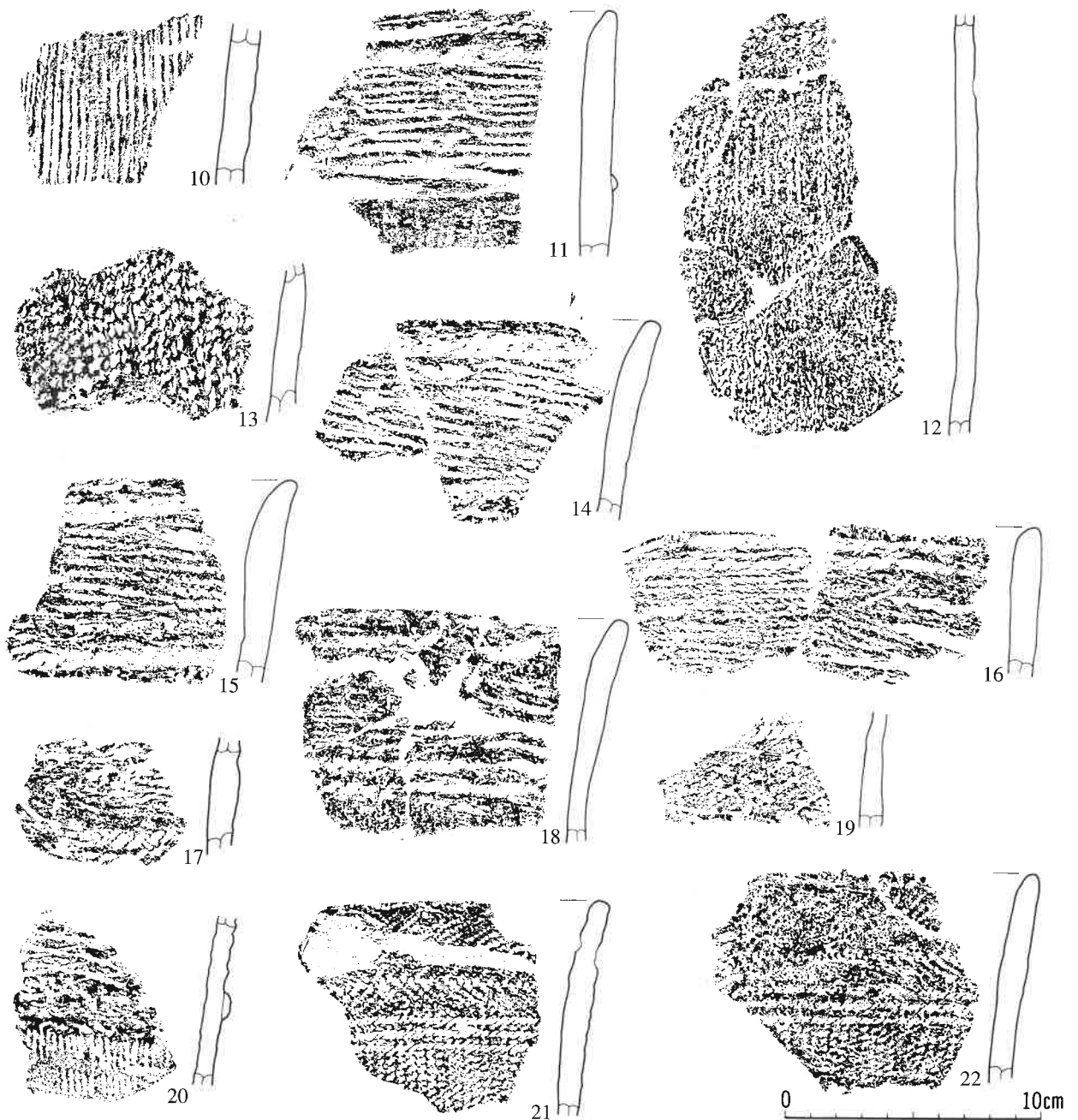
138図 第456号住居跡出土遺物(4)



0 10cm

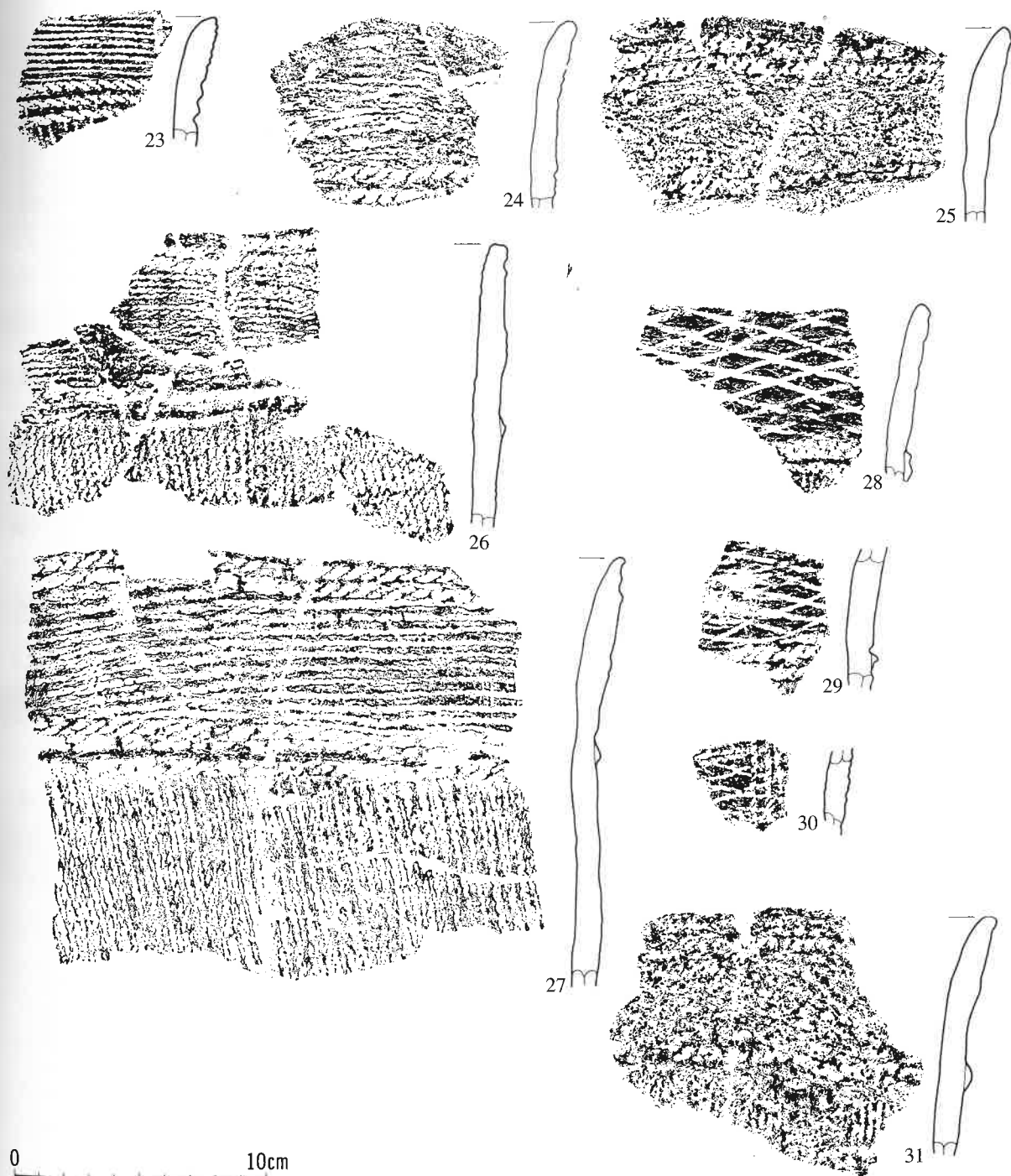
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
7	456住	1・2	R単絡6	低隆帯、RLR		ミガキ	Ⅱ-3		
8	〃	〃			R単絡1	〃	無文	Ⅱ-6	
9	〃	〃			RLR	〃	〃		

139図 第456号住居跡出土遺物 (5)



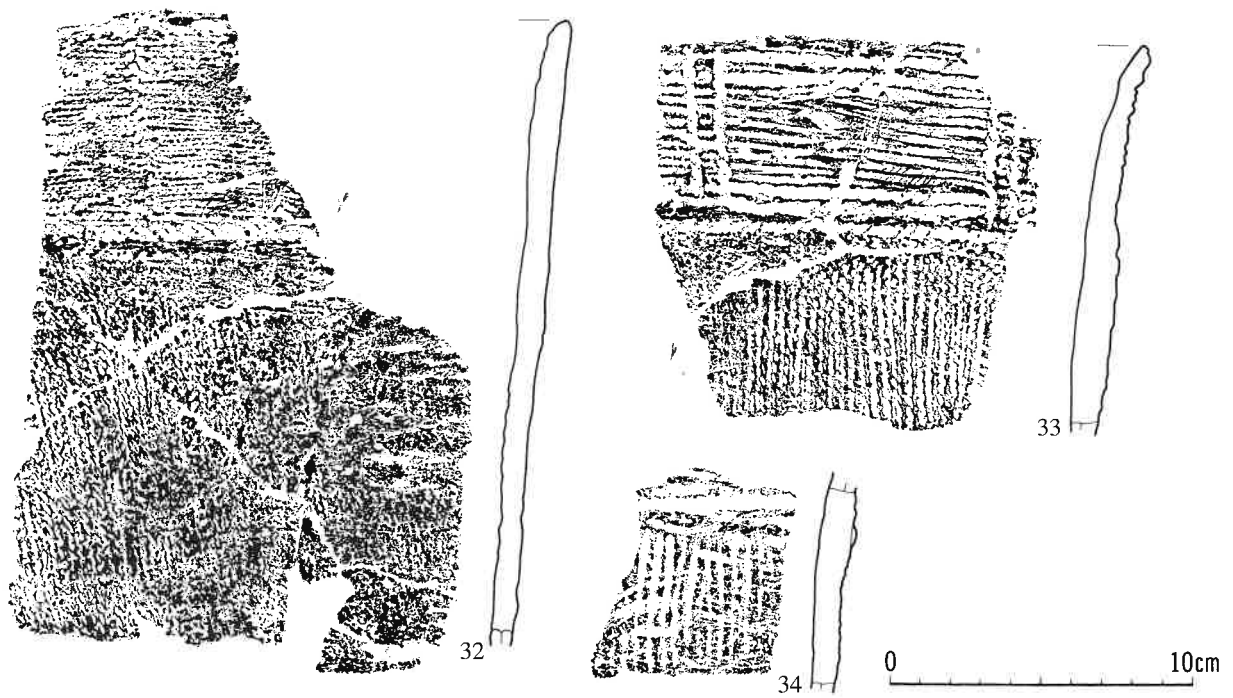
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
10	456住	5		単絡1		ミガキ	II-6		
11	〃	4	単絡6A、RLR押	低隆帯		〃	II-3		
12	〃	〃		単絡1?		〃	II-6	磨耗激しい	
13	〃	〃			RLR	〃	〃		
14	〃	2	L単絡1、RLR押			〃	II-3	15と同一個体	
15	〃	〃	〃			〃	〃		
16	〃	〃	〃			〃	〃		
17	〃	〃	R?単絡1	RL押		〃	〃		
18	〃	〃	単絡1? RLR押?			〃	〃		
19	〃	〃	L単絡5、RLR押			〃	〃		
20	〃	〃	R単絡6	低隆帯、R単絡1		〃	〃		
21	〃	1	結束第一種、R押	RLR		〃	〃		
22	〃	〃	〃	〃		〃	〃		

140図 第456号住居跡出土遺物 (6)

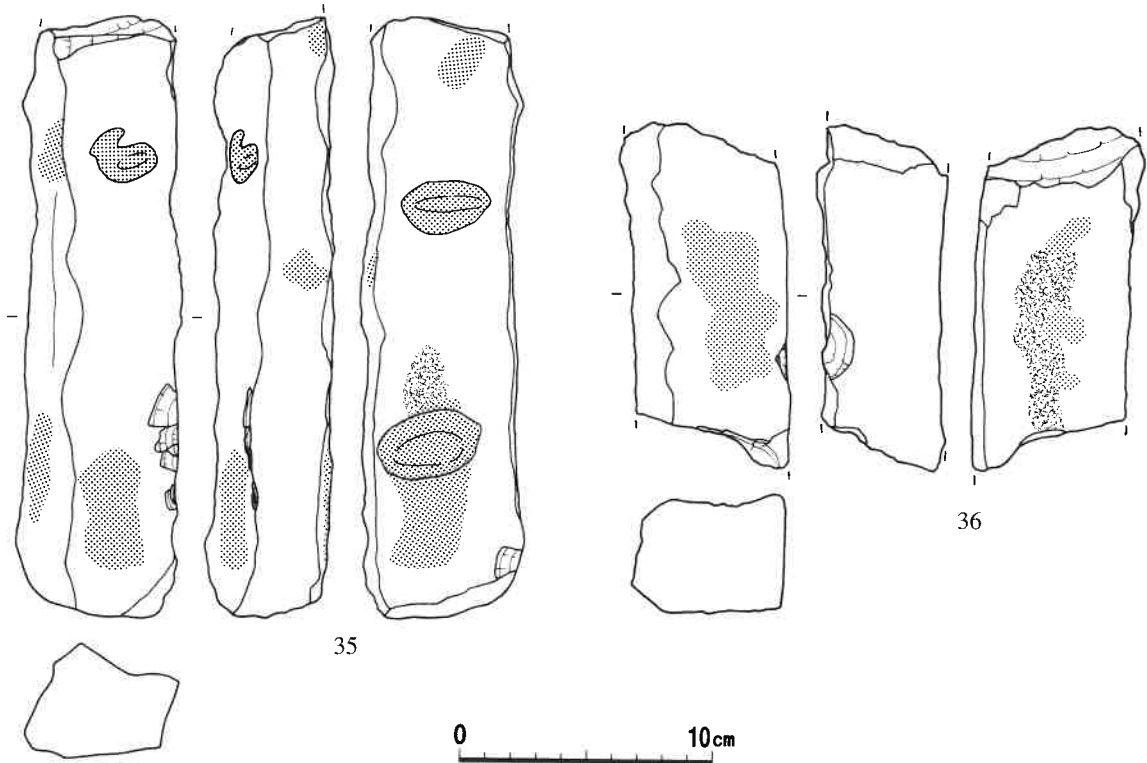


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
23	456住	1	R単絡1、LR押			ミガキ	Ⅱ-3		
24	〃	〃	L単絡1、縄押			〃	〃		
25	〃	〃	〃、RLR押	低隆帯		〃	〃		
26	〃	〃	R単絡1、〃	〃、LR単絡1		〃	〃		
27	〃	〃	LR単絡1、RL押	〃、〃		〃	〃		
28	〃	〃	R単絡5	低隆帯 (RLR押)		〃	〃		
29	〃	〃	〃	〃 (〃)		〃	〃		
30	〃	〃	R単絡6、LR押			〃	〃		
31	〃	〃	不明	低隆帯		〃	〃	磨耗	

141図 第456号住居跡出土遺物 (7)

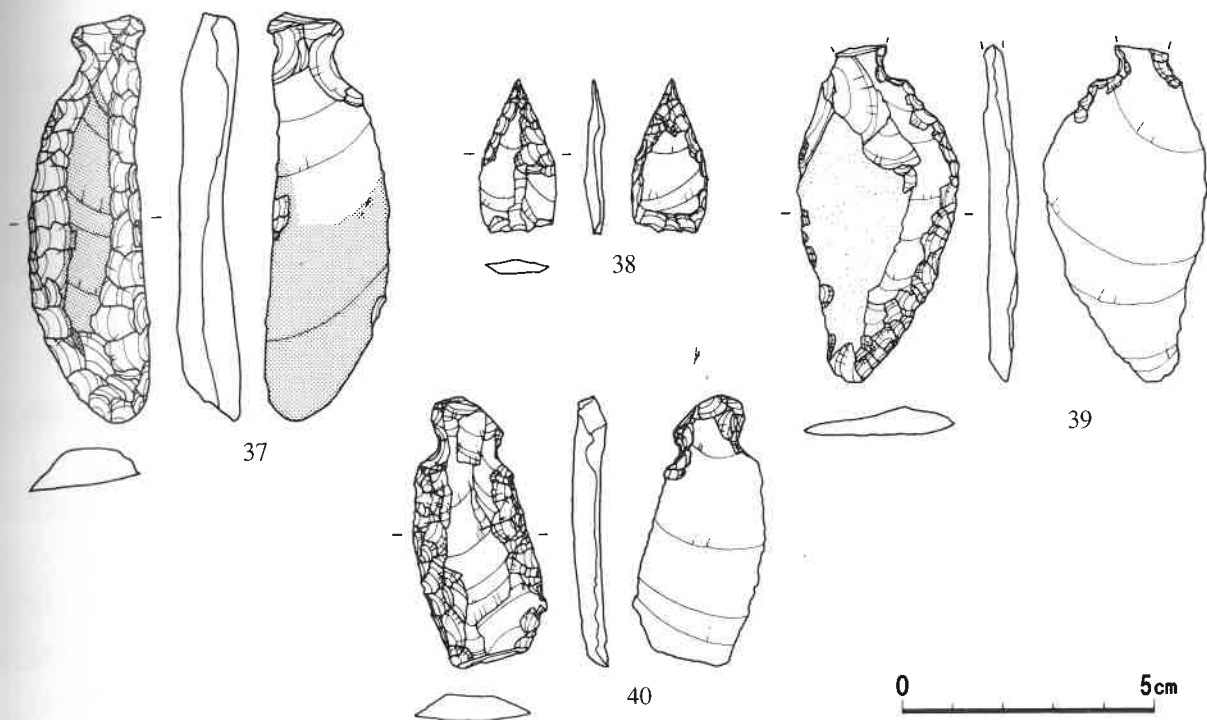


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
32	456住	1	R単絡6A、LR押	低隆帯、L・R単絡I		ミガキ		II-3	
33	〃	堆積土	R単絡I、RLR押	R単絡I		〃		〃	
34	〃	〃		低隆帯、単絡I		〃		〃	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
35	456住	床直	(236)	(65)	(60)	(898.4)	安	Ub	S-4	44208
36	〃	〃	(136)	(68)	(51)	(589.3)	流	〃	S-5	44207

142図 第456号住居跡出土遺物 (8)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
37	456住	2	80	25	14	22.2	珪頁	Ca	S-1	52205
38	〃	1・2	31	15	4	1.3	〃	Ad		52203
39	〃	〃	(66)	32	7	(12.0)	〃	Ca	S-2	52204
40	〃	堆積土	53	26	7	8.6	〃	〃		52202

143図 第456号住居跡出土遺物 (9)

第457号住居跡 (144図)

〔位置と確認〕 VI Q-94に位置し、第453号住居跡精査中に壁と床面の一部を確認した。

〔重複〕 第453号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 南壁と西壁の一部しか残存しないため、全体の平面形は不明であるが、北東-南西に長軸をもつ楕円形ないしは隅丸長方形と考えられる。残存部分の規模は長さ 2 m20cm、幅 3 m30cmである。

〔壁・床面〕 各壁ともに緩やかに湾曲しながら立ち上がる。壁高は西壁 5 cm、南壁 5 cmである。床面はほぼ平坦であり、比較的堅緻である。

〔壁溝〕 南壁際から検出された。幅約10cm~20cm、深さ約 3 cm~30cmである。

〔柱穴〕 明確に支柱穴と判断できるものはないがP₁、P₂はその可能性がある。ピットの深さはP₁…26cm、P₂…10cm、P₃…23cm、P₄…8 cm、P₅…12cm、P₆…5 cm、P₇…11cm、P₈…8 cm、P₉…26cm、P₁₀…8 cm、P₁₁…17cm、P₁₂…11cm、P₁₃…10cmである。

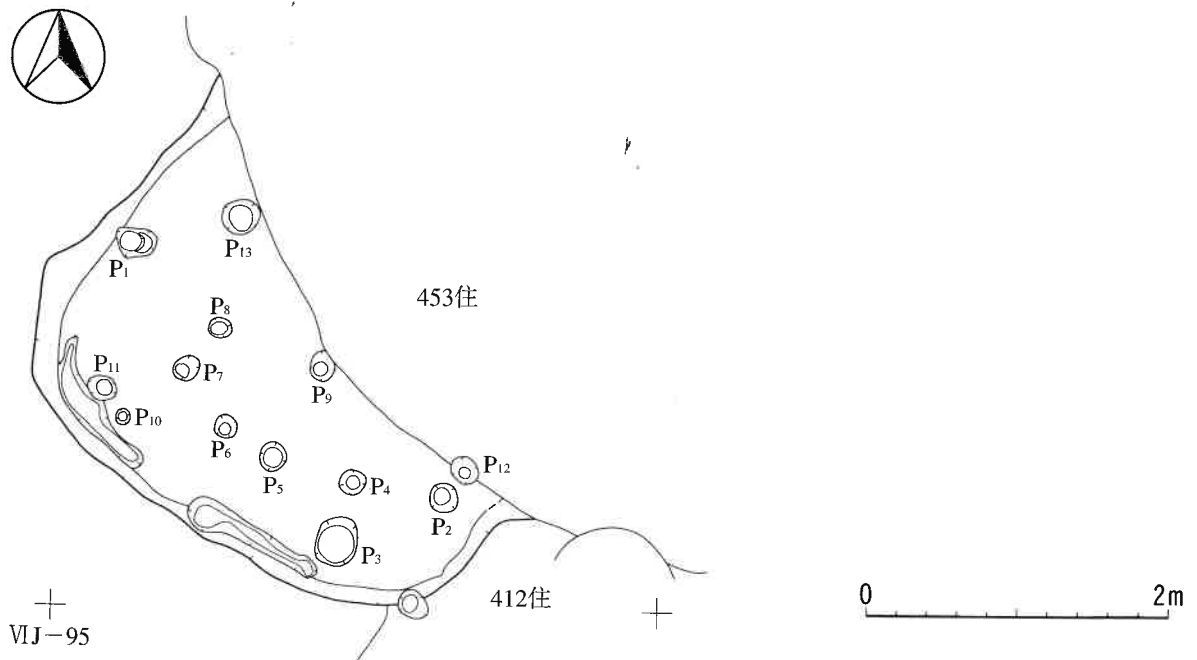
〔炉〕 残存しない。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 遺構の重複関係から縄文時代前期と考えられる。

(岡田 康博)



144図 第457号住居跡

第458号住居跡 (145図)

〔位置と確認〕 VI F-89に位置し、第353号住居跡精査中に土器埋設炉を確認した。

〔重複〕 第353号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 炉跡しか残存しないため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 壁・床面とも残存しない。

〔柱穴〕 検出されなかった。

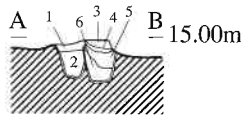
〔炉〕 土器埋設炉が2基検出された。土器は上半部を使用し、掘り方の規模は東側が直径約20cm、深さ25cm、西側のものが直径約15cm、深さ20cmである。堆積土には炭化物、焼土を含んでいる。2基とも同時期のもので、極めて近接した時間的關係の中で作り替えたものと考えられる。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は図示できなかった。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期と考えられる。

(岡田 康博)



第458号住居跡 炉

第1層	黒褐色土	10YR3/2	L.B.少量、炭化物微量。
第2層	暗褐色土	10YR3/3	L.B.少量、炭化物微量。
第3層	暗褐色土	10YR3/4	
第4層	黄褐色土	10YR5/6	炭化物・L.B.少量。
第5層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物・L.B.少量。
第6層	黒褐色土	10YR3/2	

VIG-90
+



145図 第458号住居跡

第461号住居跡 (146図)

〔位置と確認〕 VIF・G-93・94に位置し、第Ⅲ層精査中に貼り床の一部を確認した。

〔重複〕 第706号土坑、第74・75号焼土遺構と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 炉跡と床面のみしか確認できなかったため、全体の形状は不明である。残存している床面は長さ4m35cm、幅2m80cmである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。残存している床面はほぼ平坦で、貼り床が施され堅緻である。

〔柱穴〕 2個検出されたが、支柱穴かどうか断定できない。ピットの深さは、P₁…38cm、P₂…15cmである。

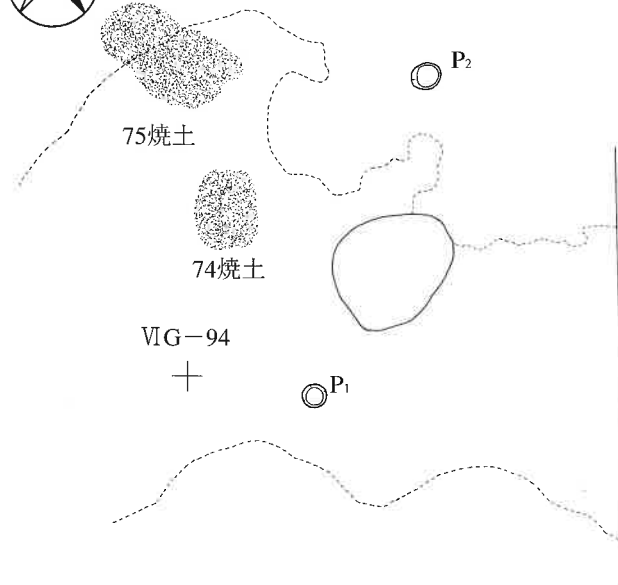
〔炉〕 掘り方を持たない地床炉が検出された。規模は55cm×40cmである。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認状況から縄文時代中期と考えられる。

(岡田 康博)



146図 第461号住居跡

第462号住居跡 (147図)

〔位置と確認〕 VIH-88に位置し、第287号住居跡精査中に土器埋設炉を確認した。

〔重複〕 第287号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 炉跡と床面のみしか確認できなかったため、全体の形状は不明である。残存している床面は長さ1 m20cm、幅1 m10cmである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。残存している床面はほぼ平坦で、貼り床が施され堅緻である。

〔柱穴〕 2個検出されたが、支柱穴かどうか断定できない。ピットの深さは、P₁…38cm、P₂…15cmである。

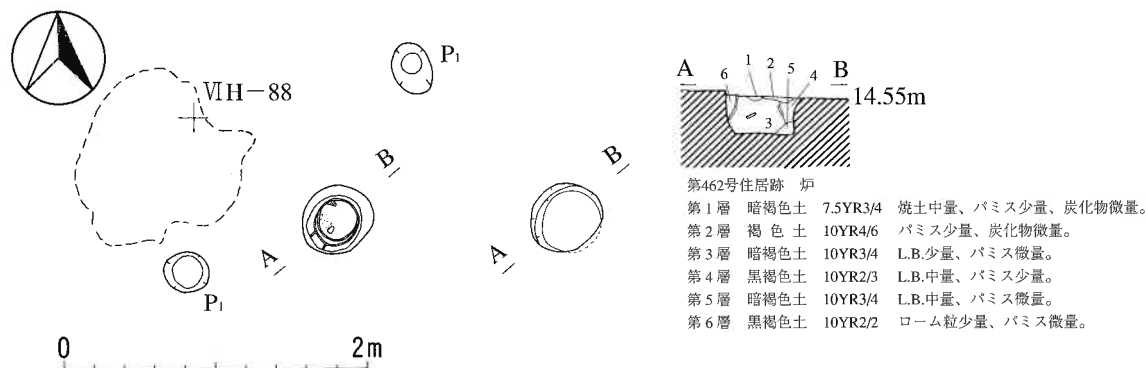
〔炉〕 土器埋設炉が検出された。土器は上半部を倒立させて使用し、規模は直径50cm、深さ25cmである。堆積土には炭化物、焼土が含まれる。明確な火焼面は確認できなかった。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は図示できなかった。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期と考えられる。

(岡田 康博)



147図 第462号住居跡

第463号住居跡 (148図～150図)

〔位置と確認〕 VIG・H-92・93に位置し、第Ⅲ層精査中に壁と床の一部を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 炉跡と床面、北壁の一部のみ残存しないため、全体の形状は不明である。残存している床面は長さ3 m60cm、幅3 m20cmである。

〔壁・床面〕 北壁の一部しか残存しない。壁は外反しながら直線的に立ち上がる。壁高は北壁…4cmである。残存している床面はほぼ平坦で、軟弱である。

〔柱穴〕 4個検出されたが、明確に支柱穴と判断できるものはない。ピットの深さは、P₁…42cm、P₂…54cm、P₃…17cm、P₄…35cmである。

〔炉〕 掘り方を持つ地床炉が検出された。規模は30cm×25cm、深さ50cmである。

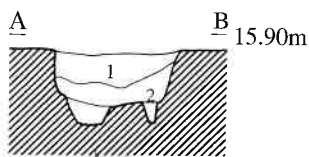
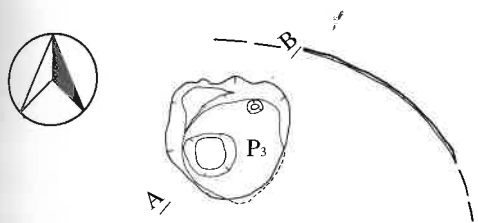
〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 ピット堆積土中から第Ⅱ群5類、第Ⅲ群1類土器が出土した。堆積土中からは第Ⅱ群5類、第Ⅲ群2類土器、スクレイパー類、R.フレイクなどが出土した。また、ピットの堆積土から

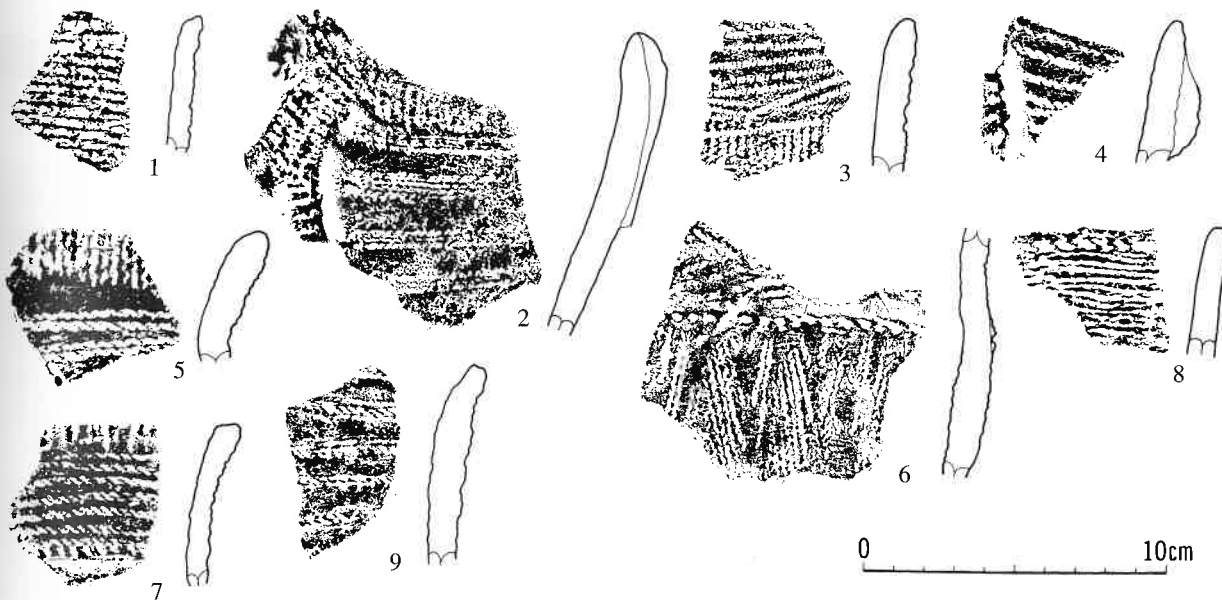
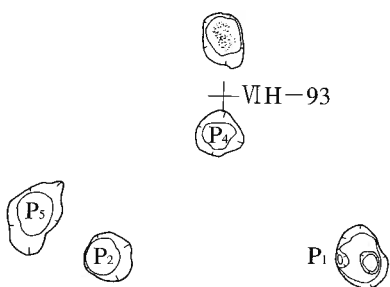
スクレイパー類などが出土した。

[時期] ピット堆積土出土土器から、縄文時代前期末から中期初頭にかけての時期と考えられる。

(岡田 康博)

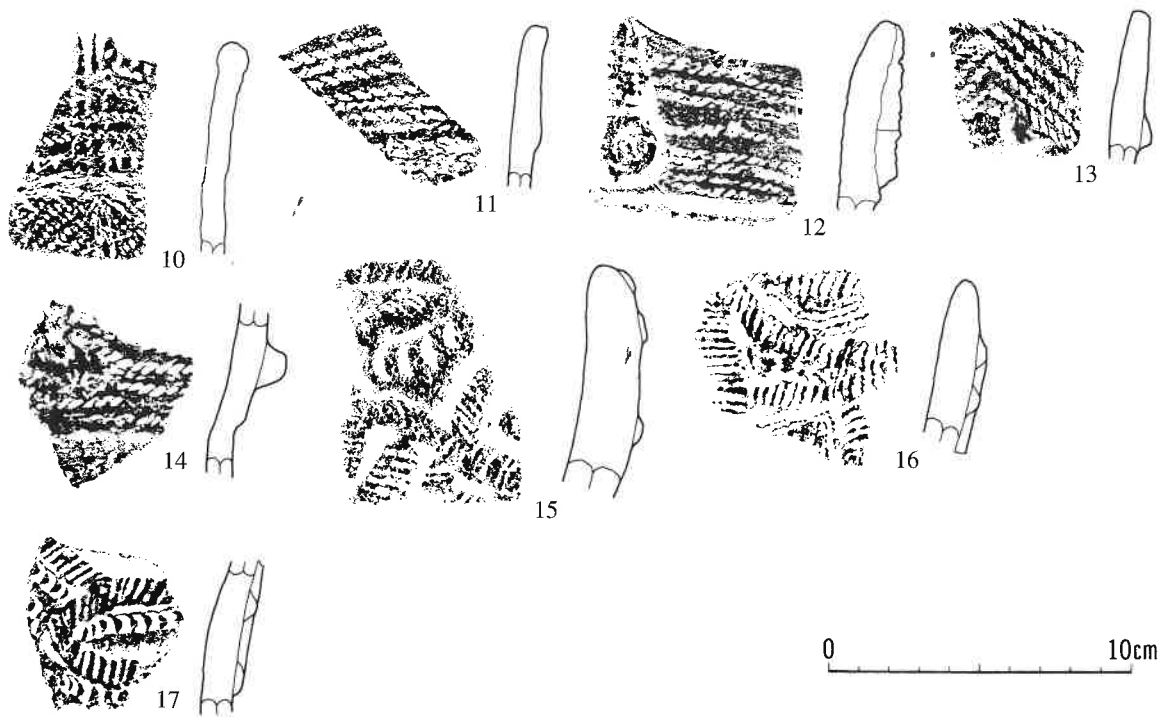


第463号住居跡
 第1層 におい黄褐色土 10YR4/3 炭化物少量、ローム粒・L.B.少量。
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・ローム粒・L.B.少量。

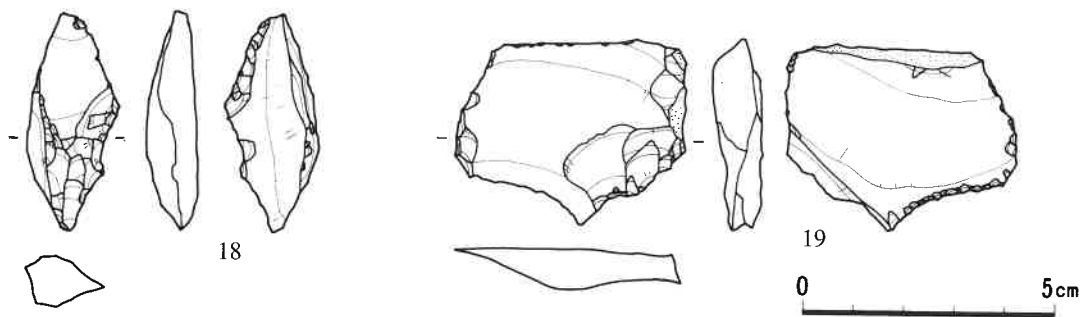


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	463住居内	堆積土	単絡1? RL押			ミガキ		II-3	
2	〃	〃	貼付 (R単絡1)			〃		III-1	
3	463住居外	〃	R単絡1押	RL?		〃		II-5-1	
4	〃	〃	貼付 (縄押)、LR押			〃		II-5-2	
5	〃	〃	LR押			〃		III-1?	
6	〃	〃	〃	微隆帯 (刺突)、L・R単絡1A		〃		II-5-2	
7	463住	〃	LR			〃		〃	口唇肥厚
8	〃	〃	LR押			〃		〃	口唇上面平坦に面取り
9	〃	〃	LR・R押			〃		〃	口唇部外反

148図 第463号住居跡・出土遺物 (1)

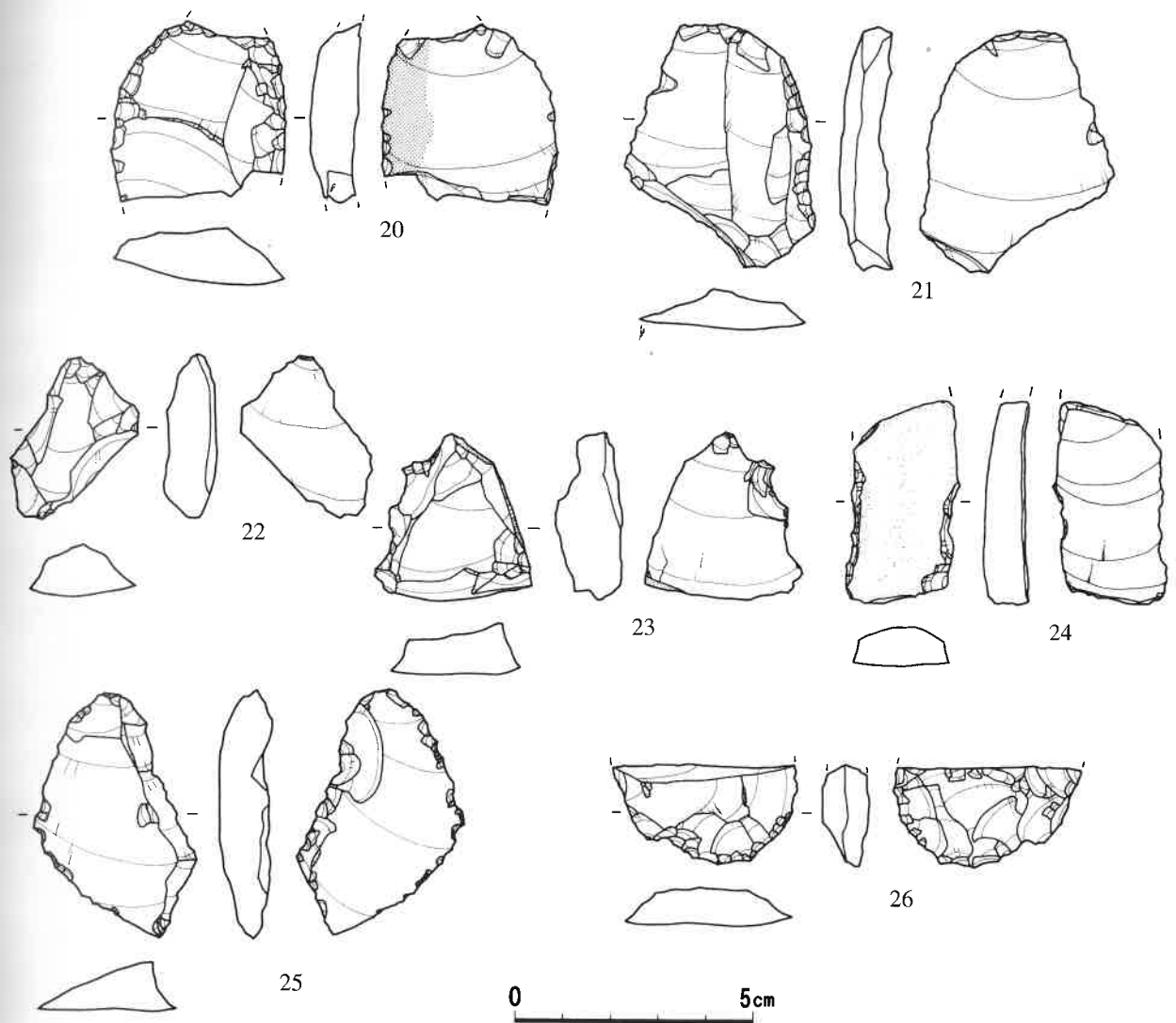


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
10	463住	堆積土	LR押	LR		ミガキ		II-5-2	
11	〃	〃	LR・R押			〃		〃	
12	〃	〃	貼付 (R押)、R押			〃		〃	
13	〃	〃	L押、鼓状突起			〃		〃	
14	〃	〃	貼付 (R押)、R押			〃		〃	
15	〃	〃	貼付 (L単絡1)、L馬蹄形押			〃		III-2	
16	〃	〃	貼付 (R単絡1押)、R馬蹄形押			〃		〃	
17	〃	〃		貼付 (L単絡1)、刺突		〃		III-3	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
18	463住ピット3	堆積土	43	18	10	4.7	珪頁	Ga		52220
19	463住ピット	〃	37	45	10	14.2	〃	〃		52221

149図 第463号住居跡出土遺物 (2)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
20	463住ピット	堆積土	(38)	37	10	(14.9)	珪頁	Ga	石匙破片?	52222
21	463住	〃	51	40	11	17.2	〃	〃		52218
22	〃	〃	34	27	11	7.4	〃	Gb		52214
23	〃	〃	35	32	14	14.4	〃	〃		52215
24	〃	〃	(42)	(24)	9	(11.4)	〃	Ga		42798
25	〃	〃	51	34	11	10.0	〃	〃		52219
26	〃	〃	(21)	(39)	(10)	(8.1)	〃	〃		52216

150図 第463号住居跡出土遺物 (3)

第464号住居跡 (151図)

〔位置と確認〕 VI H・I-89に位置し、第391号住居跡精査中に床の一部と柱穴を確認した。

〔重複〕 第290・391号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 一部しか残存しないため全体の平面形は不明である。残存部分の規模は長軸3m、短軸70cmである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。床面はほぼ平坦であるが、貼り床は施されておらず軟弱である。

〔壁溝〕 東側から一部検出された。幅5cm、深さ2cmである。

〔柱穴〕 主柱穴は検出されなかった。壁際から壁柱穴が検出された。規模は直径5cm、深さ5cm～7cmである。

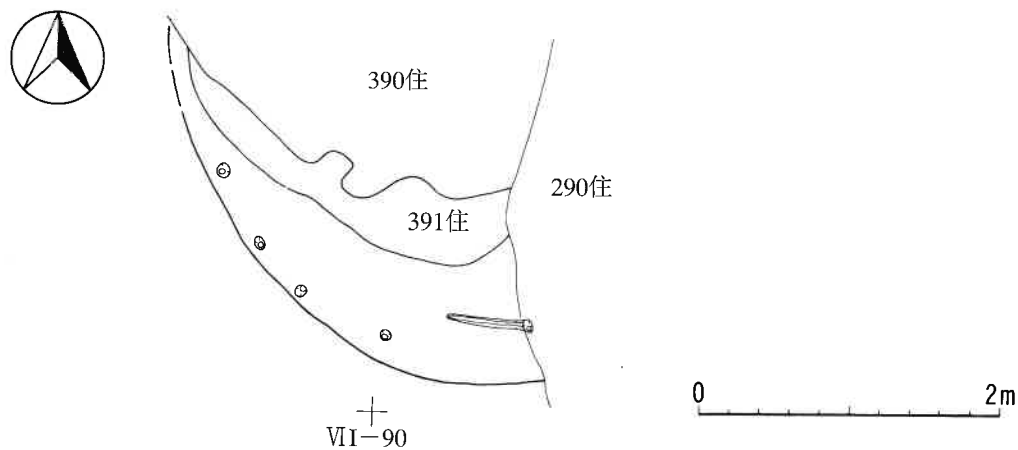
〔炉〕 残存しない。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 重複関係から縄文時代前期と考えられる。

(岡田 康博)



151図 第464号住居跡

第468号住居跡 (152図)

〔位置と確認〕 VID-93に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉と貼り床の一部を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 炉跡と床面のみしか確認できなかったため、全体の形状は不明である。残存している床面は長さ80cm、幅60cmである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。残存している床面はほぼ平坦で、貼り床が施され堅緻である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

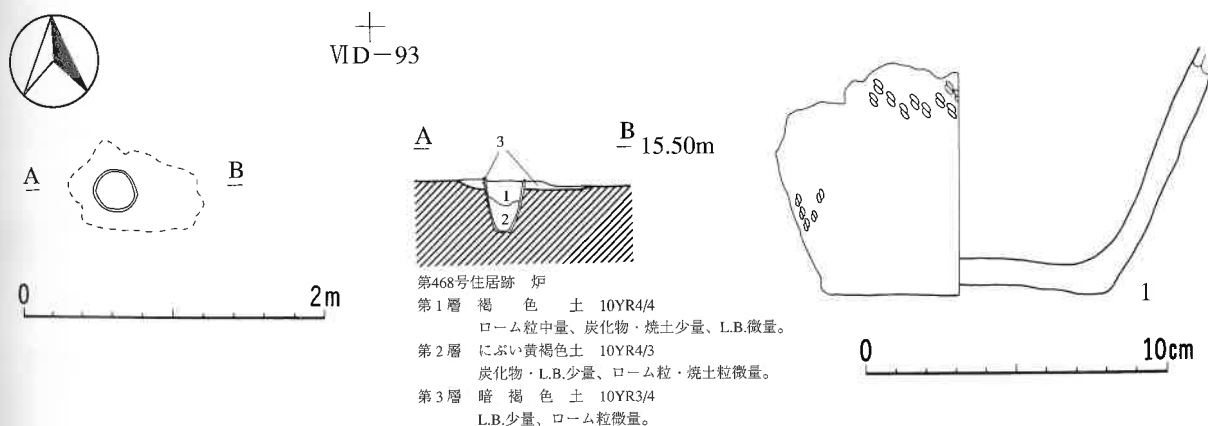
〔炉〕 土器埋設炉が検出された。土器は上半部を使用し、掘り方の規模は直径25cm、深さ35cmである。堆積土には炭化物、焼土が含まれる。明確な火烧面は確認できなかった。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群6類である。

〔時期〕 炉に使用された土器から、縄文時代中期前半である。

(岡田 康博)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	468住炉				RLR	ミガキ	無文	Ⅲ-6	

152図 第468号住居跡・出土遺物

第470号住居跡 (153図~156図)

〔位置と確認〕 VI G・H-91・92に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉と貼り床の一部を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 壁は残存しないが、平面形は北東-南西に長軸のある隅丸長方形と考えられる。残存部分の規模は長さ4 m30cm、幅3 m10cmである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。床面はほぼ平坦であり、部分的に貼り床が残存し、堅緻である。

〔壁溝〕 西・南壁側から検出された。幅約8 cm~25cm、深さ約6 cmである。拡張前では途切れる箇所があるものの北側半分から検出された。幅約10cm、深さ約8 cm~23cmである。

〔柱穴〕 主柱穴はP₁~P₄の4本である。ピットの深さは、P₁…44cm、P₂…71cm、P₃…63cm、P₄…70cmである。

〔炉〕 土器埋設炉が2基検出された。いずれも土器は上半部を使用し、南側の規模は直径30cm、深さ6cmである。北側の規模は直径20cm、深さ4cmである。同時存在か新旧関係があるのかは不明である。堆積土には炭化物、焼土を含む。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅱ群5-1類土器である。床面直上からスクレイパー類などが、堆積土、周溝・ピット堆積土から第Ⅱ群5類土器などが、石鏃、石錐、スクレイパー類、敲磨器類、砥石などが出土した。

〔時期〕 炉に使用された土器から、縄文時代前期末葉（円筒下層d₁式期）と考えられる。

（岡田 康博）

第471号住居跡（157図～159図）

〔位置と確認〕 VI H・I-91～93に位置し、第Ⅲ層上面で柱穴、壁溝、床面の一部を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 柱穴、壁溝、床面の一部しか残存しないため、全体の平面形は不明であるが、南北に長軸のある楕円形と考えられる。残存部分の規模は長さ5m、幅4m30cmである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。床面はほぼ平坦であるが、貼り床は施されておらず軟弱である。

〔壁溝〕 北壁際から一部検出された。幅15cm～25cm、深さ14cm～20cmである。

〔柱穴〕 明確に主柱穴と断定できるものはないが、P₁・P₄・P₇はその可能性が高い。深さは、P₁…60cm・P₄…32cm・P₇…51cmである。

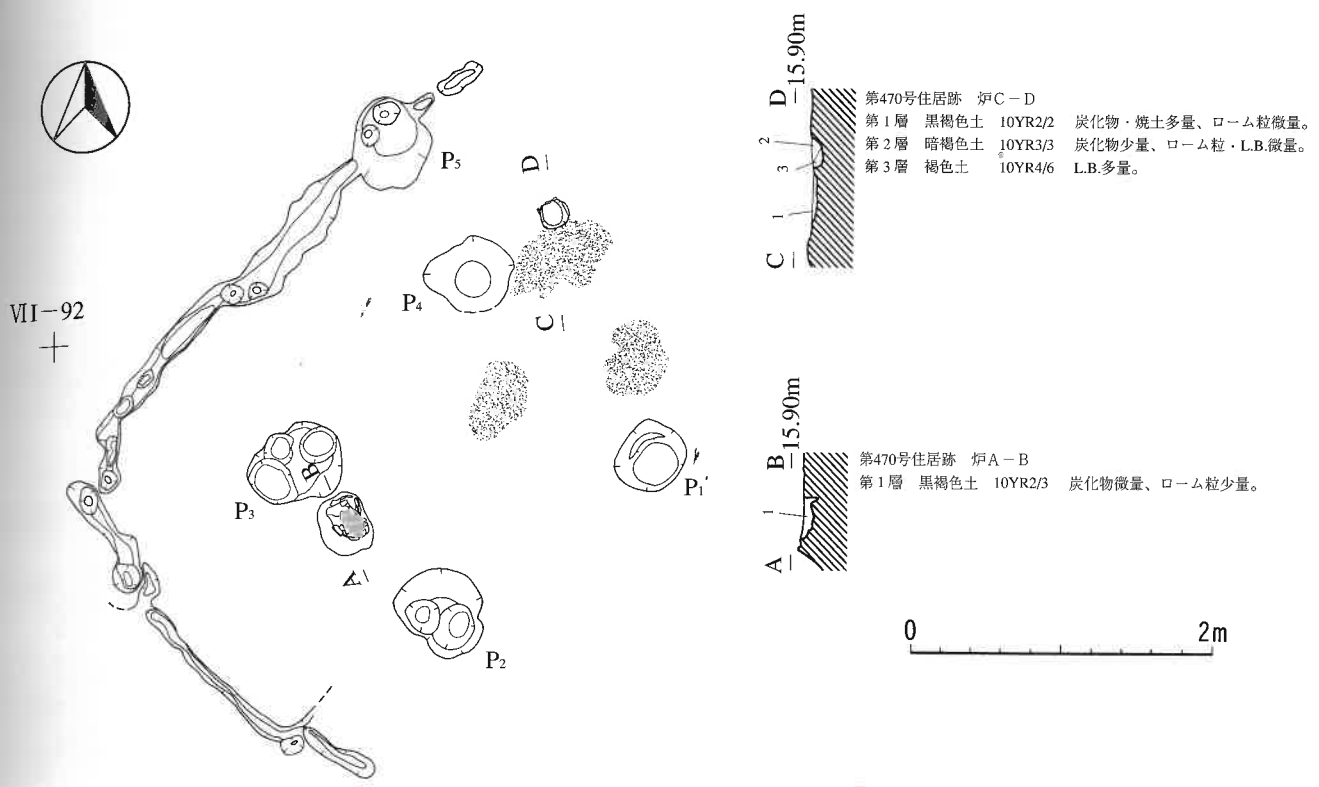
〔炉〕 床面中央から南西方向に若干寄って土器埋設炉が検出された。土器は上半部を使用し、掘り方の規模は直径約25cm、深さ10cmである。堆積土には微細な炭化物、焼土を少量含んでいる。明確な火烧面は検出されなかった。

〔堆積土〕 なし。

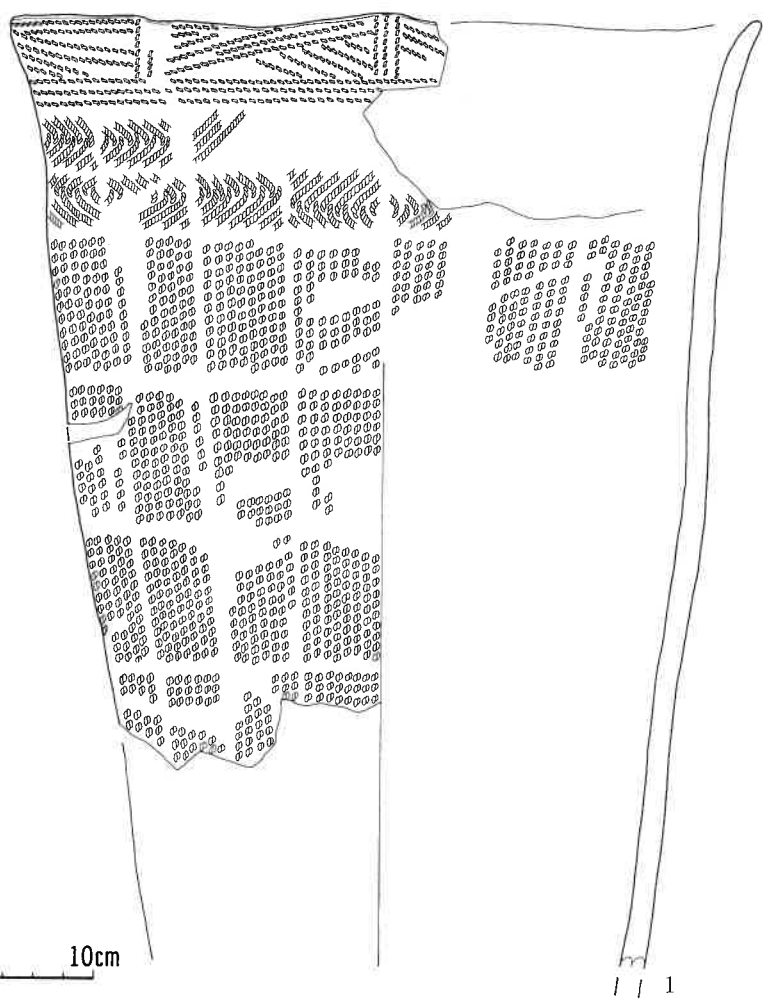
〔出土遺物〕 周溝・ピット堆積土から第Ⅱ群5-1類を主体とした土器片が出土した。石器はピットの堆積土から砥石などが出土した。

〔時期〕 周溝・ピット堆積土出土遺物から、縄文時代前期末葉（円筒下層d₁式期）に近い時期と考えられる。

（岡田 康博）

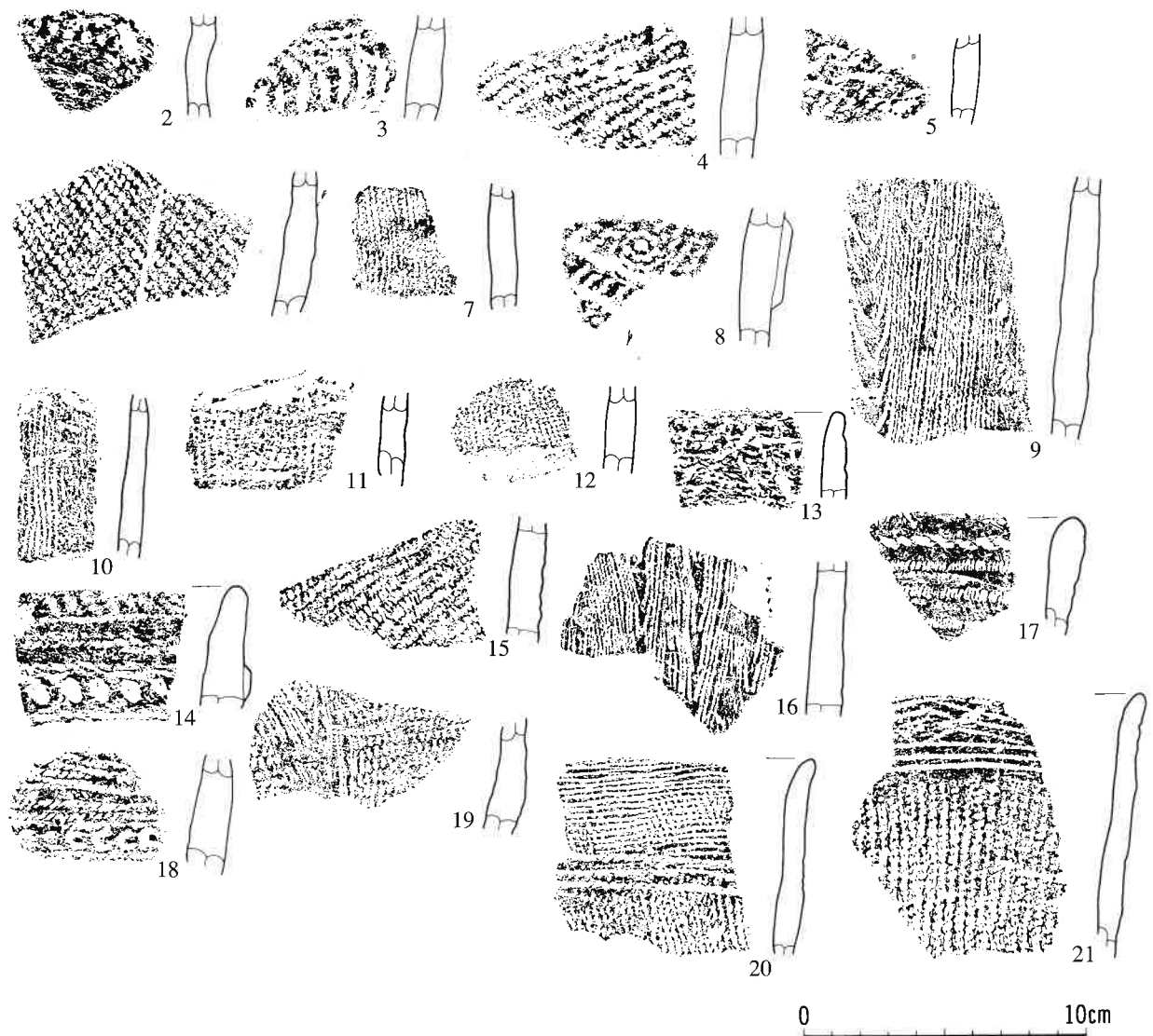


VII-92
+



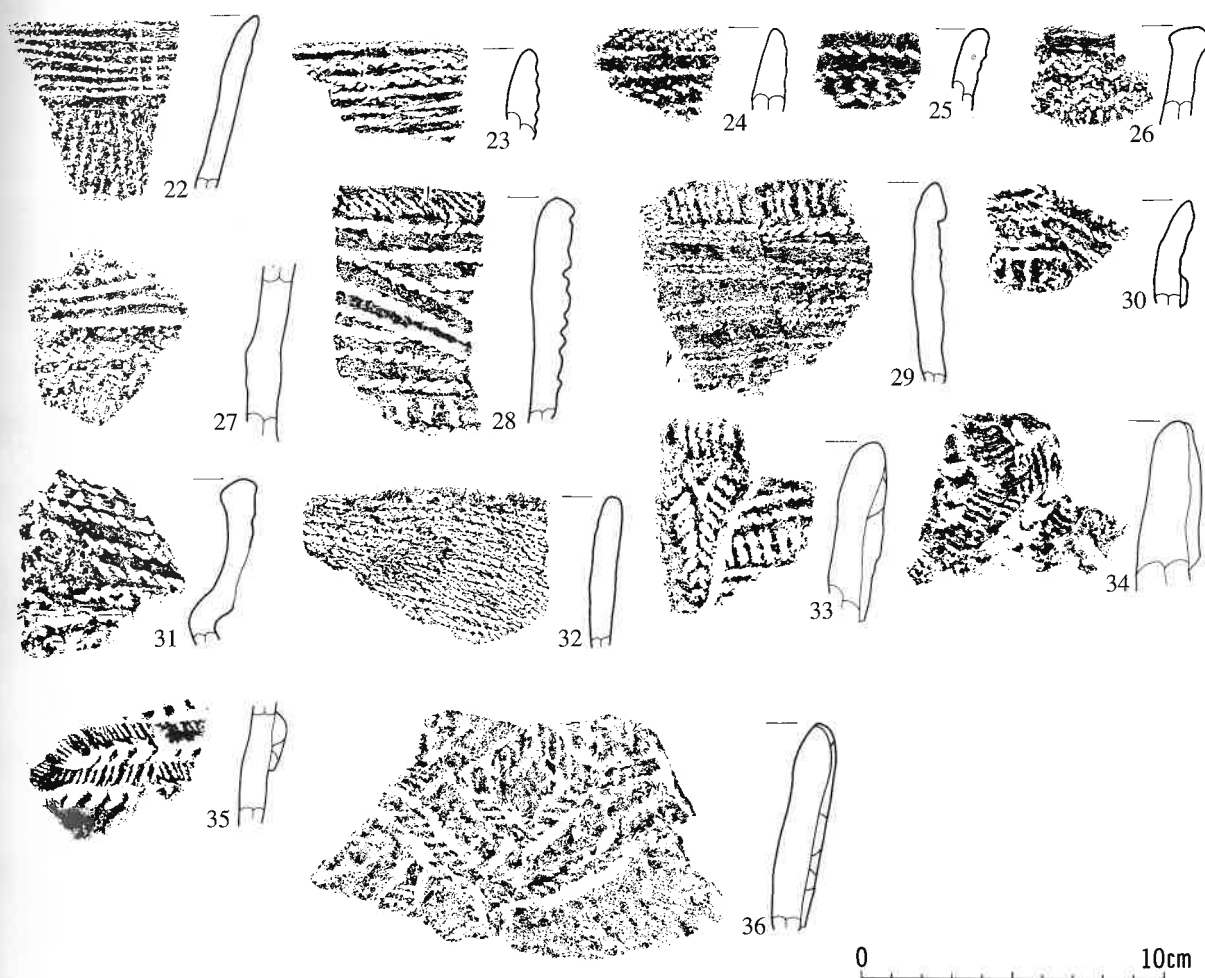
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
1	470住炉		LR押	結束第一種、LR単絡1	LR単絡1	ミガキ		II-5-1	

153図 第470号住居跡・出土遺物(1)



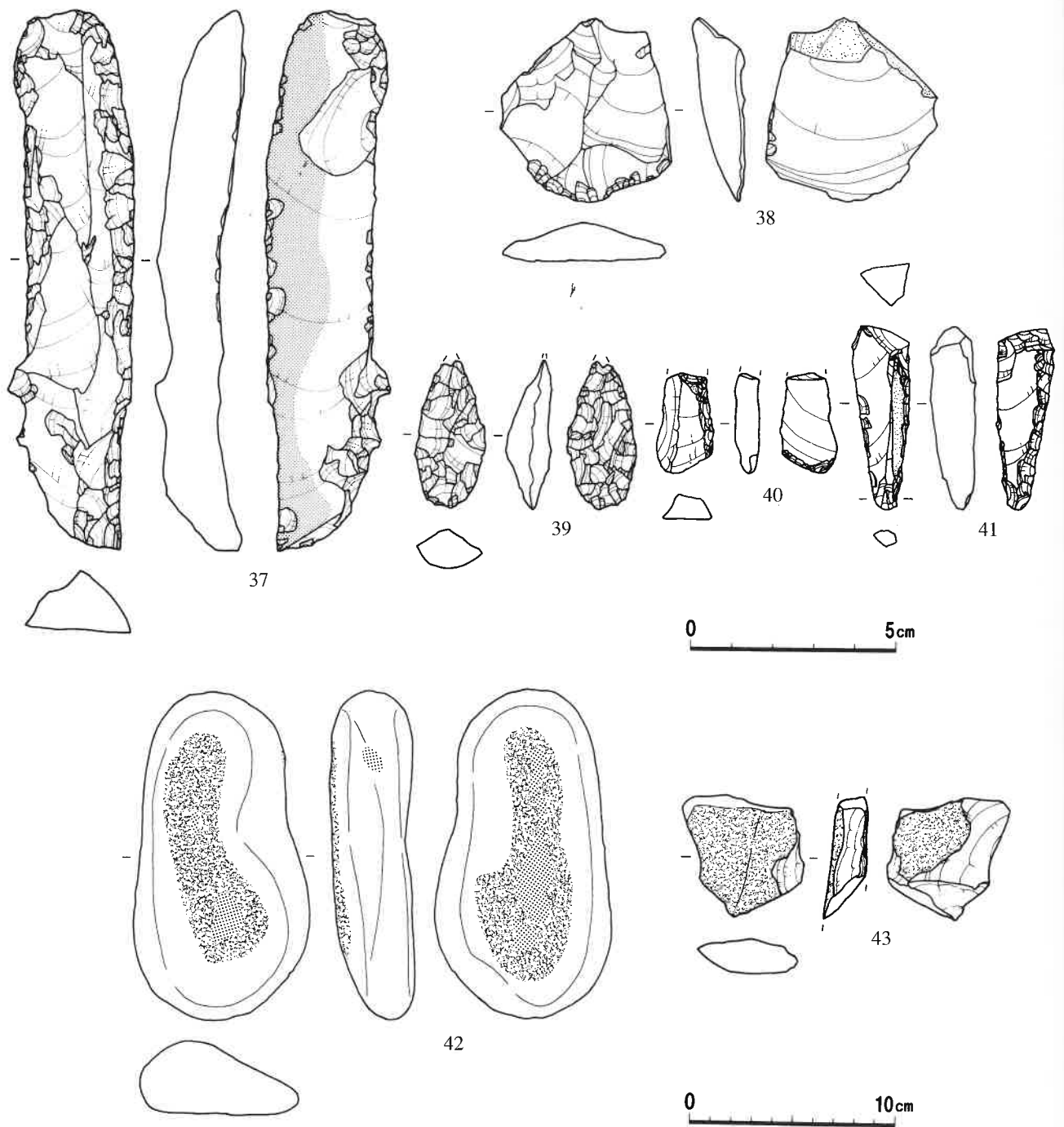
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
2	470住壁溝	堆積土	刺突			ミガキ		Ⅱ-5-1	
3	470住ピット1	〃	LR押			〃		Ⅱ-5-2	
4	〃	〃		LR		〃		Ⅱ-6	
5	〃	〃		LR・R結回		〃		〃	
6	〃	〃		RL		〃		〃	
7	〃	〃		L単絡1		〃		〃	
8	470住ピット2	〃	貼付(L押)、L押			〃		Ⅱ-5-2	
9	〃	〃		R単絡1A		〃		Ⅱ-6	
10	470住ピット3	〃		R単絡1		〃		〃	
11	〃	〃		〃		〃		〃	
12	〃	〃		L単絡1		〃		〃	
13	470住ピット4	〃	単絡1? LR押			〃		Ⅱ-3	
14	〃	〃	RL押	微隆帯(刺突)		〃		Ⅱ-5-1	
15	〃	〃		LR		〃		Ⅱ-6	
16	〃	〃		L単絡1A		〃		〃	
17	470住ピット5	〃	LR・単絡1押			〃		Ⅱ-5-1	
18	〃	〃	L押、刺突			〃		Ⅱ-5-2	
19	〃	〃			単絡1A、多軸絡	〃		Ⅱ-6	
20	470住	〃	R単絡1、RL押	R単絡1		〃		Ⅱ-3	
21	〃	〃	R押	LR単絡1		〃		Ⅱ-5-1	

154図 第470号住居跡出土遺物(2)



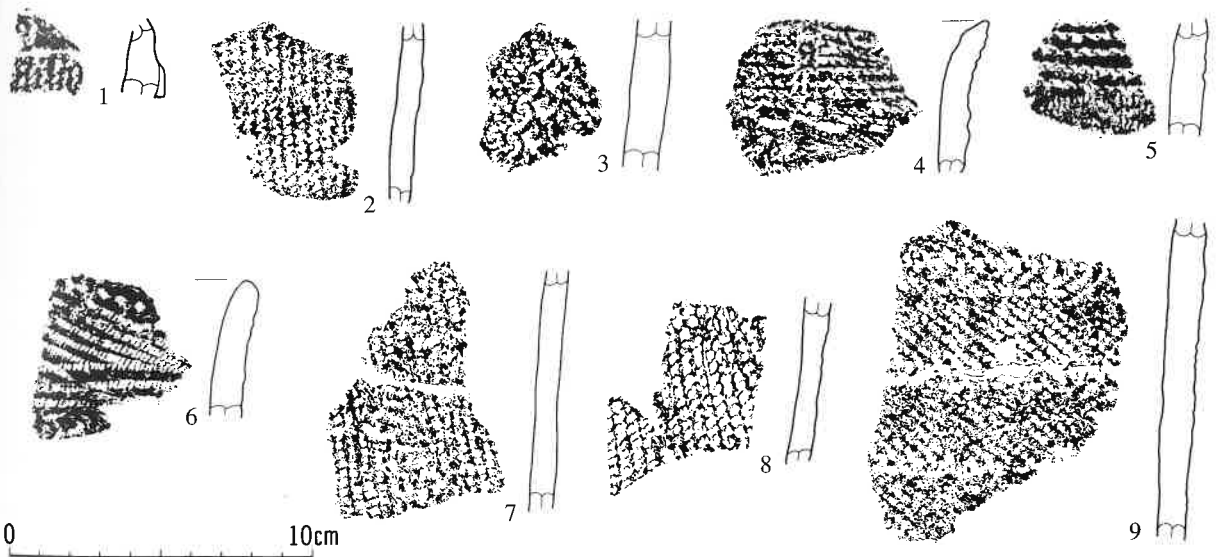
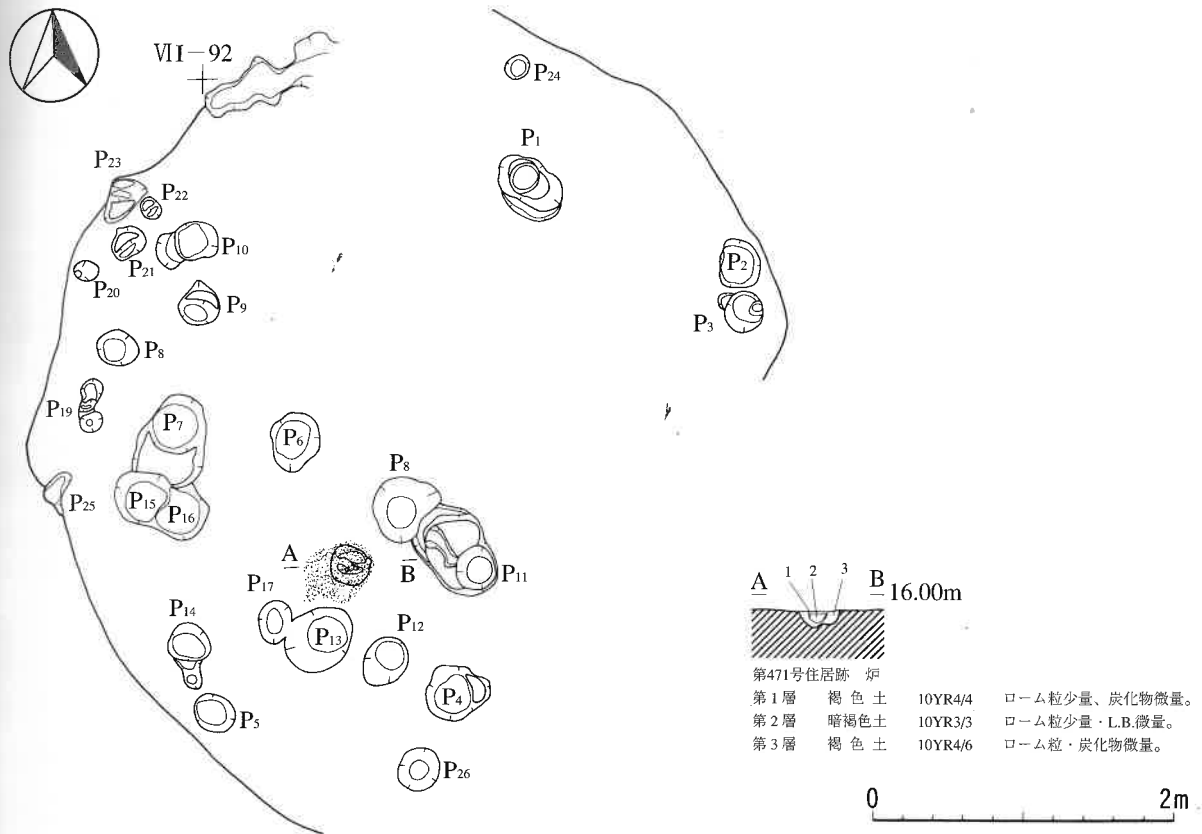
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
22	470住	堆積土				ミガキ		II-5-1	
23	〃	〃	R・LR押			〃		〃	
24	〃	〃	口唇上面LR、LR押			〃		〃	
25	〃	〃	LR押、刺突			〃		〃	
26	〃	〃	単絡1、L結回、刺突			〃		〃	口唇上面平坦
27	〃	〃	LR押、刺突	R単絡1、LR結回		〃		〃	
28	〃	〃	RL押			〃		II-5-2	口唇上面RL
29	〃	〃	R単絡1、R押			〃		〃	
30	〃	〃	貼付(LR押)、LR押			〃		〃	
31	〃	〃	〃(剥落)、〃			〃		〃	
32	〃	〃	LR単絡1			〃		II-6	
33	〃	〃	貼付(L押)、L押			〃		III-1	
34	〃	〃	〃(L単絡1)、〃			〃		III-2	
35	〃	〃	〃(〃)、〃			〃		〃	
36	〃	〃	貼付(L押)			〃		III-4	

155図 第470号住居跡出土遺物(3)



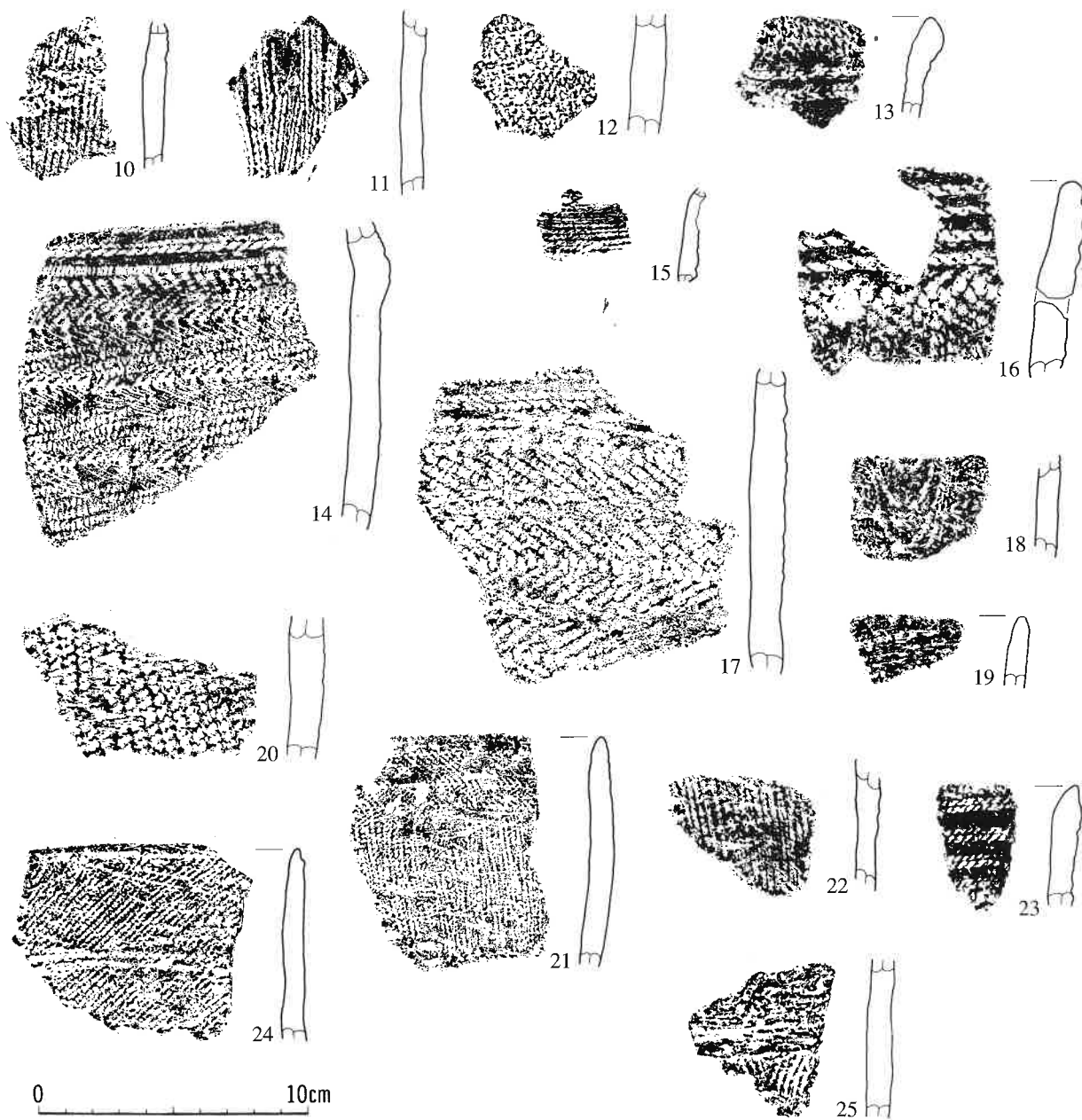
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
37	470住	床直	130	31	21	66.5	珪頁	Ga		52475
38	470住ピット4	堆積土	44	42	13	18.2	〃	〃		48565
39	470住	〃	(35)	17	11	(5.0)	〃	Ae		53012
40	〃	〃	(24)	14	(6)	(2.2)	〃	Ga		48555
41	〃	〃	44	14	11	6.4	〃	Da		52211
42	〃	〃	159	85	40	646.7	凝	Ic		48616
43	〃	〃	(59)	(60)	(20)	(59.5)	〃	Sb		42649

156図 第470号住居跡出土遺物 (4)



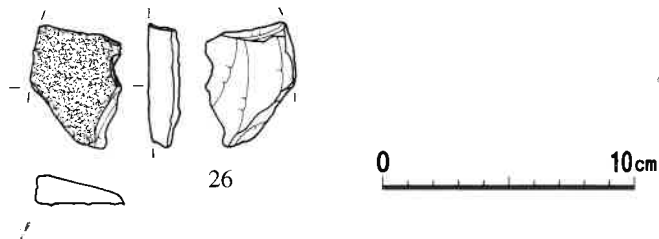
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	471住周溝	堆積土	貼付(LR押)、LR押			ミガキ		II-5-2	
2	〃	〃		RL		〃		II-6	
3	471住ビット1	〃		〃、R結回		〃		〃	
4	471住ビット2	〃	L押、刺突			〃		II-5-1	
5	471住ビット3	〃	LR押	L単絡1		〃		〃	
6	〃	〃	R単絡1押、刺突			〃		〃	口唇上面にも刺突
7	471住ビット4	〃		RL		〃		II-6	
8	〃	〃		RLR		〃		〃	
9	〃	〃		結束第一種		〃		〃	

157図 第471号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
10	471住	堆積土		R単絡1		ミガキ		Ⅱ-6	
11	〃	〃		〃		〃		〃	
12	〃	〃		多軸絡		〃		〃	
13	471住ピット5	〃	R単絡1、RL・LR押			〃		Ⅲ-1	
14	471住ピット6	〃	LR・RL・R単絡1押	結束第一種、R多軸絡		〃		Ⅱ-5-1	
15	471住ピット7	〃	R単絡1			〃		Ⅱ-3	
16	〃	〃	LR押	結束第一種、R単絡1		〃		Ⅱ-5-2	補修孔
17	〃	〃	〃	結束第一種		〃		〃	
18	〃	〃		単絡1A		〃		Ⅱ-6	
19	471住ピット9	〃	不明			〃		〃	
20	471住ピット10	〃		LR単絡1		〃		〃	
21	471住ピット11	〃	結束第一種	R単絡1		〃		Ⅱ-5-1	
22	471住ピット13	〃		単絡1		〃		Ⅱ-6	
23	471住ピット15	〃	R押			〃		Ⅱ-5	
24	471住	〃	LR、RL押			〃		Ⅱ-3	
25	〃	〃	R単絡1?	R単絡1		〃		〃	

158図 第471号住居跡出土遺物 (2)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
26	471住ビット	堆積土	(49)	(41)	(12)	(18.2)	凝	Sb		40243

159図 第471号住居跡出土遺物 (3)

第477号住居跡 (160図)

[位置と確認] VIJ-85に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉と貼り床の一部を確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 炉跡と床面のみしか確認できなかったため、全体の形状は不明である。残存している床面は長さ1 m80cm、幅70cmである。

[壁・床面] 壁は残存しない。残存している床面はほぼ平坦で、貼り床が施され堅緻である。

[柱穴] 検出されなかった。

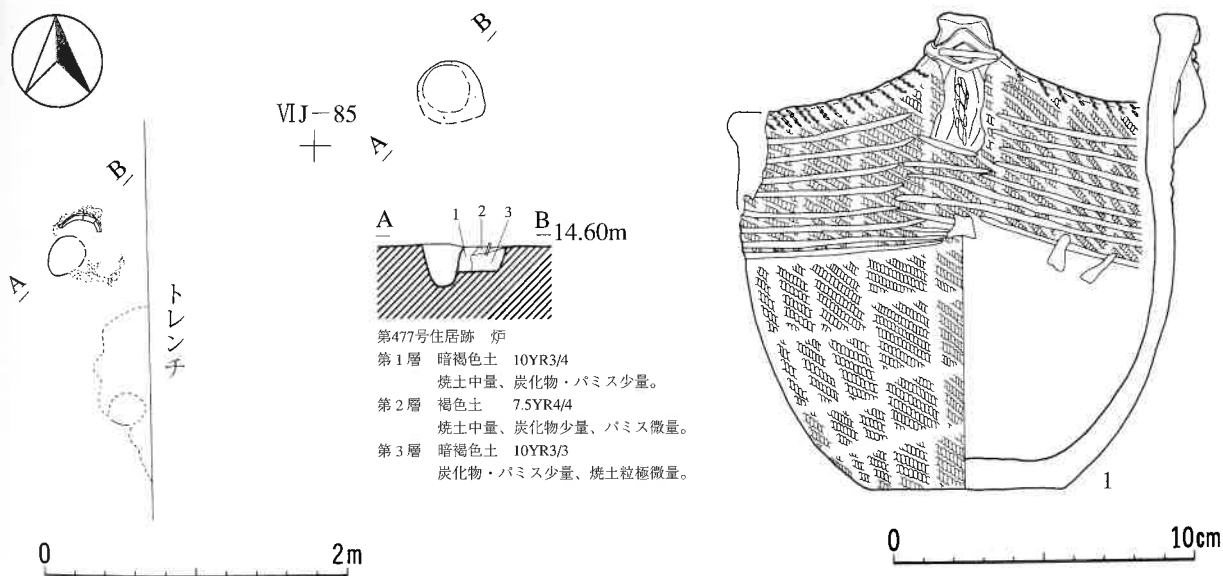
[炉] 土器埋設炉が検出された。土器は上半部を使用し、掘り方の規模は直径50cm、深さ30cmである。堆積土には炭化物、焼土が含まれる。明確な火烧面は確認できなかった。

[堆積土] なし。

[出土遺物] 埋設炉の土器は第Ⅲ群5類土器である。

[時期] 炉に使用された土器から、縄文時代中期中葉 (円筒上層 e 式期) である。

(岡田 康博)



第477号住居跡 炉
 第1層 暗褐色土 10YR3/4
 焼土中量、炭化物・パミス少量。
 第2層 褐色土 7.5YR4/4
 焼土中量、炭化物少量、パミス微量。
 第3層 暗褐色土 10YR3/3
 炭化物・パミス少量、焼土粒極微量。

番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	477住炉		貼付(RL押)、RL、沈線	RL、沈線	RL	ミガキ	無文	Ⅲ-5	

160図 第477号住居跡・出土遺物

第478号住居跡 (161図)

〔位置と確認〕 VI E-90に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 炉跡しか確認できなかったため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 壁、床面ともに残存しない。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 土器埋設炉が検出された。土器は上半部を使用し、掘り方は土器の大きさに合わせており、明確ではない。堆積土には炭化物、焼土が含まれる。明確な火焼面は確認できなかった。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 炉から第Ⅲ群2～4群土器が出土した。埋設炉の土器は図示できなかった。

〔時期〕 炉出土土器から、縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）と考えられる。

（岡田 康博）

第479号住居跡 (161図)

〔位置と確認〕 VI E-90に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 炉跡しか確認できなかったため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 壁、床面ともに残存しない。

〔柱穴〕 検出されなかった。

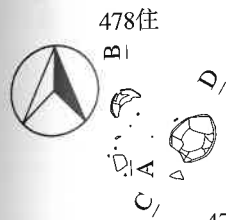
〔炉〕 土器埋設炉が検出された。土器は台付き浅鉢を使用し、掘り方は土器の大きさに合わせており、明確ではない。堆積土には炭化物、焼土が含まれる。明確な火焼面は確認できなかった。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は図示できなかった。

〔時期〕 確認状況から縄文時代中期と考えられる。

（岡田 康博）



479住

VI E-91

A 2 1 B 15.10m



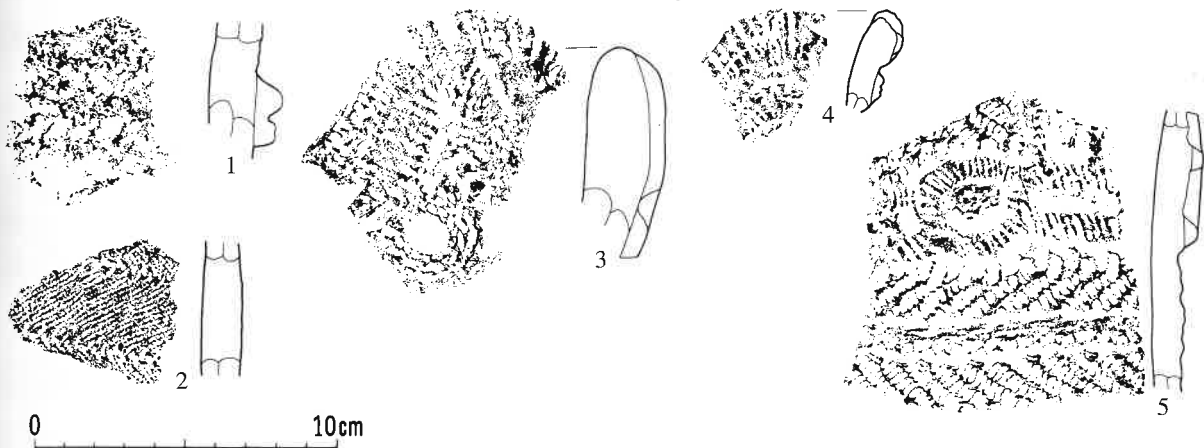
第478号住居跡 炉
第1層 ぶい黄褐色土 10YR4/3
第2層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.・炭化物微量。

C 2 1 D 15.10m



第479号住居跡 炉
第1層 ぶい黄褐色土 10YR4/3 炭化物少量、L.B.微量。
第2層 褐色土 10YR4/6

0 2m



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	478住炉			隆帯 (RL押)		ミガキ		II-3	
2	〃			結束第一種		〃		II-6	
3	〃		貼付 (LR押)、LR押			〃		III-2	
4	〃		〃			〃		III-2~4	
5	〃			結束第一種、貼付 (L単緒I)		〃		III-4	

161図 第478号・479号住居跡・出土遺物

第480号住居跡 (162図)

〔位置と確認〕 VI J-84・85に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉と貼り床の一部を確認した。

〔重複〕 第63~65・69号焼土遺構と重複するが、新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 炉跡と床面のみしか確認できなかったため、全体の形状は不明である。残存している床面は長さ65cm、幅35cmである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。残存している床面はほぼ平坦で、貼り床が施され堅緻である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

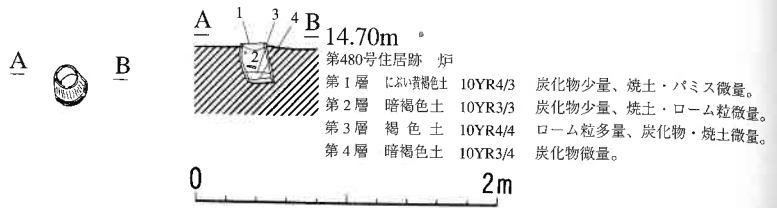
〔炉〕 土器埋設炉が検出された。土器は上半部を使用し、掘り方の規模は直径25cm、深さ25cmである。堆積土には炭化物、焼土が含まれる。明確な火烧面は確認できなかった。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は図示できなかった。

〔時期〕 確認状況から縄文時代中期である。

(岡田 康博)



162図 第480号住居跡

第481号住居跡 (163図～168図)

〔位置と確認〕 VI I・J-134に位置する。第V層精査中に楕円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 長軸 3 m、短軸 2 m78cmの不整楕円である。床面積は5.3m²である。長軸方向は北西-南東である。

〔壁・床面〕 外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁 7 cm、西壁31cm、南壁19cm、北壁16cmである。床面はほぼ平坦で堅緻である。炉の周囲に貼り床が確認された。

〔壁溝〕 北壁・西壁・南壁で壁溝が検出された。北側は若干張り出し気味になるところで、南側はP₁のところで途切れる。

〔柱穴〕 柱穴と見られるピットは確認できなかった。

〔炉〕 中軸線状ほぼ中央で地床炉を検出した。掘り方は径32cm、深さ16cmに掘り込まれる。堆積土中には焼土・炭化物が含まれていた。

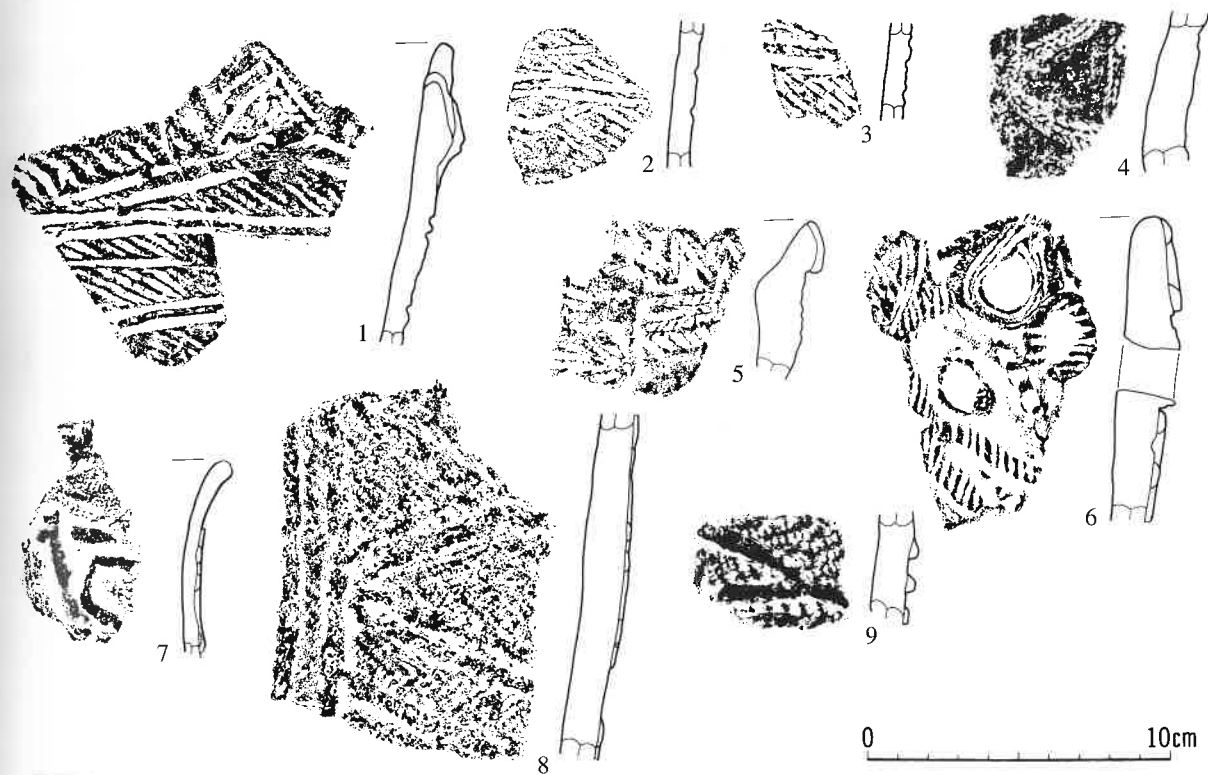
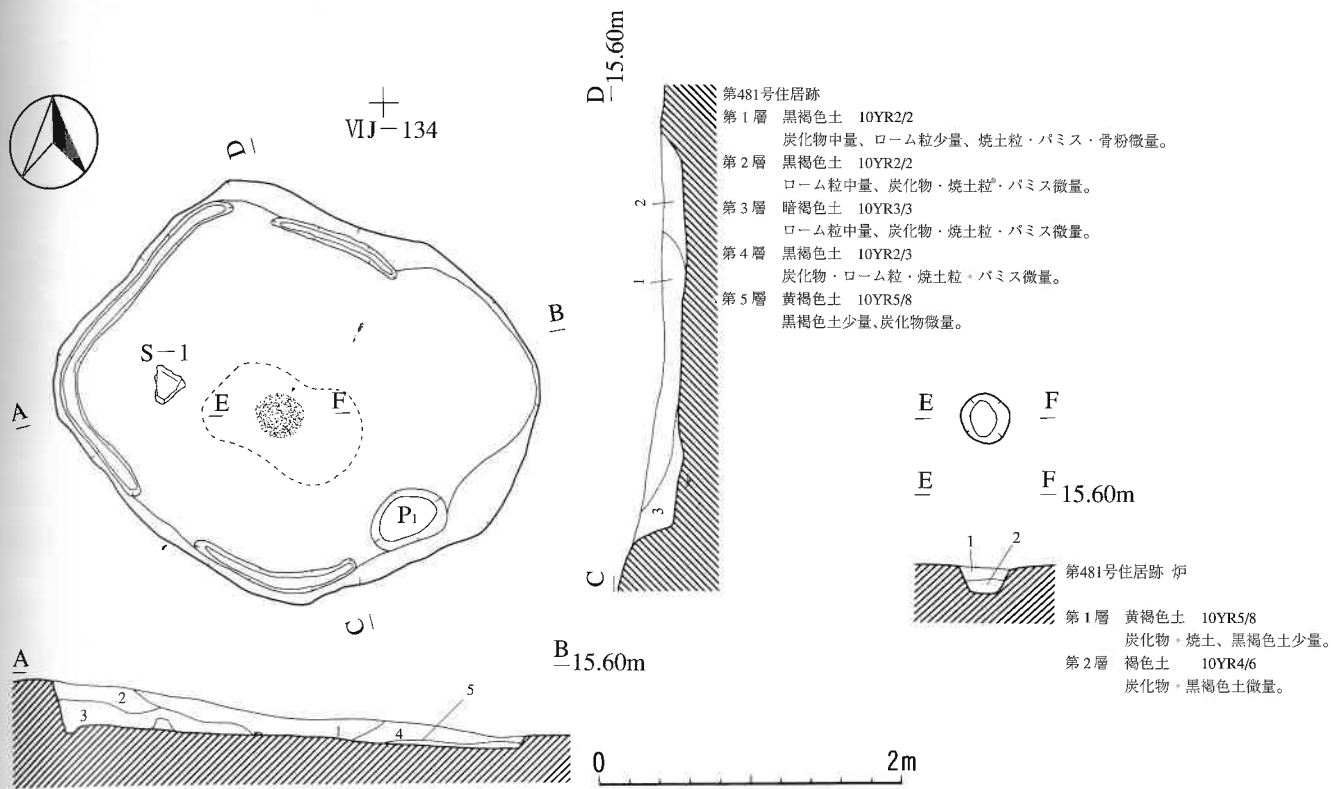
〔その他の施設〕 中軸線上南西壁隅でP₁を確認した。規模は51cm×37cm、深さ11cmである。位置・規模から附属施設と考えられる。

〔堆積土〕 5層に分層した。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物を含む。自然堆積か人為堆積か判断できない。

〔出土遺物〕 床面から第Ⅲ群 5 類土器、石皿・台石類などが、堆積土中から第Ⅲ群 5・8 類を主体とする土器、スクレイパー類、異形石器、U.フレイク、敲磨器類、半円状扁平打製石器などが出土した。

〔時期〕 床面出土遺物から、縄文時代中期中葉 (円筒上層 e 式期) である。

(小笠原 雅行)



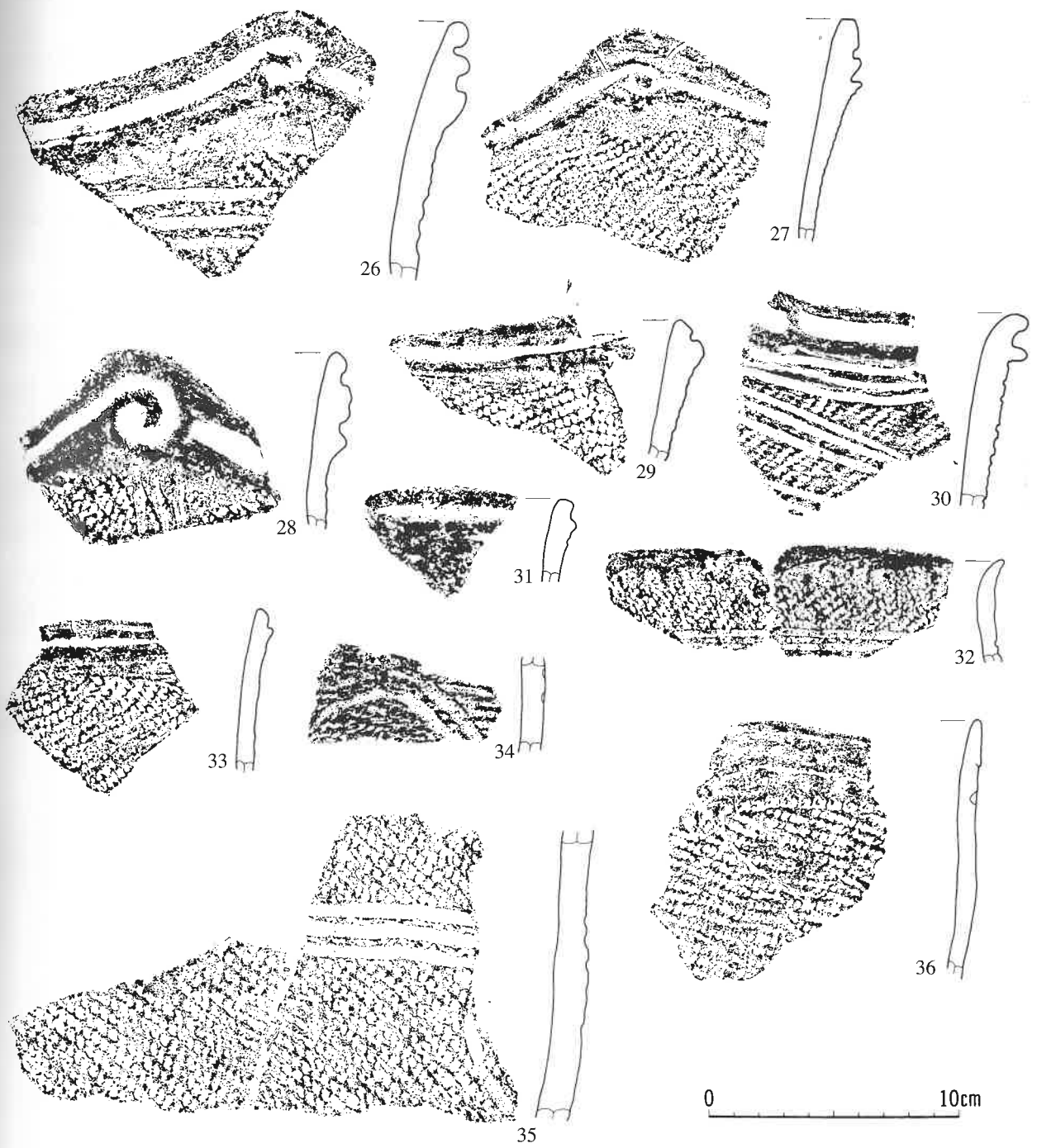
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	481住	床面	貼付・R押、RL、沈線	RL、沈線		ミガキ		Ⅲ-5	
2	〃	〃		〃、〃		〃		〃	
3	〃	〃		〃、〃		〃		〃	
4	〃	堆積土	L・R押			〃		Ⅲ-1	
5	〃	〃	貼付(L押)、L・R押			〃		〃	
6	〃	〃	〃(L単絡1)、刺突			〃		Ⅲ-3	貫通孔
7	〃	〃	貼付			〃		Ⅲ-4	
8	〃	〃		結束第一種、貼付		〃		〃	
9	〃	〃		〃、〃		〃		〃	

163図 第481号住居跡・出土遺物(1)



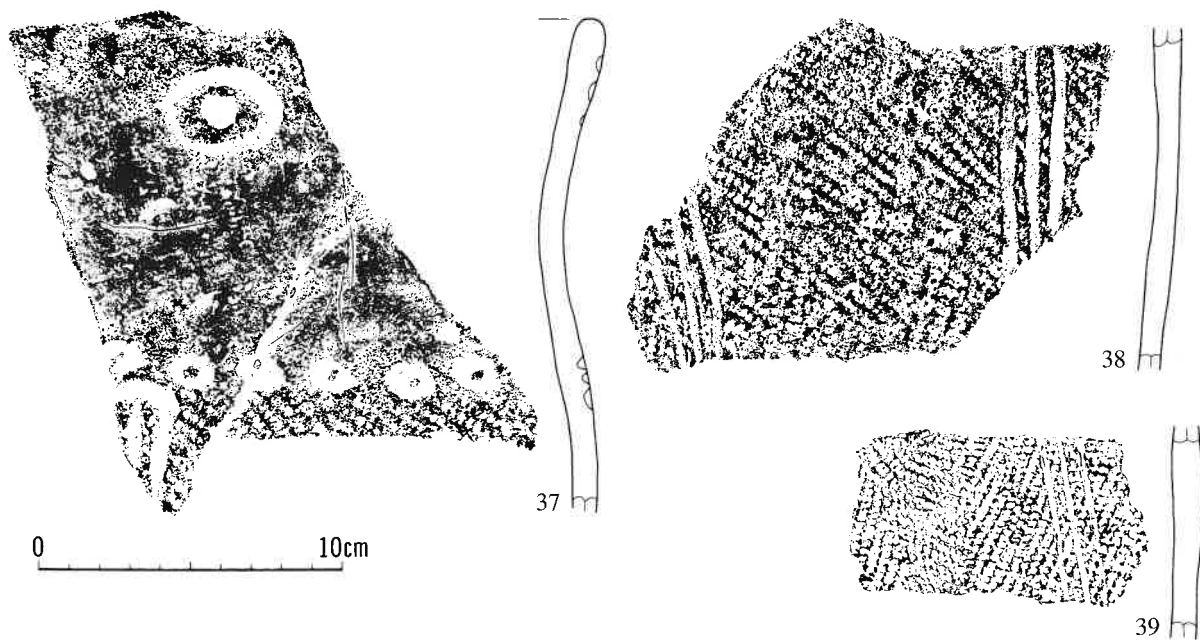
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
10	481住	堆積土		結束第一種、貼付		ミガキ	Ⅲ-4		
11	〃	〃		〃、〃		〃	〃		
12	〃	〃		〃、〃		〃	〃		
13	〃	〃	貼付、RL押、RL、沈線	RL、沈線		〃	Ⅲ-5	内面盲孔	
14	〃	〃	貼付(LR押)、RL、沈線			〃	〃	内面貼付	
15	〃	〃	貼付、RL押、沈線			〃	〃	〃	
16	〃	〃	貼付、沈線			〃	〃	〃	
17	〃	〃	〃、〃			〃	〃	〃	
18	〃	〃	R押、RL、沈線			〃	〃	〃	
19	〃	〃	〃、〃、〃			〃	〃	〃	
20	〃	〃	LR、沈線			〃	〃	補修孔	
21	〃	〃	RL、〃			〃	〃	〃	
22	〃	〃		RL、沈線		〃	〃	〃	
23	〃	〃		〃、〃		〃	〃	〃	
24	〃	〃		〃、〃		〃	〃	〃	
25	〃	〃	貼付(RL押)、RL			〃	Ⅲ-4・5	内面貼付	

164図 第481号住居跡出土遺物(2)



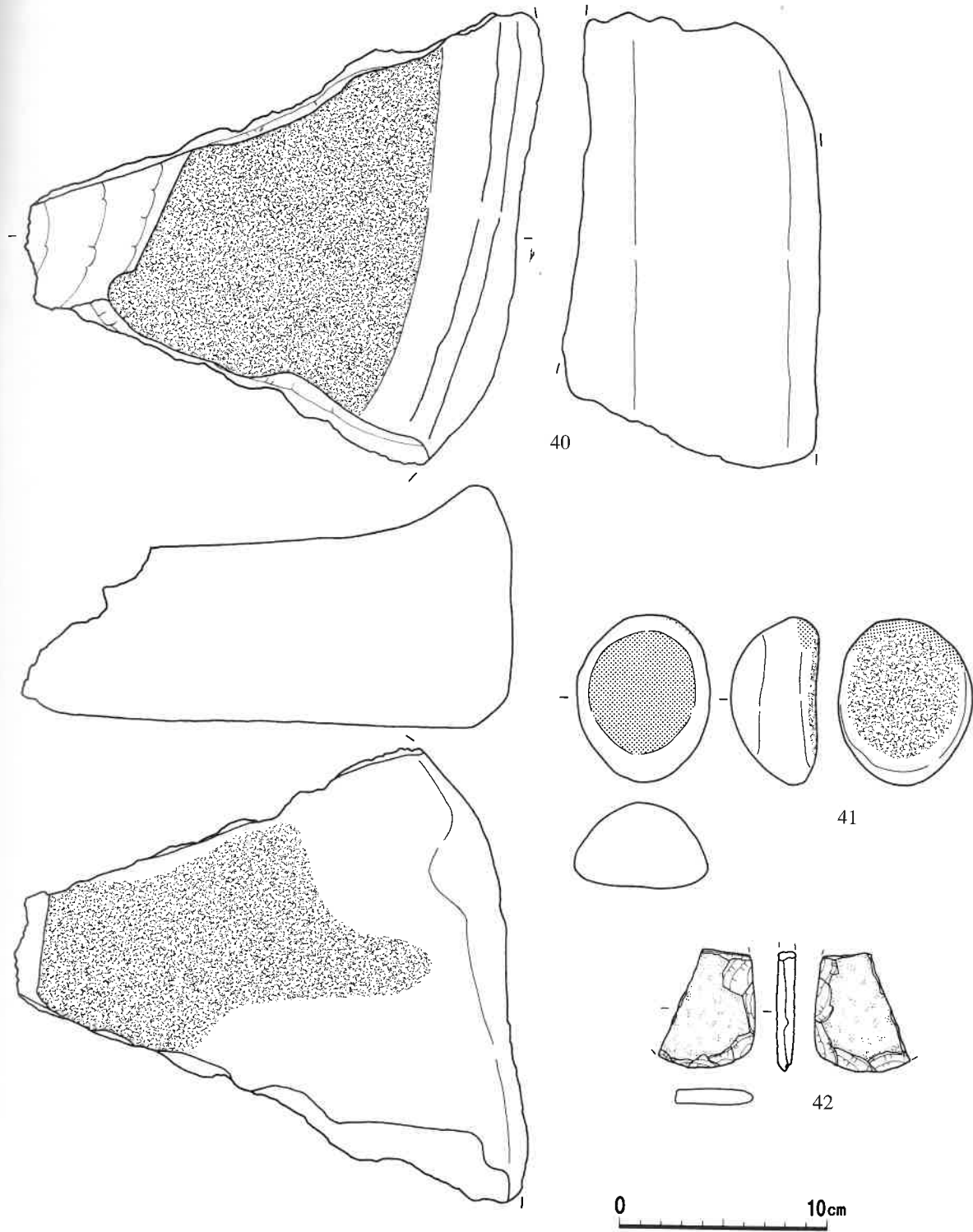
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
26	481住	堆積土	凹状沈線	LR		ミガキ	Ⅲ-8		
27	〃	〃	〃	RLR、沈線		〃	〃		
28	〃	〃	〃	〃、〃		〃	〃		
29	〃	〃	〃	LR		〃	〃		
30	〃	〃	〃	RL、沈線		〃	〃		
31	〃	〃	〃	LR		〃	〃		
32	〃	〃	〃			〃	〃		
33	〃	〃	LR、沈線			〃	〃		
34	〃	〃		縄文、沈線		〃	〃		
35	〃	〃		RLR、〃		〃	〃		
36	〃	〃	折返口縁、無文帯	刺突、LR		〃	Ⅲ-9		

165図 第481号住居跡出土遺物 (3)



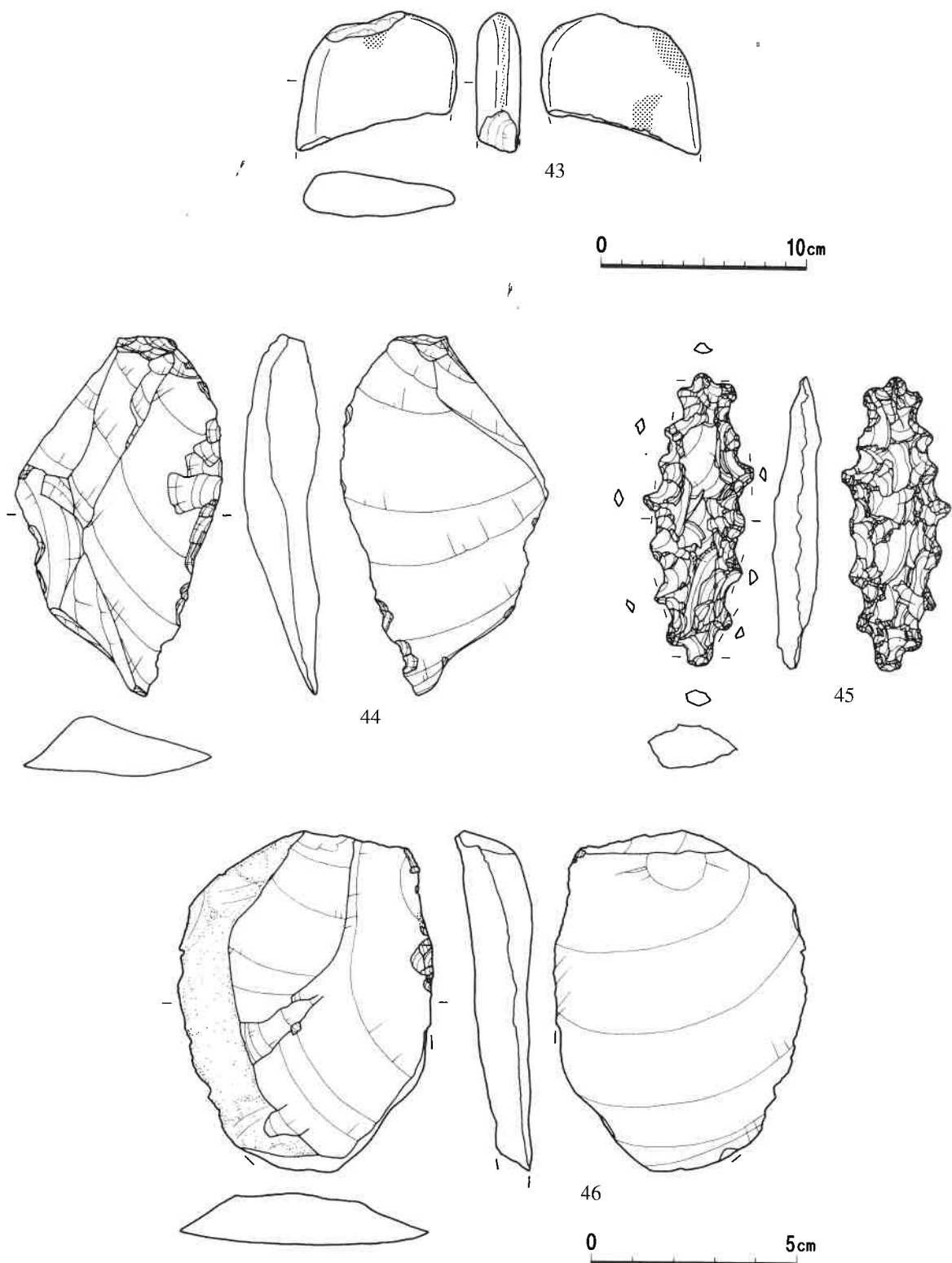
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
37	481住	堆積土	無文帯、沈線	刺突、LR、沈線		ミガキ		Ⅲ-9	
38	〃	〃		LR、沈線		〃		〃	
39	〃	〃		RL、〃		〃		〃	

166図 第481号住居跡出土遺物 (4)



图版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
40	481住	床面	(217)	(249)	(120)	(6132.9)	安	L		46425
41	〃	堆積土	80	64	42	297.4	〃	Ic		42719
42	〃	〃	(57)	(46)	(8)	(27.4)	〃	J		42651

167图 第481号住居跡出土遺物 (5)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
43	481住	堆積土	(67)	(77)	(21)	(126.3)	安	Ib		42653
44	〃	〃	87	50	18	38.8	珪頁	Ga	石匙?	40250
45	〃	〃	70	27	11	16.5	〃	R		51869
46	〃	〃	(82)	62	19	(83.7)	〃	Gc		40254

168図 第481号住居跡出土遺物 (6)

第482号住居跡（169図・170図）

〔位置と確認〕 VI F-122・123に位置する。第V層精査中に円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第131号溝跡と重複し、本住居跡が古い。西側は風倒木により攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 長軸 2 m90cm、短軸 2 m46cmの不整円形である。床面積は5.81m²である。長軸方向は東西である。

〔壁・床面〕 外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁 8 cm、西壁25cm、南壁 1 cm、北壁29cmである。床面はほぼ平坦であり、堅緻である。

〔柱穴〕 柱穴と見られるピットは確認されなかった。

〔炉〕 床面の中央に地床炉を検出した。焼土範囲は39cm×21cmである。その南東側には炭化物が広がる。

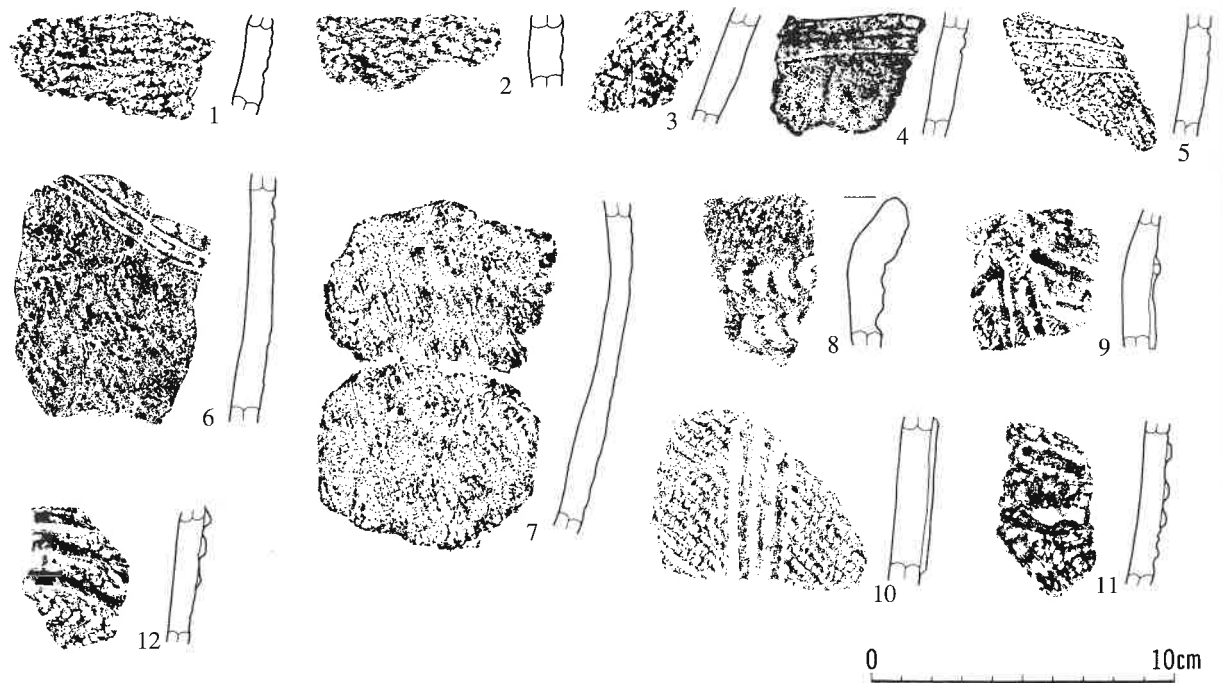
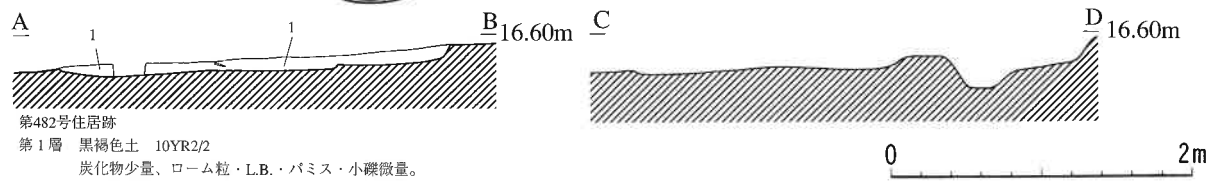
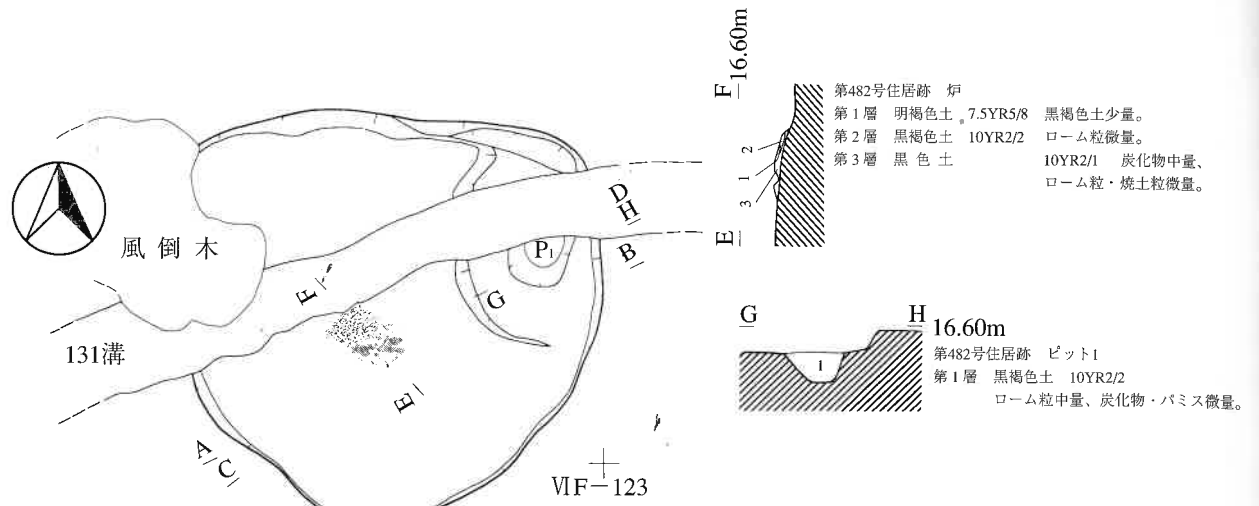
〔その他の施設〕 東側で付属施設を確認した。半円状に高さ約10cmの段状の高まりがあり、中にP₁がある。P₁の掘り方規模は径45cmほどで、深さは18cmである。段は北側が高く、南側にいくほど低くなり、床面と同じ高さになる。

〔堆積土〕 1層である。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物が微量含まれる。自然堆積の可能性が高いと考えられる。

〔出土遺物〕 床面・床面直上から第Ⅲ群 5・6類土器が、堆積土中から第Ⅲ群 4～8類土器、敲磨器類などが出土した。

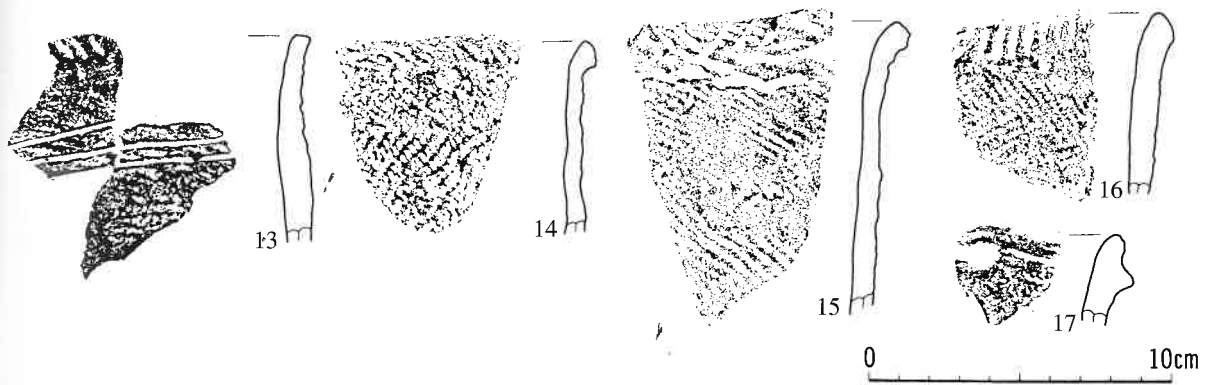
〔時期〕 床面直上出土遺物から、縄文時代中期中葉（円筒上層 e 式期）と考えられる。

（小笠原 雅行）

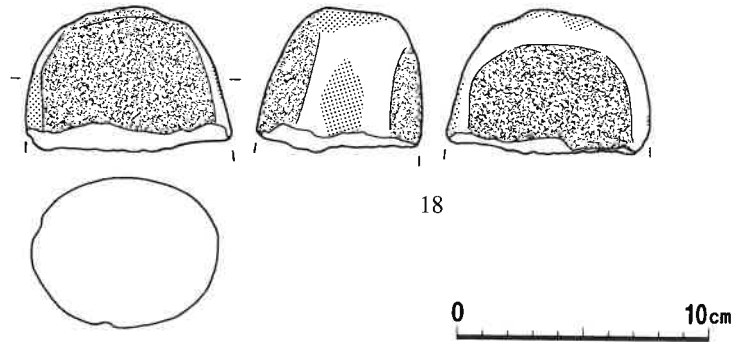


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	482住	床面		結束第一種		ミガキ	III-6		
2	〃	〃		RL		〃	〃		
3	〃	〃		結束第一種		〃	〃		
4	〃	床直		沈線		〃	III-5		
5	〃	〃		〃、RL		〃	〃		
6	〃	〃		〃、〃		〃	〃	外面煤状炭化物	
7	〃	〃		RL?		〃	III-6		
8	〃	堆積土	刺突				II-5-1		
9	〃	〃	貼付			ミガキ	III-4		
10	〃	〃		RL、貼付		〃	〃		
11	〃	〃		結束第一種、貼付		〃	〃		
12	〃	〃		〃、〃		〃	〃		

169図 第482号住居跡・出土遺物 (1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
13	482住	堆積土	刻み	RL、沈線		ミガキ		Ⅲ-5	
14	〃	〃	RL	結束第一種		〃		Ⅲ-6	
15	〃	〃	刻み、1結回	〃		〃		〃	
16	〃	〃	RL押	〃		〃		〃	
17	〃	〃	凹状沈線	沈線		〃		Ⅲ-8	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
18	482住	堆積土	(57)	(81)	(65)	(341.2)	流	Ic		42720

170図 第482号住居跡出土遺物 (2)

第483号住居跡 (171図)

〔位置と確認〕 VI I -122・121に位置する。第V層精査中に貼り床の一部を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 炉と貼り床のみの確認のため、平面形は不明である。

〔壁・床面〕 壁は不明である。貼床は堅緻である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

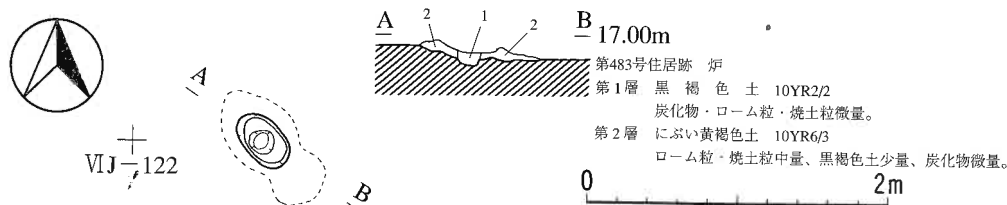
〔炉〕 地床炉を検出した。掘り方規模は40cm×20cmの楕円形で、深さ16cmである。堆積土中には焼土・炭化物が含まれる。

〔堆積土〕 不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認状況から、縄文時代と思われるが、詳細は不明である。

(小笠原 雅行)



171図 第483号住居跡

第485号住居跡 (172図)

〔位置と確認〕 VIJ-120に位置する。第V層精査中に貼り床と炉跡を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 炉と貼り床のみの確認のため不明である。

〔壁・床面〕 壁は不明である。炉の周囲130cm×70cmほどで貼り床が確認された。平坦で堅緻である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

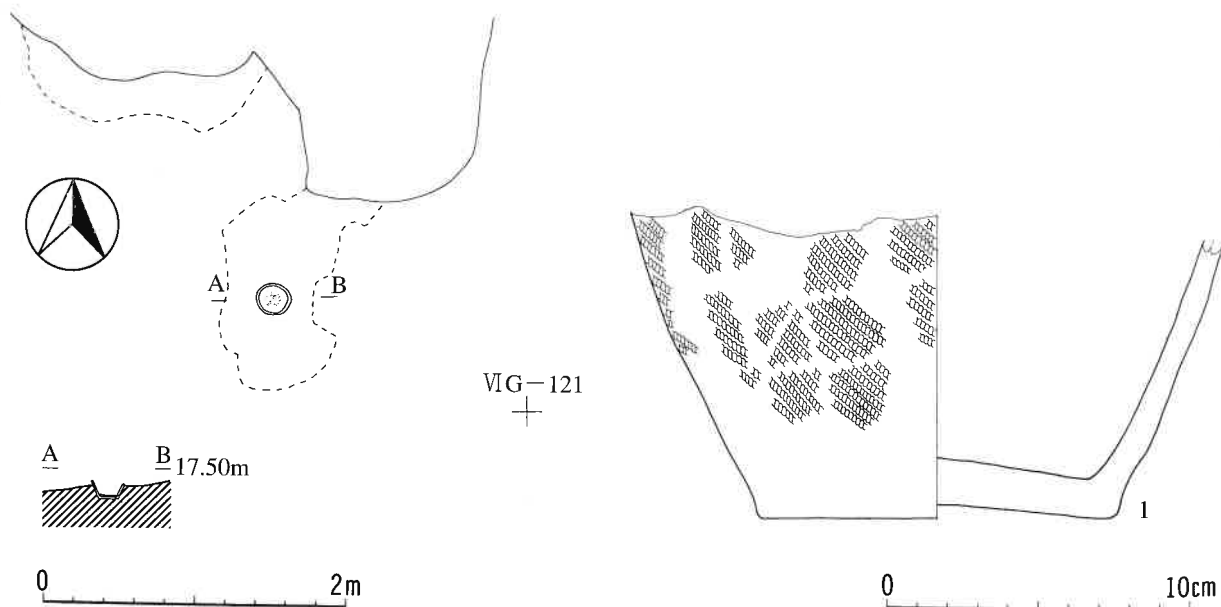
〔炉〕 土器埋設炉を検出した。掘り方は土器よりわずかに大きい程度で、規模は径24cm、深さ18cmである。土器内堆積土は焼土・炭化物が主体である。

〔堆積土〕 不明である。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群6類土器である。

〔時期〕 炉に使用された土器から、縄文時代中期前半と考えられる。

(小笠原 雅行)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	485住炉				RL	ナデ	無文	Ⅲ-6	

172図 第485号住居跡・出土遺物

第486号住居跡 (34図)

〔位置と確認〕 V S・T-116・117に位置する。第V層上で、暗褐色土の落ち込みを確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第426号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は短軸で2 m90cm、確認面での面積が7.23m²である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 重複関係より、縄文時代前期末葉（円筒下層 d 式期）か、それ以前と思われる。

（秦 光次郎）

第488号住居跡 (173図)

〔位置と確認〕 VID-90に位置する。第Ⅲ層精査中に貼り床の一部と炉跡を確認した。

〔重複〕 無し。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 残存する貼り床はほぼ平坦で堅緻である。

〔柱穴〕 不明である。

〔炉〕 土器埋設炉である。掘り方は確認できなかった。使用された土器の口径は22cm、高さ36cmである。土器内の堆積土は4層に分層した。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群3類土器である。

〔時期〕 炉に使用された土器から、縄文時代中期中葉（円筒上層 c 式期）である。

（中村 哲也）

第489号住居跡 (174図)

〔位置と確認〕 VIH-120・121に位置する。第V層精査中に炉跡・貼り床の一部を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 炉と貼り床の一部のみの検出であるため、不明である。

〔壁・床面〕 壁は不明である。貼り床はほぼ平坦で堅緻である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

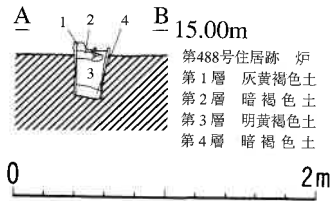
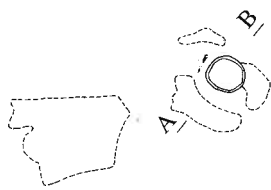
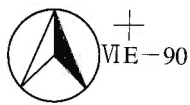
〔炉〕 土器埋設炉を検出した。土器が上下2個体分検出された。床面で検出した土器埋設炉は堆積土中に炭化物が含まれる。床面から16cmほど下で、もう一個体が出土している。土器内堆積土中には炭化物が含まれる。この炉は下の土器を使用・廃棄後掘り方を埋め、上面に土器を設置し、再び使用したものと思われる。

〔堆積土〕 不明である。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群1類土器で、炉堆積土出土土器も同類である。

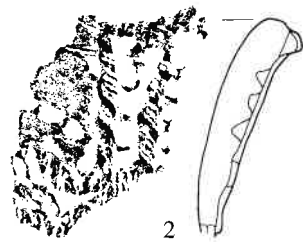
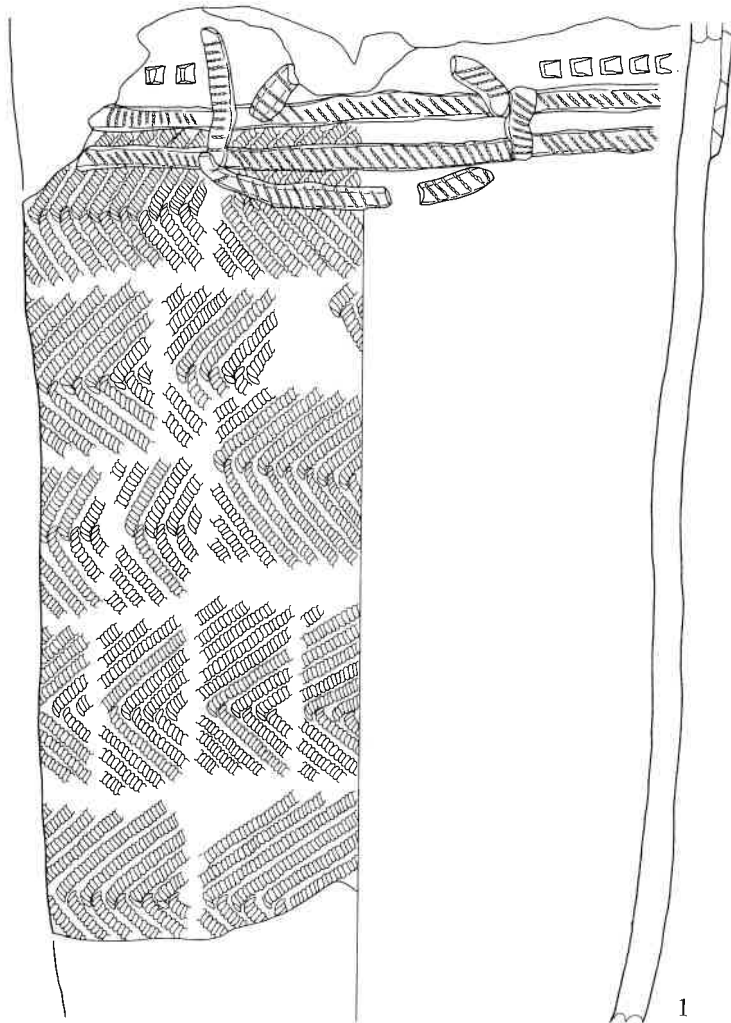
〔時期〕 炉に使用された土器から、縄文時代中期初頭（円筒上層 a 式期）である。

（小笠原 雅行）



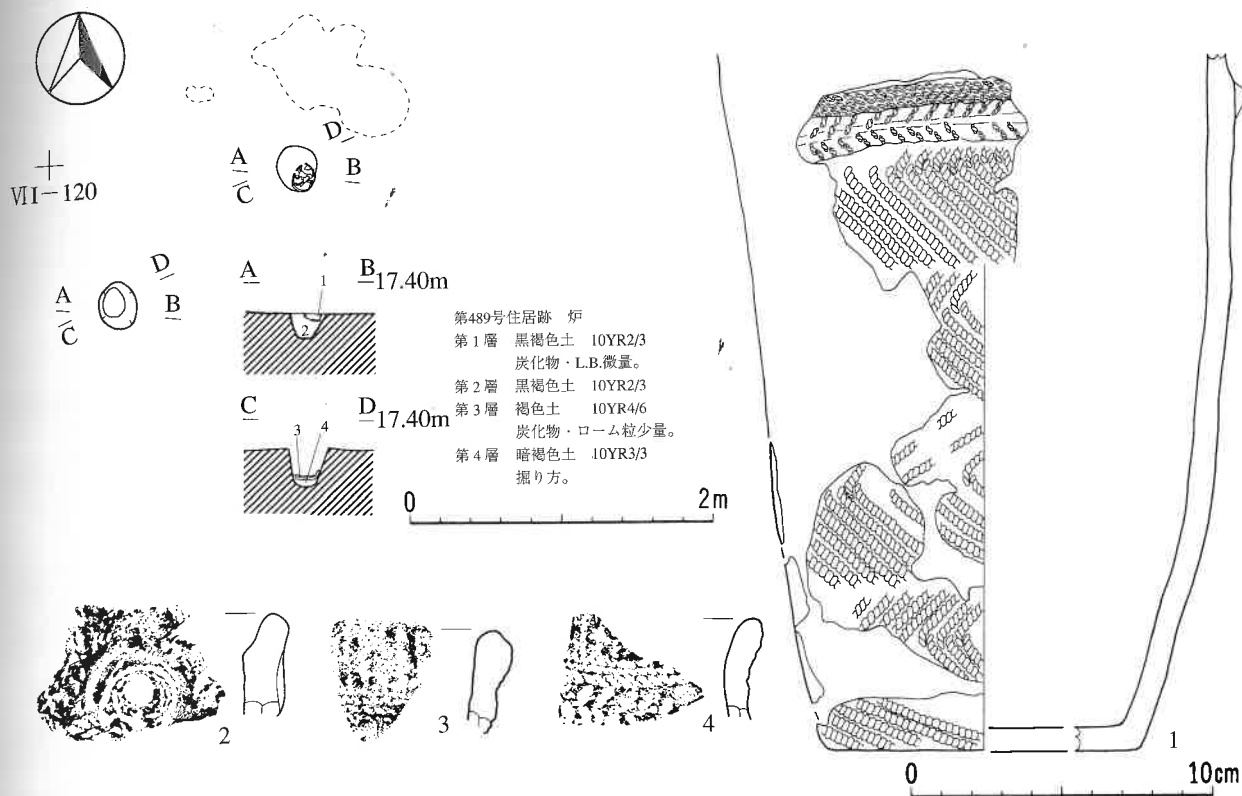
第488号住居跡 炉
 第1層 灰黄褐色土
 第2層 暗褐色土
 第3層 明黄褐色土
 第4層 暗褐色土

10YR5/2 炭化物中量、焼土少量、ローム粒、骨粉微量。
 10YR3/3 炭化物、ローム粒多量、焼土少量、骨粉微量。
 10YR6/6 ローム多量、バミス少量、暗褐色土微量。
 10YR3/4 炭化物、ローム粒微量。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	488住炉		貼付(L単絡1)、刺突	結束第一種		ミガキ		Ⅲ-3	
2	"		"			"		"	

173図 第488号住居跡・出土遺物



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	489住	埋設炉	貼付(LR単絡1)、LR押	結束第一種	結束第一種	ミガキ		Ⅲ-1	1~3同一個体
2	489住炉	堆積土	〃			〃		〃	
3	〃	〃	LR単絡1、LR押			〃		〃	
4	〃	〃	L押			〃		〃	

174図 第489号住居跡・出土遺物

第490号住居跡 (175図・176図)

〔位置と確認〕 VI E-124に位置する。第V層精査中に不整形の黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第492号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 南東側は削平により残存しない。また南西側は風倒木により、攪乱を受けている。長軸2m90cm、短軸2m68cmの不整形と推定される。長軸方向は南東-北西である。

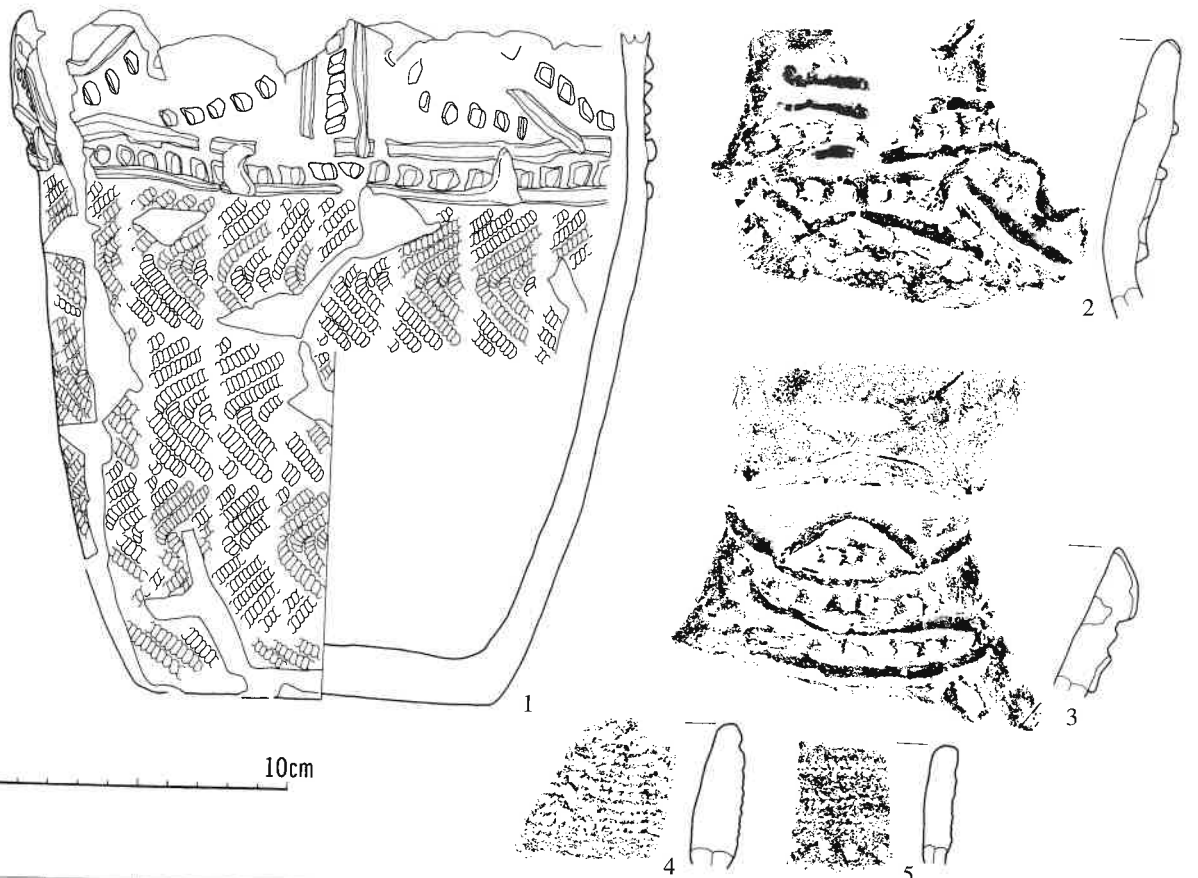
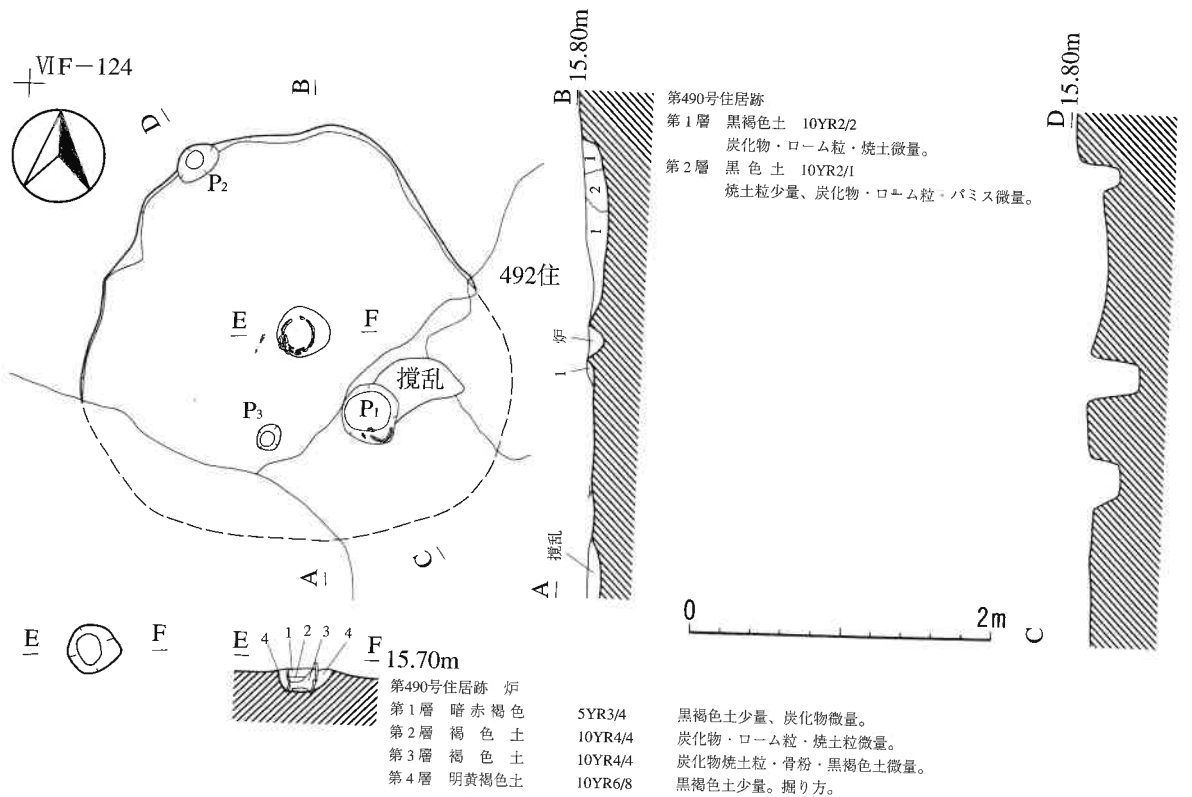
〔壁・床面〕 外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁8cm、西壁6cm、北壁14cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱穴〕 3個のピットを確認した。深さはP₁…18cm、P₂…11cm、P₃…19cmである。主柱穴は中軸線上のP₁・P₂が考えられる。

〔炉〕 床面の中央に土器埋設炉を検出した。掘り方規模は37cm×31cm、深さ9cmである。土器内堆積土中には焼土・炭化物が含まれる。

〔堆積土〕 4層に分層した。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物・焼土が含まれる。人為堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群3類である。堆積土からは第Ⅲ群3・4類を主体とした土器が出土した。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	490住炉		貼付、刺突	貼付、刺突	結束第一種	ミガキ	無文	Ⅲ-3	1~3同一個体
2	〃	堆積土	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
4	490住	〃	R単絡6A	〃	〃	〃	〃	Ⅱ-3	
5	〃	〃	L・R押、刺突	〃	〃	〃	〃	Ⅱ-5-2	

175図 第490号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
6	490住	堆積土	貼付、刺突	結束第一種		ミガキ	Ⅲ-3		
7	〃	〃	〃			〃	〃		
8	〃	〃		貼付(L単絡I)、LR?		〃	Ⅲ-4		
9	〃	〃		〃(〃)、〃		〃	〃		
10	〃	〃	貼付、結束第一種			〃	Ⅲ-4・5		

176図 第490号住居跡出土遺物(2)

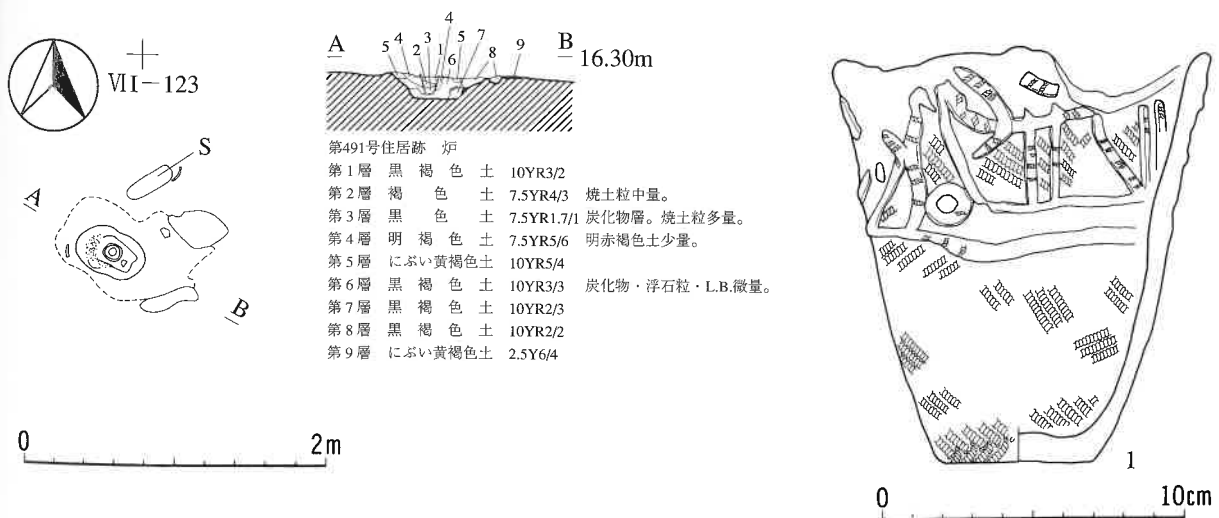
〔時期〕 炉に使用された土器及びその堆積土中から出土した土器から、縄文時代中期前葉(円筒上層c式期)である。

(小笠原 雅行)

第491号住居跡(177図・178図)

〔位置と確認〕 VI H・I-123に位置する。第V層精査中に炉を確認した。

〔重複〕 なし。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	491住炉		結束第一種、貼付(L押)	結束第一種、貼付(L押)	結束第一種	ナデ	無文	Ⅲ-4	

177図 第491号住居跡・出土遺物(1)

〔平面形・規模〕 削平により炉のみ確認したため、平面形は不明である。

〔壁・床面〕 不明である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

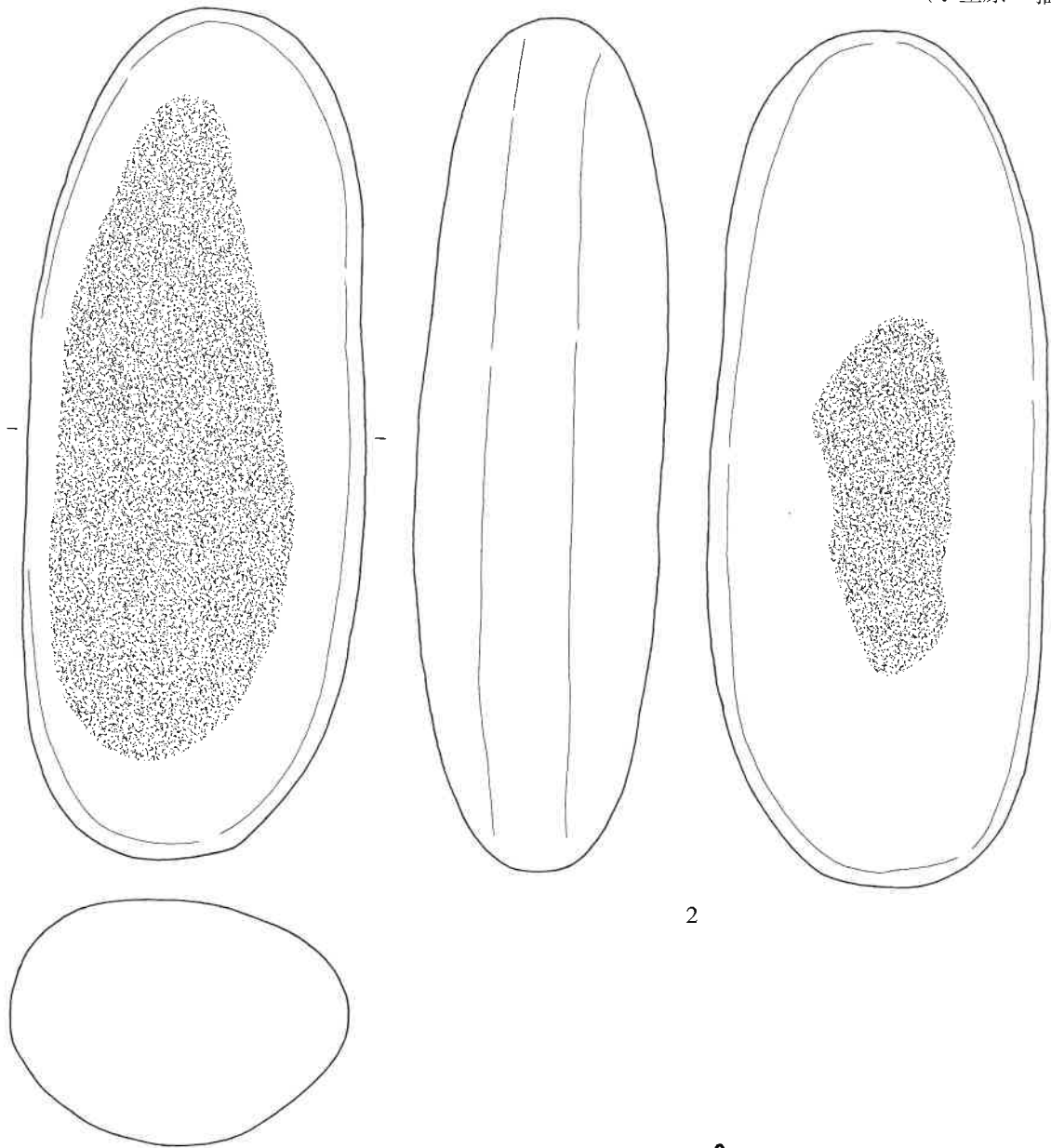
〔炉〕 土器埋設炉を検出した。掘り方の規模は49cm×32cm、深さ18cmである。土器は掘り方底面から3cmほど上に埋設される。土器内堆積土中には多量の焼土・炭化物が含まれていた。

〔堆積土〕 不明である。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群4類土器である。床面直上から石皿・台石類などが出土した。

〔時期〕 炉に使用された土器から、縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）である。

(小笠原 雅行)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
2	491住	床直	355	145	106	7010	安	L		46421

178図 第491号住居跡出土遺物 (2)

第492号住居跡 (179図)

[位置と確認] VID・E-124に位置する。第490号住居跡精査中に炉と貼り床の一部を確認した。

[重複] 第490号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

[平面形・規模] 炉と貼床のみの確認で全体の平面形は不明である。

[壁・床面] 壁は不明である。床面はほぼ平坦であり、炉と周囲の東側で粘土・黒色土による貼り床が確認された。

[柱穴] 検出されなかった。

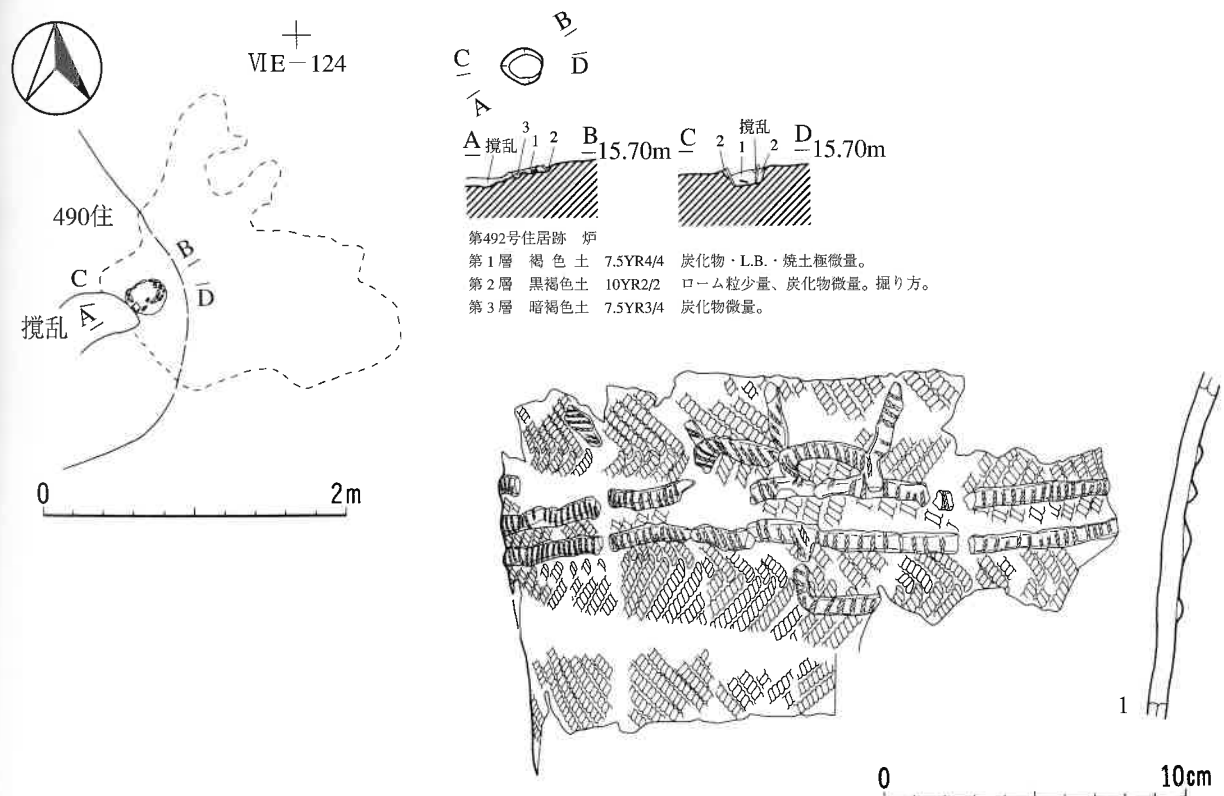
[炉] 土器埋設炉を検出した。掘り方規模は36cm×26cm、深さ4cmである。土器内堆積土中には焼土・炭化物が含まれる。

[堆積土] 不明である。

[出土遺物] 埋設炉の土器は第Ⅲ群4類土器である。

[時期] 炉に使用された土器から、縄文時代中期中葉(円筒上層d式期)である。

(小笠原 雅行)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	492住炉			結束第一種、貼付(LR単絡1)		ミガキ		Ⅲ-4	

179図 第492号住居跡・出土遺物

第493号住居跡（180図）

〔位置と確認〕 VI P-117に位置する。第V層精査中に半円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 北西側半分は削平により残存しない。長軸2m40cm前後の円形と思われる。

〔壁・床面〕 外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁7cm、南壁4cm、北壁4cmである。床面はほぼ平坦であり、中央付近で貼り床が確認された。

〔柱穴〕 3個のピットを確認した。深さはP₁…10cm、P₂…35cm、P₃…27cmである。このうちP₁・P₃が主柱穴と思われる。

〔炉〕 焼土等は確認されなかったが、P₂が炉の可能性がある。

〔堆積土〕 掘り込みが浅く、床面直上での確認だったため、土層断面図は作成できなかった。自然堆積か人為堆積か判断できない。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群1～4類土器、敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代中期中葉に近い時期と考えられる。

（小笠原 雅行）

第495号住居跡（181図・238図）

〔位置と確認〕 VI I-114に位置する。南盛土の下で落ち込みと床面の一部を確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていないが、部分的に床面を検出し、遺物を取りあげている。

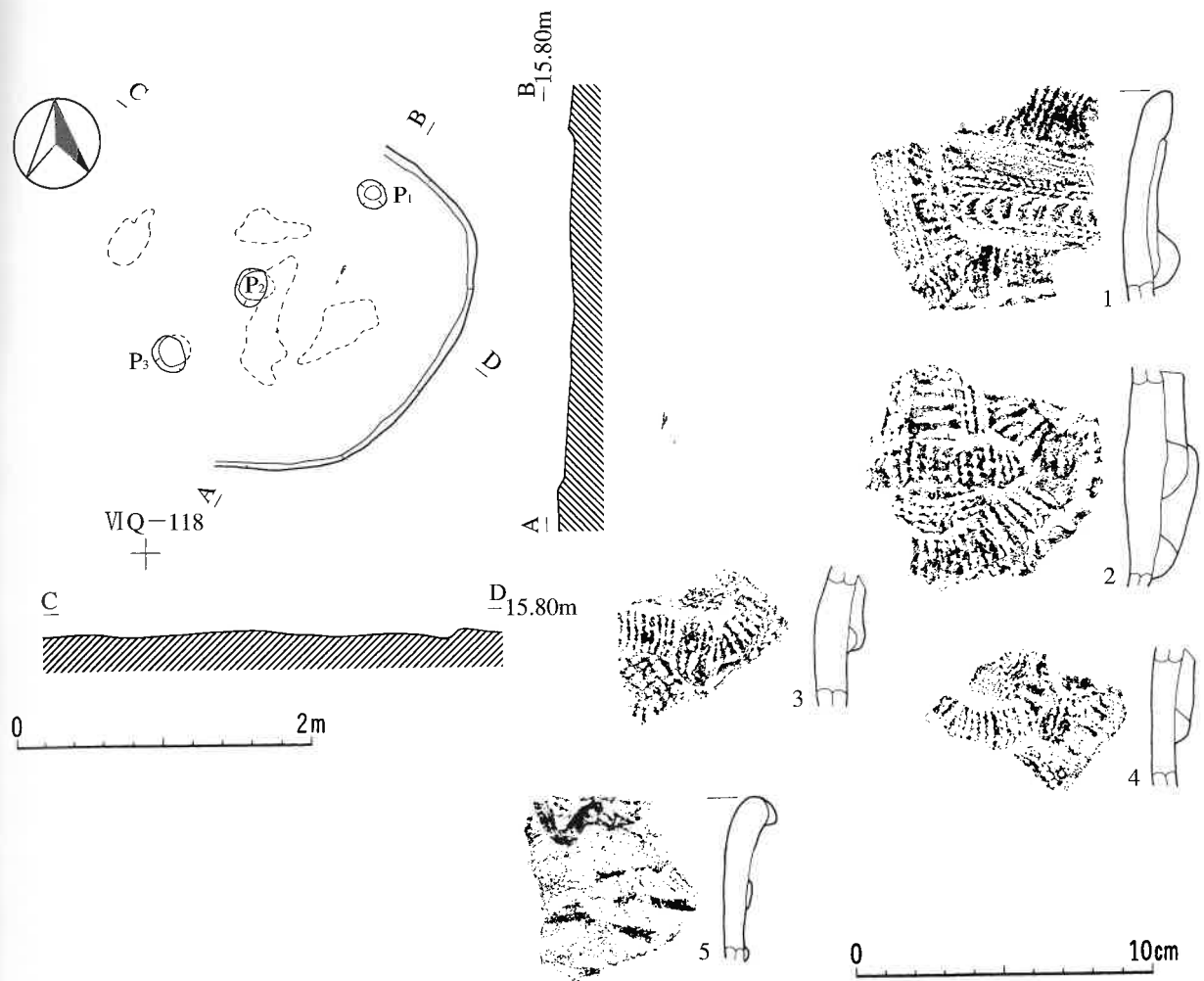
〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不明である。

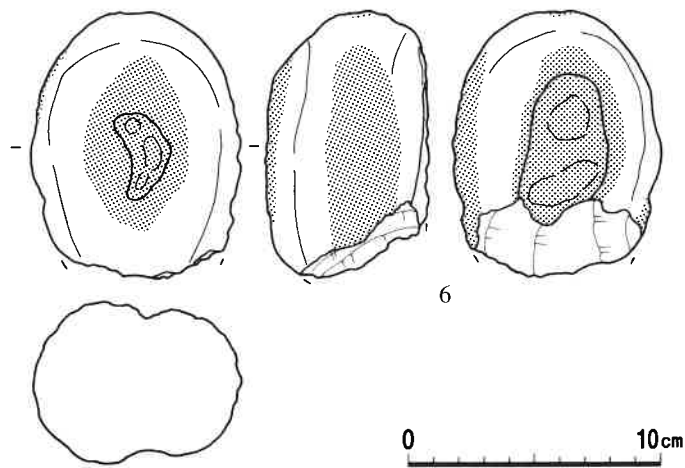
〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅲ群1・2類土器が出土した。

〔時期〕 床面直上出土遺物から、縄文時代中期前葉（円筒上層b式期）と考えられる。

（斎藤 岳）



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	493住	堆積土	貼付(L単絡1)、L・R押			ミガキ		Ⅲ-2	
2	〃	〃	〃			〃		Ⅲ-1~3	
3	〃	〃	〃	RLR?		〃		〃	4と同一個体
4	〃	〃	〃	〃		〃		〃	
5	〃	〃	貼付			〃		Ⅲ-4	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
6	493住	堆積土	(105)	82	64	(682.6)	安	Ia		42722

180図 第493号住居跡・出土遺物



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	495住	床直	貼付(L・RL押)、LR・RL押			ミガキ	Ⅲ-1		
2	〃	〃	〃(L単絡1)、L・R押			〃	Ⅲ-2		
3	〃	〃	〃			〃	〃		

181図 第495号住居跡出土遺物

第496号住居跡 (182図～189図・238図)

〔位置と確認〕 VI J～M-113～114、VI K・L-115に位置する。南盛土の下で暗褐色土の大型の楕円形の落ち込みとして確認した。時期等の情報を得るため、東側に長さ約4m、幅80cm、南側に長さ約2m、幅約60cmのトレンチを設定して調査したほかは、精査を行っていない。

〔重複〕 第746号土坑と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 確認面で長軸11m80cm、短軸8mである。

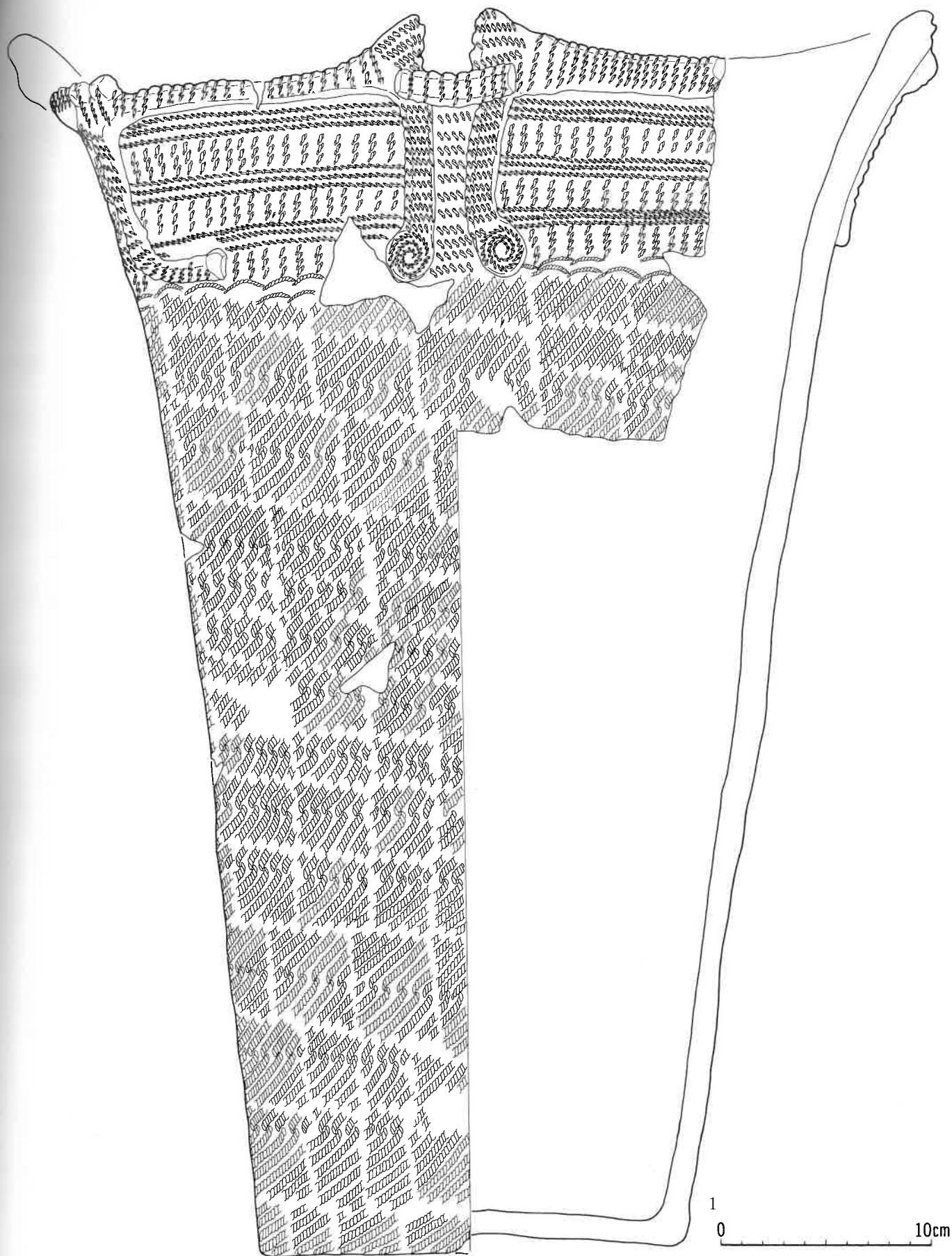
〔壁・床面〕 東壁・南壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がるが、東壁には高さ約17cmの段差がある。壁高は東壁76cm、南壁62cmである。床面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 南盛土の土層に連なる黄褐色土を主体としており、人為堆積と考えられる。東側トレンチの堆積土は26層に細分した。

〔出土遺物〕 東側トレンチの堆積土の上位から中位にかけて復元可能な土器を含む多量の土器が出土した。第Ⅱ群5類土器、第Ⅲ群1類土器が主体であるが、より下層からは第Ⅱ群5-2類土器が主体となって出土した。石器は堆積土からスクレイパー類、敲磨器類などが出土した。

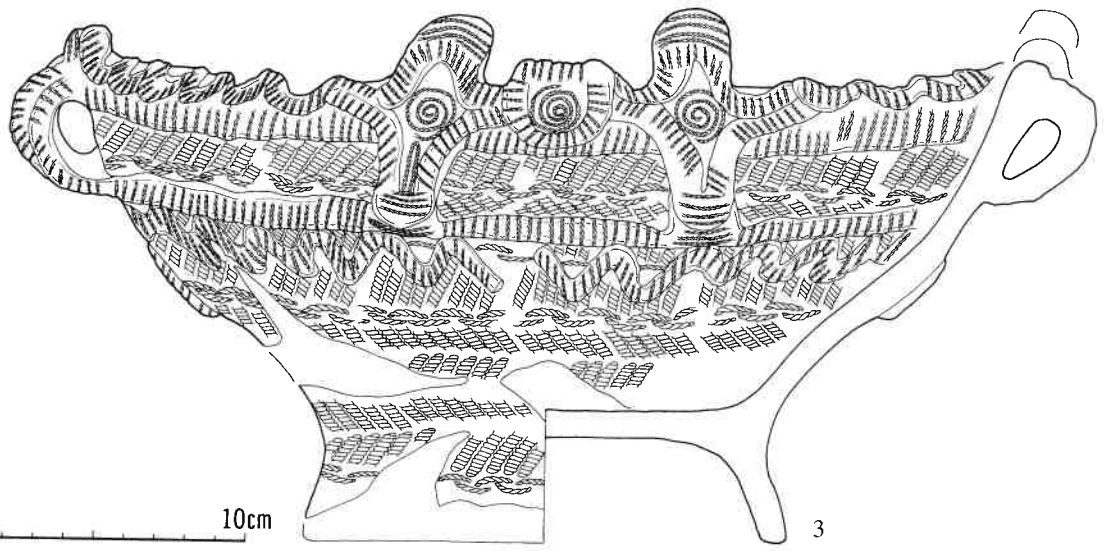
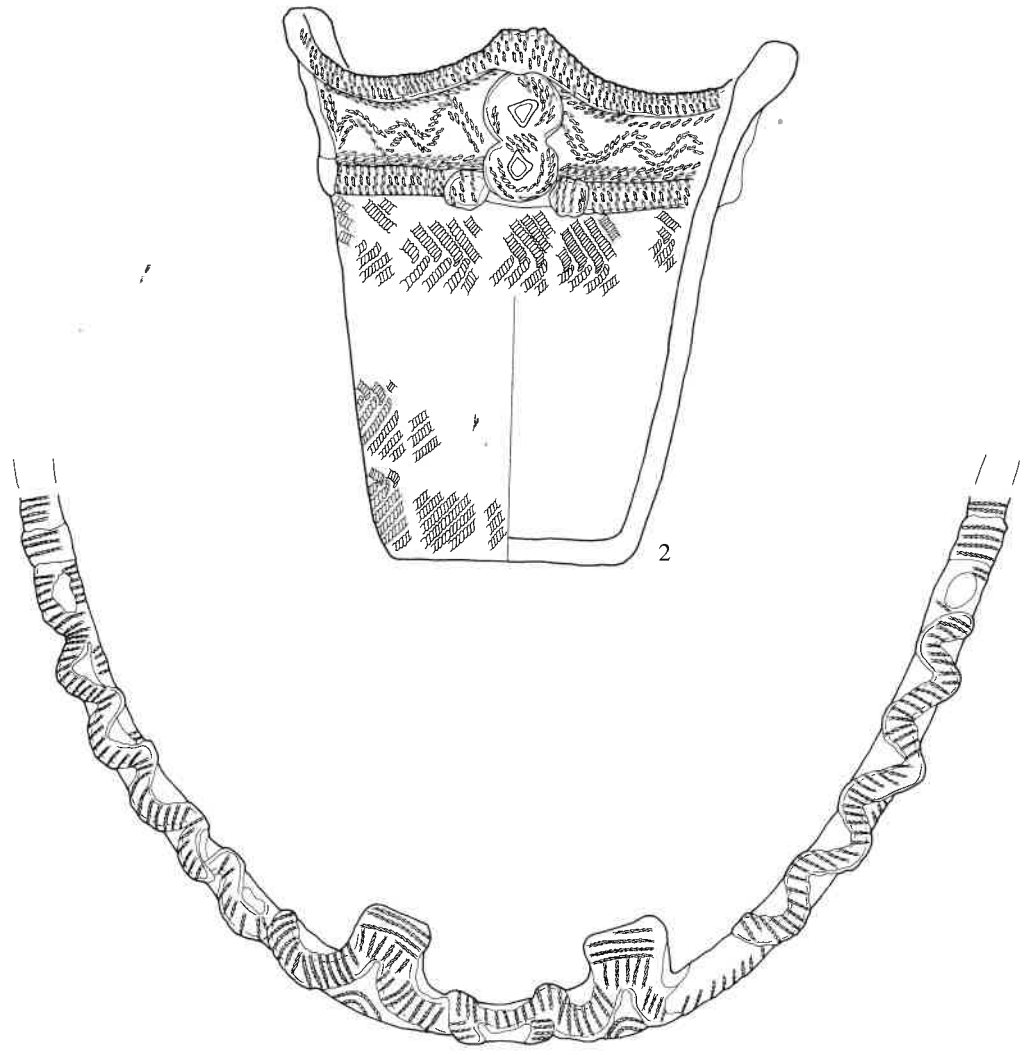
〔時期〕 堆積土下位の出土土器から、縄文時代前期末葉(円筒下層d₂式期)に近い時期と考えられる。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	496住	東トレンチ17	貼付(LR単絡1)、LR押	結束第一種、L結回	結束第一種	ミガキ	無文	Ⅲ-1	

182図 第496号住居跡出土遺物(1)



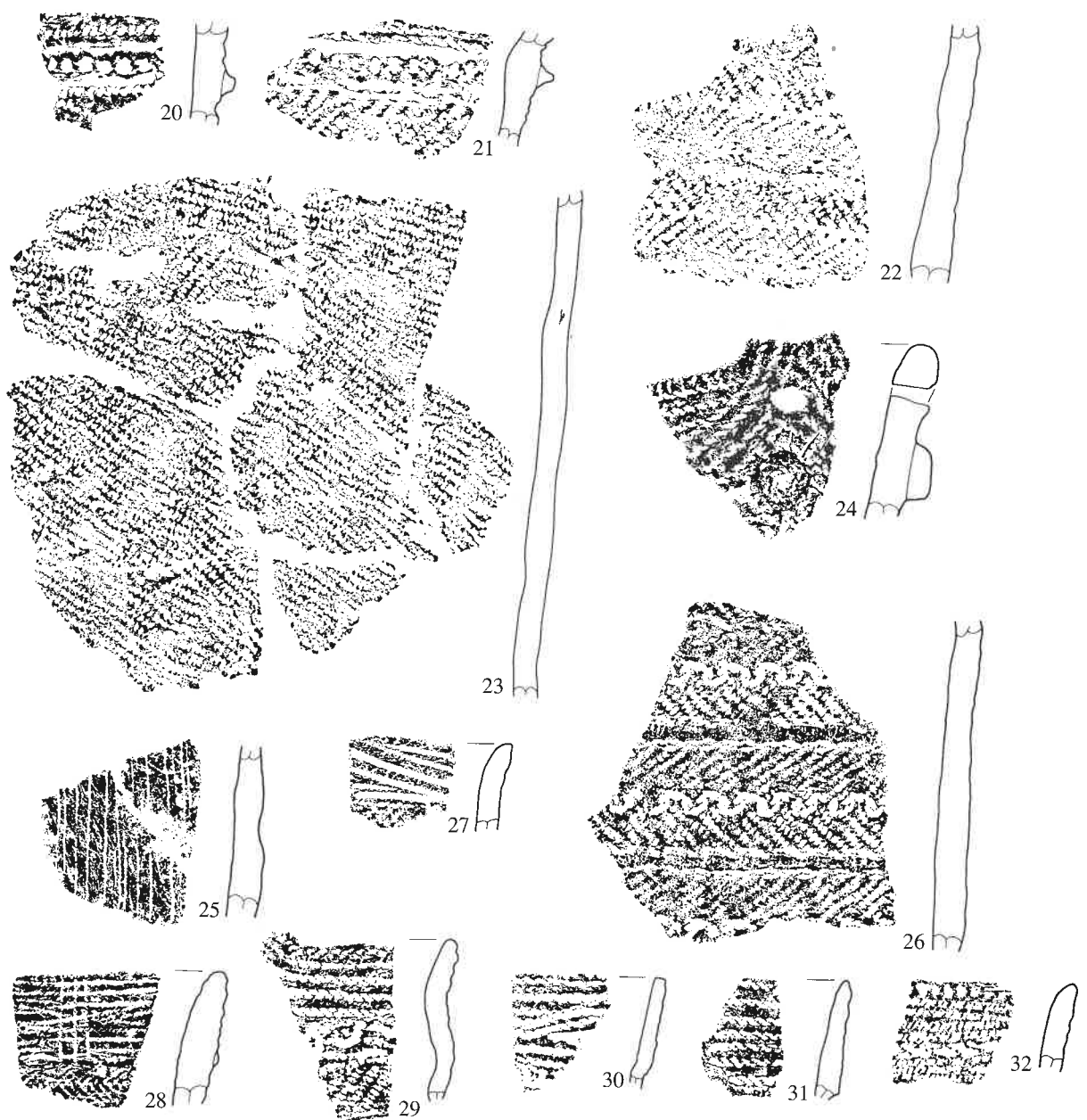
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
2	496住	東トレンチ1	貼付(LR柵, RL単絡!), LR柵	結束第一種	結束第一種	ミガキ	無文	Ⅲ-1	
3	〃	堆積土	貼付 (L単絡1)	結束第二種, 貼付 (L単絡1)	結束第二種	〃	〃	〃	

183図 第496号住居跡出土遺物 (2)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
4	496住	東トレンチ26	結束第一種、単絡1押			ミガキ	II-5-1		
5	〃	東トレンチ22	貼付 (R押)、R押			〃	II-5-2		
6	〃	東トレンチ21	LR押			〃	〃		
7	〃	〃	〃、刺突			〃	〃		
8	〃	〃	R押、貼付 (刺突)			〃	〃	口唇上面刻み	
9	〃	〃	LR・RLR押	RLR		〃	〃		
10	〃	〃	貼付 (LR押)、LR押	結束第一種		〃	〃		
11	〃	〃	〃			〃	〃		
12	〃	〃	無文			〃	II-6		
13	〃	東トレンチ18		RLR		〃	〃		
14	〃	東トレンチ16		条痕		〃	〃		
15	〃	〃		結束第二種		〃	〃		
16	〃	東トレンチ15	LR単絡1、L?押			〃	II-5-2		
17	〃	〃		LR		〃	II-6		
18	〃	〃		結束第一種		〃	〃		
19	〃	〃		結束第二種		〃	〃		

184図 第496号住居跡出土遺物 (3)



0 10cm

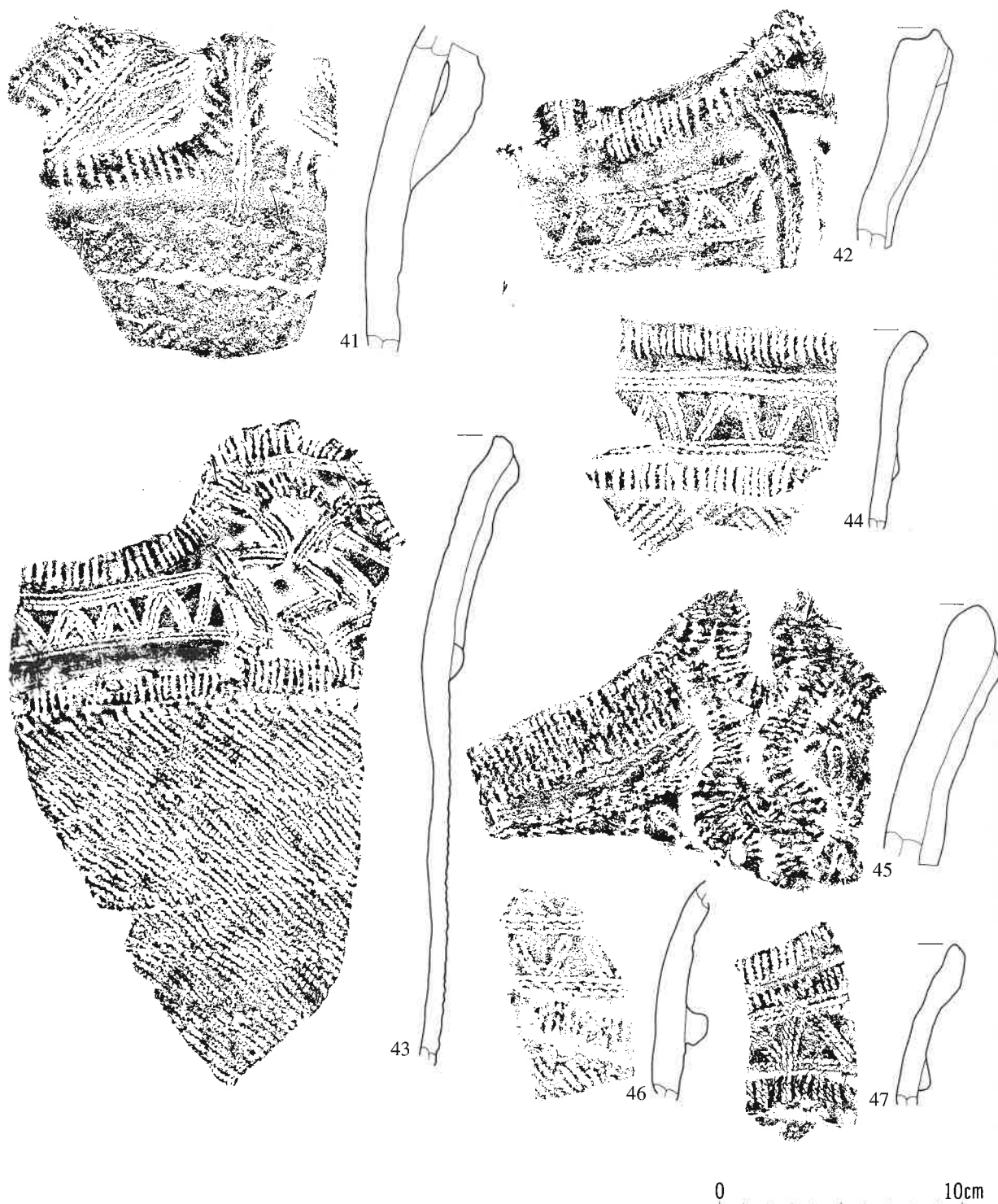
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
20	496住	東トレンチ4-15層	貼付(刺突)、R単絡1押			ミガキ		II-5-2	
21	〃	〃	〃(LR押)、LR押	LR?		〃		〃	
22	〃	〃		結束第一種		〃		II-6	
23	〃	〃		RL		〃		〃	
24	〃	〃	貼付(LR押)、LR押			〃		II-5-2	貫通孔
25	〃	〃		結束第二種		〃		II-6	
26	〃	〃		条痕		〃		〃	
27	〃	堆積土	R押			〃		II-5-1	
28	〃	〃	〃	結束第一種		〃		〃	
29	〃	〃	LR押	R結回、LR		〃		〃	小突起
30	〃	〃	〃			〃		〃	
31	〃	〃	〃			〃		〃	
32	〃	〃	単絡1・LR押			〃		〃	

185図 第496号住居跡出土遺物(4)



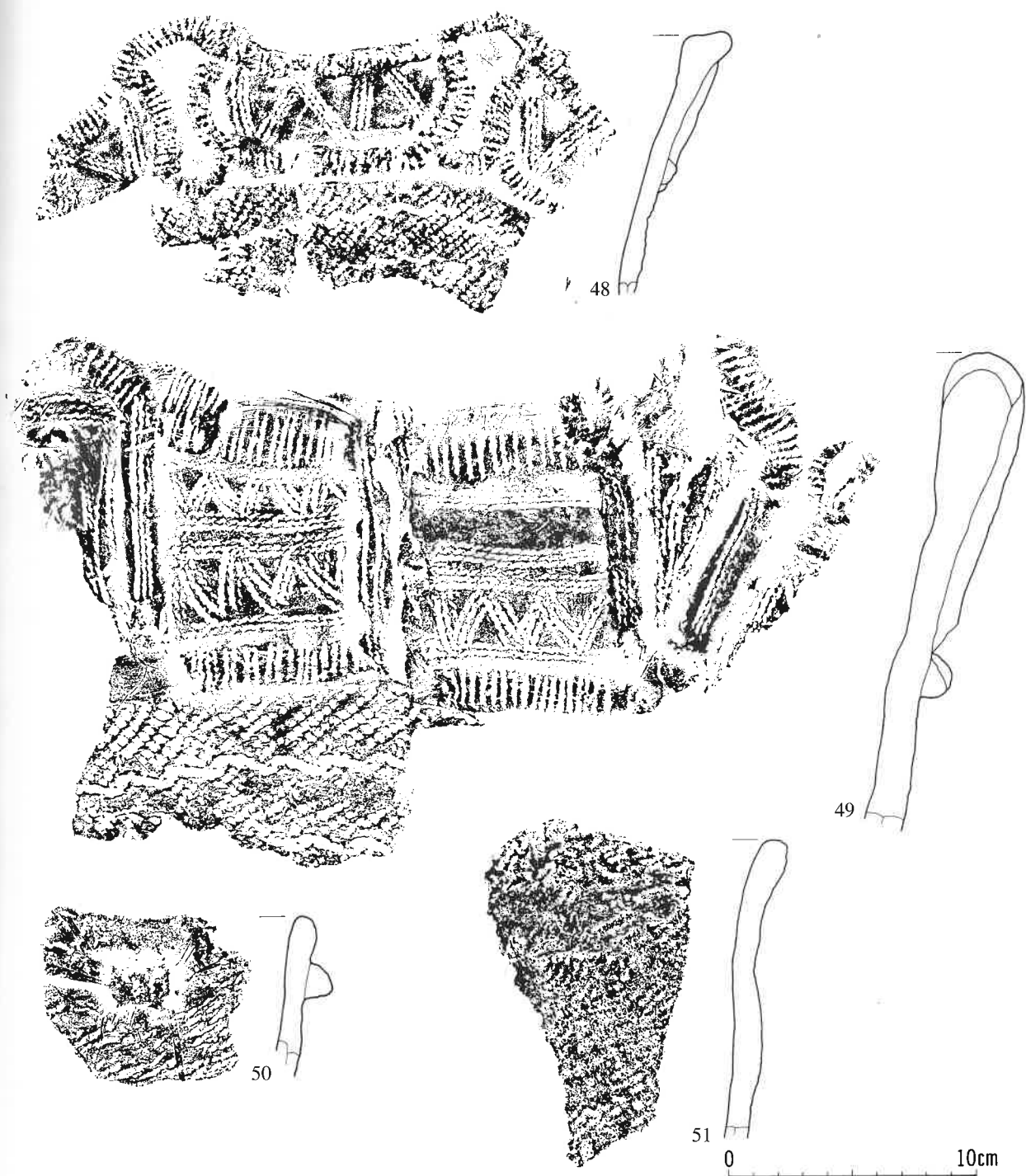
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
33	496住	堆積土	LR押、刺突			ミガキ		II-5-2	口唇上面LR押
34	〃	〃	R単絡1押、〃			〃		〃	〃
35	〃	〃	貼付 (R単絡1押)			〃		〃	R単絡1押
36	〃	〃	貼付 (LR押)、LR押			〃		〃	
37	〃	〃	〃			〃		〃	
38	〃	〃	〃	LR、R結回		〃		〃	
39	〃	〃	〃	LR		〃		III-1	
40	〃	〃	〃	〃、R結回		〃		〃	

186図 第496号住居跡出土遺物 (5)



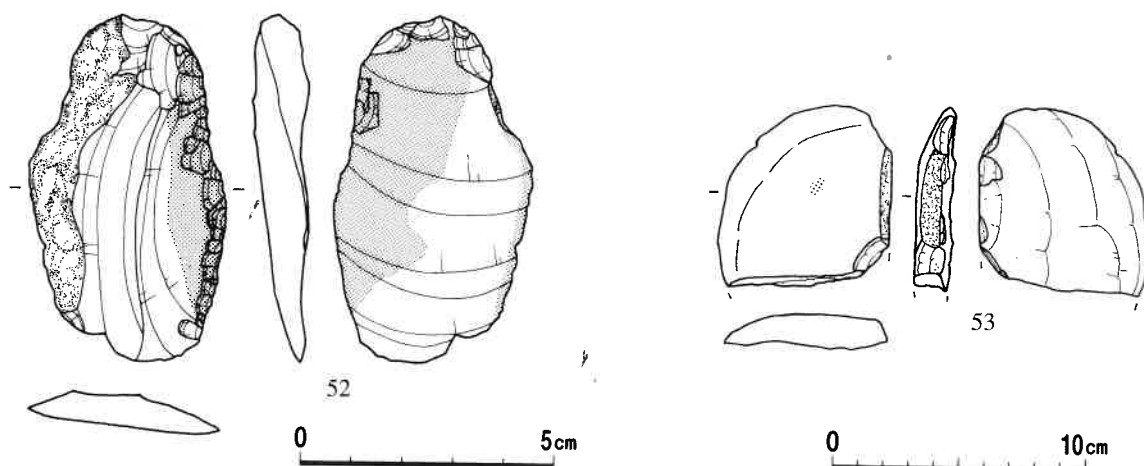
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
41	496住	堆積土	貼付(L押)、L押	LR、R結回		ミガキ	Ⅲ-1		
42	〃	〃	〃、L単絡1			〃	〃		
43	〃	〃	貼付(R押)、R押、R単絡1	結束第一種		〃	〃		
44	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
45	〃	〃	貼付(LR単絡1)、LR押			〃	〃		
46	〃	〃	〃(R単絡1)、〃	RL?		〃	〃		
47	〃	〃	〃(〃)、R押			〃	〃		

187図 第496号住居跡出土遺物(6)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
48	496住	堆積土	貼付 (L単絡1)、L押	LR、LR結回		ミガキ	Ⅲ-1		
49	〃	〃	〃 (L単絡1・RL押)、RL押	〃、R結回		〃	〃		
50	〃	〃	貼付 (L押)			〃	Ⅲ-6		
51	〃	〃	LR			〃	〃	口唇上面LR	

188図 第496号住居跡出土遺物 (7)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
52	496住	堆積土	69	39	11	21.6	珪頁	Ga	東トレンチ、S-4	46390
53	〃	〃	(73)	(68)	(15)	(106.3)	安	Ic	〃、S-61	46354

189図 第496号住居跡出土遺物 (8)

第498号住居跡 (190図)

〔位置と確認〕 VI F-117・118に位置する。第Ⅲ層精査中に炉と床面の一部を確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第516号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 床面は第516号住居跡の確認面の土及び第Ⅴ層をたたきしめて形成され、ほぼ平坦である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

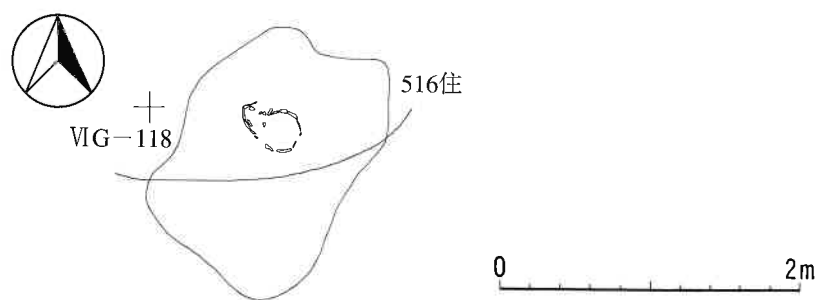
〔炉〕 土器埋設炉を検出した。

〔堆積土〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが精査を行っていないため、詳細は不明である。

(斎藤 岳)



190図 第498号住居跡

第499号住居跡 (191図・237図)

[位置と確認] VIA・B-116、VIB-115に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

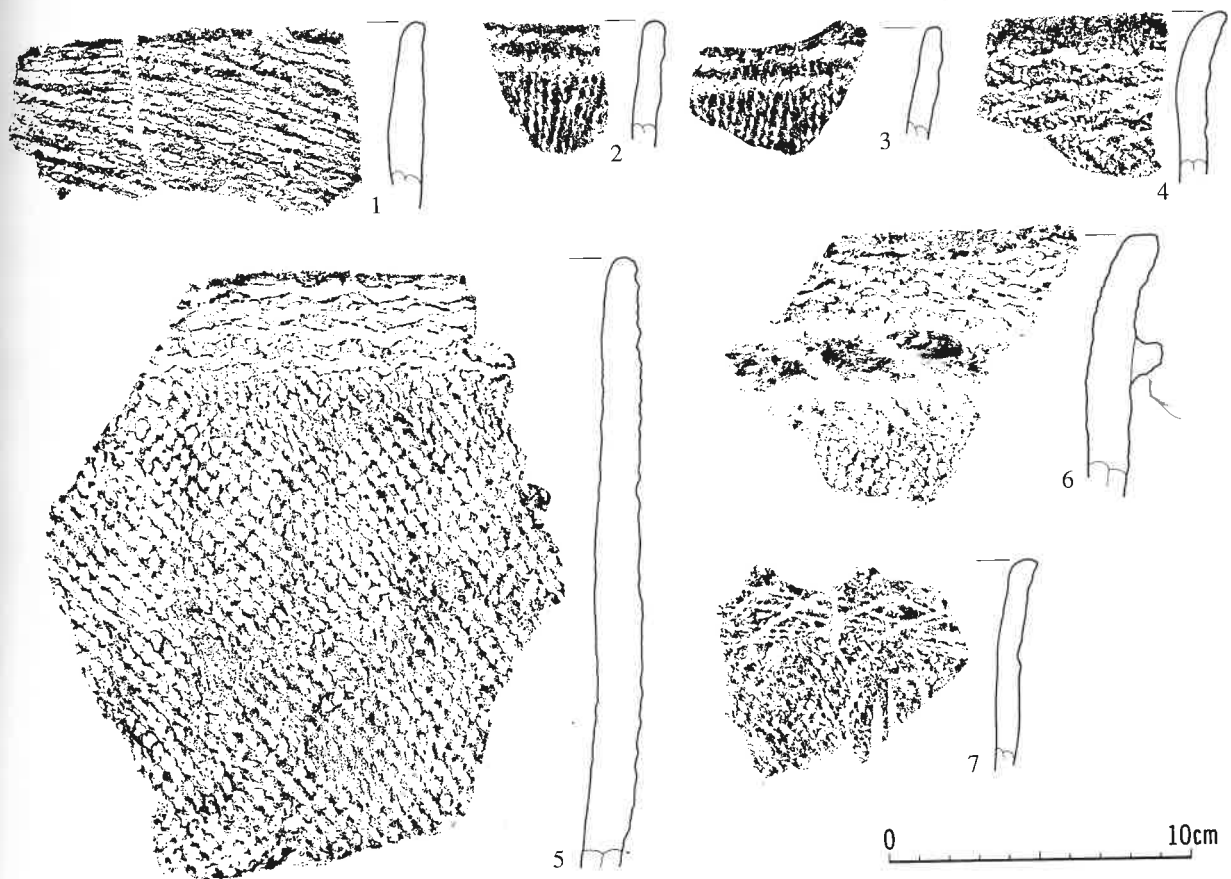
[重複] 第500・501号住居跡、第737、783号土坑と重複し、第501号住居跡より古く、第500号住居跡、第737・783号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は北西～南東に長軸のある楕円形と考えられる。規模は確認面の長軸が4m17cm、短軸が3m47cmである。

[出土遺物] 確認面から第Ⅱ群2類土器が出土した。

[時期] 縄文時代であるが精査を行っていないため、詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	499住	確認面	I単絡1			ミガキ	II-2?		
2	〃	〃	R単絡1、RLR押			〃	II-2	3と同一個体	
3	〃	〃	〃、〃			〃	〃	小突起	
4	〃	〃	RL? R結回			〃	〃		
5	〃	〃	RLR、LR結回			〃	〃		
6	〃	〃	LR結回	隆帯 (LR押)、LR		〃	〃		
7	〃	〃	LR単絡1、R単絡5			〃	〃		

191図 第499号住居跡出土遺物

第500号住居跡 (192図・237図)

〔位置と確認〕 VIB・C-115・116に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

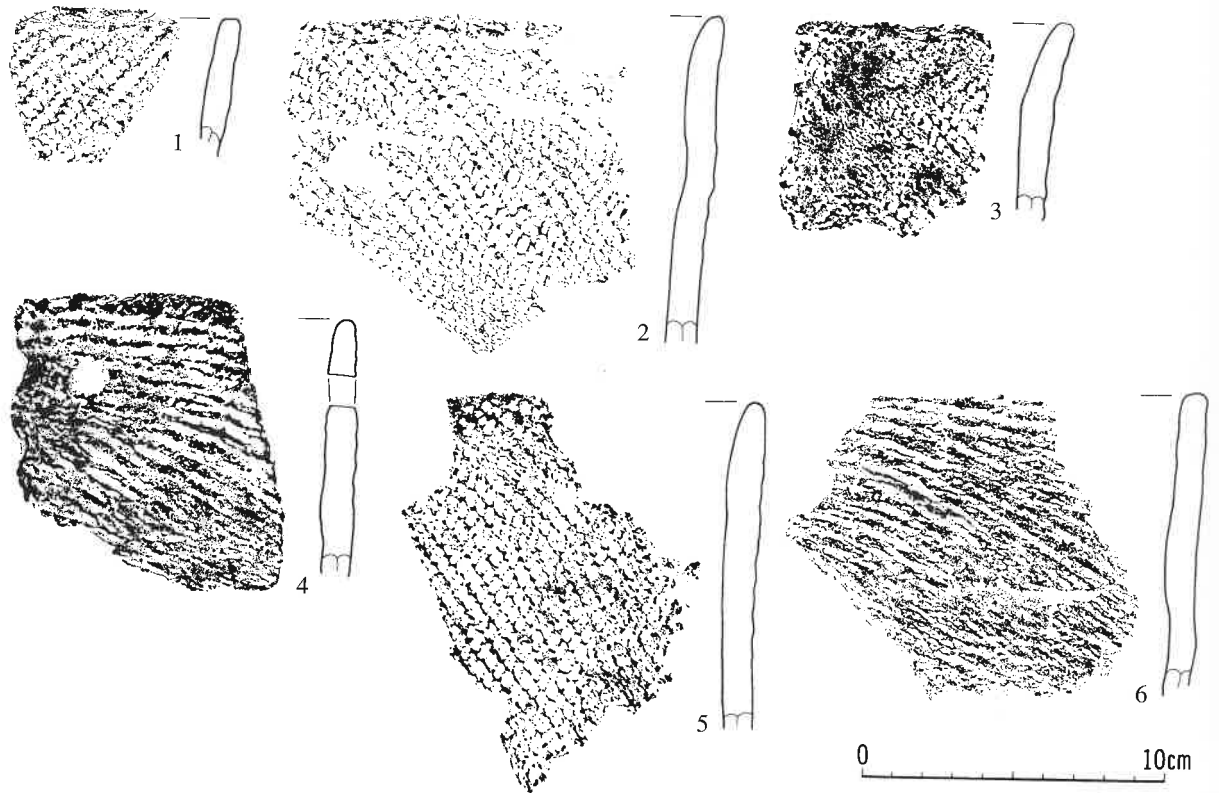
〔重複〕 第499・501・505号住居跡、第793号土坑と重複する。第499・501・505号住居跡より古く、第739号土坑より新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長軸のある楕円形と考えられる。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群2類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが精査を行っていないため、詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	500住	確認面	LR			ミガキ		Ⅱ-2	口唇上面平坦
2	〃	〃	RLR			〃		〃	口唇上面にもRLR
3	〃	〃	RLR			〃		〃	
4	〃	〃	1単絡1、補修孔			〃		〃	
5	〃	〃	RLR			〃		〃	
6	〃	〃	1単絡1			〃		〃	4と同一個体

192図 第500号住居跡出土遺物

第501号住居跡 (193図・237図)

〔位置と確認〕 VIB・C-116・117に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第499・500・502号住居跡、第738号土坑と重複し、本住居跡が最も新しい。

[平面形・規模] 平面形は東西に長軸のある隅丸方形と考えられ、確認面で長軸 2 m21cm、短軸 2 m17cmである。

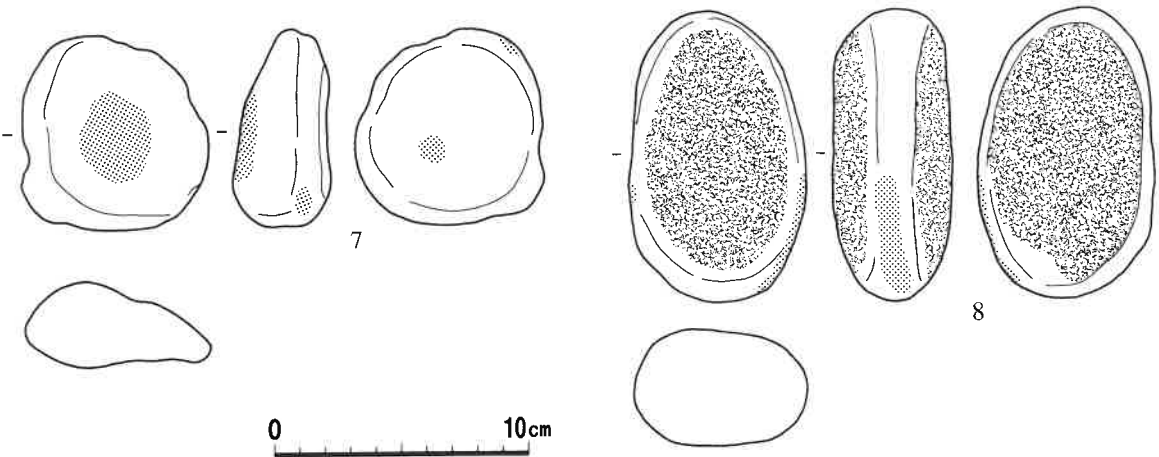
[出土遺物] 確認面から第Ⅲ群4類を主体とした土器、敲磨器類などが出土した。

[時期] 縄文時代であるが精査を行っていないため、詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	501住	確認面	貼付、RL・L押			ミガキ		Ⅲ-4	
2	〃	〃	貼付			〃		〃	
3	〃	〃	〃、刻み	LR		〃		Ⅲ-4・5	内面にも貼付、L押
4	〃	〃	刻み	〃		〃		〃	
5	〃	〃		貼付		〃		Ⅲ-4	
6	〃	〃		〃		〃		〃	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
7	501住	確認面	76	74	38	257.7	安	Ib		46362
8	〃	〃	115	70	48	511.6	流	Ic		46364

193図 第501号住居跡出土遺物

第502号住居跡 (237図)

〔位置と確認〕 VI B-117に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第433・501・503・504号住居跡と重複し、そのいずれよりも古い。

〔平面形・規模〕 平面形は不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)

第503号住居跡 (237図)

〔位置と確認〕 VI A・B-117に位置する。第Ⅲ層精査中で落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第379・502・504号住居跡・第738号土坑と重複する。第379号住居跡・第738号土坑より古く、第502・504号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある楕円形と考えられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)

第504号住居跡 (194図・237図)

〔位置と確認〕 VI A・B-117・118に位置する。第Ⅲ層精査中で落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていないが、部分的に床面を検出し、床面直上遺物を取りあげた。

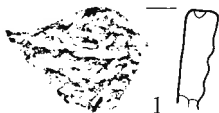
〔重複〕 第379・433・502・503号住居跡と重複し、そのいずれよりも古い。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅱ群2類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため、詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	504住	床直	R結回、小波状			ミガキ		Ⅱ-2	波頂部に刺突

194図 第504号住居跡出土遺物

第505号住居跡（195図・196図・237図）

〔位置と確認〕 VIC・D-116に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

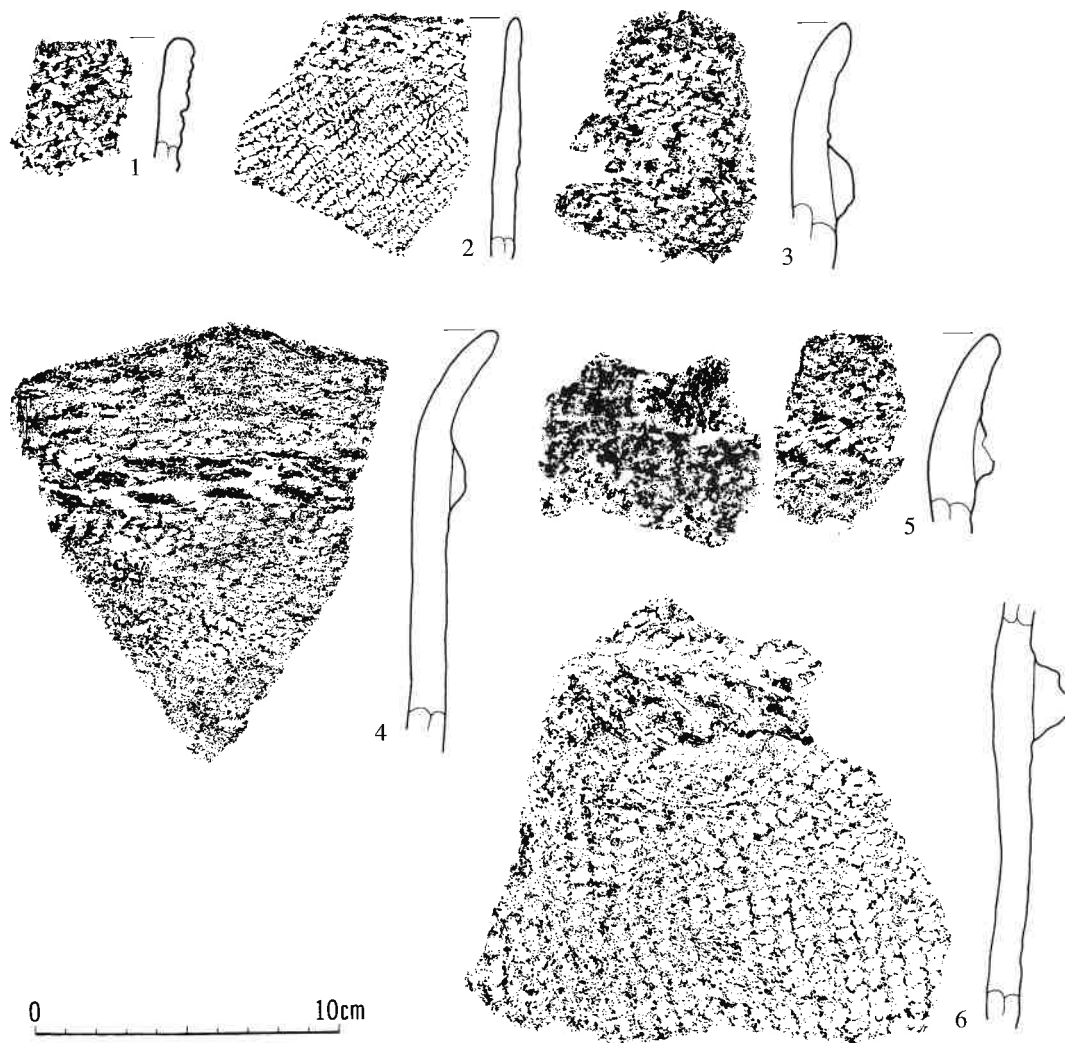
〔重複〕 第500号住居跡、第739・740号土坑と重複する。第740号土坑より古く、第500号住居跡・第739号土坑より新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長軸のある楕円形と考えられ、確認面で長軸 4 m72cm、短軸 3 m29cmである。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群2類土器、スクレイパー類、敲磨器類などが出土した。

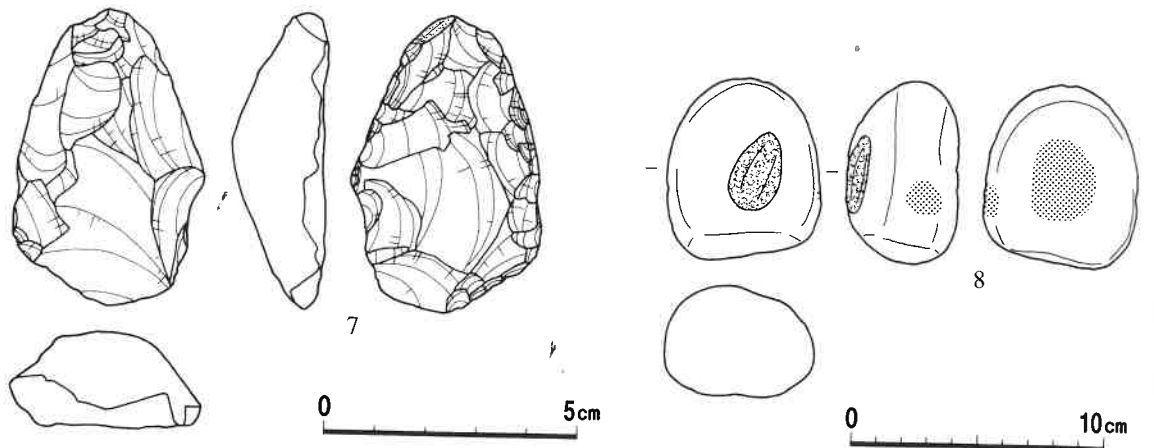
〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

（斎藤 岳）



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	505住	確認面	LR結回			ミガキ		Ⅱ-2	口唇部上面平坦
2	〃	〃	LR、L結回			〃		〃	
3	〃	〃	R結回	隆帯		〃		〃	波状
4	〃	〃	不明	〃、RLR?		〃		〃	〃
5	〃	〃	結回?	隆帯（上面剥落）		〃		〃	
6	〃	〃		〃（RLR押）、RLR		〃		〃	

195図 第505号住居跡出土遺物（1）



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
7	505住	確認面	58	38	19	35.2	珪頁	Ga	石鏡?	45742
8	〃	〃	71	60	44	225.3	安	Ib		46367

196図 第505号住居跡出土遺物 (2)

第507号住居跡 (197図・237図)

〔位置と確認〕 VI E-115・116に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

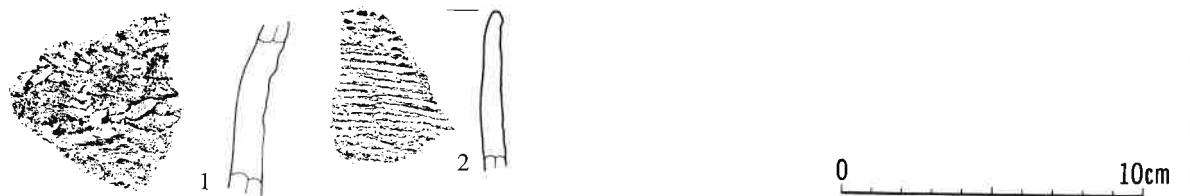
〔重複〕 第513号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は円形と考えられ、確認面で直径2m22cmである。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群2・3類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	507住	確認面	R結回			ミガキ		Ⅱ-2	隆部部?剥落
2	〃	〃	R単絡1			〃		Ⅱ-3	

197図 第507号住居跡出土遺物

第508号住居跡 (198図・237図)

[位置と確認] VIC・D-117に位置する。第Ⅲ層精査中で落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

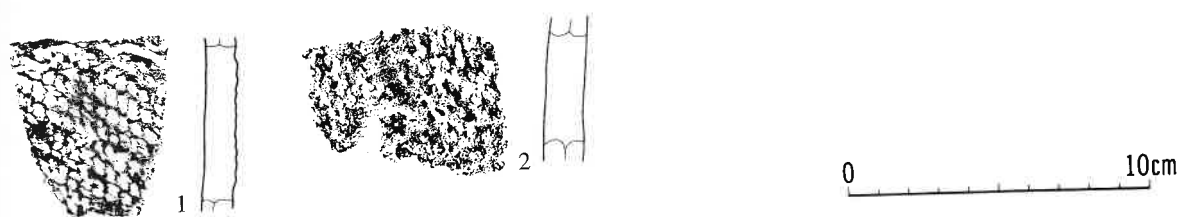
[重複] 第509・519・568号住居跡、第746号土坑と重複する。新旧関係は第568号住居跡・第746号土坑より新しく、第509・519号住居跡とは不明である。

[平面形・規模] 不明である。

[出土遺物] 確認面から第Ⅱ群6類土器が出土した。

[時期] 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	508住	確認面		RLR		ミガキ		Ⅱ-6	
2	〃	〃		〃		〃		〃	

198図 第508号住居跡出土遺物

第509号住居跡 (199図・237図)

[位置と確認] VIC-116・117に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

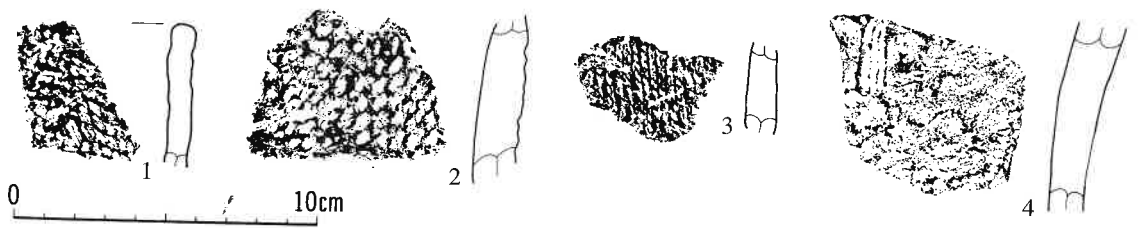
[重複] 第508号住居跡、第746号土坑と重複し、新旧関係は第746号土坑より新しく、第508号住居跡とは不明である。

[平面形・規模] 平面形は不明である。

[出土遺物] 確認面から第Ⅱ群2・6類土器、第Ⅲ群1類土器が出土した。

[時期] 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	509住	確認面	LR結回	RLR		ミガキ		II-2	
2	〃	〃		〃		〃		II-6	
3	〃	〃		単絡1		〃		〃	
4	〃	〃	LR・R押	LR?		〃		III-1	貼付剥落

199図 第509号住居跡出土遺物

第512号住居跡 (200図・237図)

〔位置と確認〕 VID・E-116~118に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

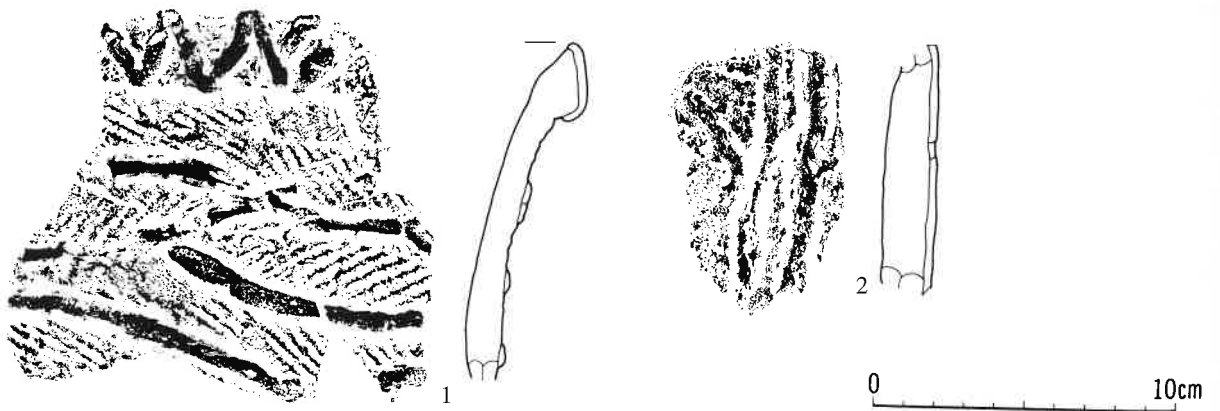
〔重複〕 第517・519・568号住居跡、第742・743号土坑と重複し、新旧関係は第517・519・568号住居跡より新しく、第742・743号土坑とは不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅲ群4類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	512住	確認面	貼付	結束第一種、貼付		ミガキ		III-4	
2	〃	〃		貼付		〃		〃	

200図 第512号住居跡出土遺物

第513号住居跡 (201図・237図)

[位置と確認] VI E-115に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

[重複] 第507・523号住居跡と重複し、第523号住居跡より古く、第507号住居跡より新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形であり、直径は2 m64cmである。

[出土遺物] 確認面から第Ⅱ群 6 類土器土器が出土した。また、石皿が2点並んで検出されたが、保存のため取りあげを行っていない。

[時期] 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	513住	確認面		RLR		ミガキ		Ⅱ-6	
2	〃	〃		〃		〃		〃	

201図 第513号住居跡出土遺物

第514号住居跡 (202図・203図・237図)

[位置と確認] VI E・F-115・116に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

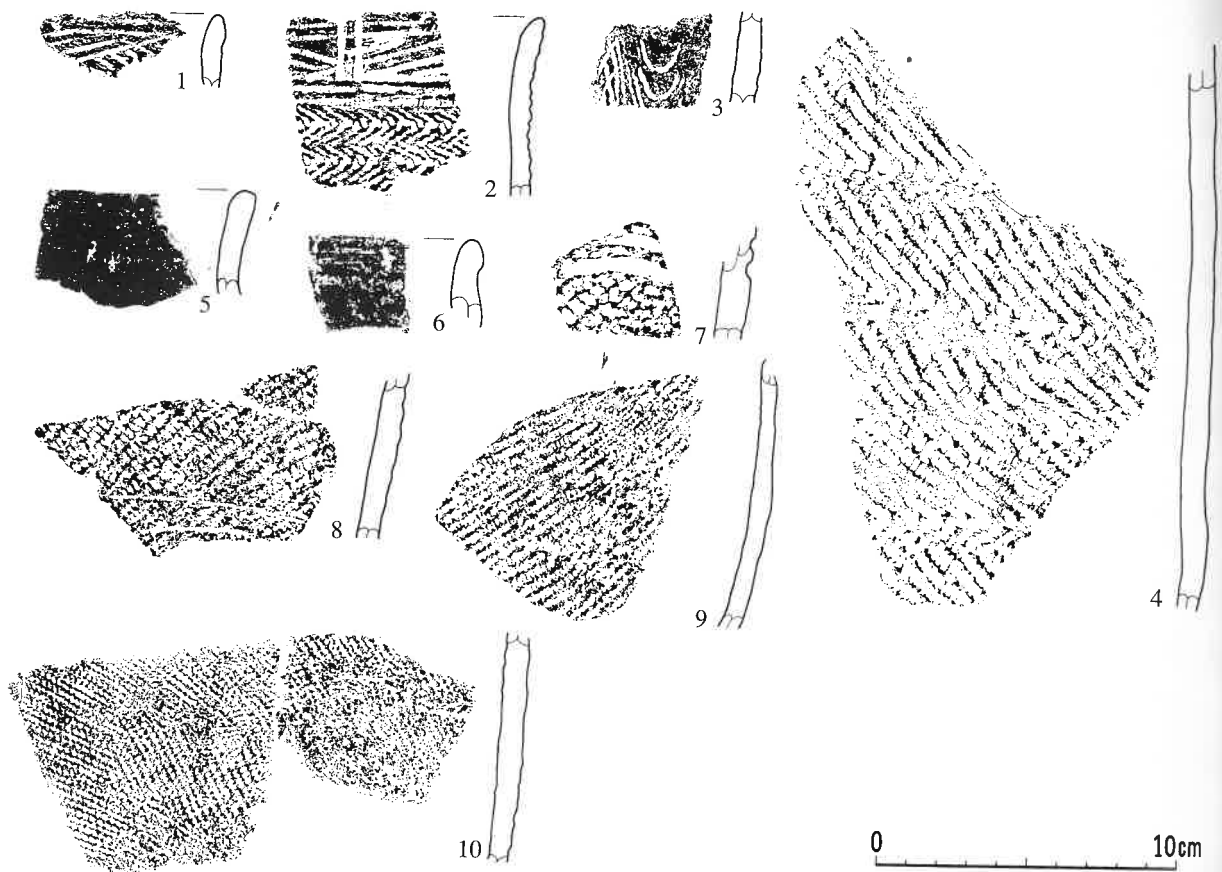
[重複] 第515・526号住居跡と重複する。第515号住居跡より古く、第526号住居跡より新しい。

[平面形・規模] 平面形は南北に長軸のある楕円形と考えられ、確認面での短軸は3 m18cmである。

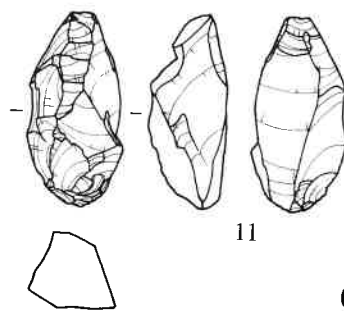
[出土遺物] 確認面から第Ⅱ群 5・6 類土器、第Ⅲ群 6・11類土器、石核、敲磨器類などが出土した。13は器表面に擦痕が多数観察され上部の減耗が著しい。磨石等に通常みられる使用痕とは異なっており、三角柱状の石冠の整形段階のものである可能性が高い。

[時期] 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)

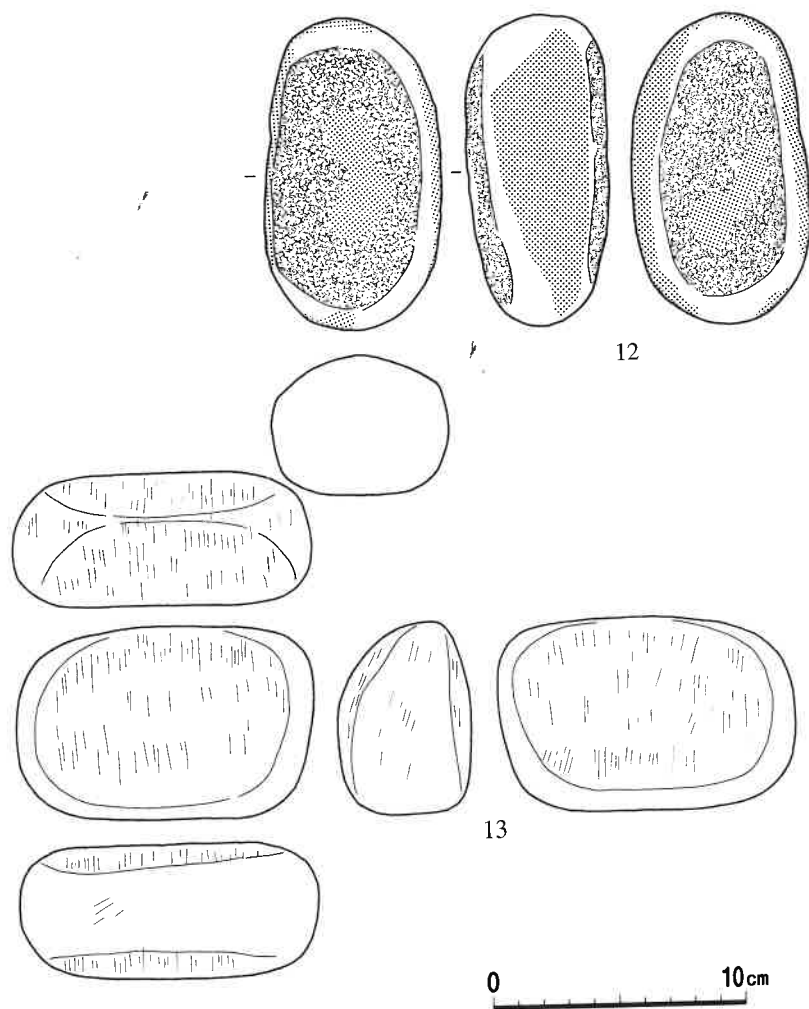


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	514住	確認面	R押			ミガキ		Ⅱ-5-1	
2	〃	〃	単絡1押	結束第一種		〃		〃	
3	〃	〃		R単絡1A		〃		Ⅱ-6	
4	〃	〃		結束第一種		〃		Ⅲ-6	
5	〃	〃	無文			〃		Ⅲ-11	
6	〃	〃	〃			〃		〃	
7	〃	〃		RLR、沈線		〃		〃	
8	〃	〃		LR、〃		〃		〃	
9	〃	〃		LR		〃		〃	
10	〃	〃		RL		〃		〃	内面朱塗



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
11	514住	確認面	38	19	15	10.4	珪頁	Pa	両極石核、S-1	49011

202図 第514号住居跡出土遺物 (1)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
12	514住	確認面	123	70	55	783.8	安	lb		49031
13	〃	〃	76	116	52	707.9	流	Q		49012

203図 第514号住居跡出土遺物 (2)

第515号住居跡 (204図・237図)

〔位置と確認〕 VI F-116・117に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

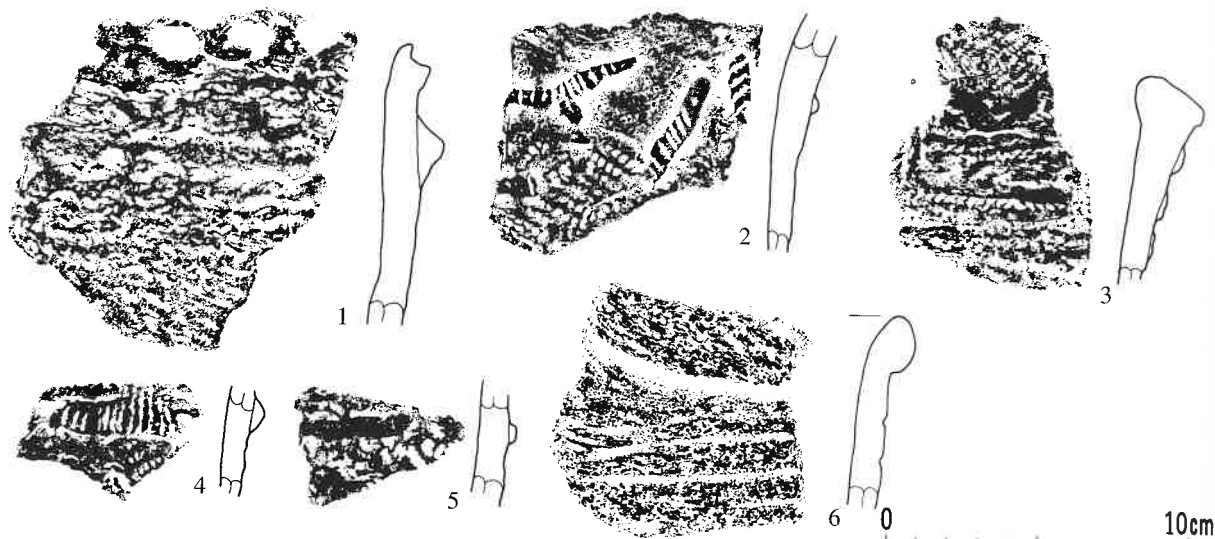
〔重複〕 第514・516・526・528号住居跡と重複する。新旧関係は第528号住居跡より古く、第514・526号住居跡より新しく、第516号住居跡とは不明である。

〔平面形・規模〕 不明である。

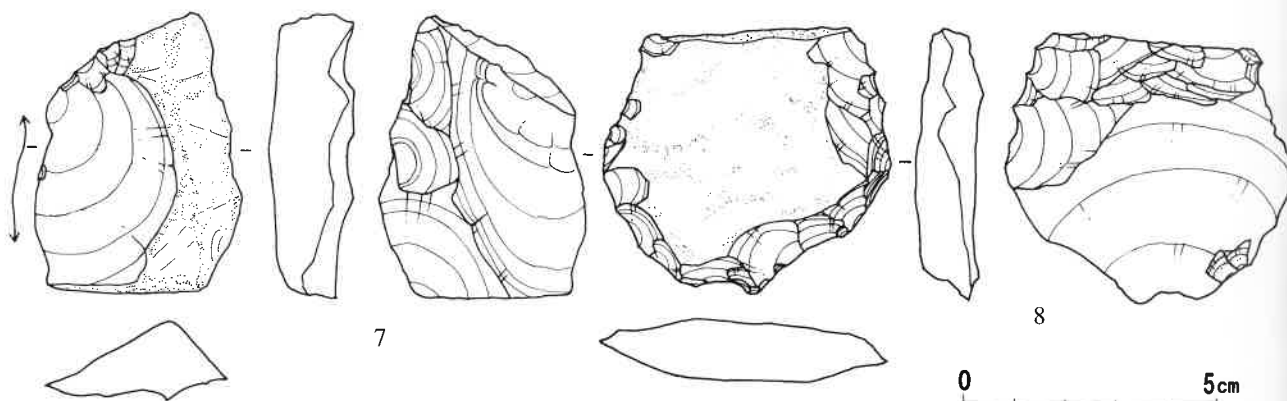
〔出土遺物〕 確認面から第Ⅲ群4・5類を主体とした土器、スクレイパー類、R.フレイクなどが出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	515住	確認面	LR結回	隆帯、LR結回、縄文		ミガキ		II-2	口唇上面連続刺突
2	〃	〃	貼付(刻み)	RL? 貼付(刻み)		〃		III-4	
3	〃	〃	〃(RL押)			〃		〃	波頂部LR
4	〃	〃		貼付(LR単絡1)、結回		〃		〃	
5	〃	〃		RL、貼付		〃		〃	
6	〃	〃	RL	沈線		〃		III-5	



図版番号	出土地点	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	備 考	整理番号
7	515住	確認面	56	41	16	34.0	珪頁	Gb		45747
8	〃	〃	53	47	13	45.7	〃	Ga		45748

204図 第515号住居跡出土遺物

第516号住居跡 (205図・237図)

〔位置と確認〕 VI F・G-117・118に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

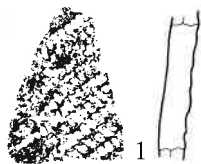
〔重複〕 第498・515号住居跡と重複し、新旧関係は第498号住居跡より古く、第515号住居跡とは不明である。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群6類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	516住	確認面		LR		ミガキ		Ⅱ-6	

205図 第516号住居跡出土遺物

第517号住居跡 (206図・237図)

〔位置と確認〕 VI E・F-118・119に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

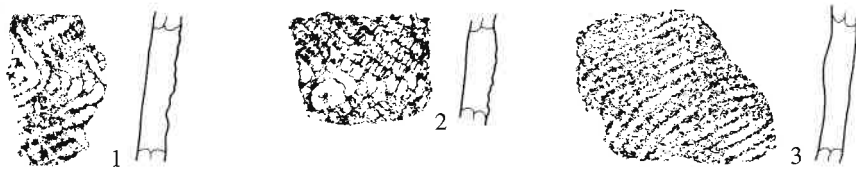
〔重複〕 第512・518号住居跡、第750号土坑と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅲ群6類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	517住	確認面		結束第一種		ミガキ		Ⅲ-6	
2	〃	〃		〃		〃		〃	
3	〃	〃		LR		〃		〃	

206図 第517号住居跡出土遺物

第518号住居跡 (207図・237図)

〔位置と確認〕 VI F・G-118・119に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

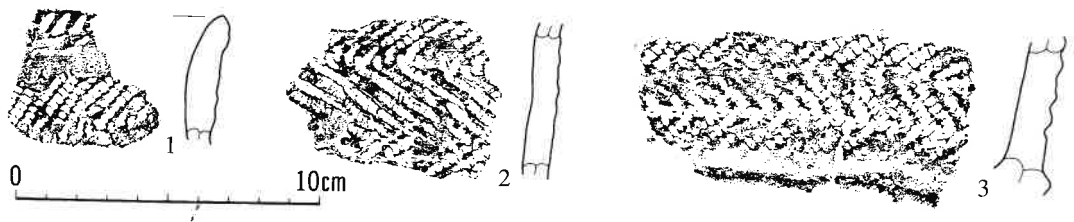
〔重複〕 第517・539号住居跡と重複し、新旧関係は第517号住居跡より新しく、第539号住居跡とは不明である。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅲ群4～6類を主体とした土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	518住	確認面	刻み、結束第一種			ミガキ		Ⅲ-4・5	
2	〃	〃		結束第一種		〃		Ⅲ-6	
3	〃	〃			結束第一種	〃		〃	

207図 第518号住居跡出土遺物

第519号住居跡 (208図・237図)

〔位置と確認〕 VID-117に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

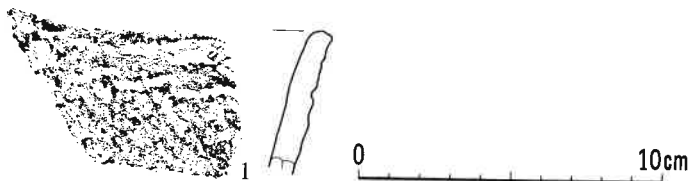
〔重複〕 第508・512・568号住居跡、第723号土坑と重複する。新旧関係は第512号住居跡より古く、第723号土坑より新しく、第508・568号住居跡とは不明である。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群2類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	519住	確認面	RLR、結回			ミガキ		Ⅱ-2	波状口縁

208図 第519号住居跡出土遺物

第520号住居跡 (209図・237図)

〔位置と確認〕 VIE・F-120に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

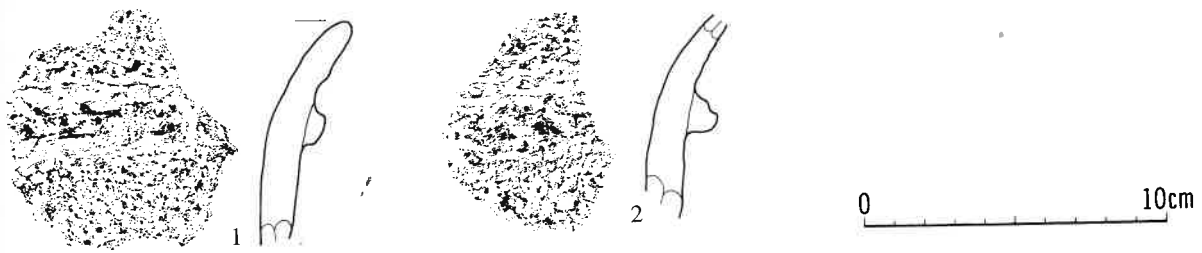
〔重複〕 風倒木による攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群2類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	520住	確認面	R結回	隆帯(縄押)、RLR?		ミガキ		II-2	2と同一個体
2	〃	〃	〃	〃(〃)、〃		〃		〃	

209図 第520号住居跡出土遺物

第523号住居跡 (210図・238図)

[位置と確認] VI E・F-114・115に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

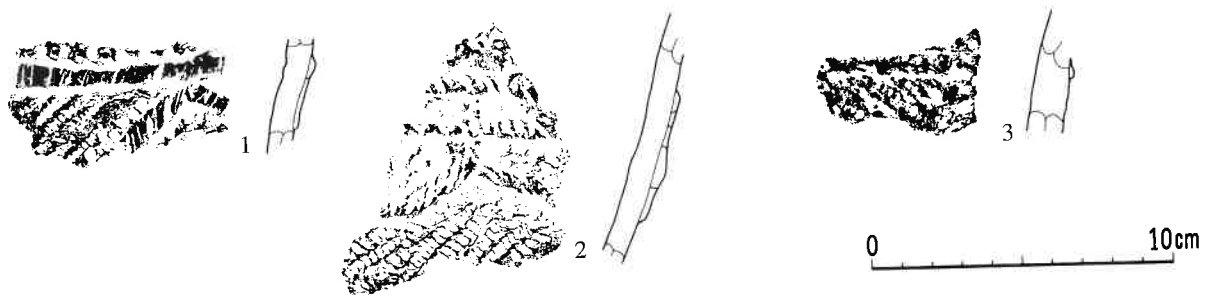
[重複] 第513・524・544号住居跡と重複し、本住居跡が最も新しい。

[平面形・規模] 東西に長軸のある不整円形である。規模は確認面で長軸が3 m 8 cm、短軸が2 m 89 cmである。

[出土遺物] 確認面から第Ⅲ群3・4類土器が出土した。

[時期] 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	523住	確認面		LR、貼付(刻み)、刺突		ミガキ		Ⅲ-3	
2	〃	〃		貼付(L押)、LR		〃		Ⅲ-4	
3	〃	〃		RL? 貼付		〃		〃	

210図 第523号住居跡出土遺物

第524号住居跡 (211図・238図)

〔位置と確認〕 VI E・F-114・115に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

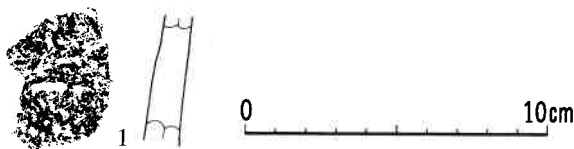
〔重複〕 第523・553号住居跡と重複し、新旧関係は第523号住居跡より古く、第553号住居跡とは不明である。

〔平面形・規模〕 北西-南東に長軸のある円形か楕円形と考えられる。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群6類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	524住	確認面		RL?		ミガキ		Ⅱ-6	

211図 第524号住居跡出土遺物

第525号住居跡 (212図・237図)

〔位置と確認〕 VI F-115に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

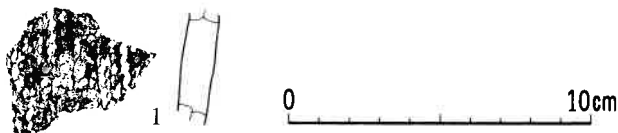
〔重複〕 第526号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 東西に長軸のある隅丸方形である。確認面で長軸は2 m 6 cm、短軸が1 m 92 cmである。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群6類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	525住	確認面		LR単絡1		ミガキ		Ⅱ-6	

212図 第525号住居跡出土遺物

第526号住居跡 (237図)

〔位置と確認〕 VI F-115・116に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第514・515・525・527・528号住居跡と重複する。第514・515・527・528号住居跡より古く、第525号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)

第527号住居跡 (237図)

〔位置と確認〕 VI F-115・116に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第526・528号住居跡と重複する。第528号住居跡より古く、第526号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)

第528号住居跡 (213図・237図)

〔位置と確認〕 VI F-115・116に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第446・515・526・527号住居跡と重複し、第446号住居跡より古く、第515・526・527号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群6類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	528住	確認面		LR単絡1		ミガキ		Ⅱ-6	

213図 第528号住居跡出土遺物

第530号住居跡 (214図)

〔位置と確認〕 VIL-116に位置する。南盛土トレンチ内で貼り床と炉跡を確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 なし。

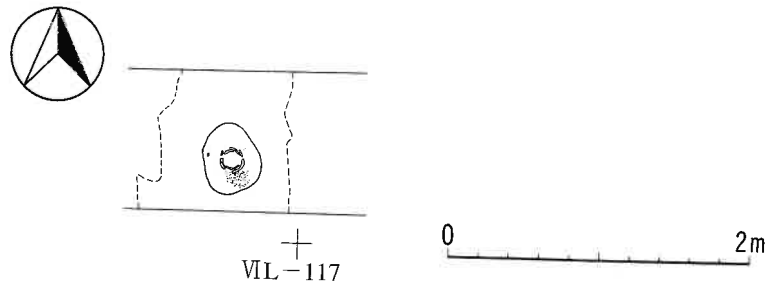
〔平面形・規模〕 不明である。

〔炉〕 土器埋設炉である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



214図 第530号住居跡

第531号住居跡 (215図)

〔位置と確認〕 VIM-116に位置する。南盛土トレンチ内で貼り床と炉跡を確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 なし。

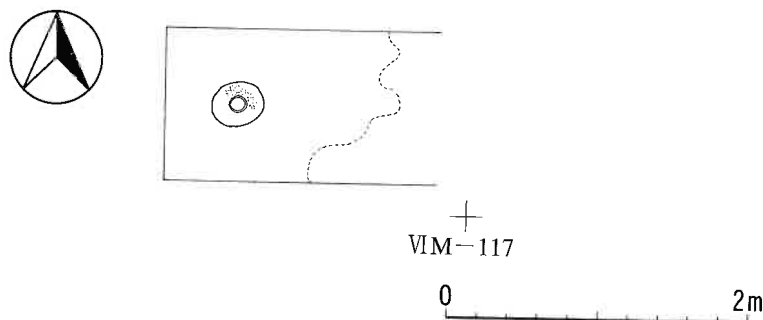
〔平面形・規模〕 不明である。

〔炉〕 土器埋設炉である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



215図 第531号住居跡

第532号住居跡 (216図)

〔位置と確認〕 VI P-118に位置する。南盛土精査中に貼り床と炉跡を確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 なし。

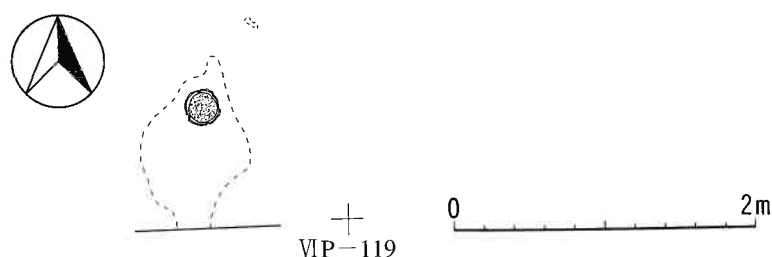
〔平面形・規模〕 不明である。

〔炉〕 土器埋設炉である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



216図 第532号住居跡

第537号住居跡 (238図)

〔位置と確認〕 VI L・M-112・113に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第369号住居跡、第683・746号土坑と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は北東-南西に長軸のある不整円形である。規模は確認面で長軸 4 m、短軸 3 m30cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)

第539号住居跡 (217図・237図)

〔位置と確認〕 VI G-119・120に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。

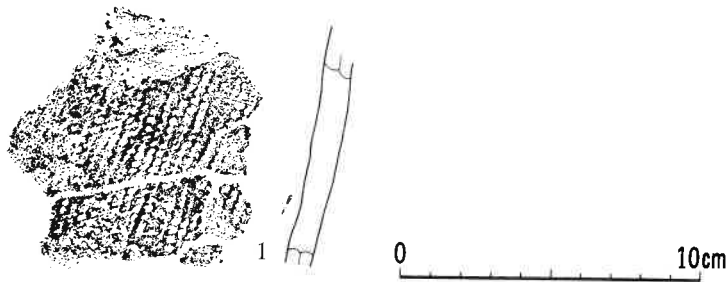
〔重複〕 第518・540号住居跡と重複し、新旧関係は第540号住居跡より新しく、第518号住居跡とは不明である。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群6類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	539住	確認面			LR単絡1	ミガキ		II-6	

217図 第539号住居跡出土遺物

第540号住居跡 (237図)

〔位置と確認〕 VI G-119・120に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 539・541号住居跡、第748号土坑と重複し、539号住居跡より古く、第541号住居跡・第748号土坑より新しい。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)

第541号住居跡 (218図・237図)

〔位置と確認〕 VI G・H-120に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

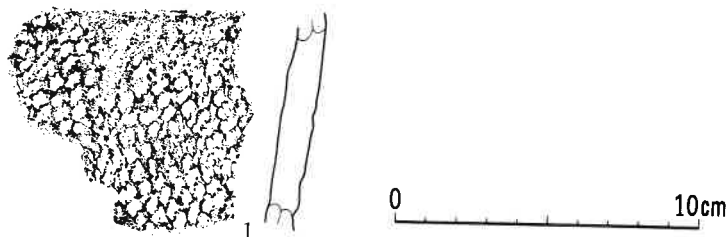
〔重複〕 第540・542号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群6類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	541住	確認面		RLR		ミガキ		II-6	

218図 第541号住居跡出土遺物

第542号住居跡 (219図・237図)

〔位置と確認〕 VI H-120に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

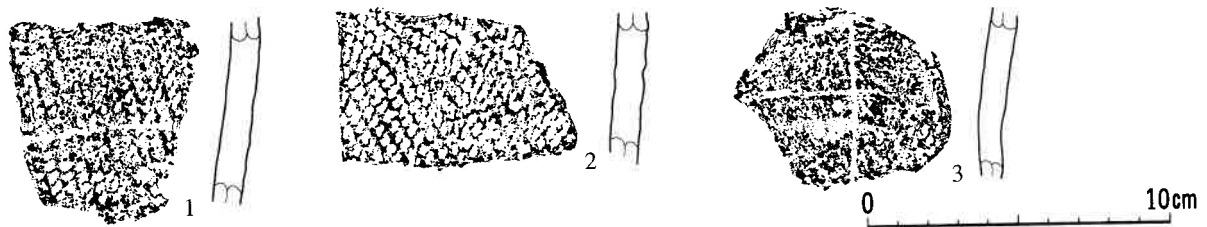
〔重複〕 第541・543号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群6類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	542住	確認面		RLR		ミガキ	Ⅱ-6		
2	〃	〃		〃		〃	〃		
3	〃	〃		不明		〃	〃		

219図 第542号住居跡出土遺物

第543号住居跡 (237図)

〔位置と確認〕 VI G-120に位置する。南盛土のトレンチ内で落ち込みを確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第542号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)

第544号住居跡 (220図・238図)

〔位置と確認〕 VI D・E-114、VI E-115に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

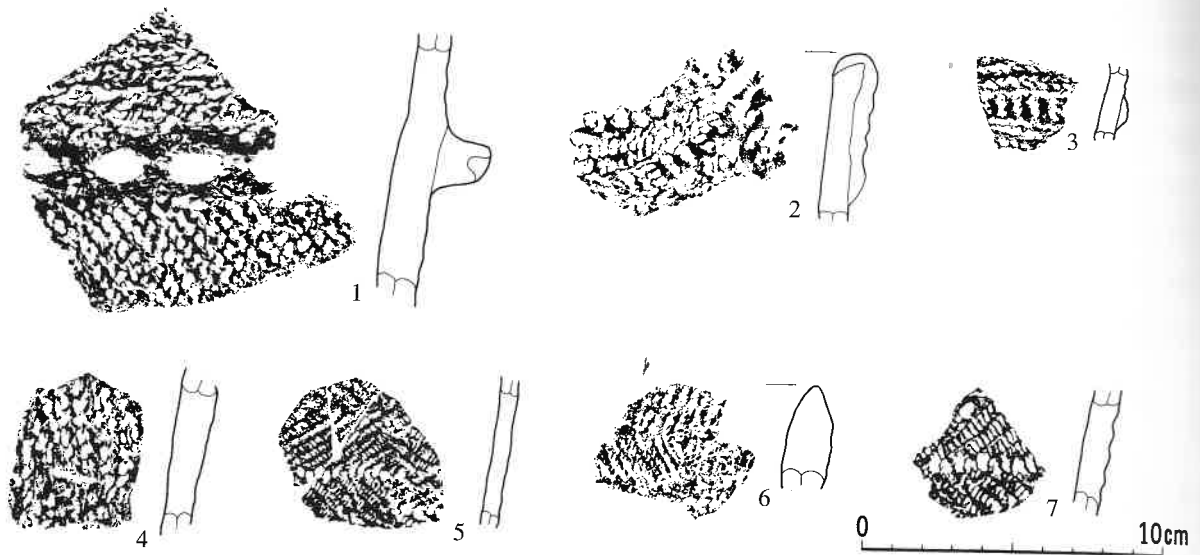
〔重複〕 第523・545号住居跡と重複し、第523号住居跡より古く、第545号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は北東-南西に長軸のある楕円形と考えられる。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群3・5類土器、第Ⅲ群1類土器などが出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	544住	確認面	R結回	隆帯(凹形刺突)、RLR		ミガキ		Ⅱ-3	
2	〃	〃	貼付(単絡1押)、単絡1押			〃		Ⅱ-5-2	
3	〃	〃	〃(LR押)、LR押			〃		〃	
4	〃	〃		RLR		〃		Ⅱ-6	
5	〃	〃		結束第一種		〃		〃	
6	〃	〃	L単絡1			〃		Ⅲ-1	
7	〃	〃		結束第一種		〃		Ⅲ-6	

220図 第544号住居跡出土遺物

第545号住居跡 (221図・238図)

〔位置と確認〕 VID・E-113・114に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みと床面の一部を確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

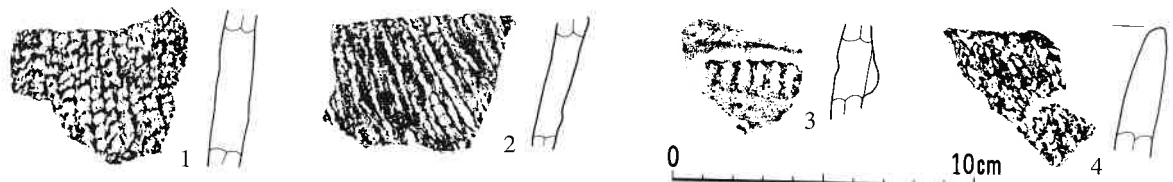
〔重複〕 第544・546・560号住居跡と重複し、新旧関係は第544・560号住居跡より古く、第546号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群6類土器、第Ⅲ群6類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	545住	確認面		RLR		ミガキ		Ⅱ-6	
2	〃	〃		L単絡1		〃		〃	
3	〃	〃	貼付(RL押)、R押			〃		Ⅲ-6	
4	〃	〃	RL			〃		〃	

221図 第545号住居跡出土遺物

第546号住居跡 (222図・238図)

[位置と確認] VIF・G-113、VIE・F-114に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

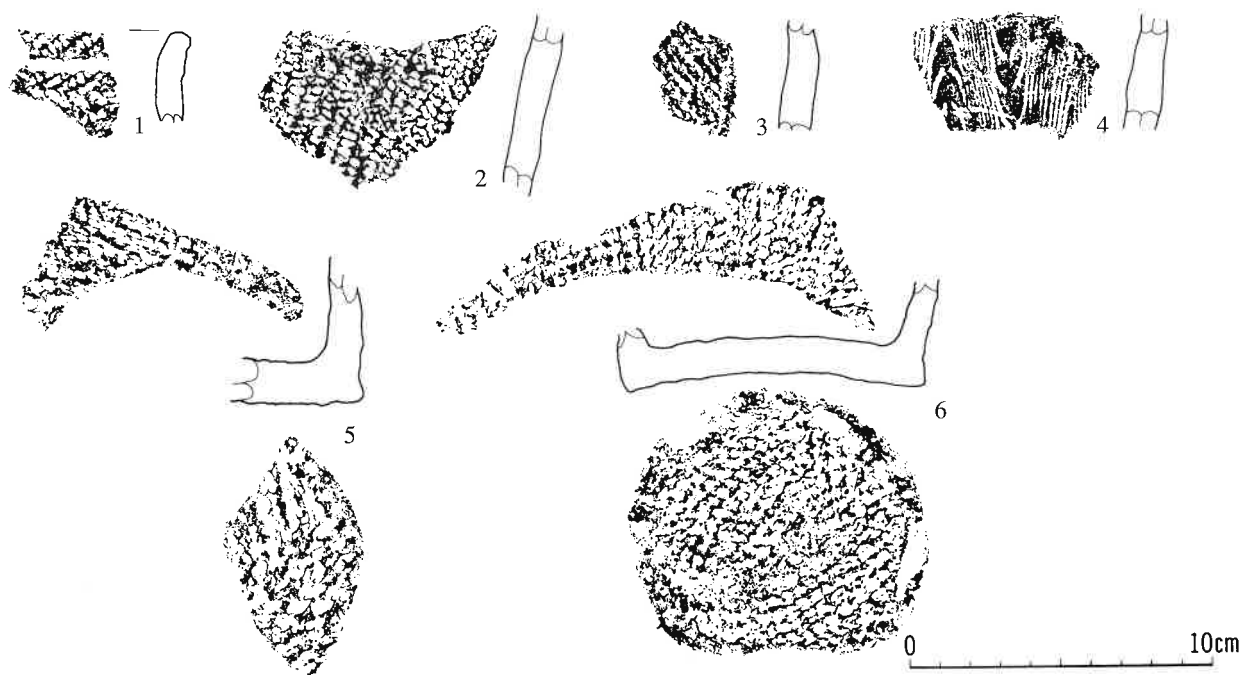
[重複] 第545・553・559・560号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

[平面形・規模] 不明である。

[出土遺物] 確認面から第Ⅱ群3・6類土器が出土した。

[時期] 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	546住	確認面	LR、LR押			ミガキ		Ⅱ-3	
2	〃	〃		LR		〃		Ⅱ-6	
3	〃	〃		単絡1		〃		〃	
4	〃	〃		単絡1A		〃		〃	
5	〃	〃			RLR	〃	RLR	〃	
6	〃	〃			〃	〃	〃	〃	

222図 第546号住居跡出土遺物

第548号住居跡 (223図)

[位置と確認] VIK-117に位置する。南盛土トレンチ内で床面の一部と炉跡を確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

[重複] 第765号埋設土器遺構と重複し、本住居跡が古い。

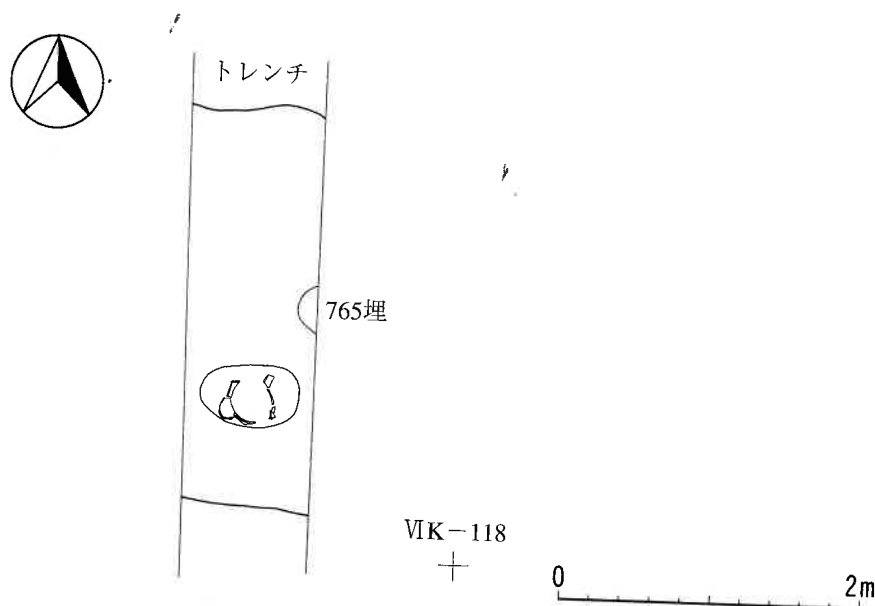
[平面形・規模] 不明である。

[炉] 土器埋設炉を確認した。

[出土遺物] なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



223図 第548号住居跡出土遺物

第553号住居跡 (224図・238図)

〔位置と確認〕 VIF-114に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていないが、露出した土器の取り上げを行った。

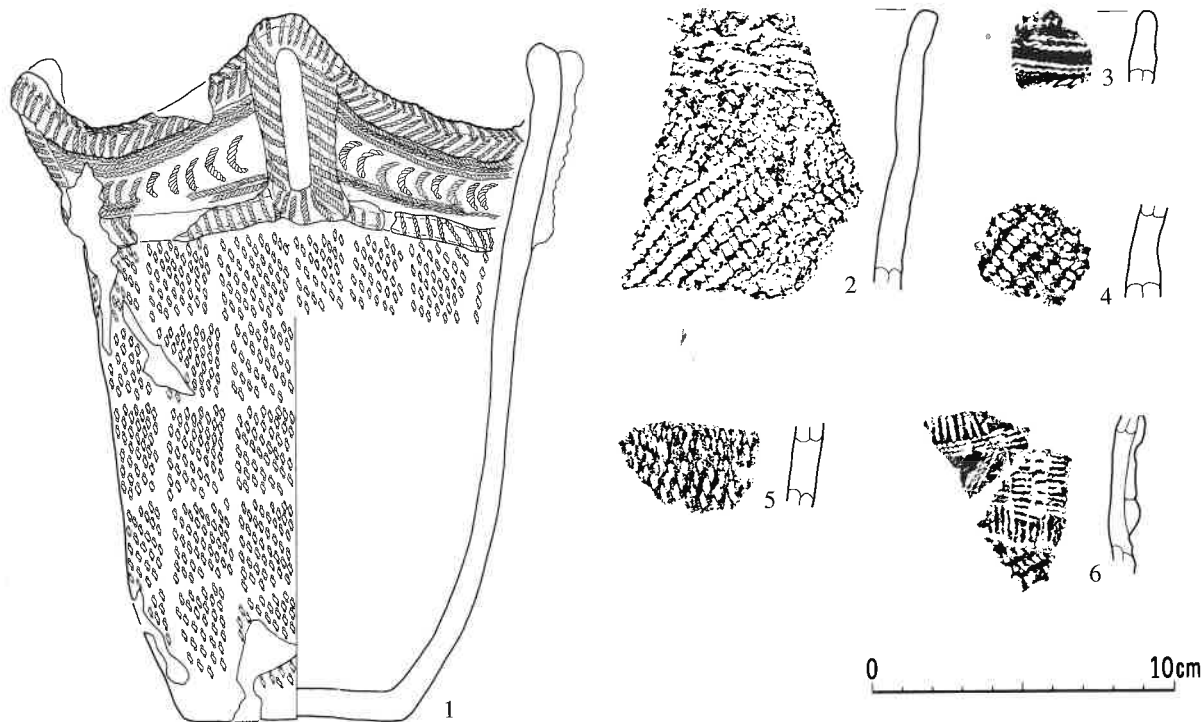
〔重複〕 第524・546号住居跡と重複し、新旧関係は第546号住居跡より新しく、第524号住居跡とは不明である。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群2・5類土器、第Ⅲ群2類土器などが出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	553住	確認面	貼付(L単絡1)、L・R押	RLR	RLR	ミガキ	無文	Ⅲ-2	
2	〃	〃	LR・R結回			〃		Ⅱ-4	
3	〃	〃	L・R押			〃		Ⅱ-5-1	
4	〃	〃		LR		〃		Ⅱ-6	
5	〃	〃		R単絡1		ミガキ		〃	
6	〃	〃	貼付(L単絡1)、L押	LR?		〃		Ⅲ-2	

224図 第553号住居跡出土遺物

第554号住居跡 (225図・238図)

〔位置と確認〕 VI G・H-113に位置する。南盛土の下から落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

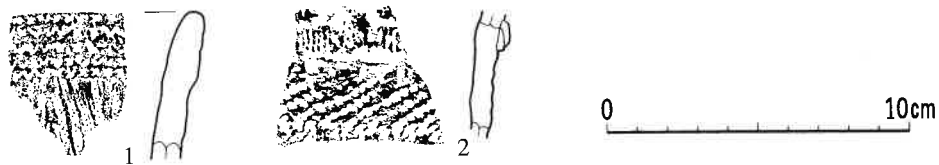
〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群5類土器、第Ⅲ群1～3類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	554住	確認面	単絡1押	L単絡1		ミガキ		Ⅱ-5-1	
2	〃	〃	貼付(L単絡1押)	結束第一種		〃		Ⅲ-1~3	

225図 第554号住居跡出土遺物

第555号住居跡 (226図・238図)

〔位置と確認〕 VI C・D-112・113に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

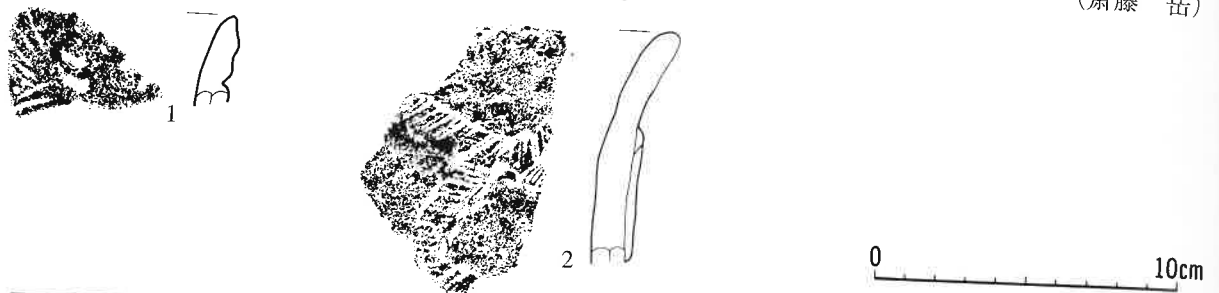
〔重複〕 第423・560号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は不整円形になるものと考えられ、確認面での直径は約3m70cmである。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅲ群3・4類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	555住	確認面	刻み、刺突						
2	〃	〃	貼付(単緒1、一部剥落)			ミガキ		Ⅲ-3	
						〃		Ⅲ-4	

226図 第555号住居跡出土遺物

第556号住居跡 (227図・238図)

〔位置と確認〕 VI B・C-111・112に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

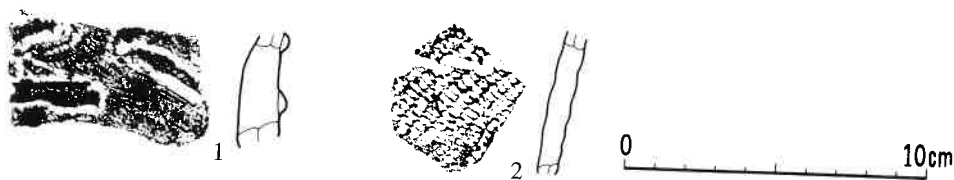
〔重複〕 第423号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅲ群4・6類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	556住	確認面		LR、貼付				Ⅲ-4	
2	〃	〃		〃、R結回		ミガキ		Ⅲ-6	
						〃			

227図 第556号住居跡出土遺物

第557号住居跡 (228図・238図)

[位置と確認] VID・E-110・111に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

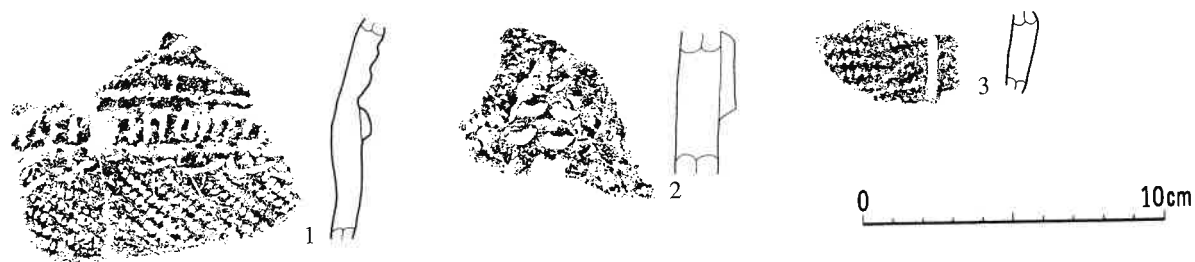
[重複] 第724号土坑と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 北西～南東に長軸を持つ楕円形と考えられ、長軸は確認面で約2m90cmである。

[出土遺物] 確認面から第Ⅲ群1・3・5類土器が出土した。

[時期] 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	557住	確認面	貼付(RL単絡1)、RL押	結束第一種		ミガキ		Ⅲ-1	
2	〃	〃	〃(縄押?)、刺突			〃		Ⅲ-3	
3	〃	〃		LR、沈線		〃		Ⅲ-5	

228図 第557号住居跡出土遺物

第559号住居跡 (229図・238図)

〔位置と確認〕 VI F・G-112に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

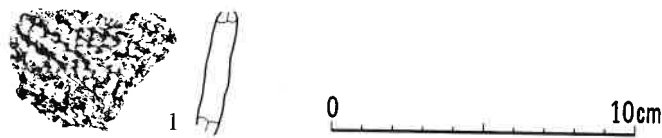
〔重複〕 第435・546・560号住居跡、第735号土坑と重複し、第435・560号住居跡・第735号土坑より古く、第546号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 確認面から第Ⅱ群6類土器が出土した。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	559住	確認面		RLR		ミガキ		Ⅱ-6	

229図 第559号住居跡出土遺物

第560号住居跡 (230図～233図・238図)

〔位置と確認〕 VI D～F-111～114に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていないが、北側で一部床面を検出し、遺物を取りあげている。

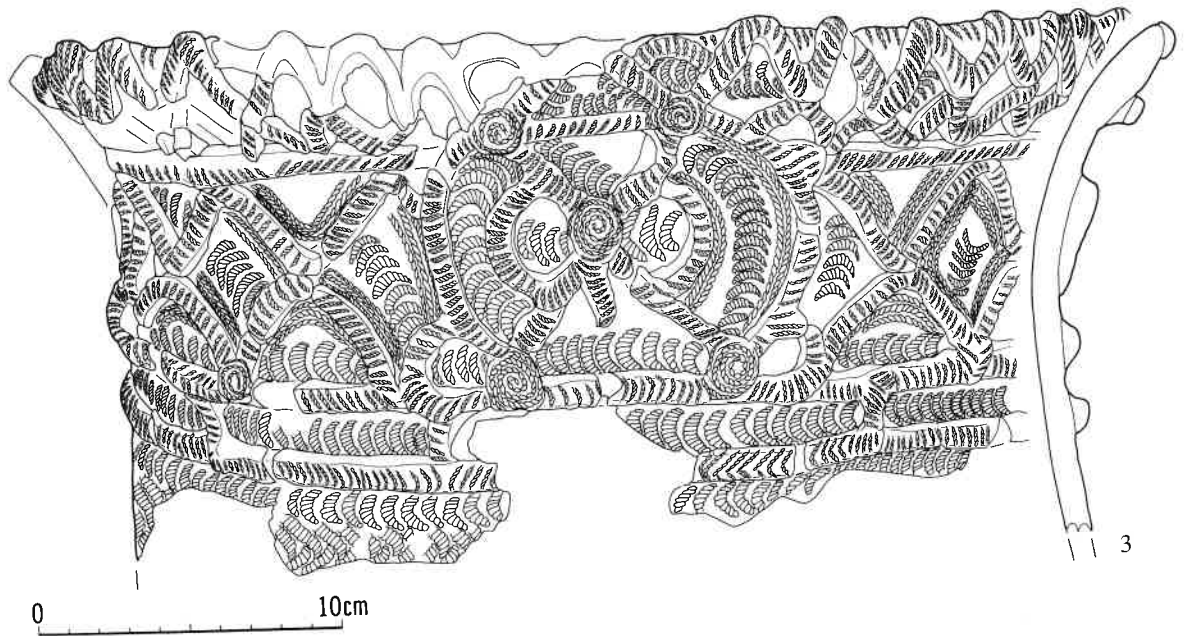
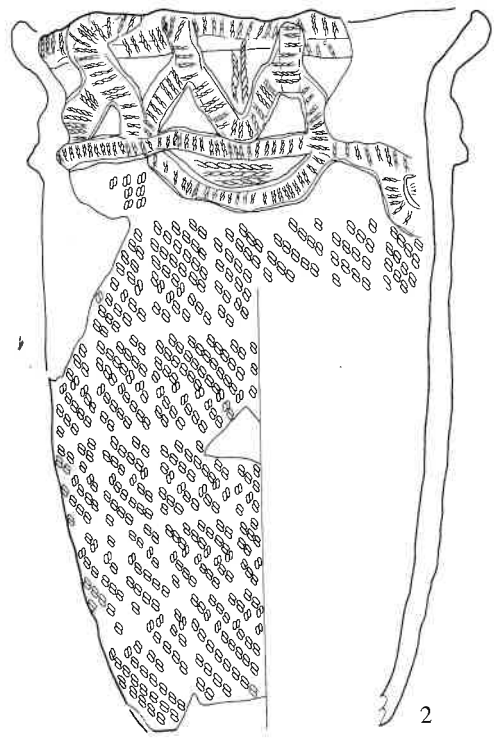
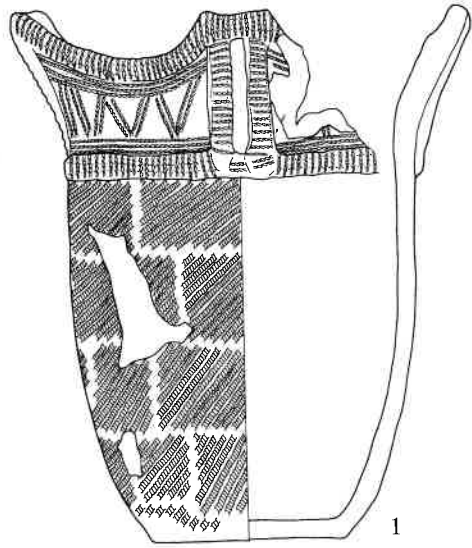
〔重複〕 第545・546・555・557・559号住居跡、第724・725号土坑、第120・121号溝跡と重複する。第555・557号住居跡・第724・725号土坑・第120・121号溝跡より古く、第545・546・559号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅱ群2・6類土器、確認面から第Ⅱ群2類土器の他に、復元可能なものを含む第Ⅲ群2類土器、敲磨器類などが出土した。

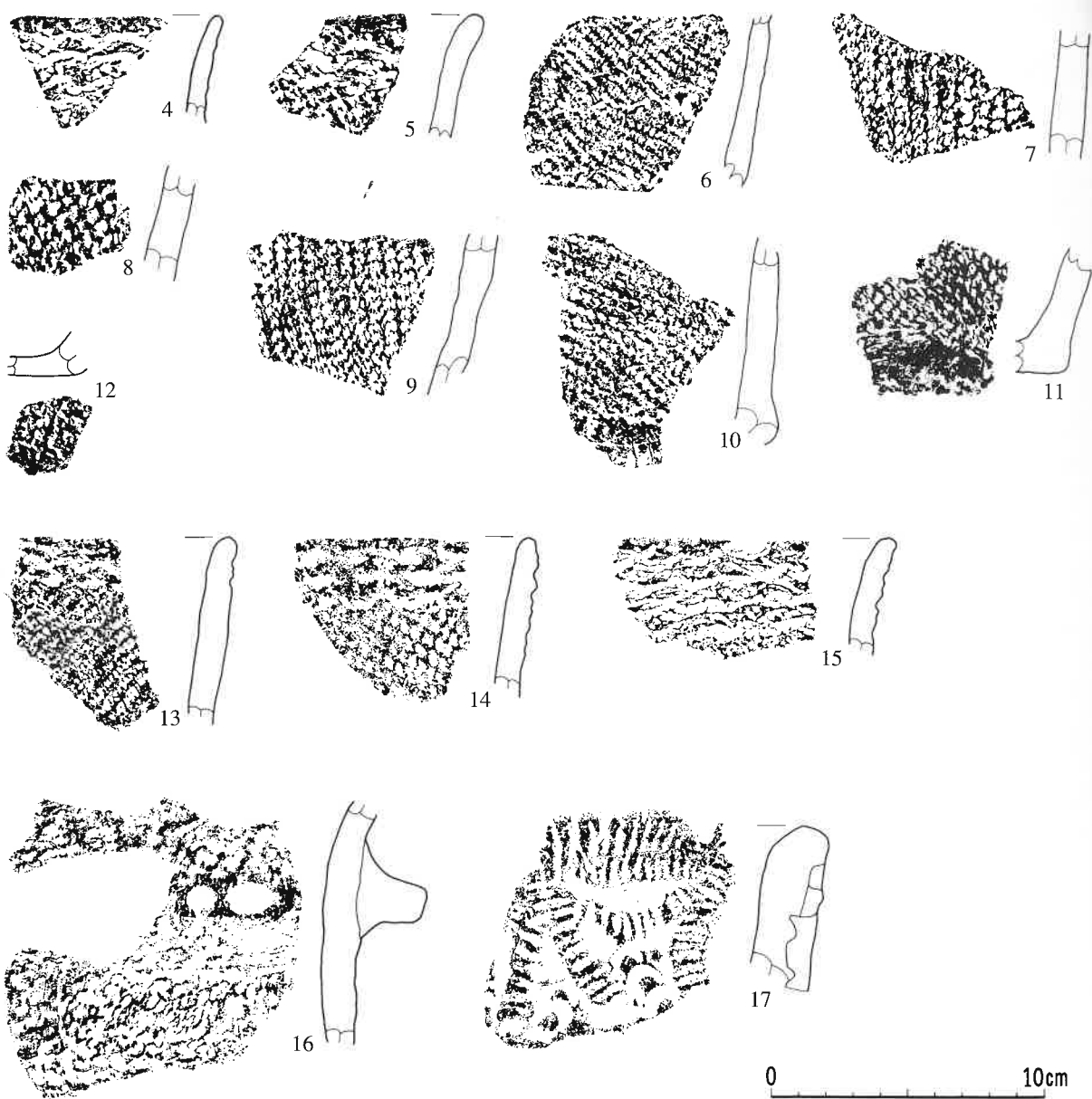
〔時期〕 床面直上出土遺物から、縄文時代前期の可能性が高いが、詳細は不明である。

(斎藤 岳)



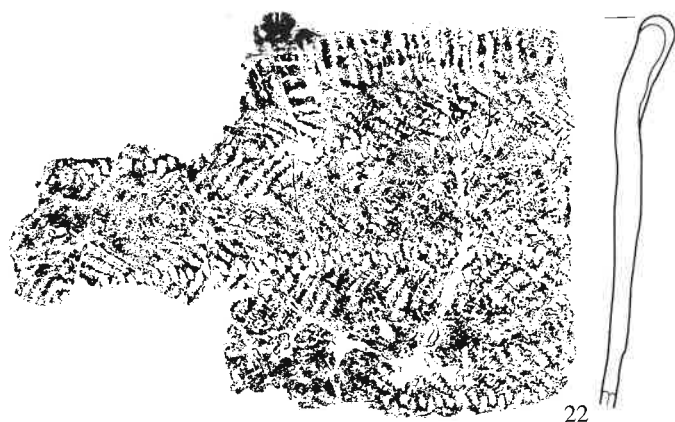
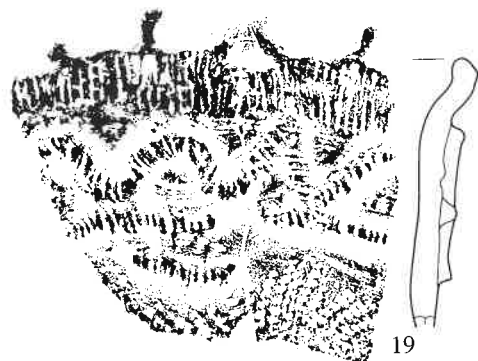
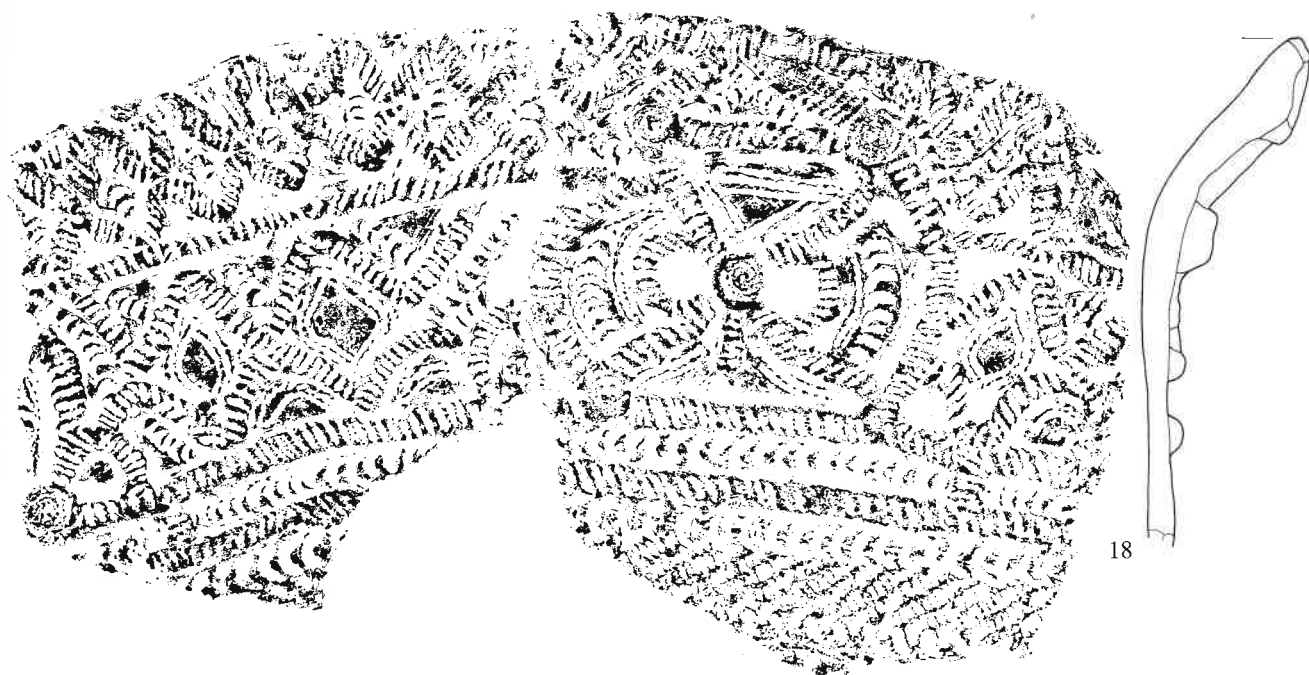
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	560住	確認面	貼付(L単絛1)、L押	LR	LR	ミガキ	無文	Ⅲ-1	
2	〃	〃	〃、L・R押	結束第一種(RLR、RLR)	結束第一種(RLR、RLR)	〃		Ⅲ-1・2	
3	〃	〃	〃	結束第一種		〃		Ⅲ-2	

230図 第560号住居跡出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
4	560住	床直	LR結回			ミガキ		Ⅱ-2	
5	〃	〃	R結回	RLR		〃		〃	
6	〃	〃		LR		〃		Ⅱ-6	
7	〃	〃		RLR		〃		〃	
8	〃	〃		〃		〃		〃	
9	〃	〃		LR単絡1		〃		〃	
10	〃	〃			LR単絡1	〃		〃	
11	〃	〃			〃	〃		〃	
12	〃	〃				〃	RLR?	〃	
13	〃	確認面	LR、R結回					Ⅱ-2	
14	〃	〃	RLR、LR結回			ミガキ		〃	
15	〃	〃	R結回			〃		〃	
16	〃	〃	RLR	隆帯(円形刺突)、RLR		〃		〃	
17	〃	〃	貼付(L単絡1)、L押			〃		Ⅲ-2	

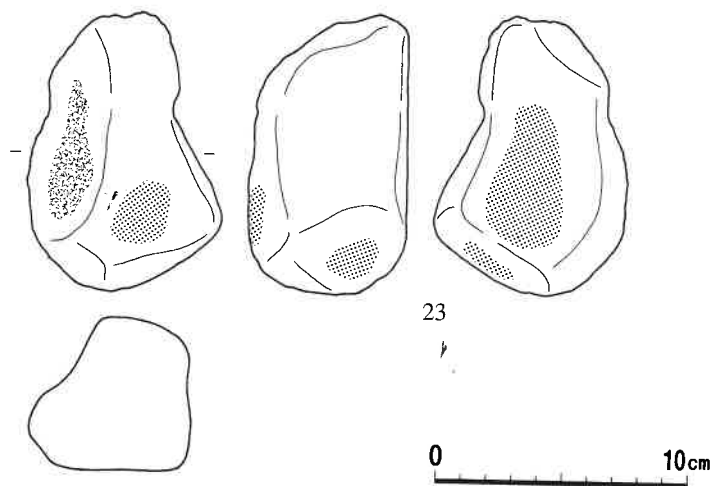
231図 第560号住居跡出土遺物(2)



0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
18	560住	確認面	貼付(L単絡1)、L・R押	結束第一種		ミガキ	Ⅲ-2		
19	〃	〃	〃	RLR		〃	Ⅲ-2?	内面にも貼付	
20	〃	〃	貼付(L単絡1)	結束第一種		〃	〃		
21	〃	〃	〃、L押			〃	〃		
22	〃	〃	〃、L単絡1	結束第一種		〃	〃		

232図 第560号住居跡出土遺物 (3)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
23	560住	確認面	110	77	62	643.4	安	Ib	S-12	46370

233図 第560号住居跡出土遺物 (4)

第562号住居跡 (234図)

〔位置と確認〕 VID-88に位置する。第Ⅲ層精査中に炉跡を確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

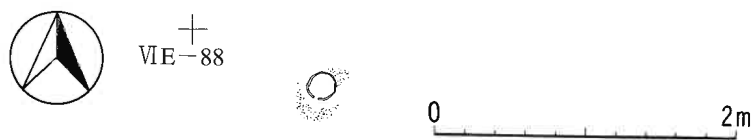
〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔炉〕 土器埋設炉である。炉に使用された土器の口径は17cmである。炉の周囲には焼土が確認された。

〔時期〕 確認状況から縄文時代中期と考えられるが、詳細は不明である。

(中村 哲也)



234図 第562号住居跡

第563号住居跡 (235図)

〔位置と確認〕 VIC・D-89に位置する。第Ⅲ層精査中に貼り床と炉跡を確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不明である。

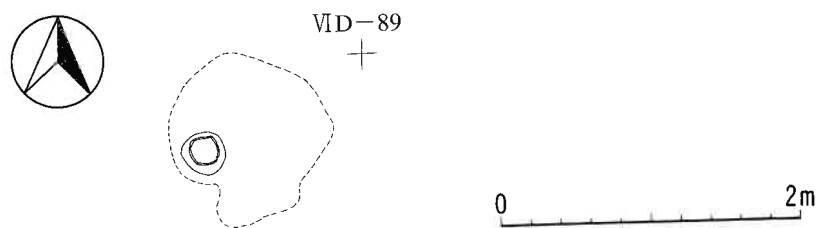
〔壁・床面〕 貼り床は平坦で堅緻である。残存する規模は112cm×106cmである。

〔炉〕 土器埋設炉である。炉に使用された土器の口径は20cm、確認面での掘り方の規模は径28cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認状況から縄文時代中期と考えられる。

(中村 哲也)



235図 第563号住居跡

第568号住居跡 (237図)

〔位置と確認〕 VID・E-117・118に位置する。第Ⅲ層精査中に落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第508・512・519号住居跡、第742・743号土坑と重複する。新旧関係は第508・512号住居跡、第742・743号土坑より古く、第519号住居跡とは不明である。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)

第569号住居跡 (237図)

〔位置と確認〕 VI I-118に位置する。南盛土トレンチ内で落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第570号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)

第570号住居跡 (237図)

〔位置と確認〕 VI I - 118に位置する。南盛土トレンチ内で落ち込みとして確認した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 第569号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)

第571号住居跡 (236図)

〔位置と確認〕 VI J・K - 118に位置する。南盛土トレンチ底部で床面を検出した。保存のため、確認のみで精査は行っていない。

〔重複〕 なし。

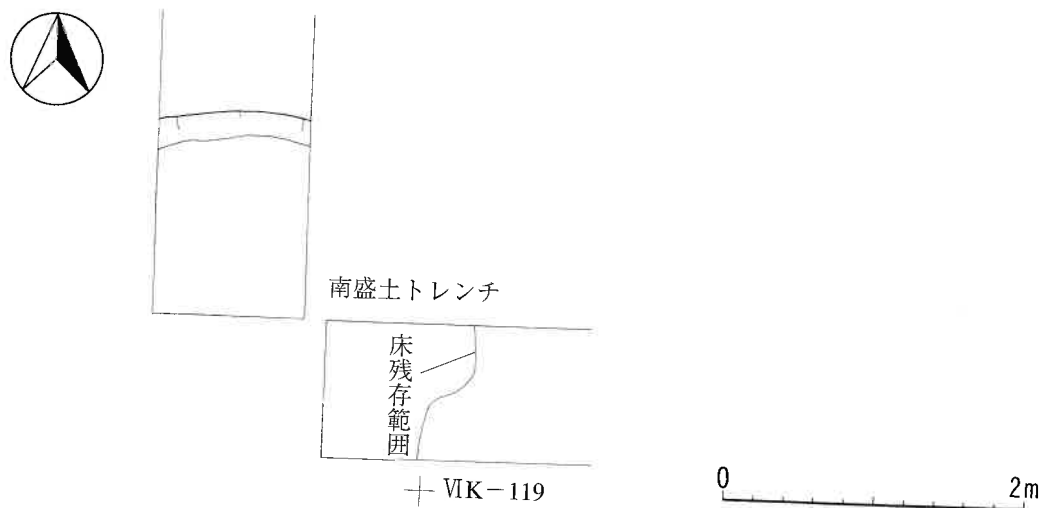
〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 北壁では壁高が6 cmで、ゆるやかに外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

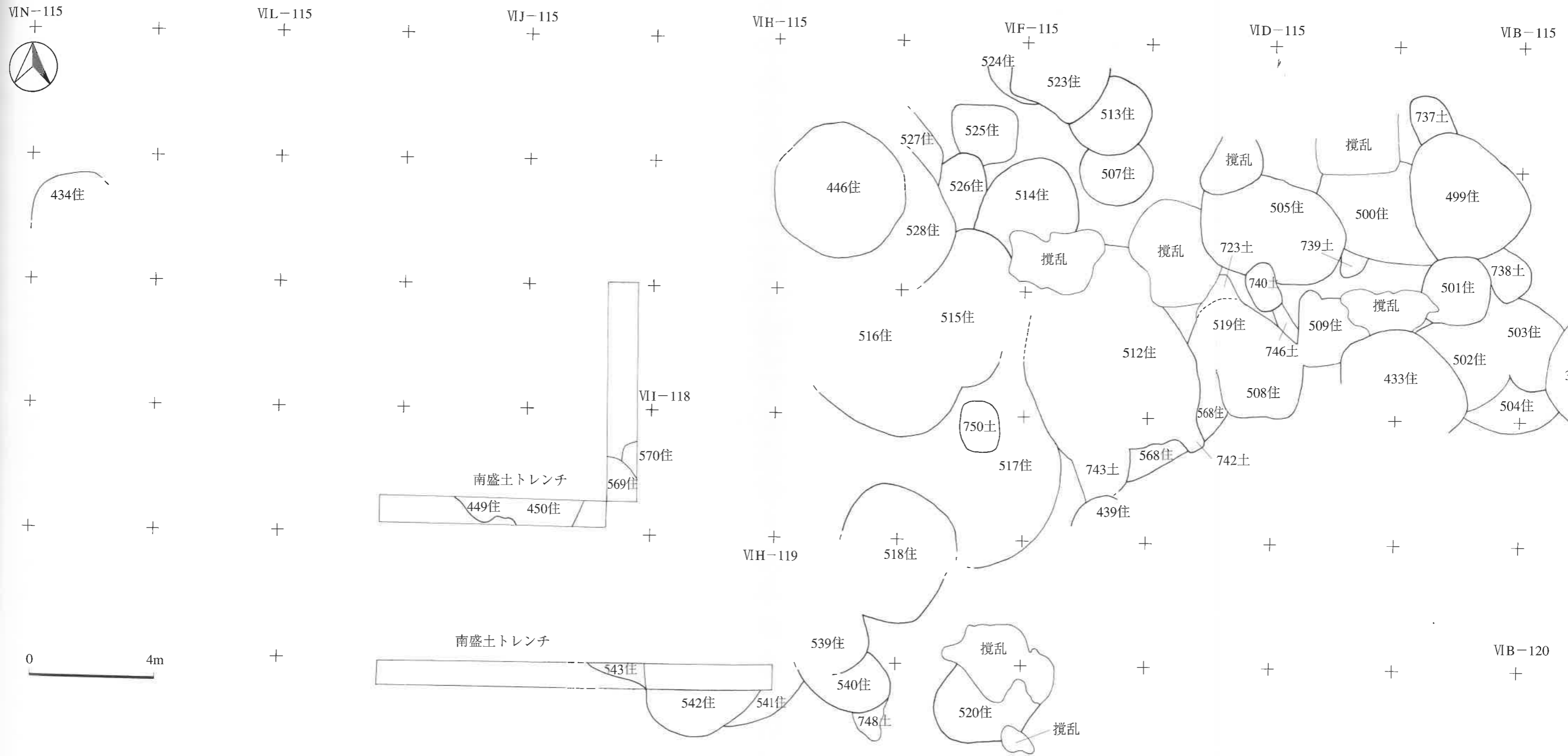
〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代であるが、精査を行っていないため詳細は不明である。

(斎藤 岳)



236図 第571号住居跡



237図 VIA-115~VIM-120で確認した住居



VIN-111
+

VL-111
+

VJ-111
+

VH-111
+

VIF-111
+

VIC-111
+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

0

4m

+

+

+

+

+

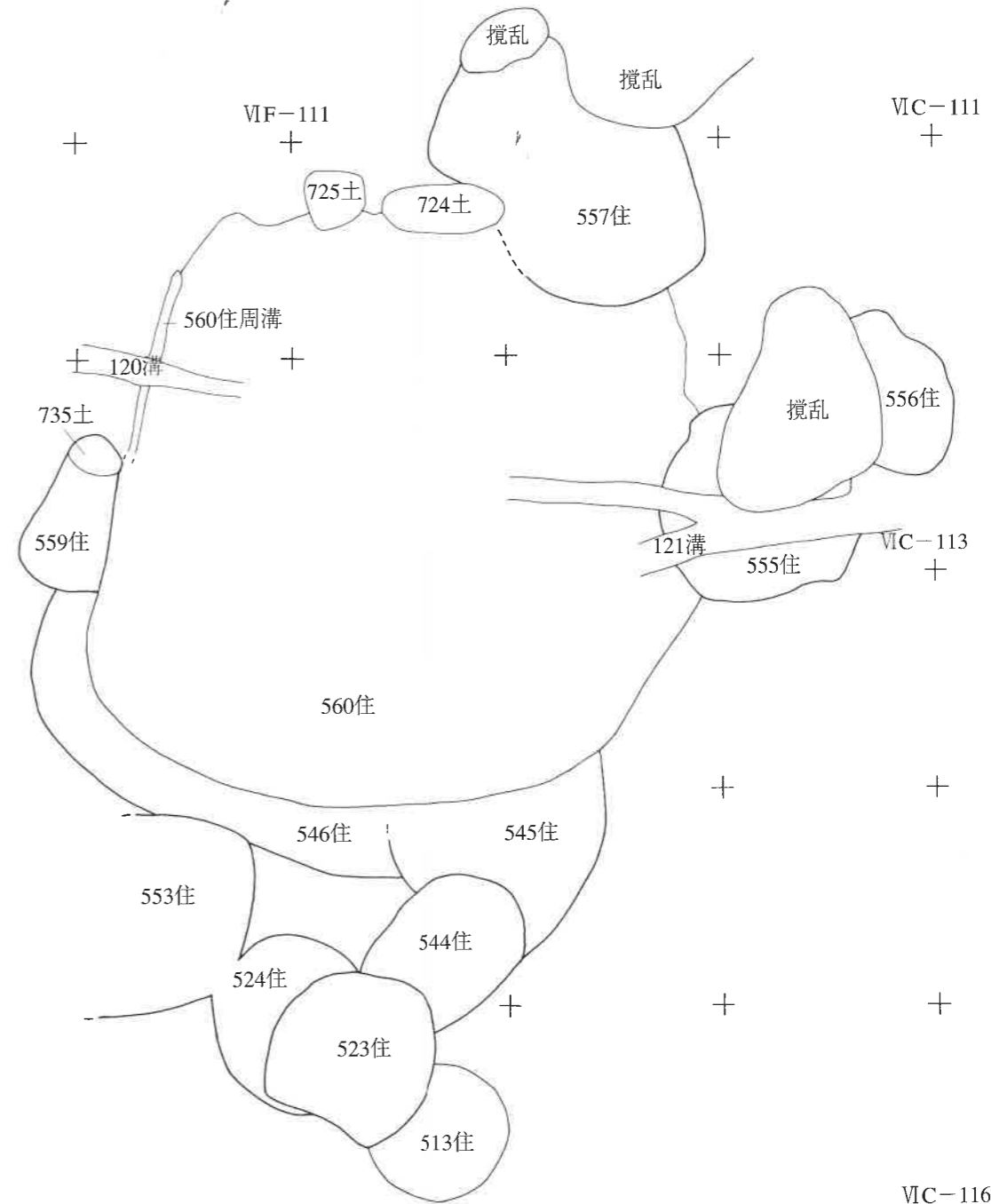
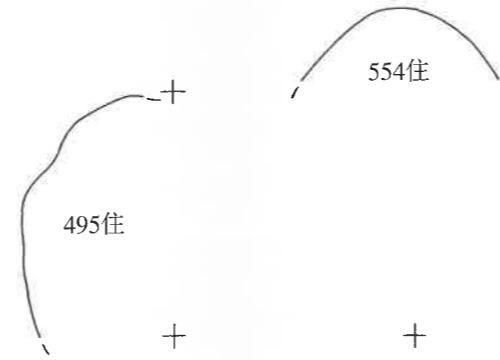
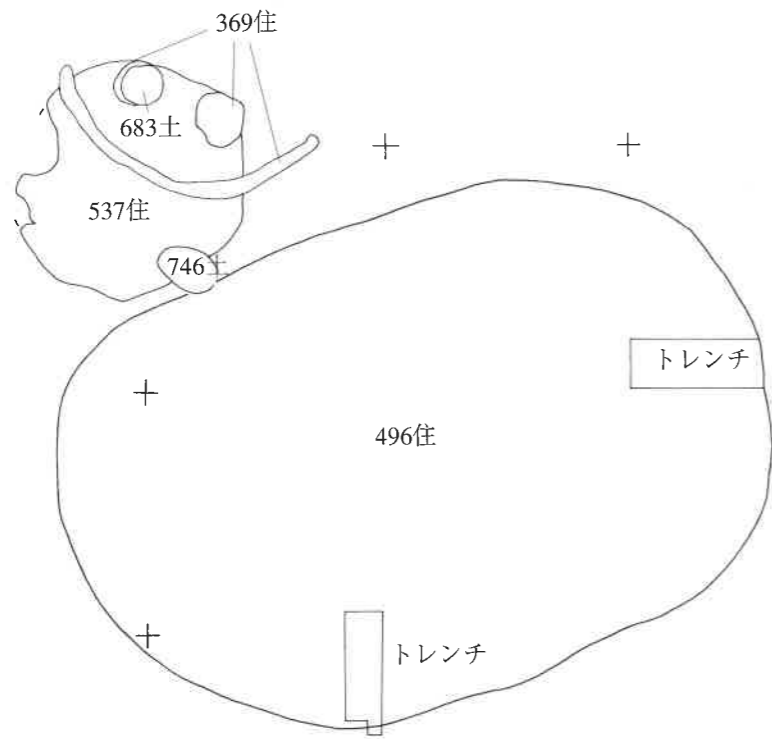
+

+

+

+

VIC-116
+



238図 VIC-111~VIN-116で確認した住居

報 告 書 抄 録

ふりがな	さんないまるやまいせき
書名	三内丸山遺跡XVI
副書名	旧野球場建設予定地発掘調査報告書4
巻字	
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第288集
編著者名	岡田康博・中村美杉・斎藤岳・小笠原雅行・中村哲也・秦光次郎
編集機関	青森県教育庁文化課
所在地	青森市新町2丁目3番1号 TEL 017-734-9924
発行年月日	西暦2000年7月19日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さんないまるやまいせき	あおりけんあおりし			40°	140°	1992.4.20~11.30		県営運動公園
三内丸山遺跡	おおあざさんないあざまるやま	02201	01021	48′	42′	1993.4.12~12.17	38,000m ²	拡張事業に係る事前調査
	青森県青森市大字三内字丸山			40″	20″	1994.4.4~11.18		

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三内丸山遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 111棟 (今回報告分)	縄文土器(前・中期) 石器(前・中期) 土・石製品(前・中期)	縄文時代前期中葉から中期 末葉にわたる大規模拠点集 落跡

青森県埋蔵文化財調査報告書第288集

三内丸山遺跡 XVI

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書4—

発行日 平成12年7月19日

発行 青森県教育委員会

編集 青森県教育庁文化課
〒030-0801 青森市新町2丁目3-1
電話 017-734-9924
FAX 017-734-8280

印刷所 東北印刷工業株式会社
〒030-0902 青森市合浦1丁目2-12
